



活用マニュアル

VHF/UHF DUAL BAND TRANSCEIVER

ID-5200 ID-5200D

はじめに

- 1 microSDカードの使いかた
- 2 スコープ機能と操作
- 3 D-STARの運用＜応用編＞
- 4 GPSの操作＜応用編＞
- 5 ボイス送信
- 6 交信録音/再生
- 7 メモリーチャンネルの使いかた
- 8 スキャン
- 9 レピータ/デュプレックス運用
- 10 セットモード
- 11 Bluetoothの使いかた
- 12 その他の機能
- 13 ファームアップ
- 14 別売品

この本では、本製品の詳細な機能について説明しています。
免許申請や基本的な操作方法については、簡易マニュアルをご覧ください。

Icom Inc.

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、D-STARシステムに準拠したDVモードに加え、FM、AM(受信のみ)を搭載した、デュアルバンド(VHF/UHF)のトランシーバーです。

また、本製品は簡単にD-STARレピータを使用して交信できるDR(D-STAR Repeater)機能も搭載しています。

ご使用の前に、取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分に発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

取扱説明書の構成について

本製品の取扱説明書は、本製品に付属の「簡易マニュアル」、「接続ガイド」と、弊社ホームページに掲載の各説明書(PDFファイル)で構成されています。

簡易マニュアル(冊子)

はじめて本製品をお使いになる前に、知っておいていただきたい安全上のご注意や免許申請、本製品の基本的な操作方法などについて記載しています。

接続ガイド(別紙)

接続や設置方法について記載しています。

活用マニュアル(本書)

各種機能の使用方法について記載しています。

- ◎ microSDカードの使いかた
- ◎ スコープ機能と操作
- ◎ D-STARの運用<応用編>
- ◎ GPSの操作<応用編>
- ◎ ボイス送信
- ◎ 交信録音/再生
- ◎ メモリーチャンネルの使いかた
- ◎ スキャン
- ◎ レピータ/デュプレックス運用
- ◎ セットモード
- ◎ Bluetoothの使いかた
- ◎ その他の機能
- ◎ ファームアップ
- ◎ 別売品

補足説明書(PDFファイル)

リモート機能(CI-Vによるシリアル通信)で使用する制御コマンドについて記載しています。

DVゲートウェイ機能について(PDFファイル)

DVゲートウェイ機能をお使いになる前に、知っておいていただきたい動作環境、操作方法などについて記載しています。

レピータリストの更新(PDFファイル)

本製品のレピータリストを更新する手順を記載しています。

GPSロガーの使いかた(PDFファイル)

GPSで受信した位置情報を記録するGPSロガー機能の操作方法などについて記載しています。

D-PRSガイド(入門編/応用編) (PDFファイル)

D-PRSの概要、操作方法などについて記載しています。

画像伝送機能について (PDFファイル)

画像伝送機能をお使いになる前に、知っておいていただきたい動作環境、操作方法などについて記載しています。

リフレクターの使いかた(PDFファイル)

リフレクターの操作方法などについて記載しています。

※弊社ホームページに「アマチュア無線用語集」(PDFファイル)を掲載していますので、必要に応じてご覧ください。

はじめに

登録商標/著作権

アイコム、ICOM、ICOMロゴは、アイコム株式会社の登録商標です。

D-STARは、一般社団法人 日本アマチュア無線連盟の登録商標です。

APRSは、TUCSON AMATEUR PACKET RADIO CORPORATIONの米国における登録商標です。

Bluetoothワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc.が所有権を有します。アイコム株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。

Microsoft、Windowsは、マイクロソフト企業グループの商標です。

Google、Google Play、Androidは、Google LLCの商標または登録商標です。

IOSは、Ciscoの米国およびその他の国における商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。

Apple、iPhone、iPadは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。

App Storeは、Apple Inc.のサービスマークです。

iPhone商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。

Wi-FiはWi-Fi Alliance®の登録商標です。

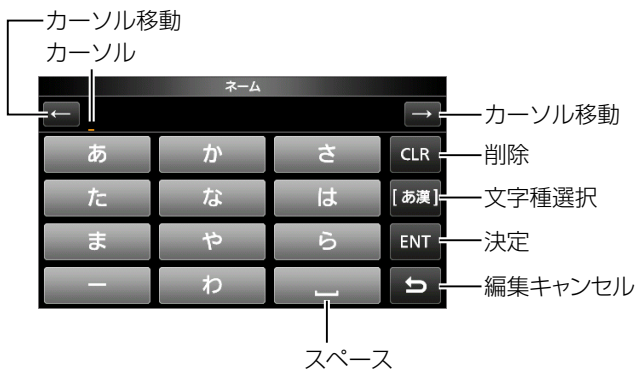
その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

なお、本文中ではTM、®などのマークを省略しています。

本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。

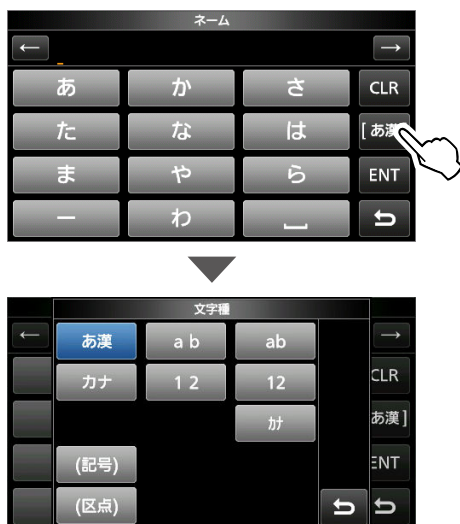
はじめに

文字編集のしかた



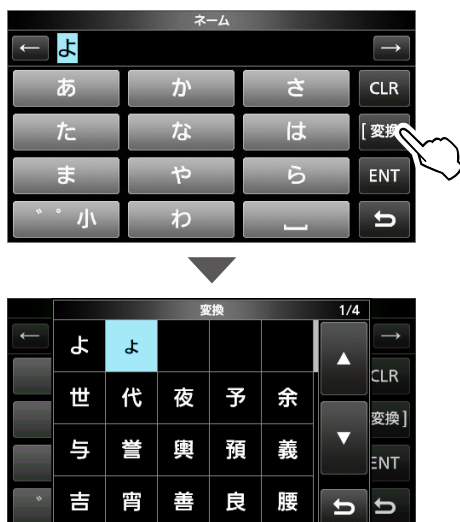
文字種を切り替えるときは

文字を選択していない、または入力文字を再度カーソルで選択した状態で文字種選択ボタン(例: [あ漢])をタッチします。表示された画面で、文字種をタッチします。



漢字を入力したいときは

ひらがなを入力し、[変換]をタッチします。表示された画面で入力したい漢字をタッチします。

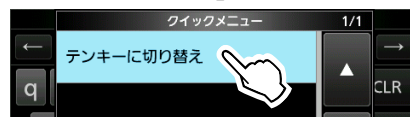


英数字入力方式を切り替えるときは

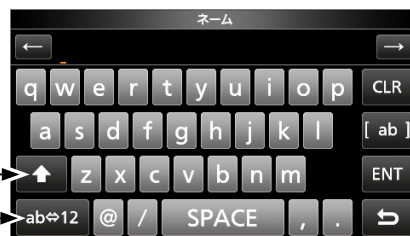
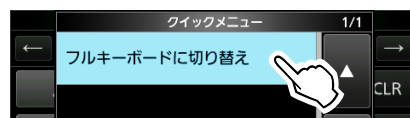
英数字入力時の入力方式(テンキーとフルキーボード)を切り替えられます。

1. 英数字入力状態で、[QUICK]を短く押す
2. 表示された項目をタッチする

「テンキーに切り替え」をタッチした場合



「フルキーボードに切り替え」をタッチした場合



英字/数字切り替え
大文字/小文字切り替え

※ 切り替えると、下記の設定に反映されます。
(MENU > SET > 機能設定 >
キーボード入力方式(英数))

はじめに

文字編集ができる項目一覧

MENU	分類	項目	入力可能文字	最大文字数
SET	スキャン設定	プログラムスキャンエッジネーム	[全][英数][か]	半角16
		プログラムリンクネーム	[全][英数][か]	半角16
	自局設定	自局コールサイン	A～Z、0～9、(空白)、/	8+4
		送信メッセージ	[英数][か]	20
	時計	NTPサーバーアドレス	A～Z、a～z、0～9、-、.	64
	Bluetooth設定	自機器情報(機器名称)	A～Z、0～9、(空白)、記号	9(「I C O M B T」を除く)
	Wi-Fi設定	SSID	A～Z、0～9、(空白)、記号	32
		パスワード	A～Z、0～9、(空白)、記号	64
		ネットワークネーム	A～Z、0～9、(空白)、-、_	15
	SDカード	設定セーブ	[全][英数][か] ¥/ ; * ? " < > の使用は確定時エラー	半角23
		エクスポート	[全][英数][か] ¥/ ; * ? " < > の使用は確定時エラー	半角23
MEMORY		グループネーム	[全][英数][か]	半角16
		メモリーネーム	[全][英数][か]	半角16
DV MEMORY	相手局コールサイン	ネーム	[全][英数][か]	半角16
		コールサイン	A～Z、0～9、(空白)、/	8
	レピータリスト	グループネーム	[全][英数][か]	半角16
		ネーム	[全][英数][か]	半角16
		サブネーム	[全][英数][か]	半角8
		コールサイン	A～Z、0～9、(空白)、/	8
		GWコールサイン	A～Z、0～9、(空白)、/	8
DV GW	内蔵ゲートウェイ設定	管理サーバーアドレス	A～Z、a～z、0～9、-、.	64
		ゲートウェイコールサイン	A～Z、0～9、(空白)	8
		許可コールサイン	A～Z、0～9、(空白)	8
CS		UR	A～Z、0～9、(空白)、/	8
		R1	A～Z、0～9、(空白)、/	8
		R2	A～Z、0～9、(空白)、/	8
GPS	GPS送信モード	アンプロトアドレス	[英数][か](通常は12文字)	56
		コメント	[英数][か](設定によって、最大文字数は異なります。)	43
		オブジェクト名/アイテム名	[英数]	9
		GPSメッセージ	[英数][か]	20
	GPSメモリー	グループネーム	[全][英数][か]	半角16
		メモリーネーム	[全][英数][か]	半角16
DTMF	DTMFメモリー	DTMFコード	0～9、A B C D * #	24
	SEND	ダイレクト入力	0～9、A B C D * #	24
DR画面	TO選択	ダイレクト入力(UR)	A～Z、0～9、(空白)、/	8
		ダイレクト入力(RPT)	A～Z、0～9、(空白)、/	8
PICTURE	送信画像設定	受取人	A～Z、0～9、(空白)	8

[全] : ひらがな、カタカナ、漢字、英字(大文字/小文字)、数字、欧文記号、和文記号

[英数] : 半角英字(大文字/小文字)、半角数字、欧文記号

[か] : 半角かか、和文記号

ご使用になる microSD カードの取り付けや注意事項などは、簡易マニュアル4章をご覧ください。

- microSDカードに保存できるデータについて 1-2
- 設定データを microSD カードに保存するには 1-2
- 設定ファイル名を変更して保存するには 1-3
- microSDカードに保存した設定データを本製品に読み込むには 1-4
- microSDカードのデータをパソコンにバックアップする 1-5
 - ◇ microSDカードの階層について 1-5
 - ◇ パソコンにデータをバックアップする 1-6
- CSVファイルをインポート/エクスポートするには 1-7
 - ◇ インポートのしかた 1-7
 - ◇ エクスポートのしかた 1-8
- SDカードモードについて 1-9
- microSDカードの空き容量、録音時間を確認する 1-10

1 microSD カードの使いかた

■microSDカードに保存できるデータについて

保存できるデータは次のとおりです。

- ◎本製品の設定データ(icf形式)
- ◎メモリーチャンネルの設定データ(csv形式)
- ◎交信録音した音声データ(wav形式)
- ◎交信/受信履歴ログ(csv形式)
- ◎DVモードでの自動応答用音声(wav形式)
- ◎ボイス送信用の音声データ(wav形式)
- ◎スクリーンキャプチャーデータ(png/bmp形式)

- ◎相手局コールサイン(csv形式)
- ◎レピータリスト(csv形式)
- ◎GPSメモリーデータ(csv形式)
- ◎GPSロガーデータ(log形式)
- ◎画像伝送機能で使用する画像データ(jpg形式)
- ◎画像送信/受信履歴(dat形式)
- ◎海外レピータのIPアドレスリスト(csv形式)

■設定データを microSD カードに保存するには

本製品に設定したメモリーチャンネル、MENU画面の各設定項目、レピータリストなどをmicroSDカードに保存できます。

設定データをmicroSDカードに保存しておく、本製品をリセットして設定を初期化したときなどに、元の運用状態に戻せます。

設定データは、新規ファイルに保存するか、すでに作成したファイルに上書き保存ができます。

1. 設定セーブ画面を表示させる

MENU > SET > SDカード > 設定セーブ

2. 「<<新規ファイル>>」をタッチする



- ファイル名は、Setにつづいて、作成する年(Y)、月(M)、日(D)、作成番号の順に「SetYYYYMMDD_作成番号」となります。

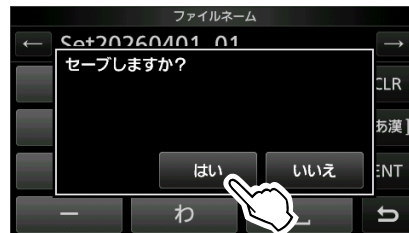
※ファイル名を変更する場合は、「設定ファイル名を変更して保存するには」をご覧ください。(P.1-3)

※既存のファイルに上書きする場合は、対象のファイル名の上をタッチ後、手順4に進みます。

3. [ENT]をタッチする



4. [はい]をタッチする



- 設定データを保存します。
- 保存中は進行状況が表示され、保存が完了すると、SDカード画面が表示されます。

5. [EXIT]を数回押す

- SDカード画面が解除されます。

で参考

設定データは、CS-5200(プログラミングソフトウェア)で使用しているファイル形式(ICFファイル)でmicroSDカードに保存されます。microSDカードに保存した設定データをパソコンに取り込んで、CS-5200で編集することもできます。

1 microSD カードの使いかた

■設定ファイル名を変更して保存するには

1. 設定セーブ画面を表示させる

MENU > SET > SDカード > 設定セーブ

2. 「<<新規ファイル>>」をタッチする



3. [CLR]をタッチして、入力されている文字を削除する



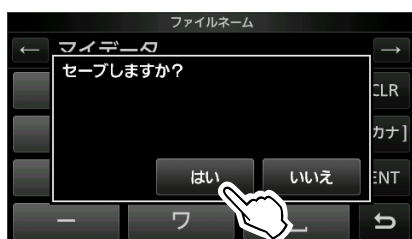
※[CLR]をタッチしつづけると、連続して削除できます。

4. 設定ファイル名を入力して、[ENT]をタッチする



※入力方法や文字の種類、最大文字数などは、iiiページをご覧ください。

5. [はい]をタッチする



- 設定データを保存します。
- 保存中は進行状況が表示され、保存が完了すると、SDカード画面が表示されます。

6. [EXIT]を押す

- SDカード画面が解除されます。

1 microSD カードの使いかた

■microSDカードに保存した設定データを本製品に読み込むには

microSDカードに保存したメモリーチャンネル、MENU画面の各設定項目、レピータリストなどを本製品に設定できます。

メモリーチャンネルやレピータリストなどを、ほかの本製品にコピーして運用するときなどに便利な機能です。

設定データを本製品に読み込ませる前に、現在の設定データをmicroSDカードに保存しておくことをおすすめします。

1. 設定ロード画面を表示させる

MENU > SET > SDカード > 設定ロード

2. 本製品に読み込む設定データをタッチする



3. 「選択」をタッチする



※手順4のロードオプション画面に表示されるすべての内容を読み込むときは、「全て」をタッチして手順6に進みます。

※レピータリストだけを本製品に読み込むときは、「レピータリストのみ」をタッチして手順6に進みます。

4. 読み込む内容をタッチする(例：CI-Vアドレス)



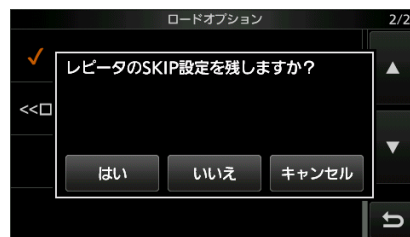
• 読み込む内容に「✓」(チェックマーク)が表示されます。

※その他の設定とメモリー(セットモード内の各設定項目、メモリーチャンネル)の内容は、常に読み込みます。

5. 「<<ロード>>」をタッチする



6. [[はい], または[[いいえ]]をタッチする



※ [[はい]] をタッチすると、無線機で設定したレピータリストのスキップ設定が保持されます。

スキップ設定については、8章をご覧ください。

※ [[いいえ]] をタッチすると、無線機で設定したレピータリストのスキップ設定がクリアされます。

• 「ロードしますか?」のダイアログが表示されます。

7. [[はい]]をタッチする

• 読み込みが完了すると、「再起動してください。」が表示されます。

※読み込み中、進行状況が表示されます。

※読み込みが完了すると、ロード完了画面が表示されます。

8. 電源を入れなおす

※読み込んだデータを有効にするため、電源を入れなおしてください。

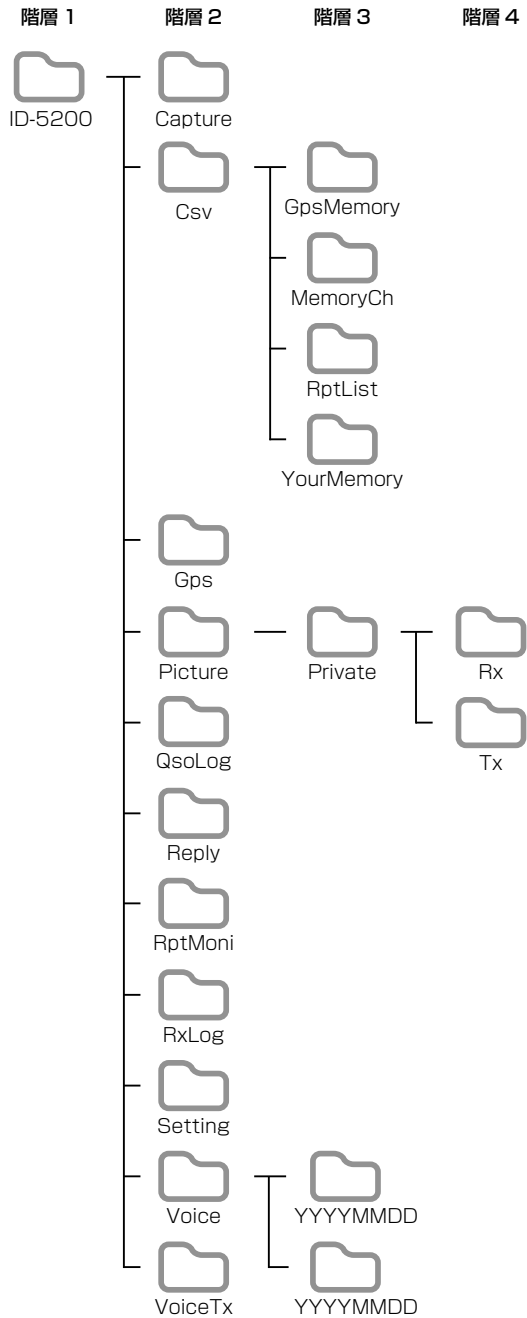
1 microSD カードの使いかた

■microSDカードのデータをパソコンにバックアップする

microSDカードに保存したデータを、パソコンにバックアップしておく、microSDカード内のデータを誤って削除したときでもデータを復元できます。

◇microSDカードの階層について

microSDカードのフォルダー階層は下図のようになっています。



フォルダ名	説明	拡張子
ID-5200	データは、このフォルダー内にすべて保存される	—
Capture	画面のスクリーンキャプチャーデータが保存される	png/ bmp
Csv	レピータリストなどのインポートデータフォルダーが格納される	csv
Gps Memory	GPSメモリーのインポート用データ格納するためのフォルダー	csv
MemoryCh	メモリーチャンネルのインポート用データを格納するためのフォルダー	csv
RptList	レピータリストのインポート用データを格納するためのフォルダー	csv
Your Memory	相手局コールサインとネームのインポート用データを格納するためのフォルダー	csv
Gps	GPSロガーデータが格納される	log
Picture	画像伝送に使用する画像を保存するフォルダー	jpg
Private	送受信画像履歴が保存されるフォルダー	—
Rx	受信画像履歴が保存される ※パソコンでは、受信画像履歴を確認できません。	dat
Tx	送信画像履歴が保存される ※パソコンでは、送信画像履歴を確認できません。	dat
QsoLog	交信ログデータが格納される	csv
Reply	DV自動応答データが格納される	wav
RptMoni	海外レピータのIPアドレスリストを保存する	csv
RxLog	受信履歴ログデータが格納される	csv
Setting	本製品の設定データが格納される	icf
Voice	録音した交信内容が格納される	—
YYYYMMDD	録音した内容が格納される ※フォルダー名は、作成された年(Y)、月(M)、日(D)の順に「YYYYMMDD」となります。	wav
VoiceTx	録音したボイス送信用の内容が格納される	wav

1 microSD カードの使いかた

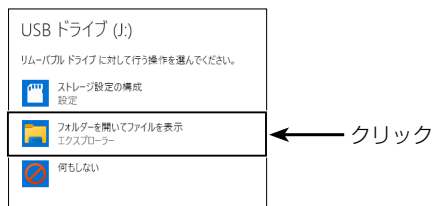
■microSDカードのデータをパソコンにバックアップする

◇パソコンにデータをバックアップする

Windows 11を例に説明します。

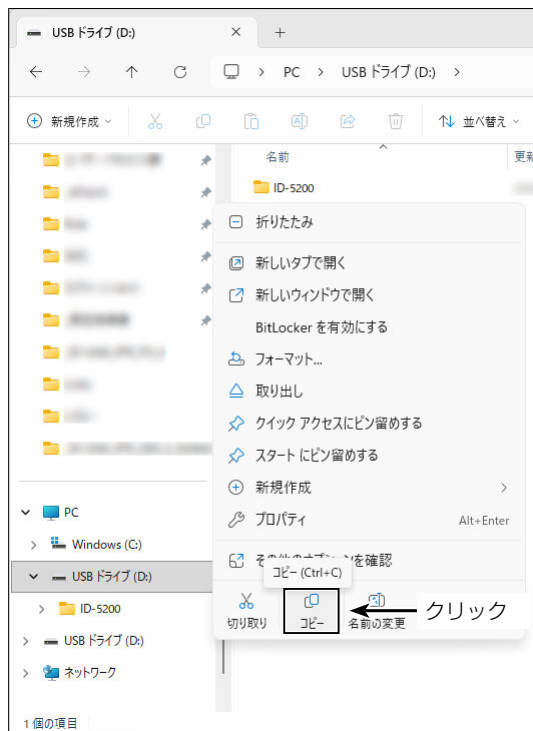
1. パソコンのSDカードスロットが搭載されている場合は、スロットにmicroSDカードを取り付ける
※パソコンにSDカードスロットが搭載されていない場合は、microSDカードを読み込むためのメモリーカードリーダー(市販品)をパソコンに接続し、メモリーカードリーダーにmicroSDカードを取り付けます。

2. 下記のような画面が表示されたら、「フォルダーを開いてファイルを表示」をクリックする

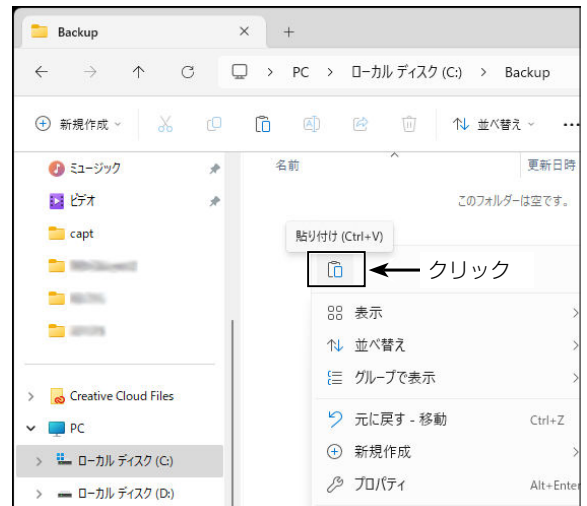


- 保存したID-5200のフォルダーが表示されます。

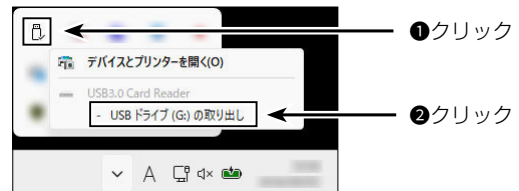
3. [USBドライブ]にマウスポインターをあわせて、右クリックする
4. コピーアイコンをクリックする



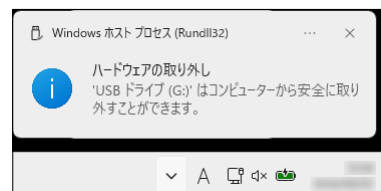
5. データの保存先フォルダー内で右クリックし、貼り付けアイコンをクリックする
• microSDカード内のデータが、パソコンにコピーされます。
(例：Cドライブ内の「Backup」フォルダーにコピーする場合)



6. microSDカードをパソコンから取りはずすときは、タスクトレイのmicroSDカードに該当するアイコン(下の画面では「G」アイコン)をクリックして、取りはずしたいデバイスをクリックする
※画面は、メモリーカードリーダーを取り付けたときの例です。



7. 「ハードウェアの取り外し」が表示されてから、microSDカードをパソコンから取りはずす
※画面は、メモリーカードリーダーを取りはずしたときの例です。



ご参考

データ通信対応のUSBケーブルで無線機とパソコンを接続し、MENU画面で「USB接続」を「SDカードモード」に設定すると、microSDカードを抜き差しせずにパソコンからSDカードにアクセスできます。
(MENU > SET > 外部端子 > **USB接続**)
また、FUNCTION画面で「USB」をタッチしても「SDカードモード」へ切り替えできます。(P.1-9)

1 microSD カードの使いかた

■CSVファイルをインポート/エクスポートするには

CSVファイルをmicroSDカードから読み込ませたり(インポート)、microSDカードに保存したり(エクスポート)できます。

対象のデータは、下記の4つです。

◎メモリーチャンネル

◎相手局コールサイン

◎レピータリスト

◎GPSメモリー

これらは個別にインポートとエクスポートができます。

ご参考

CSVファイルは、本製品に登録されている一部の設定データを読み込んだり、書き込んだりするときに使用するファイルです。

本製品からエクスポートしたCSVファイルは、パソコンに読み込ませて、プログラミングソフトウェアで編集することもできます。

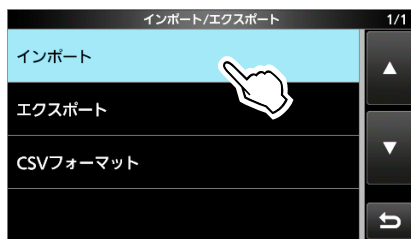
◇インポートのしかた

CSVファイルを本製品に読み込ませる前に、現在の内容をmicroSDカードに保存しておくことをおすすめします。

1. インポート/エクスポート画面を表示させる

MENU > SET > SDカード > インポート/エクスポート

2. 「インポート」をタッチする



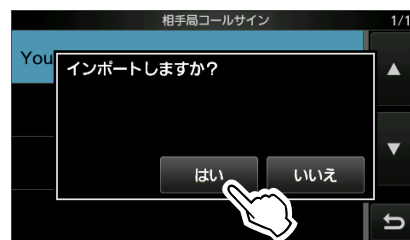
3. インポートしたいデータをタッチする
(例：相手局コールサイン)



4. 本製品に読み込むCSVファイルをタッチする



5. [はい]をタッチする



- インポートを開始します。

※読み込みが完了すると、「インポート完了」画面が表示されます。

6. 電源を入れなおす

※読み込んだCSVファイルを有効にするため、電源を入れなおしてください。

※レピータリストをインポートする場合は、弊社ホームページに掲載の「レピータリストの更新」をご覧ください。

ご注意

ファイル名が拡張子を除く半角24文字(全角12文字)以上のものは表示されません。

インポートしたいファイルが表示されない場合は、ファイル名を半角23文字(全角11文字と半角1文字)以内に変更してからインポートしてください。

※CS-5200(プログラミングソフトウェア)で、本製品にインポートするためのCSVファイルを書き出す場合も半角23文字(全角11文字と半角1文字)以内になるようにファイル名を設定してください。

1 microSD カードの使いかた

■CSVファイルをインポート/エクスポートするには

◇エクスポートのしかた

メモリーチャンネル、相手局コールサイン、レピータリスト、GPSメモリーをエクスポートできます。

1. インポート/エクスポート画面を表示させる

MENU > SET > SDカード > インポート/エクスポート

2. 「エクスポート」をタッチする



3. エクスポートしたいデータをタッチする
(例：相手局コールサイン)



4. 「<<新規ファイル>>」項目をタッチする



- ファイルネーム画面が表示されます。

※既存のファイルに上書きする場合は、対象のファイル名の上をタッチ後、手順6に進みます。

※ファイル名は、Your*につづいて、作成する年(Y)、月(M)、日(D)、作成番号の順に「YourYYYYMMDD_作成番号」となります。

★エクスポートするデータの種類によって異なります。

メモリーチャンネル : Mch

相手局コールサイン : Your

レピータリスト : Rpt

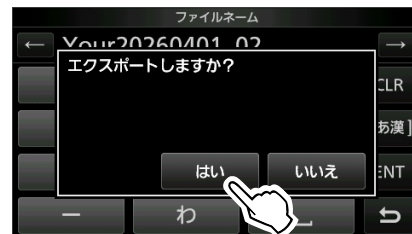
GPSメモリー : Gps

※入力方法や文字の種類、最大文字数などは、iiiページをご覧ください。

5. [ENT]をタッチする



6. [[はい]]をタッチする



- CSVファイルを保存します。

※保存中、進行状況が表示され、保存が完了すると、「エクスポート」画面が表示されます。

7. [EXIT]を押す

- エクスポート画面が解除されます。

1 microSD カードの使いかた

■SDカードモードについて

USB接続設定(P.10-22)をSDカードモードに変更することで、本製品に取り付けたmicroSDカード(ID-5200フォルダー)の内容を本製品とUSBケーブルで接続されたパソコンで認識できるようになります。

そのため、microSDカードを着脱せずに、microSDカードに保存した設定データや録音データなどを、パソコンにバックアップしたり、画像伝送用の画像データやファームウェアのデータをmicroSDカードに保存したりできます。

1. 本製品とパソコンをUSBケーブルで接続する
※USBケーブルは、データ通信対応製品をお使いください。

2. USB接続画面を表示させる

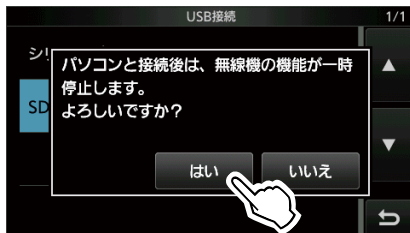
MENU > SET > 外部端子 > **USB接続**

3. 「SDカードモード」をタッチする



- パソコンとUSBケーブル(市販品)で接続すると、下記の説明が表示されます。

4. 「はい」をタッチする



ご注意

SDカードモードの無線機をUSBケーブルでパソコンと接続する前に、市販のmicroSDカードを取り付けておく必要があります。

※microSDカードを装着していない場合は、電源を切った状態でmicroSDカードを取り付けてから、USBケーブルを接続しなおしてください。

ご参考

◎[FUNC] を押して表示されるFUNCTION画面で「USB」をタッチして「SDカード」に設定しても、SDカードモードに切り替えられます。



◎SDカードモード中は、無線機としての機能が停止します。

◎SDカードモード移行時の動作

- 録音を停止する
- GPSロガーと受信履歴ログを一時停止する
- Bluetooth接続を切断する
- オートパワーオフを無効にする

SDカードモードを終了するときは

本書では、Windows 11を例に説明しています。

1. タスクトレイの本製品に該当するアイコン「」をクリックする
2. 「ハードウェアの取り外し」が表示されてから、USBケーブルをパソコンから取りはずす

1 microSD カードの使いかた

■microSDカードの空き容量、録音時間を確認する

1. SDカード画面を表示させる

MENU > SET > SDカード

2. 「SDカード情報」をタッチする



- microSDカードの空き容量と録音時間が表示されます。

3. [EXIT] を数回押す

- SDカード画面が解除されます。

■ スコープの使いかた	2-2
◇ バンドスコープ	2-2
◇ メモリスコープ	2-3
◇ スコープの操作	2-4
◇ ウォーターフォール機能	2-4

2 スコープ機能と操作

■スコープの使いかた

スコープとは、一定の範囲内に出ている信号を目で見えるようにした機能です。

信号を探すだけでなく、受信信号レベルも確認できます。スコープには、VFOモードやコールチャンネルモードで使用するバンドスコープと、メモリーモードやDR画面で使用するメモリースコープがあります。

◎バンドスコープ : 周波数が対象

◎メモリースコープ : チャンネルが対象

また、シングル表示ではウォーターフォール機能により、信号レベルの時間的な変化を連続で確認できます。

スコープのスweepには、次の2種類があります。

◎単一スweep: 1回だけスweepする

◎連続スweep: スweepを繰り返す

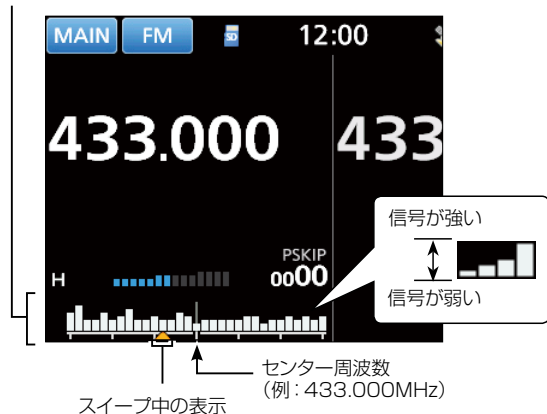
表示されているセンター(周波数/チャンネル)を中心に、「 $\pm 15 \times$ ステップ」をスweepします。

※MENU画面の「表示ステップ数」で、「 ± 20 ステップ」に変更できます。

(MENU > SET > スコープ設定 > 表示ステップ数)

スweep中の画面(例 スコープモード: センター)

バンドスコープ表示



スweep停止中の画面



◇バンドスコープ

バンドスコープは、次の3種類の表示に切り替えられます。

◎センター表示

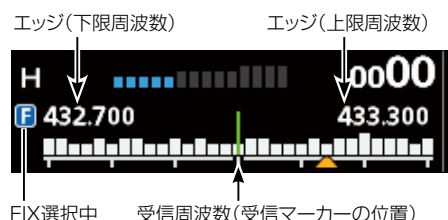
現在の受信周波数(センター周波数)を中心に、一定範囲内の受信信号が表示されます。



◎FIX表示

「FIXモードセンター周波数」(P.10-6)で設定された受信周波数を中心とし、一定範囲内の受信信号が表示されます。

(MENU > SET > スコープ設定 > FIXモードセンター周波数)

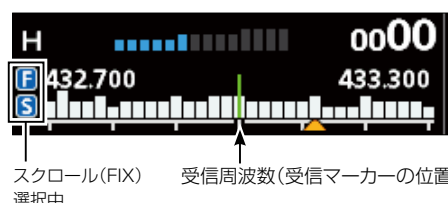


受信周波数がスコープの表示範囲外の場合は、画面の左右に「 $\blacktriangleleft$ 」(周波数が低い)、または「 $\blacktriangleright$ 」(高い)が点滅表示されます。

◎スクロール(FIX)表示

「FIXモードセンター周波数」(P.10-6)で設定された受信周波数を中心とし、一定範囲内の受信信号が表示されます。受信マーカーが表示範囲を超えた場合、スクロールして表示されます。

(MENU > SET > スコープ設定 > FIXモードセンター周波数)



2 スコープ機能と操作

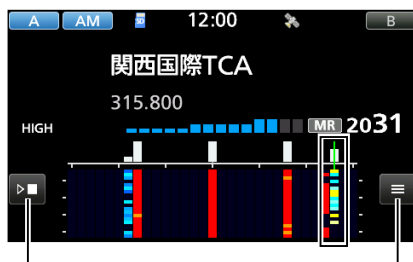
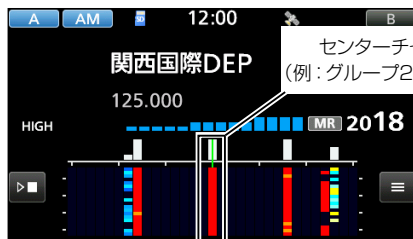
■スコープの使いかた

◇メモリスコープ

メモリスコープは、センター表示固定になります。



メモリスコープの
ウォーターフォール表示



- ▶ タッチ：連続スイープ開始 スコープ用の
- ▶ □ タッチ：連続スイープ停止 クイックメニュー表示

※切り替え可能なチャンネルだけを表示します。

「表示ステップ数」以下の場合は、折り返して表示しません。
(MENU > SET > スコープ設定 > **表示ステップ数**)

※DR機能の最寄りレピータ選択状態では、ピックアップしたレピータリストがスコープの対象になります。

2 スコープ機能と操作

■スコープの使いかた

◇注意

連続スイープ中、画面に手や体を近づけたりすると、周波数によってはノイズが発生することがありますが、故障ではありません。

◇スコープの操作

1. スコープ画面を表示させる

MENU > SCOPE

- ・スコープが表示され、連続スイープを開始します。

※手順2～5は、デュアル表示でバンドスコープを操作する場合です。

2. [QUICK]を短く押す

3. 「バンドスコープ」をタッチする

4. 「スコープモード」をタッチする



5. 表示させたいスコープモードをタッチする

- ・選択したモードのバンドスコープが表示され、連続スイープを開始します。

6. スコープ表示をタッチする

- ・連続スイープが停止します。
- ・停止中にスコープ表示をタッチすると、スイープを再開します。

7. [DIAL]を回して、受信周波数(受信マーカーの位置)を検出した信号に設定する

- ・受信音が聞こえます。

8. スイープ停止中に[EXIT]を押す

- ・スコープが解除されます。

スコープ画面では、下表の操作ができます。

キー/表示	操作	動作
[DIAL]	回す	受信周波数、またはチャンネルのアップ/ダウン
スコープ表示	タッチ	スイープ停止/再開
スコープ表示	長く(約1秒)タッチ	スコープ用のクイックメニュー表示
[QUICK]	短押し	クイックメニュー表示
[EXIT]	短押し	スイープ中： スイープ停止 スイープ停止中：スコープ画面解除

◇ウォーターフォール機能

シングル表示でスコープ機能をONにすると、ウォーターフォールが表示されます。

※スイープしているあいだだけ、ウォーターフォールが表示されます。

※信号強度は、下記の色順で表示されます。

黒(信号なし)→青→水色→緑→黄→赤(強)

※スイープ中は、ウォーターフォール表示といっしょに目盛表示が降下し、スイープを停止すると、目盛表示も停止します。

※MENU画面の「ウォーターフォール速度」で降下速度を「遅い」に変更できます。

(MENU > SET > スコープ設定 >

ウォーターフォール速度)



▶タッチ：連続スイープ開始

▶タッチ：連続スイープ停止

スコープ用の

クイックメニュー表示

◇参考

◎本製品のバンドスコープは、設定されたチューニングステップごとに、信号の有無や強弱を表示します。このため、極端にチューニングステップを大きく設定すると、実際には強い信号があっても表示されませんのでご注意ください。

チューニングステップは、20kHz以下でご使用になることをおすすめします。(簡易マニュアル2章)

◎デュアルバンド運用時では、スイープしながら表示周波数を受信することはできませんが、AF出力(デュアル)機能を設定できます。

これは、画面を見なくてもスイープ先の受信音を一瞬鳴らすことで信号を検出したことがわかる機能です。

- ・この受信音が耳障りに感じるときは、「AF出力(デュアル)」の設定を「OFF」にされることをおすすめします。

(MENU > SET > スコープ設定 > AF出力(デュアル))

JARL管理サーバーへの登録や基本操作などは、簡易マニュアル10章をご覧ください。

■ 「FROM」の各種設定方法	3-3
◇ レピータリストから選択する	3-4
◇ DRスキャンでレピータを探す	3-5
◇ 最寄レピータから設定する	3-6
◇ 送信履歴から設定する	3-7
■ 「TO」の各種設定方法	3-8
◇ 山かけCQを出したいとき	3-9
◇ ゲート越えCQを出したいとき	3-9
◇ 個人局から設定する	3-9
◇ 受信履歴から設定する	3-10
◇ 送信履歴から設定する	3-10
◇ ダイレクト入力(UR)から設定する	3-11
◇ ダイレクト入力(RPT)から設定する	3-11
■ レピータ詳細表示	3-12
■ メッセージ機能の使いかた	3-13
◇ 送信するメッセージを登録する	3-13
◇ 送信メッセージを選択する	3-13
◇ 登録したメッセージを削除する	3-13
■ 受信したコールサインを確認する	3-14
◇ 受信履歴を呼び出して確認する	3-14
■ DVレピータモニター機能	3-16
◇ DVレピータモニター機能の操作	3-16
◇ DVレピータモニター機能(海外版)	3-17
■ BK(割り込み)機能の運用	3-18
■ EMR機能の運用	3-19
◇ EMR信号受信時の音量を調整する	3-19
■ DV自動検出機能	3-20
■ 自動応答機能の使いかた	3-21
◇ 自動応答用の音声を録音する	3-22
◇ 位置情報の自動応答	3-23
■ データ通信	3-24
◇ パソコンの接続	3-24
◇ 通信ソフトウェアの設定	3-24
◇ データ通信の操作	3-25
◇ DVファーストデータの設定	3-25
■ 表示タイプについて	3-26

(次ページにつづく)

下記は、前ページからの「つづき」です。

■ デジタルコールサインスケルチ/デジタルコードスケルチ機能	3-27
◇ デジタルコールサインスケルチを設定する	3-27
◇ デジタルコードスケルチを設定する	3-27
■ レピータリスト	3-28
◇ レピータリストに登録できる設定項目一覧	3-28
◇ レピータリストにレピータ情報を登録する	3-29
◇ 目的別 新規登録に最低限必要な項目	3-29
◇ レピータリストに新規情報を登録する	3-30
◇ レピータリストのレピータ情報を編集する	3-33
◇ レピータリストのレピータ情報を削除する	3-33
◇ レピータが表示される順番を並べ替える	3-34
◇ 受信履歴からレピータ情報を登録する	3-34
■ DRスキャン時のスキップ設定	3-35
◇ 個別にレピータをスキップ設定する	3-35
■ レピータのグループネームを登録するには	3-36
■ 相手局コールサイン	3-37
◇ 相手局コールサインの新規登録	3-37
◇ 相手局コールサインを削除する	3-38
◇ 相手局が表示される順番を並べ替える	3-38
■ コールサインの設定を確認する	3-39
■ 迷惑な設定をしていませんか？	3-40

DR機能を使用せずにデジタル通信をするには

デジタル通信をするには、VFOモードやメモリーモード、コールチャンネルモードでも運用できます。

本製品の取扱説明書では、簡単に設定できるDR機能での運用を中心に説明していますので、各モードでデジタル通信をする場合は、右記の手順で設定してください。

レピータ運用時の設定のしかた

- ① アクセスレピータの周波数を設定する
(簡易マニュアル 2章)
- ② オフセット周波数を設定する (P.9-4)
- ③ デュプレックスを設定する (P.9-4)
- ④ コールサインを設定する (簡易マニュアル 10章)

シンプレックス運用時の設定のしかた

- ① 周波数を設定する (簡易マニュアル 2章)
- ② コールサインを設定する (簡易マニュアル 10章)

3 D-STARの運用<応用編>

■「FROM」の各種設定方法

ダイヤルを回して選択する

DR画面で、[DIAL]を回すと、登録されたレピータを選択できます。

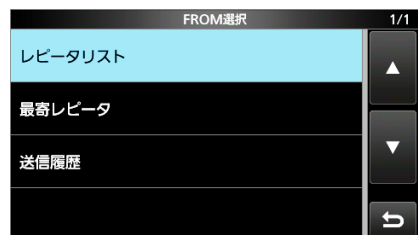
※レピータリストが登録されていない場合、[DR]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押してもDR画面は表示されません。



どのレピータを使えばいいのか、わかっているとき

レピータリストから選択する

レピータの一覧から、地域やレピータ名をもとに選択できます。



アクセスできるレピータがわからないとき

DRスキャンでレピータを探す

交信中のレピータやシンプレックス周波数の信号をスキャンしてアクセスできるレピータや周波数を見つけます。

最寄レピータスキャンを使うと、自局の位置情報と、レピータの位置情報をもとに最寄レピータを検索し、その中から交信中のレピータを探せます。

また、交信中の最寄FMレピータだけを探すこともできます。

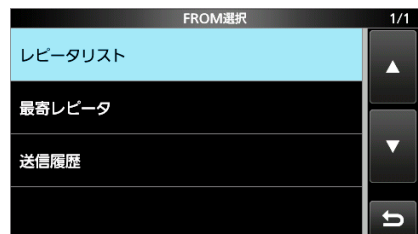


「最寄レピータ」から設定する

GPSで測位した自局の位置情報と、レピータの位置情報をもとに、最寄のレピータを検索します。

あらかじめ登録されているレピータリストから、自局の近くに位置するレピータが選択候補として表示されます。

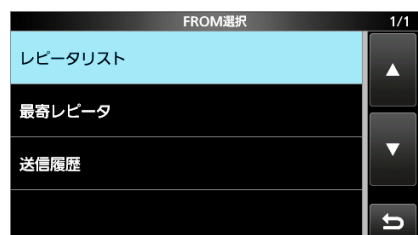
レピータ(DV/FM)を指定して検索することもできます。



アクセスしたことのあるレピータの中から選択したいとき

送信履歴から設定する

以前アクセスしたレピータの中から選択します。



3 D-STARの運用<応用編>

■「FROM」の各種設定方法

◇レピータリストから選択する

アクセスしたいレピータが、あらかじめ登録されている場合は、レピータリストから選択できます。

リストから選択するだけで、そのレピータのコールサイン、周波数、デュプレックス、オフセット周波数が自動で設定されます。

例：レピータリストから「平野430」レピータを選択する

1. [DR]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押す
2. 「FROM」をタッチする
 - 「FROM」選択状態にします。

※すでに選択されている場合は、操作不要です。
3. 「FROM」をタッチする



4. 「レピータリスト」をタッチする
5. 自分がいる地域をタッチする(例：03:近畿)
6. レピータの名前や都道府県名から最寄りのレピータをタッチする(例：平野430)



- DR画面に戻り、選択したレピータが「FROM」に表示されます。

※レピータの名前を選択するだけで、そのレピータのコールサイン、周波数、デュプレックス設定、オフセット周波数が自動で設定されます。

※説明に使用しているレピータリストは、お客様の無線機にプリセットされた内容と異なる場合がありますので、ご了承ください。

FMレピータを選択したときは

あらかじめFMレピータが登録されている場合は、レピータリストから選択できます。

FMレピータを選択すると、「TO」の設定が不要になるため、「---」が表示されます。



ご参考

DR画面で、[QUICK]を短く押し、「グループ切替」を選択すると、レピータグループの切り替えができます。



3 D-STARの運用<応用編>

■「FROM」の各種設定方法

◇DRスキャンでレピータを探す

DRスキャンでは、レピータの周波数をスキャンして、電波が出ているレピータを探します。

DRスキャンには、ノーマルスキャンと最寄レピータスキャンの2種類あります。

ノーマルスキャン

レピータリストの「USE(FROM)」を「YES」(SKIPをOFF)に設定したレピータだけをスキャンします。

出荷時に登録されている国内の430MHz帯の全レピータと、全シンプレックスの周波数は、「USE(FROM)」が「YES」に設定されています。

最寄レピータスキャン

自局の位置情報と、レピータの位置情報をもとに最寄レピータを20件検索し、その中から交信中のレピータを探します。

※スキャン中に電源を切っても、電源を入ると、スキャンが再開します。

※レピータリストの「USE(FROM)」の設定にかかわらず、全レピータがスキャンされます。

※GPSで位置情報が測位できていない場合は、過去に測位した情報を使ってスキャンします。

※マニュアルに設定している場合は、手動で設定された位置情報を使用します。

ご注意

使用するアンテナや運用する環境により、レピータの電波が受信できても、本製品の送信電波がレピータに届かない場合があります。

ご参考

DRスキャンは、レピータリストに登録されているシンプレックス周波数の信号もスキャンします。

1. [SCAN]を短く押す
2. 一覧からスキャンを選択する



◎ノーマル：

Skip選択していないレピータの中から交信中のレピータを探します。

◎最寄レピータ(DV/FM)：

DVレピータ、FMレピータに関係なく、レピータリストに登録されている全レピータから最寄レピータを40件検索し、交信中のレピータを探します。

◎最寄レピータ(DV)：

DVレピータから最寄レピータを20件検索し、交信中のレピータを探します。

◎最寄レピータ(FM)：

FMレピータから最寄レピータを20件検索し、交信中のレピータを探します。

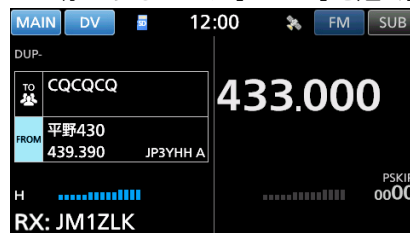
- DRスキャンがスタートします。



点滅 レピータの表示が切り替わります

- スキャン中は、レピータの表示が順次切り替わります。
※再スタートの条件は、ほかのスキャンと同じです。(P.8-3)

3. 電波を出しているレピータの信号を受信するとスキャンが停止するので、[SCAN]を短く押す



- DRスキャンが解除され、「FROM」に電波を出しているレピータが設定されます。

3 D-STARの運用<応用編>

■「FROM」の各種設定方法

◇最寄レピータから設定する

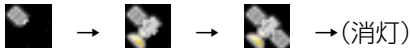
自局の位置情報と、レピータの位置情報をもとに、最寄のレピータを検索します。
あらかじめ登録されているレピータのうち、自局の近くに位置するレピータが選択候補として表示されます。

1. GPSを使って自局の位置情報を取得します

◎内蔵GPS/外部GPSから位置情報を取得する場合

※受信しにくい場合は、場所を移動して受信してください。
位置情報が取得できているか確認する

- 測位中はGPS表示が下記のように点滅します。



- 測位が完了すると点滅から点灯に変わります。



※通常は、数十秒で測位しますが、使用環境によっては、数分かかることがあります。

※MENU画面の「GPS選択」を「マニュアル」に設定している場合、GPS表示は点灯しません。

(MENU > GPS > GPS設定 > GPS選択)

※測位できていない場合は、前回測位した位置情報を使用します。

◎自局の位置情報を手動で入力する場合

(MENU > GPS > GPS設定 > マニュアル位置)

2. 「最寄レピータ」一覧からアクセスレピータを選ぶ

- 「[DR]」を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押す
- 「FROM」をタッチする
 - 「FROM」選択状態にします。
 - ※すでに選択されている場合は、操作不要です。
- 「FROM」をタッチする
- 「最寄レピータ」を選択する



※位置情報がないまま操作すると「GPSが未測位です。」が表示され、最寄レピータ機能を使用できません。

ご注意

最寄レピータ機能を使うときは、「GPS選択」を「内蔵GPS」に設定して、あらかじめ自局の位置情報を取得する、または「マニュアル」に設定して、位置情報を入力する必要があります。

使用可能なレピータが自局の160km圏内にない場合は、「該当なし」が表示されます。

前回、受信した位置情報が有効な場合は、「GPSが未測位です。最後に測位した位置で検索します。」が表示されます。

5. 最寄レピータの種類を選択する



◎最寄レピータ(全て)：

DVレピータ、FMレピータに関係なく、レピータリストに登録されている全レピータから最寄レピータを40件表示します。

◎最寄レピータ(DV)：

DVレピータから最寄レピータを20件表示します。

◎最寄レピータ(FM)：

FMレピータから最寄レピータを20件表示します。

6. 送信したいレピータをタッチする(例：平野加美南430)

「平野加美南430」レピータのコールサイン



自局から
レピータまでの
距離と方向*
(下記参照)



最寄りレピータ
選択状態

- 最寄りレピータ選択状態になり、「」と選択したレピータが「FROM」に表示されます。
- 最寄りレピータ選択状態では、DIAL操作でほかの最寄りレピータに変更できます。
- 操作中は、選択したレピータの方角と自局からレピータまでの距離がポップアップで表示されます。
- 最寄りレピータ選択状態を解除するには、[QUICK]を短く押して「<<全てのレピータから選択>>」を選択するか、FROM選択状態で「」を長く(約1秒)タッチします。

★レピータの位置情報(P.3-31)が「だいたい」に設定されているとき、レピータまでの距離が5km以内になると、方角が表示されません。

3 D-STARの運用<応用編>

■「FROM」の各種設定方法

◇送信履歴から設定する

送信履歴画面で、以前アクセスしたレピータ(過去の送信情報)を選択して設定します。

送信履歴には最新10件が表示されます。

例：送信履歴から「平野430」レピータを選択する

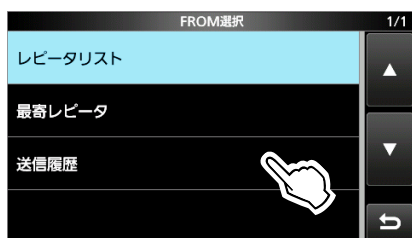
1. [DR]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押す
2. 「FROM」をタッチする
 - 「FROM」選択状態にします。

※すでに選択されている場合は、操作不要です。

3. 「FROM」をタッチする



4. 「送信履歴」をタッチする



◎送信履歴(DV)：

DVレピータの送信履歴が表示されます。

◎送信履歴(FM)：

FMレピータの送信履歴が表示されます。

5. 送信したいレピータをタッチする(例：平野430)



- DR画面に戻り、選択したレピータが「FROM」に表示されます。

ご参考

手順5の送信履歴画面でレピータを長く(約1秒)タッチすると、レピータの情報を表示したり、履歴を削除したりできます。

3 D-STARの運用<応用編>

■「TO」の各種設定方法

ダイヤルを回して選択する

あらかじめプリセットされたレピータ、または個人局は、[DIAL]を回して選択します。
(CQCQCQ設定時は無効です)

ご参考

[RX→CS]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、受信中、または最後に受信した信号のコールサインが「TO」に設定されます。
(簡易マニュアル10章)

山かけCQを出したいとき

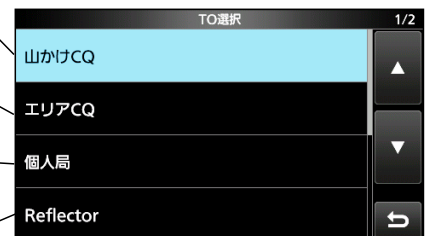
CQCQCQ(不特定呼び出し)が「TO」に設定されます。

ゲート越えCQを出したいとき

ゲート越えCQを出したいレピータがある場合は、あらかじめ登録されているレピータのリストから選択できます。

特定局を呼び出したいとき

相手局コールサインメモリーに登録した一覧から、相手局を選択します。



※2026年6月現在、日本国内ではD-STARレピータは、リフレクターに対応しておりません。

受信履歴から設定したいとき

受信したレピータ、または個人局のコールサインの履歴から選択します。

送信履歴から設定したいとき

送信したレピータ、または個人局のコールサインの履歴から選択します。

相手局のコールサインを直接入力して設定したいとき

相手局のコールサインを1文字ずつ入力して設定します。

レピータのコールサインを直接入力して設定したいとき

レピータのコールサインを1文字ずつ入力して設定します。



リフレクターについては、「リフレクターの使いかた」(PDFファイル)をご覧ください。

弊社ホームページにアクセスしていただき、サポート情報→個人のお客様→取扱説明書よりダウンロードできます。

アイコム株式会社 サポート情報(個人のお客様)

<https://www.icom.co.jp/support/personal/>

3 D-STARの運用<応用編>

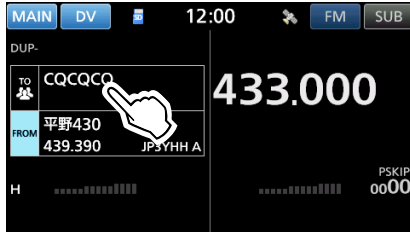
■「TO」の各種設定方法

◇山かけCQを出したいとき

TO選択画面で「山かけCQ」を選択すると、CQCQCQ(不特定呼び出し)が「TO」に設定されます。

例：「平野430」から山かけでCQを出す場合

1. 「TO」を2回タッチする



2. 「山かけCQ」をタッチする
• DR画面に戻り、「CQCQCQ」が「TO」に表示されます。

◇ゲート越えCQを出したいとき

TO選択画面で「エリアCQ」を選択すると、CQを出したいレピータをレピータリストから選択できます。

例：「平野430」レピータから「浜町430」レピータへ、ゲート越えCQを出す場合

1. 「TO」を2回タッチする
2. 「エリアCQ」をタッチする
3. 電波を出したい地域を選択する(例：01：関東)



4. レピータの名前や都道府県名から電波を出したいレピータをタッチする(例：浜町430)



- DR画面に戻り、選択したレピータが「TO」に表示されます。

◇個人局から設定する

個人局リストから呼び出したい相手のコールサインを選択して「TO」に設定できます。

「個人局」から設定すると、ゲートウェイ通信になります。特定局の呼び出しは、相手局が最後にアクセスしたレピータに自動で中継されますので、相手局がどこのエリアにいるかわからなくても呼び出せます。

例：個人局リストから「アイコム太郎」を設定する

1. 「TO」を2回タッチする



2. 「個人局」をタッチする
3. 電波を出したい人をタッチする(例：アイコム太郎)



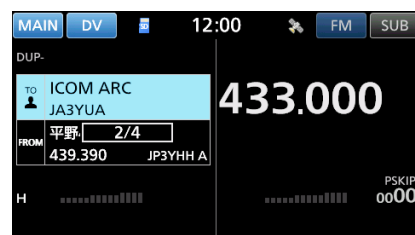
- DR画面に戻り、選択した相手局が「TO」に表示されます。

ご注意

「FROM」に設定したレピータにGWコールサインの情報が登録されていないと、ゲートウェイ通信にはなりません。

ご参考

レピータ、または個人局を選択したあと[DIAL]を回すと、登録しているほかのレピータ、または個人局を選択できます。



3 D-STARの運用<応用編>

■「TO」の各種設定方法

◇受信履歴から設定する

受信履歴画面(過去の受信情報)から「TO」を設定します。受信した局のコールサインを受信履歴画面から選択し、送信先として設定できます。

受信履歴にはCALLERを最大50件、CALLEDを最新1件の合計最大51件が表示されます。

例：受信履歴から「アイコム太郎」を設定する

1. 「TO」を2回タッチする



2. 「受信履歴」をタッチする
3. 表示されている相手局の名前やコールサインから呼び出したい相手をタッチする(例：アイコム太郎)



- DR画面に戻り、選択した相手局が「TO」に表示されます。
※「＊」が付いた受信履歴は、CALLEDを示します。
(P.3-14)

◇送信履歴から設定する

送信履歴画面(過去の送信情報)から「TO」を設定します。送信履歴には最新20件が表示されます。

ご注意

DVモードで一度も送信していない場合は、送信履歴から選択できません。

例：送信履歴から「秋葉原430」のレピータを設定する

1. 「TO」を2回タッチする



2. 「送信履歴」をタッチする
3. 表示されている送信履歴から電波を出したいレピータや呼び出したい相手局をタッチする(例：秋葉原430)

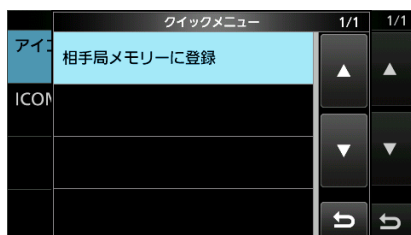


レピータを選択した場合は、都道府県が表示されます(サブネーム)

- DR画面に戻り、選択したレピータや相手局が「TO」に表示されます。

ご参考

受信履歴画面で、登録したい相手を長く(約1秒)タッチすると、メモリーに登録できます。



ご参考

送信履歴画面で、表示されているレピータや相手局を長く(約1秒)タッチすると、そのレピータや個人局をメモリーに登録したり履歴を削除したりできます。



3 D-STARの運用<応用編>

■「TO」の各種設定方法

◇ダイレクト入力(UR)から設定する

呼び出したい相手局のコールサインがまだ登録されていない場合、コールサインを1文字ずつ入力して設定できます。

例：ダイレクト入力(UR)から「JM1ZLK」を設定する

1. 「TO」を2回タッチする



2. 「ダイレクト入力(UR)」をタッチする
3. 相手局のコールサインを入力する



- 8文字以内(スペースを含む)で入力してください。

4. 入力したら[ENT]をタッチする
- DR画面に戻り、入力した相手局が「TO」に表示されます。
 - ※ 設定後に、コールサインを修正したい場合は、再度ダイレクト入力画面で編集できます。
 - ※ 設定したコールサインは、変更するまで、ダイレクト入力画面にそのまま残ります。

◇ダイレクト入力(RPT)から設定する

CQを出したいエリアレピータのコールサインがまだ登録されていない場合、コールサインを1文字ずつ入力して設定できます。

例：ダイレクト入力(RPT)から「JP3YDH」(池田430レピータ)を設定する

1. 「TO」を2回タッチする



2. 「ダイレクト入力(RPT)」をタッチする
3. レピータのコールサインを入力する



- 8文字以内(スペースを含む)で入力してください。

4. 入力したら[ENT]をタッチする
- DR画面に戻り、入力したレピータが「TO」に表示されます。
 - ※ 設定後に、コールサインを修正したい場合は、再度ダイレクト入力画面で編集できます。
 - ※ 設定したコールサインは、変更するまで、ダイレクト入力画面にそのまま残ります。

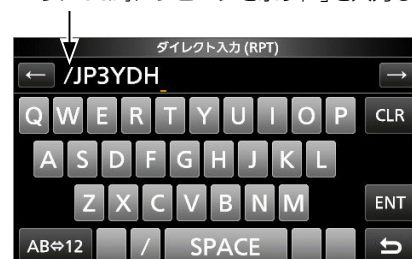
ご参考

- ダイレクト入力したコールサインが、すでに登録されている場合は、名前が表示されます。(名前を登録していた場合にかぎり)



- エリアレピータを示す「/」は入力不要ですが、右図のように入力しても正しく設定されます。

エリアCQ時にレピータを示す「/」を入力した場合



3 D-STARの運用<応用編>

■レピータ詳細表示

レピータリストに登録されている位置情報やUTCオフセット設定によって、自局からレピータまでの距離や、レピータの時刻などレピータの詳細情報を確認できます。DR機能であれば、どのレピータ選択状態からでもレピータの詳細情報を確認できます。

例：平野430のレピータ詳細表示を見る

1. 「TO」を2回タッチする



2. 「エリアCQ」をタッチする
3. 「03:近畿」をタッチする
4. 「平野430」を長く(約1秒)タッチする
5. 「詳細表示」をタッチする



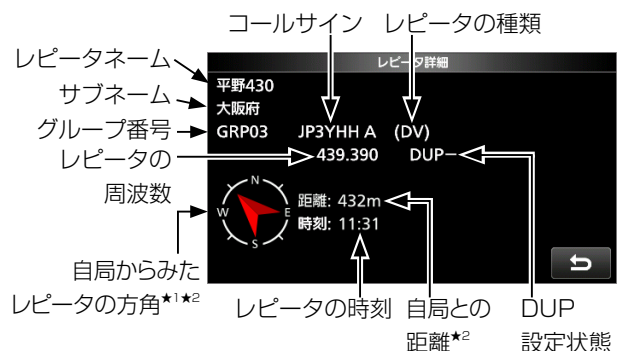
- レピータの詳細画面が表示されます。

※ 自局からレピータまでの距離と、自局からみたレピータの方角を確認するには、GPS表示が点灯している必要があります。(P.4-3)

6. [EXIT]を押す

- レピータ選択時の画面に戻ります。

レピータ詳細画面



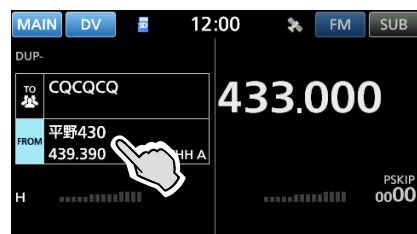
※ FMレピータを選択した場合は、「FM」、または「FM-N」とTONE設定が表示されます。

★1 位置情報(P.3-31)が「だいたい」に設定されているとき、レピータまでの距離が5km以内になると、方角が表示されません。

★2 自局の位置情報が未測位の場合は、表示されません。

ご参考

DR機能画面からもレピータ詳細情報が確認できます。下図のようにレピータを長く(約1秒)タッチします。「レピータ詳細表示」を選択すると、レピータ詳細画面が表示されます。



「FROM」設定状態



「レピータ詳細表示」を選択

3 D-STARの運用<応用編>

■メッセージ機能の使いかた

DVモードで音声通信しながら、同時に最大20文字のメッセージを送信できます。

◇送信するメッセージを登録する

最大20文字のメッセージを5個登録できます。

例：登録番号1に「OSAKA ｽﾀｰｷ」を登録する

1. 送信メッセージ画面を表示させる

MENU > SET > 自局設定 > 送信メッセージ

2. 登録番号を長く(約1秒)タッチする(例：1:)



3. 「編集」をタッチする



4. 20文字以内(スペースを含む)でメッセージを入力し、[ENT]をタッチする



※入力方法や文字の種類、最大文字数などは、iiiページをご覧ください。

5. [EXIT]を数回押す
 - 送信メッセージ画面が解除されます。

コールサイン/メッセージのスクロール表示について
初期設定では、コールサインとメッセージを受信すると、その内容を順番にスクロール表示するように設定されています。
非表示に設定したい場合は、MENU画面の下記の設定を「OFF」に設定してください。
(MENU > SET > ディスプレイ設定 > 受信コールサイン表示)

◇送信メッセージを選択する

登録したメッセージを選択して送信します。

1. 送信メッセージ画面を表示させる

MENU > SET > 自局設定 > 送信メッセージ

2. 送信するメッセージをタッチする(例：1:OSAKA ｽﾀｰｷ)



※メッセージを送信しないときは、「OFF」を選択します。

3. [EXIT]を数回押す
 - 送信メッセージ画面が解除されます。
 - 会話しながらメッセージを送信できます。
 - 連続送信中は30秒に1回、自動的にメッセージを送信します。

◇登録したメッセージを削除する

登録したメッセージを削除します。

例：登録番号1の「OSAKA ｽﾀｰｷ」を削除する

1. 送信メッセージ画面を表示させる

MENU > SET > 自局設定 > 送信メッセージ

2. 削除したい登録番号を長く(約1秒)タッチする(例：1:)



3. 「クリア」をタッチする



4. [はい]をタッチする
5. [EXIT]を数回押す
 - 送信メッセージ画面が解除されます。

3 D-STARの運用<応用編>

■受信したコールサインを確認する

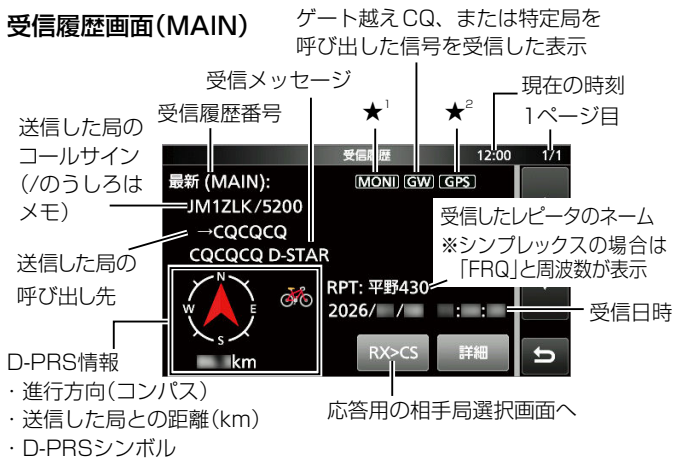
DVモードの信号を受信した場合、その信号を送信した局や使用されたレピータのコールサインを、下記の手順で確認できます。最大50件の受信履歴を記憶でき、50件を超えると古い履歴から削除されます。

※電源を切っても履歴は消去されません。

◇受信履歴を呼び出して確認する

1. [CD]を短く押す
 - 受信履歴画面が表示されます。
 2. [DIAL]を回して、確認したい受信履歴を表示させる
 - 「受信履歴」画面は、1ページ目にMAINバンドの最新の履歴が表示されます。2ページ目以降は、MAINバンド/SUBバンドに関係なく、受信した順に履歴が並びます。
 - 受信履歴番号のほかに、送信者のコールサイン/呼び出し先/メッセージ/受信日時/GW/GPS/UP情報が表示されます。
 - [GW]表示 : インターネットに接続されたレピータを経由して受信した場合に表示されます。
 - [GPS]表示 : 受信情報に位置情報が含まれる場合に表示されます。
 - (UP)表示 : レピータのアップリンク信号を受信した場合に表示されます。
 - [RX>CS] : 応答相手として一時的にあて先へ設定
 - [QUICK]で、表示される項目から下記のことができます。
 - コールサイン表示
 - : ネーム表示→コールサイン表示切替
 - ネーム表示 : コールサイン表示→ネーム表示切替
 - レピータリストに登録★
 - : レピータリストにレピータコールサインを登録
 - 相手局メモリーに登録★
 - : 相手局メモリーにコールサインを登録
 - 削除 : 選択中の受信履歴を削除
 - 全削除 : すべての受信履歴を削除
- ★手順3の操作時だけ表示される項目です。

受信履歴画面(MAIN)



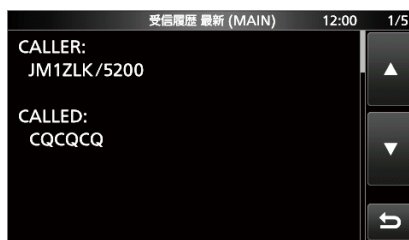
- ★1 経路表示
(無し): RFで受信
MONI: DVレピータモニター機能で受信
TM: ターミナルモードで受信

- ★2 D-PRS/NMEAの送信フォーマット種別表示
GPS: 位置情報あり
OBJ: オブジェクト局
ITEM: アイテム局
WX: 気象局

3. [詳細]をタッチする
 - 受信履歴の詳細情報が表示されます。
 - [DIAL]を回すと、受信履歴ページが切り替わります。

[1ページ目]

- **CALLER:**
送信局のコールサインとメモが表示されます。
※相手局メモリーに登録している場合は、送信局のネームが表示されます。
- **CALLED:**
送信局に呼び出された局のコールサインが表示されます。
※山かけCQやゲート越えCQの場合は「CQCQCQ」が表示されます。
※相手局メモリーに登録している場合は、呼び出された局のネームが表示されます。



[2ページ目]

- **RXRPT1:**
送信局からみたアクセスレピータのコールサインが表示されます。
ゲートウェイ通信で呼び出された場合は、自局が直接受信したレピータのゲートウェイ局を表示します。
※レピータリストに登録している場合は、レピータネームが表示されます。
- **RXRPT2:**
自局が直接受信したレピータのコールサインが表示されます。
※レピータリストに登録している場合は、レピータネームが表示されます。
※シンプレックス通信の履歴は、RXRPT1/RXRPT2の代わりに「周波数」項目が表示されます。



3 D-STARの運用<応用編>

■ 受信したコールサインを確認する

[3ページ目]

• 受信メッセージ：

受信したメッセージを表示します。

• 受信日時：

受信した日付/曜日/時刻を表示します。



[4ページ目]、[5ページ目]

相手局のGPS情報を表示します。

GPS情報を受信していないときは表示されません。

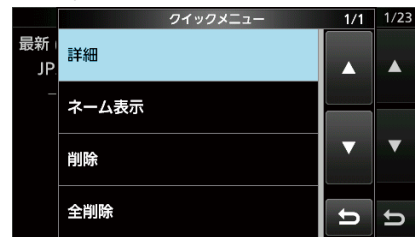


4. [EXIT]を数回押す

- 受信履歴画面が解除されます。

受信履歴を削除するには

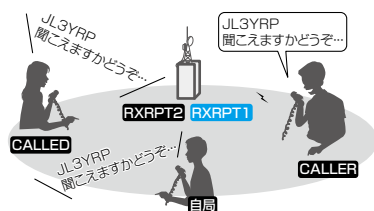
受信履歴を削除したい場合は、受信履歴画面、または受信履歴内容画面で[QUICK]を短く押して、「削除」を選択してください。



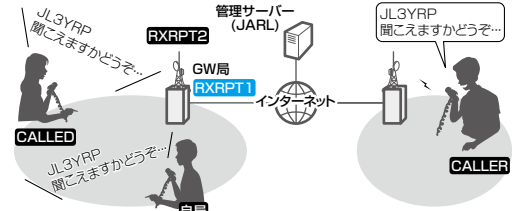
ご参考

通信形態によってRXRPT1が変わります。

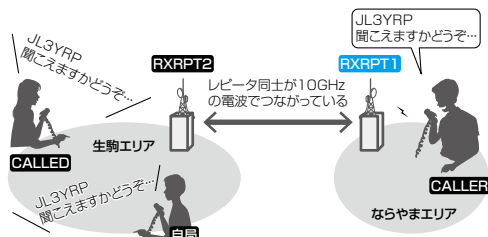
例：山かけ通信で受信した場合



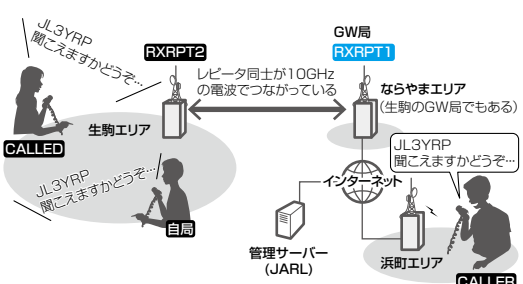
例：ゲートウェイ通信で受信した場合



例：アシスト局経由で受信した場合※生駒ーならやま間など



例：ゲートウェイ通信+アシスト局経由で受信した場合



3 D-STARの運用<応用編>

■DVレピータモニター機能

DVレピータモニター機能とは、インターネットを経由して「TO」に設定されているエリアCQ先のレピータをモニターできる機能です。

エリアCQ先レピータのモニター中も、最寄りレピータ（FROM側のレピータ）のダウンリンクを優先するため、自局宛の呼び出しも受信できます。

※この機能をご利用になる場合、ご使用になる無線機がインターネットに接続できる環境が必要です。

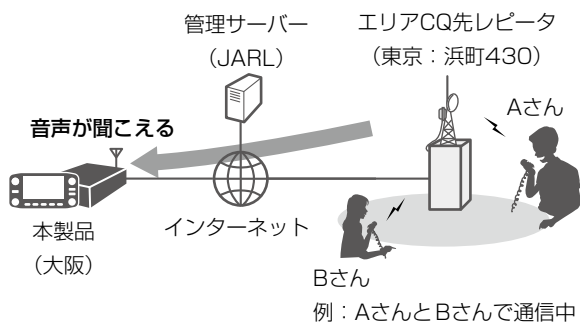
※DVレピータモニター機能は、DR機能またはターミナルモード時に利用できます。

※一部モニターできないDVレピータもあります。

ご参考

2026年6月現在、下記URLから、国内でモニターできるDVレピータや接続中の局を確認できます。
https://log.d-star.info/usr/usr_menu.php

DVレピータモニターのイメージ図(国内の場合)



◇DVレピータモニター機能の操作

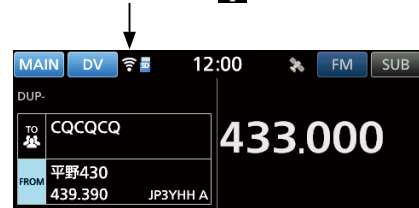
1. インターネットの接続設定

無線LANからネットワークに接続します。

※接続のしかたについては、12-9ページをご確認ください。

※接続には時間がかかる場合があります。

無線LANで接続中は、が表示されます。



2. DR機能(またはターミナルモード)の設定

1. [DR]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押す
2. 「FROM」をタッチして最寄りレピータを選択する
3. 「TO」をタッチしてモニターしたいエリアCQ先のレピータを選択する
4. 下図のように「MONI」が表示されているかを確認する



※インターネットに接続すると、管理サーバーからレピータ情報を取得し、DVレピータに接続できる状態になります。

そのため、先にDR画面を表示させておくと、インターネットの接続が完了した時点で「MONI」が表示されます。

※接続できないDVレピータを選択すると、「MONI」が表示されません。

ターミナルモードでモニターする場合

DVゲートウェイ画面からターミナルモードに設定します。

(MENU > DV GW)

※外部ゲートウェイの場合は使用できません。

※詳細は、弊社ホームページに掲載の「DVゲートウェイ機能について(モバイル用)」でご確認ください。

3 D-STARの運用<応用編>

■DVレピータモニター機能

3. DVレピータモニター機能の設定

1. [FUNC]を押す
・「FUNCTION」画面が表示されます。
2. 「RPT MONI」をタッチする



- ・タッチすることにより、DVレピータモニター機能をON/OFFします。

※A/Bバンドの片側しか有効にならないため、ON設定後は、SUBバンドの設定がOFFになります。

※ONに切り替わると、エリアCQ先のレピータへ接続を開始します。

※アイコン表示

表示	状態
	接続可能(未接続)
	接続中
	モニター音受信中
	モニター音ミュート中 (最寄りレピータ受信時など)

※エリアCQ先を変更してもモニター機能が保持されます。

※「ON」に設定しても、レピータ側の設定などで、接続中の表示に切り替わらないことがあります。

※国内のレピータの場合、「ON」に設定しても、ネットワークの負荷を考慮して、10分後(初期設定)に自動で切断します。
(MENU > SET > DVレピータモニター設定 > レピータモニタータイマー(国内))

◇DVレピータモニター機能(海外版)

海外レピータについても、DVレピータモニター機能が使用できます。

※microSDカードのID-5200フォルダーにあるRptMoniフォルダーに海外レピータのIPアドレスリスト(CSVファイル)が保存されている必要があります。

※保存したmicroSDカードを本製品に取り付け、「接続先IPアドレスリスト(海外)」で使用したいファイル名を選択し、インターネットに接続すると、ファイルからレピータ情報を取得し、DVレピータに接続できる状態になります。

(MENU > SET > DVレピータモニター設定 > 接続先IPアドレスリスト(海外))

※この機能をご利用になる場合、ご使用になる無線機がインターネットに接続できる環境が必要です。

※操作方法は、前のページをご覧ください。

※一部モニターできないDVレピータもあります。

ご参考

最新の海外レピータ接続先リスト(CSVファイル)は、弊社ホームページに公開されています。

海外のレピータを経由して交信するときのご注意

(2026年6月現在)

海外レピータ経由で交信しようとして相手局から応答がないときは、日本国内のD-STAR管理サーバーと海外のサーバーとのあいだで、ゲートウェイコールサインとグローバルIPアドレスの情報同期に時間がかかっている場合があります。

日本国内のD-STAR管理サーバーに関するご質問は、管理運営しているJARLにお問い合わせください。

(TEL：03-3988-8749)

3 D-STARの運用<応用編>

■BK(割り込み)機能の運用

BK(割り込み)機能は、DVモードのデジタルコールサインスケルチ(DSQL)で通信している2局に対して、同時に呼びかける場合に使用します。

※一度電源を切ると、設定は解除されます。

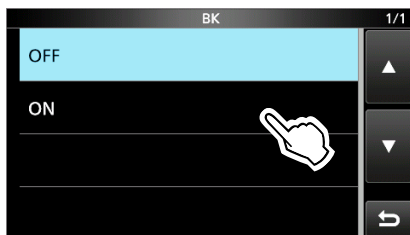
1. 信号を受信したあと、[RX→CS]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押す
 - RX>CS画面が表示されます。
2. 応答したいコールサインをタッチする
 - あて先(TO)に設定されます。
 - 相手局のコールサインが読み上げられます。

※コールサインが正しく受信されなかったときは、エラービープ音が鳴り、コールサインは設定されません。

3. BK画面を表示させる

MENU > SET > DV設定 > BK

4. 「ON」をタッチする



5. [EXIT]を押す
 - BK画面が解除されます。
 - 設定すると、画面の上側に「BK」が表示されます。



6. 両局が受信状態のときに、マイクロホンの[PTT]を押して、送信状態にする
 - ※割り込み通信を受信した局は、「BK」表示が点滅します。
 - ※BK(割り込み)機能を解除するときは、手順4で「OFF」を選択するか、本製品の電源を切ります。

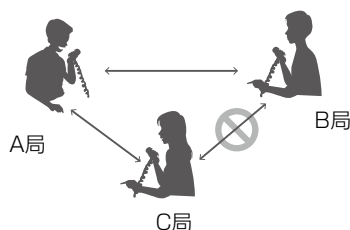
BK機能の使いかた

デジタルコールサインスケルチを使用しているときは、自局宛でない信号を受信してもスケルチは開きません。

※BK機能を「ON」に設定した信号を受信した場合は、自分が通信している相手局宛の信号であってもスケルチは開きます。

C局が「BK OFF」でA局を呼び出す場合

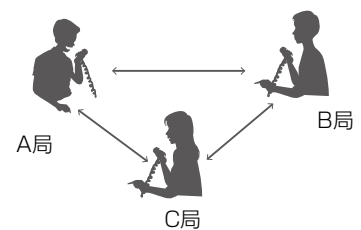
A-B局がデジタルコールサインスケルチを使って通信



C局がA局を呼び出しても、B局にはその呼び出しは聞こえない

C局が「BK ON」でA局を呼び出す場合

A-B局がデジタルコールサインスケルチを使って通信



C局がA局を呼び出すと、B局にもその呼び出しが聞こえる

3 D-STARの運用<応用編>

■EMR機能の運用

EMR(Enhanced Monitor Request)機能は、DVモードで至急に連絡を取るときなどに使用します。

※EMR信号を受信したすべての無線機のスケルチを強制的に開き、信号を受信する状態にします。

安易にEMR信号を送信すると、他局に迷惑を与える原因になりますのでご注意ください。

※EMR AFレベル機能が搭載されていない機種では、音量が最小レベルになっていても、一定の音量で通話が聞こえます。

※相手局のコールサインやCQの設定は不要です。

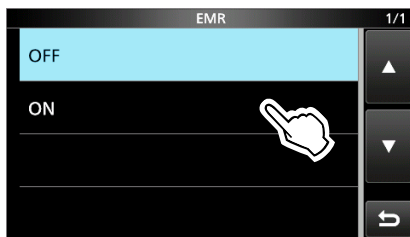
※一度電源を切ると、設定は解除されます。

例：EMR機能で平野430から送信する

1. EMR画面を表示させる

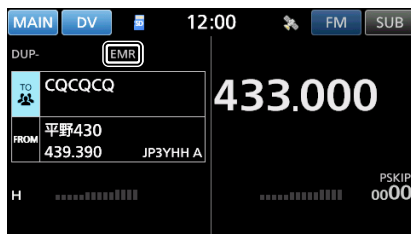
MENU > SET > DV設定 > EMR

2. 「ON」をタッチする



3. 「EXIT」を押す

- EMR画面が解除されます。
- 設定すると、画面の上側に「EMR」が表示されます。



4. マイクロホンの「PTT」を押して、送信状態にする

※EMR信号を受信した局は、「EMR」表示が点滅し、EMR AFレベルで設定された音量に切り替わります。

ただし、[VOL]で設定している音量のほうが大きい場合は、その音量で受信します。

※EMR機能を解除するときは、手順2で「OFF」を選択するか、本製品の電源を切ります。

◇EMR信号受信時の音量を調整する

EMR信号を受信したときの音量レベルを「0～32」の範囲で設定します。

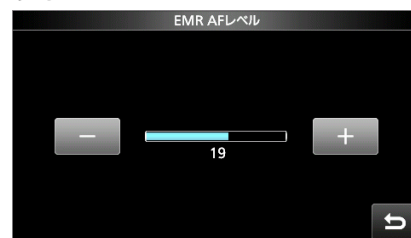
ただし、[VOL]で設定している音量のほうが大きい場合は、その音量で受信します。

「0」を設定すると、この機能は動作しません。

1. EMR AFレベル画面を表示させる

MENU > SET > DV設定 > EMR AFレベル

2. 「-」/「+」をタッチして、EMR信号受信時の音量を調整する



- 0(最小音量)～32(最大音量)の範囲で設定します。
(初期設定：19)

3. 「EXIT」を押す

- EMR AFレベル画面が解除されます。

3 D-STARの運用<応用編>

■DV自動検出機能

本製品は、DVモードで運用中、FMモードの信号を受信すると、DV表示とFM表示が交互に点滅して、DVモードの信号でないことを示します。

DV自動検出機能を設定すると、FMモードの信号を受信したときに、自動的にFMモードに切り替えて受信します。

※DV自動検出機能の設定に関わらず、FMモードの信号を受信すると、DV表示とFM表示は交互に点滅します。

1. DV自動検出画面を表示させる

MENU > SET > DV設定 > **DV自動検出**

2. 「ON」をタッチする



3. [EXIT]を押す

- DV自動検出画面が解除されます。
- FMモードの信号を受信すると、「DV」表示と「FM」表示が交互に点滅して、FMモードで受信します。

FM信号受信時、DV自動検出機能OFFとONの違い

DV自動検出機能 OFF

点滅するが、FMモードの音声は受信しない



FMモードの受信音声は聞こえない

DV自動検出機能 ON

点滅し、FMモードの音声を受信する



JM1ZLK
ありがとうございましたー!

FMモードの受信音声
が聞こえる

ご参考

デジタルコールサインスケルチ(DSQL)、デジタルコードスケルチ(CSQL)が設定されている場合は、DV自動検出機能が「ON」であっても、静かな待ち受けを優先するため、FMモードの受信音声は聞こえません。

3 D-STARの運用<応用編>

■自動応答機能の使いかた

本製品では、自局宛の信号を受信すると、呼び出してきた相手局のコールサインを自動的に設定して、応答する自動応答機能を装備しています。

1. DV自動検出画面を表示させる

MENU > SET > DV設定 > **自動応答**

2. 下記から応答したい内容をタッチする



◎ON^{*1}：

自局宛ての信号を受信すると、自局のコールサインを送信して、自動で応答します。

◎音声^{*1}：

自局宛ての信号を受信すると、自局のコールサインとmicroSDカードに録音された自動応答用の音声(最大10秒)を自動で送信します。

※送信される内容は、モニターできます。

※microSDカードを本製品に挿入していないときや自動応答用のファイルがないときは、自局のコールサインを送信して、自動で応答します。

◎位置(メインのみ)^{*1*2}：

自局宛ての信号を受信すると、内蔵GPSを使って、自局のコールサインと自局の位置情報を送信します。

◎位置(メイン/サブ)^{*2}：

自局宛ての信号を受信すると、内蔵GPSを使って、自局のコールサインと自局の位置情報を送信します。

デュアルワッチ中は、MAINバンドとSUBバンドのどちらで信号を受信しても、自動で応答します。

3. [EXIT]を押す

- 自動応答画面が解除されます。
- 設定すると、画面の上側に「」が表示されます。(「ON」、「音声」、「位置」どれを設定しても同じ表示です。)

※「ON」、または「音声」を設定しているときは、マイクロホンの[PTT]を押すと本製品の設定が自動で「OFF」に変更されます。

また、「位置(メインのみ)」または「位置(メイン/サブ)」を設定しているときは、マイクロホンの[PTT]を押しても「OFF」に変更されません。

※「ON」、または「音声」を設定しているときに、「GPS送信モード」が「D-PRS」、または「NMEA」に設定されているとその設定に従ったデータを送信します。

自動応答設定時の送信画面

例：JM1ZLKから呼び出しを受けたので、自動でJM1ZLKに送信している状態



「TO」のあとで先表示は変わりませんが、呼び出された相手に送信します。

送信したときに表示されるインジケータに、「UR：相手局のコールサイン」が表示されます。

ご注意

自動応答機能は、一時的にコールサインを書き換えて応答します。

音声を録音したいときは

MENU画面の「DV自動応答」で自動応答用の音声を録音できます。(P.3-22)
(MENU > DV A-RPLY)

★1 デュアルワッチ中は、MAINバンドで信号を受信したときだけ、自動で応答します。

★2 「GPS選択」の設定が「OFF」、または「マニュアル」に設定されている場合は一時的に内蔵GPSをONにします。

また、「外部GPS」でも送信しますが、設定時でも、外部GPSが接続されていない場合は一時的に内蔵GPSをONにします。

「GPS送信モード」が「D-PRS」に設定されていると、送信フォーマットの設定に関わらずポジション局になります。

3 D-STARの運用<応用編>

■自動応答機能の使いかた

◇自動応答用の音声を録音する

自局宛の信号を受信したときに、自動で応答するときの応答音声を録音できます。

ご注意

自動応答用の音声を録音する場合は、市販のmicroSDカードを取り付けている必要があります。

1. DV自動応答画面を表示させる

MENU > DV A-RPLY

2.  をタッチする



- 録音を開始します。
- ※ 録音時間は最大10秒間です。
- ※ マイクロホンと口元を約5cmはなし、普通の大きさの声で録音してください。
- ※ 録音できるのは1件だけです。
- 再度録音すると、録音内容が上書きされます。

3.  をタッチする

- 録音を停止します。
- ※ 録音後、 をタッチすると、録音した内容を再生します。

4. [EXIT]を押す

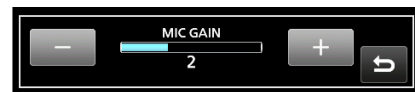
- DV自動応答画面が解除されます。

録音中の画面

録音中の表示



音声レベルが、矢印の位置を超えないように、マイクゲインを調整します。



録音に使用するマイクロホンを選択します。



- ※ 録音していない状態でも、「REC Level」でマイクロホンからの音声レベルを確認できます。
- ※ Bluetoothヘッドセットが本製品に接続されていない状態で、[MIC SEL]をタッチしてBluetoothマイクを選択したときは、が表示されます。

録音内容を削除したい場合は

DV自動応答画面で[QUICK]を短く押すと選択できます。



3 D-STARの運用<応用編>

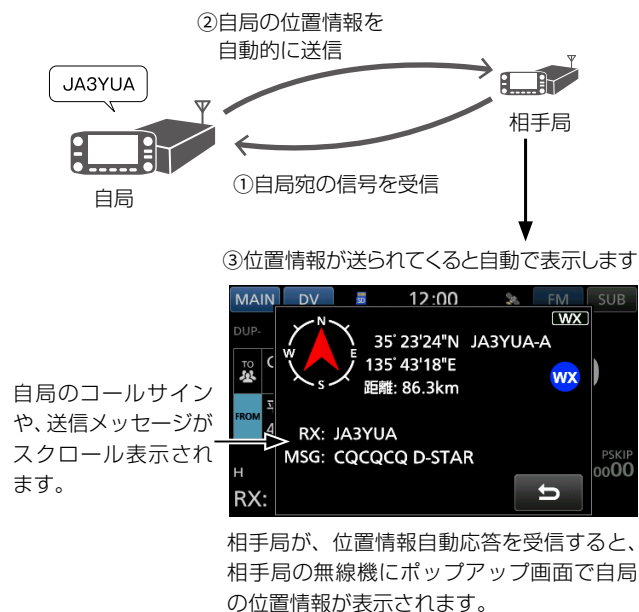
■自動応答機能の使いかた

◇位置情報の自動応答

この機能は、自局宛の信号を受信したときに、自局の位置情報を送信する機能です。

両手が自由に使えないときなど、無線機を操作できない状況でも、自動で位置情報を送信します。

位置情報自動応答機能を受信した相手側では、下図のようにポップアップ画面が表示されます。



※従来機(ID-31、IC-9100、ID-880、ID-80、ID-92、IC-2820G/DG、ID-800/D、ID-91、IC-U1、IC-V1)の場合、位置情報は受信しますが、ポップアップ画面は表示されません。

※MENU画面の「自動応答位置表示」でポップアップ画面を非表示にできます。(P.10-25)
(MENU > SET > ディスプレイ設定 > 自動応答位置表示)

自局の位置情報が測位できていないときに受信した場合

「GPS選択」が「OFF」、 「外部GPS」、または「マニュアル」の場合でも、自局宛の信号を受信したときは、5分間、内蔵GPSを一時的にONにし、位置情報を測位しはじめたことをメッセージで自動応答します。(No Posi & GPS Start)

※一時的に内蔵GPSがONで、位置情報が測位できているあいだにふたたび自局宛の信号を受信すると、位置情報を自動で送信します。

位置情報が測位できていないときの応答メッセージ一覧

メッセージ	状況
No Position	位置情報が測位できていないとき
Old Position	応答した位置情報が測位から2分以上経過した位置情報のとき
No Posi & GPS Start	一時的に内蔵GPSをONにした直後で、位置情報がまだ測位できていないとき
Old Posi & GPS Start	一時的に内蔵GPSをONにした直後で、応答した位置情報が測位から2分以上経過した位置情報のとき

ご参考

- 位置情報の送信は、GPS送信モードの設定にしています。
- GPS送信モードの設定で位置自動応答に必要な情報が送信されない設定になっている場合、自動的に必要な情報を補正して送信します。
- GPS送信モードの設定が「OFF」に設定されている場合は自動的にD-PRSで送信します。

3 D-STARの運用<応用編>

■データ通信

DVモード運用時、音声とデータを同時に送信する簡易データ通信ができます。

設定を変更することで、音声帯域もデータ通信に使用できます。(P.3-25)

データ通信をするには、データ転送対応のUSBケーブル(別売品 OPC-2480、または市販品)、またはデータ通信ケーブル(別売品 OPC-2350LU)と通信ソフトウェア(市販品など)が必要です。

※USBケーブルは、事前にUSBドライバーをパソコンにインストールしてください。

データ通信をする前に必ずお読みください

本製品では、「DVデータ送信」の初期値が「オート」に設定されています。

そのため、お使いの通信ソフトウェアによっては、接続して通信ソフトウェア画面に文字を入力するだけで、意図せずに電波を送出することがありますのでご注意ください。

(MENU > SET > DV設定 > **DVデータ送信**)

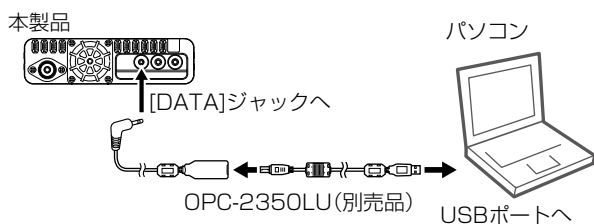
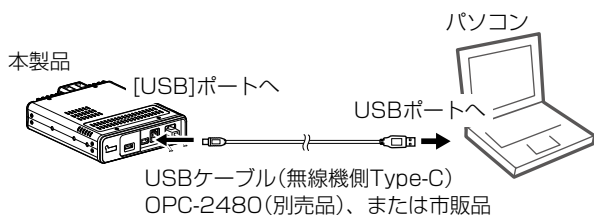
USBドライバーについて

ご使用いただくために必要なUSBドライバー、およびインストールガイドについては、弊社ホームページにアクセスしていただき、サポート情報よりダウンロードしてください。

※アクセス方法は、13-3ページをご覧ください。

◇パソコンの接続

パソコンと本製品の[USB]ポート、または[DATA]ジャックのどちらかを下記のように接続します。



ご注意

データ通信をするときは、MENU画面で下記の項目が設定されているかご確認ください。

- GPS選択画面で、「外部GPS(DATA)」以外に設定 (MENU > GPS > GPS設定 > **GPS選択**)

<[USB]ポート使用時>

- USB(B)端子機能画面で、「DVデータ」に設定 (MENU > SET > 外部端子 > シリアルポート機能 > **USB(B)端子機能**)
- USB接続画面で、「シリアルポート」に設定 (MENU > SET > 外部端子 > **USB接続**)

<[DATA]ジャック使用時>

- DATA端子機能画面で、「DVデータ」に設定 (MENU > SET > 外部端子 > シリアルポート機能 > **DATA端子機能**)

◇通信ソフトウェアの設定

下記を参照して、通信速度などを設定してください。

- Port : 本製品が使用しているCOMポート番号を選択^{★1}
- Baud rate : いずれかの値を選択^{★2}
※ [USB]ポートの場合は、選択した値に関わらず、通信できます。
- Data : 8bit
- Parity : none
- Stop : 1bit
- Flow control : Xon/Xoff

★1 パソコンの環境によっては、本製品が使用するCOMポート番号が5以上になる場合があります。

このときは、COMポート番号を5以上に設定できる通信ソフトウェアをご使用ください。

★2 [DATA]ジャックを使用する場合は、MENU画面の「DVデータボーレート(DATA)」で設定できます。
(MENU > SET > 外部端子 > シリアルポート機能 > **DVデータボーレート(DATA)**)

3 D-STARの運用<応用編>

■データ通信

◇データ通信の操作

データ通信を操作するときは、使用する通信ソフトウェアの取扱説明書をよくお読みください。

1. 自局、相手局、レピータのコールサインを設定します。
2. 使用する通信ソフトウェアの取扱説明書などにしたがって操作します。
3. 通信ソフトウェア画面に文字を入力すると、その内容を自動送信します。

※MENU画面の「DVデータ送信」が「PTT」に設定されているときは、通信ソフトウェア画面に文字を入力してマイクホンの[PTT]を押すと、送信状態になり、音声と同時にその内容を送信します。

(MENU > SET > DV設定 > **DVデータ送信**)

※自動送信時は、送信開始前に約500ミリ秒のキャリアセンスが動作します。

ご注意

- データ通信で利用できる文字は、ASCIIコードだけです。
 - 本製品の標準機能として、20文字(半角英数字、記号)までのメッセージが送れるメッセージ機能も装備しています。(P.3-13)
 - 本製品で使用する通信ソフトウェアとパソコンの組み合わせによっては、一部のデータが正しく送受信できない場合があります。
 - インターネット回線網を経由したゲートウェイ通信では、パケットロスによって、データの一部を失うことがあります。
- また、パケットロス発生時は、「L」表示が点灯します。

◇DVファーストデータの設定

DVファーストデータ通信をするときは、下記の手順にしたがって設定してください。

※DVファーストデータ通信ができるのは、以下の製品だけです。(2026年6月現在)

- IC-705
- IC-905
- IC-9700/IC-9700S
- ID-31PLUS
- ID-4100/ID-4100D
- ID-50
- ID-51 (PLUS2、PLUS、50周年記念モデル)
- ID-52/ID-52PLUS
- ID-5100/ID-5100D★
- ID-5200/ID-5200D

★下記のバージョン以降に限ります。

CPU M 1.10/S 1.00/C 1.10/DSP 1.10

1. DVファーストデータ画面を表示させる

MENU > SET > DV設定 > **DVファーストデータ**

2. 「ファーストデータ」をタッチする
3. 「ON」をタッチする



4. [EXIT] を数回押す
 - DVファーストデータ画面が解除されます。

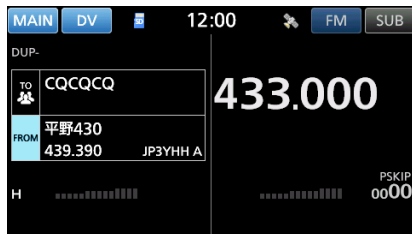
3 D-STARの運用<応用編>

■表示タイプについて

DR機能で表示するレピータネームなどの文字を大きくできます。

※デュアル表示だけの設定です。

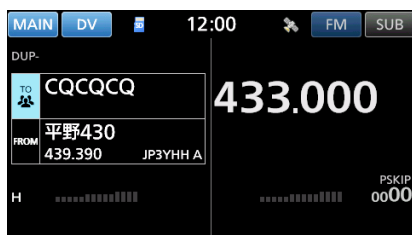
1. 変更したい画面を表示させる(デュアル表示)



2. [QUICK]を短く押す
3. 「表示タイプ」をタッチする



4. 「大きい」をタッチする



- 「FROM」と「TO」に設定したレピータネームなどの文字を大きく表示します。

3 D-STARの運用<応用編>

■デジタルコールサインスケルチ/デジタルコードスケルチ機能

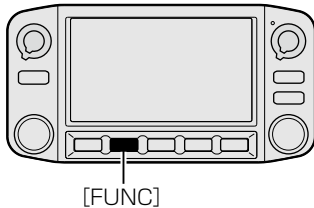
特定の相手局と交信するときに便利な機能です。

自局のコールサイン、または自局が設定したデジタルコードを受信したときだけ、スケルチが開くので、快適な待ち受け受信ができます。

※VFO/メモリーチャンネル/コールチャンネルモード/DR機能ごとに設定できます。

◇ デジタルコールサインスケルチを設定する

1. [FUNC]を押す

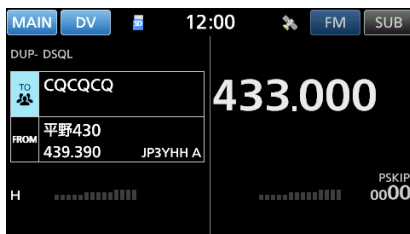


2. [D.SQL]を数回タッチして「DSQL」を表示させる



※タッチすることにより、「DSQL」→「CSQL」→「OFF」の順で切り替わります。

3. [EXIT]を押す



- FUNCTION画面が解除されます。
- 設定すると、「DSQL」表示が点灯します。

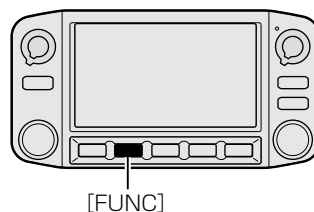
※CQ呼び出しや他局宛の信号を受信した場合、Sメーターが表示されますが、音声は聞こえません。

ご注意

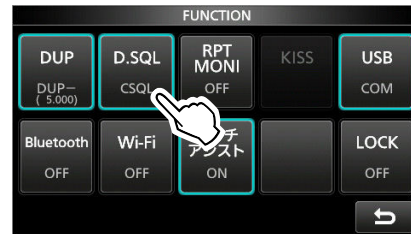
- DSQL(デジタルコールサインスケルチ)は、自局のコールサインを判断して動作しているため、3局以上の複数局で運用するときは、CSQL(デジタルコードスケルチ)で運用してください。
- データ通信時は、他局宛の信号(異なるコールサイン)であっても、データ信号を受信します。

◇ デジタルコードスケルチを設定する

1. [FUNC]を押す



2. [D.SQL]を数回タッチして「CSQL」を表示させる



※タッチすることにより、「DSQL」→「CSQL」→「OFF」の順で切り替わります。

3. [D.SQL]を長く(約1秒)タッチする

4. [+] / [-] をタッチして、デジタルコードを設定する



- 設定範囲：00～99

※[QUICK]を短く押して、「初期値に戻す」をタッチすると、初期値に戻せます。

5. [EXIT]を押す

- FUNCTION画面が解除されます。
- 設定すると、「CSQL」表示が点灯します。

ご注意

データ通信時は、他局宛の信号(異なるデジタルコード)であっても、データ信号を受信します。

■レピータリスト

レピータの情報をレピータリストに登録しておくことで、
交信するときの設定が簡単になります。

最大2500件のレピータ情報を50グループに分けて登録
できます。

レピータリストでは、4タイプのレピータ情報が登録でき
ます。

- DVレピータ
- DVシンプレックス
- FMレピータ
- FMシンプレックス

◇レピータリストに登録できる設定項目一覧

- タイプ : レピータの種類(P.3-30)
- ネーム : レピータネームの入力(P.3-30)
- サブネーム : レピータのサブネームの入力
(P.3-30)
※プリセット時は、都道府県名が入力
されています。
- コールサイン : レピータコールサインの入力
(P.3-30)
- GWコールサイン : ゲートウェイコールサインの編集
(P.3-30)
- グループ : レピータグループの設定(P.3-31)
- USE (FROM) : アクセスレピータの使用を設定
(P.3-31)
- 周波数 : 周波数の入力(P.3-31)
- DUP : デュプレックスの設定(P.3-31)
- オフセット周波数 : オフセット周波数の設定(P.3-31)
- モード : 電波型式の設定(P.3-31)
- Tone選択 : Toneの設定(P.3-31)
- レピータトーン : レピータトーン周波数の設定
(P.3-31)
- 位置情報 : 位置情報の精度の設定(P.3-31)
- 緯度 : レピータの緯度の入力(P.3-31)
- 経度 : レピータの経度の入力(P.3-32)
- UTCオフセット : 協定世界時との時差の入力
(P.3-32)

ご参考

- レピータのコールサインや周波数などの情報につい
ては、一般社団法人 日本アマチュア無線連盟(JARL)
のホームページで閲覧できます。
JARLホームページ <https://www.jarl.org/>
- レピータリストや各種コールサイン、メモリーなどが
簡単に入力できるCS-5200(弊社ホームページから
ダウンロードできるプログラミングソフトウェア)も
ご利用ください。
- 最新のレピータリストについては弊社ホームページ
(個人のお客様→はじめよう、楽しもう、D-STAR®→
ダウンロード)からダウンロードできます。
アイコムホームページ
<https://www.icom.co.jp/personal/d-star/>

例：浜町430のレピータに登録されている情報

レピータリスト (DVレピータ) 1/4

タイプ:	DVレピータ	▲
ネーム:	浜町430	▼
サブネーム:	東京都	
コールサイン:	JP1YIU A	↺

レピータリスト (DVレピータ) 2/4

GWコールサイン:	JP1YIU G	▲
グループ:	01: 関東	▼
USE (FROM):	YES	
周波数:	434.400.00	↺

レピータリスト (DVレピータ) 3/4

DUP:	DUP+	▲
オフセット周波数:	5.000.00	▼
位置情報:	正確	
緯度:	35° 41' 12" N	↺

レピータリスト (DVレピータ) 4/4

経度:	139° 47' 28" E	▲
UTCオフセット:	+ 9:00	▼
		↺

3 D-STARの運用<応用編>

■レピータリスト

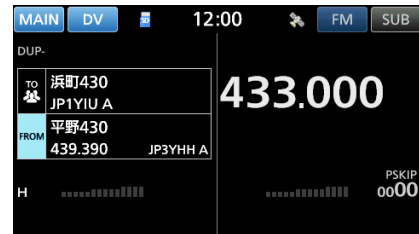
◇レピータリストにレピータ情報を登録する

新たに設置されたD-STARレピータを登録したいときなど、レピータリストに新規登録する方法を説明します。

下記目的によって最低限必要な設定項目が変わりますので、一覧でご確認ください。

- アクセスレピータとして登録する場合
- エリアCQをするために呼び出し先レピータとして登録する場合
- FMレピータとして登録する場合
- DVシンプレックス通信用として登録する場合
- FMシンプレックス通信用として登録する場合

DR機能の「FROM」と「TO」



ご注意

レピータリストにレピータ情報を登録するには、レピータコールサインの入力が必要です。

◇目的別 新規登録に最低限必要な項目

●：新規登録に最低限必要 ○：登録可能 ー：非表示

レピータリスト の設定項目	アクセスレピータ (FROM/TO)	呼び出し先レピータ (TO)	FMレピータ (FROM)	シンプレックス(FROM)	
タイプ	DVレピータ	DVレピータ	FMレピータ	DVシンプレックス	FMシンプレックス
ネーム	○	○	○	○	○
サブネーム	○	○	○	○	○
コールサイン	●	●	○	ー	ー
GWコールサイン	● (GW通信)	●	ー	ー	ー
グループ	○	○	○	○	○
USE(FROM)	●	○	●	●	●
周波数	●	○	●	●	●
DUP	●	○	●	ー	ー
オフセット周波数	●	○	●	ー	ー
モード	ー	ー	○	ー	○
Tone選択	ー	ー	○	ー	○
レピータトーン	ー	ー	○	ー	○
位置情報	○	○	○	○	○
緯度	○	○	○	○	○
経度	○	○	○	○	○
UTCオフセット	○	○	○	○	○

3 D-STARの運用<応用編>

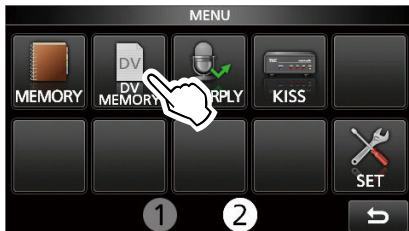
■レピータリスト

◇レピータリストに新規情報を登録する

1. 登録したいレピータグループを選択する

1. DVメモリ画面を表示させる

MENU > DV MEMORY



2. 「レピータリスト」をタッチする



3. 登録したいレピータの地域グループを選択する



- 選択したグループのレピータリストが表示されます。

4. [QUICK]を短く押す
5. 「追加」をタッチする



- レピータリスト編集(DVレピータ)画面が表示されます。

2. レピータのタイプを選択する

1. 「タイプ」をタッチする
2. 登録するレピータのタイプを選択する
 - DVレピータ：
DVモードのレピータ
 - DVシンプレックス：
DVモードのシンプレックス用周波数
 - FMレピータ：
FMモードのレピータ
 - FMシンプレックス：
FMモードのシンプレックス用周波数

3. レピータネームを入力する

1. 「ネーム」をタッチする
2. 登録するレピータの名前を入力する
 - ※入力方法や文字の種類、最大文字数などは、iiiページをご覧ください。
3. [ENT]をタッチする

4. サブネームを入力する

1. 「サブネーム」をタッチする
2. 登録するサブネームを入力する
 - ※入力方法や文字の種類、最大文字数などは、iiiページをご覧ください。
3. [ENT]をタッチする

5. コールサインを入力する

※DVシンプレックス、FMシンプレックスを追加する場合は、「7. グループを設定する」に進んでください。

1. 「コールサイン」をタッチする
2. レピータのコールサインを入力する
 - ※8文字以内(スペースを含む)で入力します。
3. [ENT]をタッチする

6. ゲートウェイコールサインを入力する

※DVレピータを追加する場合だけ設定できます。

※「5. コールサインを編集する」で入力したコールサインの8桁目に「G」を入力したコールサインが自動的に設定されます。

1. 「GWコールサイン」をタッチする
2. ゲートウェイコールサインを入力する
 - ※8文字以内(スペースを含む)で入力します。
 - ※8桁目は G、または(スペース)だけ入力できます。
3. [ENT]をタッチする

3 D-STARの運用<応用編>

■レピータリスト

◇レピータリストに新規情報を登録する

7. グループを設定する

1. 「グループ」をタッチする
2. 変更したいレピータのグループ番号(「01」～「50」)を選択する

8. DR機能で使用するアクセスレピータを設定する

※DR機能でアクセスレピータ、またはシンプレックスとして使用しない場合は、「NO」を選択して、「15. 位置情報の精度を設定する」へ進んでください。

1. 「USE(FROM)」をタッチする
2. DR機能でアクセスレピータに設定する場合は、「YES」をタッチする

9. アクセスレピータの周波数を入力する

1. 「周波数」をタッチする
2. レピータの周波数を入力する
3. [ENT]をタッチする

10. デュプレックスを設定する

※DVレピータ、FMレピータを追加する場合だけ設定できます。

※「9.アクセスレピータの周波数を入力する」で周波数を入力すると、「DUP-」が自動的に設定されます。

1. 「DUP」をタッチする
2. 設定したいデュプレックスのシフト方向をタッチする
 - OFF : デュプレックスを設定しない
 - DUP- : 送信周波数が受信周波数より、オフセット周波数分だけ低くなる
 - DUP+ : 送信周波数が受信周波数より、オフセット周波数分だけ高くなる

11. オフセット周波数を設定する

※DVレピータ、FMレピータを追加する場合だけ設定できます。

※「9.アクセスレピータの周波数を入力する」で周波数を入力すると、「5.000.00」が自動的に設定されます。

1. 「オフセット周波数」をタッチする
2. オフセット周波数を入力する
 - 設定範囲は、0.000.00MHz～59.995.00MHzです。
3. [ENT]をタッチする

12. モードを設定する

※FMレピータ、FMシンプレックスを追加する場合だけ設定できます。

1. 「モード」をタッチする
2. 「FM」、または「FM-N」をタッチする

13. Tone選択を設定する

※FMレピータ、FMシンプレックスを追加する場合だけ設定できます。

1. 「Tone選択」をタッチする
2. 「OFF」、「TONE」、または「TSQL」をタッチする

14. レピータトーンを設定する

※FMレピータ、FMシンプレックスを追加する場合だけ設定できます。

※「13.Tone選択を設定する」で「TONE」、または「TSQL」に設定したとき、そのレピータトーン周波数を設定します。

1. 「レピータトーン」をタッチする
2. レピータトーン周波数を選択する
3. [ENT]をタッチする

15. 位置情報の精度を設定する

※DR機能で、位置情報からアクセスレピータを検索する最寄レピータ機能を使用しない場合や、自局と登録したレピータとの距離を表示させない場合、「なし」を選択し、「18. UTCオフセット(協定世界時差)を設定する」へ進んでください。

1. 「位置情報」をタッチする
2. 精度を選択する
 - なし : 位置情報なし
 - だいたい : 位置情報はあるが、正確でない場合
 - 正確 : 位置情報が正確な場合

16. 緯度を設定する

※「15.位置情報の精度を設定する」で、「だいたい」、または「正確」を選択したときに表示されます。

1. 「緯度」をタッチする
2. レピータの緯度を入力する
 - ※[N/S]をタッチすると、北緯と南緯が切り替わります。
3. [ENT]をタッチする

3 D-STARの運用<応用編>

■レピータリスト

◇レピータリストに新規情報を登録する

17. 経度を設定する

※「15.位置情報の精度を設定する」で、「だいたい」、または「正確」を選択したときに表示されます。

1. 「経度」をタッチする
2. レピータの経度を入力する
※[E/W]をタッチすると、東経と西経が切り替わります。
3. [ENT]をタッチする

18. UTCオフセット(協定世界時差)を設定する

※UTCオフセット(協定世界時差)を設定することで、エリアCQを出すときにそのレピータの時間を確認できます。(P.3-12)

海外のレピータと交信する場合に便利です。

※日本のレピータを登録する場合は、「+9:00」(日本標準時刻)に設定してください。

1. 「UTCオフセット」をタッチする
2. 協定世界時差を入力する
3. [ENT]をタッチする

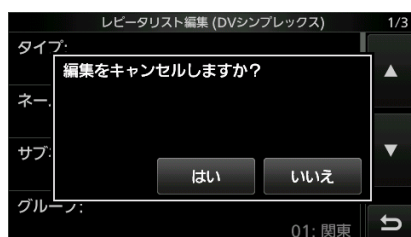
19. レピータ情報を書き込む

1. 「《追加書き込み》」をタッチする
2. [はい]をタッチする
 - レピータリストに追加登録され、レピータリスト画面に戻ります。

編集を取り消したいときは

[EXIT]を押すと確認画面が表示されます。

[はい]を選択すると、入力した内容を削除してレピータリスト画面に戻ります。



3 D-STARの運用<応用編>

■レピータリスト

◇レピータリストのレピータ情報を編集する

すでに登録されているレピータ情報を編集して上書きできます。

1. レピータグループ画面を表示させる

MENU > DV MEMORY > レピータリスト

2. 編集したいレピータが入っているグループをタッチする(例: 03: 近畿)



3. 編集したいレピータを長く(約1秒)タッチする(例: 平野430)



4. 「編集」をタッチする



5. 編集したい項目を選択して編集する
※ 編集方法は、3-30ページをご覧ください。
6. 編集が完了したら、「<<上書き>>」をタッチする



7. [はい]をタッチする
・レピータリストに上書き登録され、レピータリスト画面に戻ります。
8. [EXIT]を数回押す
・レピータリスト画面が解除されます。

◇レピータリストのレピータ情報を削除する

不要になったレピータ情報を削除します。
※ 削除した情報は、復元できませんのでご注意ください。

1. レピータグループ画面を表示させる

MENU > DV MEMORY > レピータリスト

2. 削除したいレピータが入っているグループをタッチする(例: 03: 近畿)



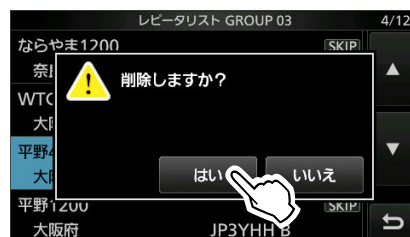
3. 削除したいレピータを長く(約1秒)タッチする(例: 平野430)



4. 「削除」をタッチする



5. [はい]をタッチする



- ・レピータリストから選択したレピータが削除され、レピータリスト画面に戻ります。

6. [EXIT]を数回押す
・レピータリスト画面が解除されます。

◇参考

DR画面で選択されているレピータを編集したり、削除したりできません。
「編集」や「削除」を選択したときに、「DR機能で使用中です。」が表示された場合は、DR画面で別のレピータを選択してください。

3 D-STARの運用<応用編>

■レピータリスト

◇レピータが表示される順番を並べ替える

レピータリストの中でレピータが表示される順番を並べ替えることができます。

※レピータグループを越えてレピータを移動させることはできません。

1. レピータグループ画面を表示させる

MENU > DV MEMORY > **レピータリスト**

2. 移動したいレピータが入っているグループをタッチする(例：03：近畿)



3. 移動したいレピータを長く(約1秒)タッチする(例：平野430)

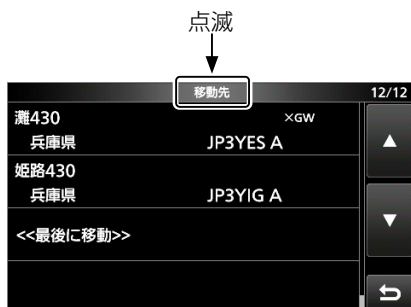


4. 「移動」をタッチする



5. 移動先をタッチする

- ・移動中は、「移動先」が点滅します。
- ・タッチしたレピータネームの1つ上に移動します。
- ・「《最後に移動》」を選択すると、そのグループの中で一番下に移動します。



6. [EXIT] を数回押す

- ・レピータリスト画面が解除されます。

◇受信履歴からレピータ情報を登録する

コピーして新規登録する方法以外に、受信履歴からレピータ情報を新規登録する方法があります。

1. [CD] を短く押す
 - ・受信履歴画面が表示されます。
2. [DIAL] を回して、登録したいレピータの履歴画面を表示させる
3. [詳細] をタッチする
4. [DIAL] を回して、「RXRPT1 :」と「RXRPT2 :」を表示させる



5. [QUICK] を短く押す
6. 「レピータリストに登録」をタッチする



7. 登録したいレピータコールサインをタッチする



- ・受信履歴画面からレピータリスト編集画面に変わり、レピータのコールサインが設定された状態になります。

※編集方法は、3-30ページをご覧ください。

8. 「《追加書き込み》」をタッチする
9. [はい] をタッチする
 - ・レピータリストに新規登録され、受信履歴画面に戻ります。

3 D-STARの運用<応用編>

■DRスキャン時のスキップ設定

DRスキャンをする必要のないレピータにスキップを設定すると、DRスキャンの対象からはずせます。

スキップは、個別、またはグループごと一括で設定できます。

※スキップを設定したレピータは、自動的にレピータリストの「USE (FROM)」を「NO」に設定し、DR画面の「FROM」選択対象からはずれます。

◇個別にレピータをスキップ設定する

1. レピータグループ画面を表示させる

MENU > DV MEMORY > レピータリスト

2. スキップさせたいレピータが入っているグループをタッチする(例: 01: 関東)



3. スキップさせたいレピータを長く(約1秒)タッチする(例: 浜町430)



4. 「SKIP」をタッチする



- 選択したレピータに、「SKIP」が表示されます。



- 再度「SKIP」を選択すると、スキップ設定を解除します。
- 「SKIP すべて ON」を選択すると、そのグループに入っているすべてのレピータに、「SKIP」が設定されます。

5. [EXIT] を数回押す

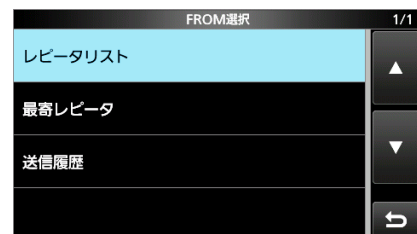
- レピータリスト画面が解除されます。

グループごとにレピータをスキップ設定するには
下図のようにグループを長く(約1秒)タッチして、表示された画面で「SKIP すべてON」をタッチすると、選択したレピータグループをスキップ設定できます。



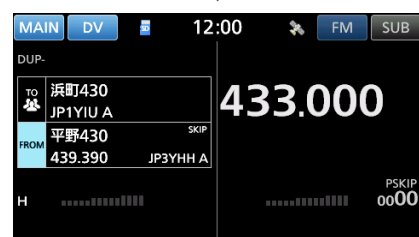
ご参考

- DR機能のFROM選択画面で「レピータリスト」を選択すると、左記と同様の操作でSKIP設定できます。



- DR画面の「FROM」を選択した状態で、[QUICK] を短く押して、「SKIP」をタッチすると、スキップの設定ができます。

※設定時は「FROM」に「SKIP」が表示されます。



3 D-STARの運用<応用編>

■レピータのグループネームを登録するには

レピータリストのグループネームを登録できます。

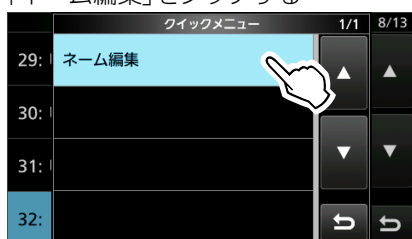
1. レピータグループ画面を表示させる

MENU > DV MEMORY > レピータリスト

2. 編集したいグループを長く(約1秒)タッチする



3. 「ネーム編集」をタッチする



4. グループネームを入力して、[ENT]をタッチする
(例：自宅周辺)



- 全角8文字(半角16文字)(スペースを含む)で入力します。

※入力方法や文字の種類、最大文字数などは、iiiページをご覧ください。

5. [EXIT]を数回押す

- レピータリスト画面が解除されます。

3 D-STARの運用<応用編>

■相手局コールサイン

◇相手局コールサインの新規登録

相手局のコールサインを300件まで登録できます。
登録したコールサインは、「TO」を設定するときに個人局リストに表示されます。

例：相手局コールサインメモリーに
「アイコム太郎」と「JM1ZLK」を登録する

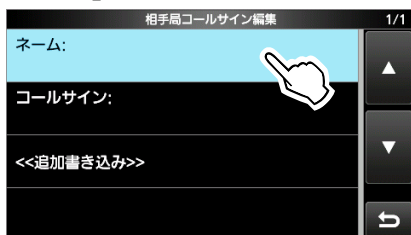
1. 相手局コールサイン画面を表示させる

MENU > DV MEMORY > 相手局コールサイン

2. [QUICK]を短く押す
3. 「追加」をタッチする



4. 「ネーム」をタッチする



5. 登録したいネームを入力して、[ENT]をタッチする
(例：アイコム太郎)



- 全角8文字(半角16文字)以内(スペースを含む)で入力します。

※入力方法や文字の種類、最大文字数などは、iiiページをご覧ください。

6. 「コールサイン」をタッチする



7. 相手局のコールサインを入力して、[ENT]をタッチする
(例：JM1ZLK)



- 半角8文字(スペースを含む)で入力します。

8. 「<<追加書き込み>>」をタッチする



9. [はい]をタッチする

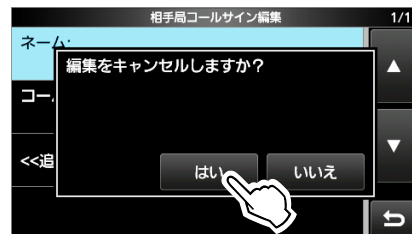
10. [EXIT]を数回押す

- 相手局コールサイン画面が解除されます。

編集を取り消したいときは

[EXIT]を短く押すと確認画面が表示されます。

[はい]をタッチすると、入力した内容を削除して相手局コールサイン画面に戻ります。



登録した相手局のコールサインを編集したいときは

編集したい相手局を長く(約1秒)押して、表示された画面で「編集」をタッチすると、相手局の情報を編集できます。



3 D-STARの運用<応用編>

■相手局コールサイン

◇相手局コールサインを削除する

不要になった相手局のコールサイン情報を削除します。
※削除した情報は、復元できませんのでご注意ください。

1. 相手局コールサイン画面を表示させる

MENU > DV MEMORY > 相手局コールサイン

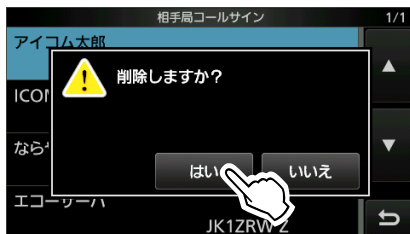
2. 削除したい相手局を長く(約1秒)タッチする



3. 「削除」をタッチする



4. 「はい」をタッチする



- 選択した相手局が削除され、相手局コールサイン画面に戻ります。

5. [EXIT] を数回押す

- 相手局コールサイン画面が解除されます。

◇相手局が表示される順番を並べ替える

相手局コールサインリストの中で表示される順番を並べ替えることができます。

よく交信する相手局をリストの一番上に並べ替えると選択しやすくなるので便利です。

1. 相手局コールサイン画面を表示させる

MENU > DV MEMORY > 相手局コールサイン

2. 移動したい相手局を長く(約1秒)タッチする



3. 「移動」をタッチする



4. 移動先をタッチする

- 移動中は、「移動先」が点滅します。
- タッチした相手局の1つ上に移動します。
- 「<<最後に移動>>」をタッチすると、一番下に移動します。



5. [EXIT] を数回押す

- 相手局コールサイン画面が解除されます。

◇参考

DR画面で選択されているコールサインを編集したり、削除したりできません。
「編集」(P.3-37)や「削除」をタッチしたとき、「DR機能で使用中です。」が表示された場合は、DR画面で別のコールサインを選択してください。

3 D-STARの運用<応用編>

■コールサインの設定を確認する

MENU画面で「CS」をタッチすると表示されるコールサイン画面で、コールサインの確認ができます。

- ※これまでのD-STAR対応機をお使いのかたや、海外にてレピータを運用する場合など、手動でもコールサインが設定できます。
- ※DR機能使用時以外では、この画面でデジタル通信時に必要なコールサインを設定します。

シンプレックス運用時(DVモード)

「UR」、「MY」のコールサインだけ設定できます。

レピータ運用時(DVモード/DR機能)

DR機能使用時は「MY」のコールサインだけ設定できません。

右の設定例の画面

コールサイン		1/1
UR : /JP1YIUA 浜町430	←	相手局またはエリアCQで設定したレピータのコールサイン
R1 : JP3YHH A 平野430	←	アクセスレピータのコールサイン
R2 : JP3YHH G 平野430 G	←	ゲートウェイ局のコールサイン
MY: JA3YUA /5200	←	自局のコールサイン

手動でコールサインを設定するには

DVモードで、自分がいる場所から平野430(JP3YHH)★にアクセスし、浜町430(JP1YIU)からエリアCQを出す場合を例に説明します。

- ★コールサインの設定をはじめる前に、アクセスするレピータの周波数やデュプレックス(P.9-4)を設定しておいてください。

ご参考

デジタルレピータセット機能を使用すると、レピータのコールサインを自動的に設定できます。
(MENU > SET > DV設定 > デジタルレピータセット)

1. コールサイン(R1)を設定する

1. DVモード時、「R1」を長く(約1秒)タッチする
2. 「編集」をタッチする
3. レピータのコールサインを入力し、[ENT]をタッチする(例：JP3YHH)
 - ※入力できる文字は、英数字(A～Z、0～9)と「/」です。
 - ※入力方法や文字の種類、最大文字数などは、iiiページをご覧ください。

2. ゲートウェイ局(R2)を設定する

1. 「R2」を短くタッチする
 2. 「GW」をタッチする
- ※コールサインを直接編集するときは、手順1で「R2」を長く(約1秒)タッチしてください。

レピータ2選択画面について

NOT USED*	R2を未使用にする場合(山かけ通信)
GW	レピータリストより、R1のGWコールサインを設定する場合(ゲートウェイ通信)
レピータネーム	R1と同じゾーンからレピータを選択する場合

3. 相手局のコールサイン(UR)を設定する

1. 「UR」を短くタッチする
 2. 「エリアCQ」をタッチする
 3. 「O1：関東」をタッチする
 4. 「浜町430」をタッチする
- ※コールサインを直接編集するときは、手順1で「UR」を長く(約1秒)タッチしてください。

相手局選択画面について

CQCQCQ	不特定呼び出し(CQCQCQ)を設定する
エリアCQ*	レピータリストからエリアCQを設定する
個人局	相手局コールサインメモリの個人局から選択する
受信履歴	受信履歴から選択する
送信履歴	送信したレピータ/個人局から選択する

- ★ シンプレックス運用時は表示されません。

3 D-STARの運用<応用編>

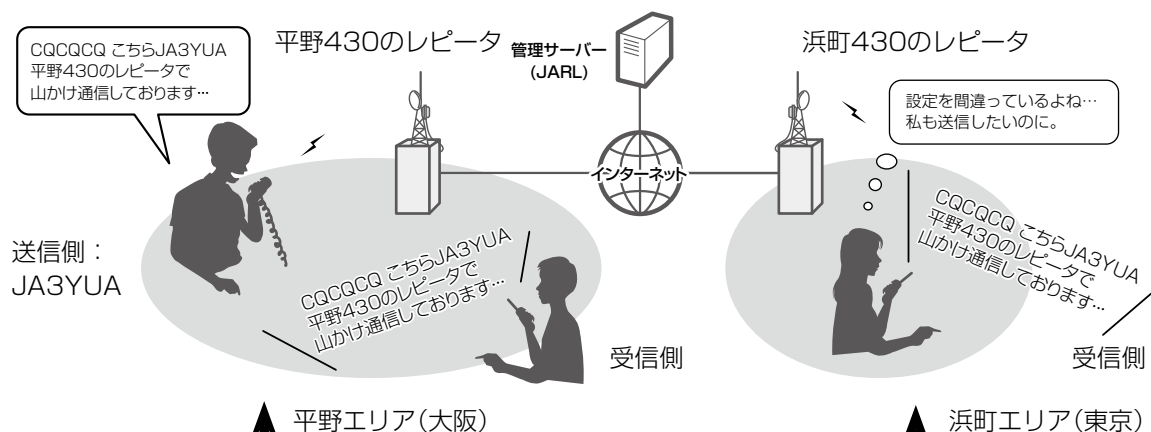
■迷惑な設定をしていませんか？

下記のようなゲートウェイ通信用の設定をしたままで山かけ通信をすると、あて先(TO)に設定しているレピータにも自局の電波が届きます。

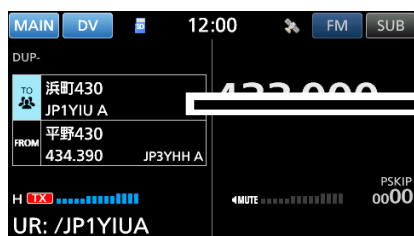
このような場合、あて先(TO)に設定しているレピータをアクセスレピータとして使いたい人に迷惑をかけてしまいます。

正しく設定して、みんなが気持ちよく使えるように運用しましょう。

例：山かけCQがしたいJA3YUAの場合



JA3YUAの間違った設定

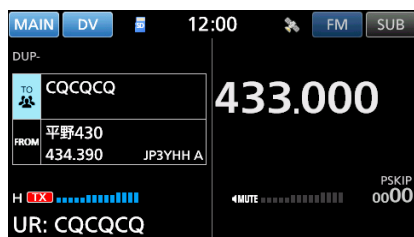


ご注意

このような設定で送信すると、山かけCQはできますが、あて先(TO)に設定したレピータをアクセスレピータとして使いたい人の迷惑になります。

山かけCQがしたいのに、あて先(TO)が浜町430に設定されている

正しい設定



山かけCQがしたい場合は、あて先(TO)を、「CQ CQ CQ」に設定してください。

※設定方法は、3-9ページをご覧ください。

■ GPSでできること	4-2
■ GPS運用をする前に	4-3
◇ GPSを受信できているか確認する	4-3
■ 位置情報の種類	4-4
■ 位置情報付きの信号を受信したときは	4-5
■ 位置情報を確認する	4-5
◇ 位置情報の表示	4-5
◇ 各ポジション画面とその意味	4-6
◇ RX画面の表示について	4-7
◇ MAINバンドとSUBバンドの表示切替	4-8
◇ 進路の見かた	4-8
◇ グリッド・ロケータについて	4-9
◇ GPSメモリーやGPSアラームを変更する	4-9
◇ コンパス方向を変更する	4-10
◇ 自局または受信した局の位置情報を保存する	4-10
■ GPS情報(天空図)を確認する	4-11
■ GPSの送信	4-12
■ GPSメモリーについて	4-13
◇ GPSデータをGPSメモリーに新規登録する	4-13
◇ グループネームを登録する	4-16
◇ GPSメモリーを削除する	4-16
◇ GPSメモリーを移動する	4-17
■ GPSアラームについて	4-18
■ GPSの詳細設定	4-21

4 GPS の操作＜応用編＞

■GPSでできること

D-PRS拡張機能(P.4-4)

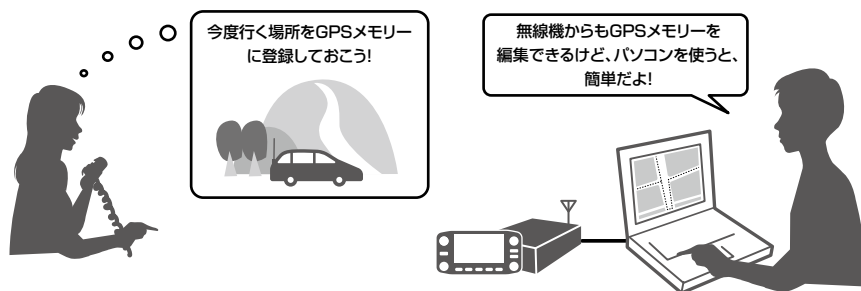
D-PRSとして位置情報以外に、オブジェクト、アイテム、気象情報を送受信できます。

D-PRSの機能が拡張したことにより、DVモードで音声通信を楽しみながら、バックグラウンドでイベント情報や交通情報、緊急情報、気象情報などを送受信できます。

GPSメモリー(P.4-13)

位置情報を最大300件登録できます。

目的地の位置情報を登録してGPSアラーム機能を使用したり、GPSで取得した移動先の位置情報を登録したりできます。



GPSアラーム(P.4-18)

受信した相手局や、GPSメモリーに登録されている位置に近づいたときに、アラームを鳴らす機能です。

あらかじめ目的地の位置情報をGPSメモリーに登録しておくと、目的地に近づいたときにアラームで知らせてくれます。



GPSロガー

内蔵のGPSレシーバーからの位置情報を記録する機能です。

ログ情報をパソコンに取り込み、市販の地図ソフトウェアを使って移動したルートを確認できます。



D-PRS、GPSロガー機能については、「D-STAR D-PRSガイド(入門編/応用編)」(PDFファイル)、
「GPSロガーの使いかた」(PDFファイル)をご覧ください。

弊社ホームページにアクセスしていただき、サポート情報→個人のお客様→取扱説明書よりダウンロードできます。

アイコム株式会社 サポート情報(個人のお客様)

<https://www.icom.co.jp/support/personal/>

4 GPS の操作＜応用編＞

GPSをお使いの前に、「GPSに関する注意事項」(簡易マニュアル)をご覧ください。

■GPS運用をする前に

本製品は、GPS受信機を内蔵していますので、そのまま自局の位置情報を表示したり、DVモードで自局の位置情報(GPSデータ)を送信したりできます。

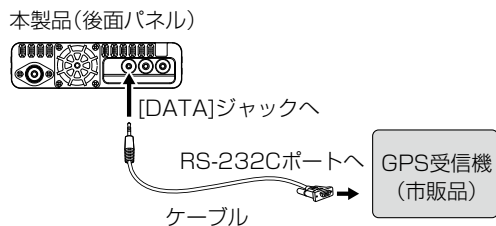
※本製品は、準天頂衛星システム「みちびき」に対応しています。

また、RS-232Cポートを装備した市販のGPS受信機(NMEA規格対応)も接続できます。

市販のGPS受信機をご使用の際には、下の図のように接続してください。

※GPS受信機として、ST-4002AがインストールされたAndroid端末や、GPS出力対応の弊社製無線機(例：ID-31 PLUS)を使用することもできます。

市販のGPS受信機を接続する場合



※RS-232C/USB変換アダプターのご使用は動作保証対象外になります。

◇GPSを受信できているか確認する

本製品は、GPS受信機を内蔵していますので、そのまま自局の位置情報を表示したり、DVモードで自局の位置情報(GPSデータ)を送信したりできます。

GPS表示を見て受信(測位)できているか確認します。

測位中は下図のように点滅します。



測位が完了すると点滅から点灯に変わります。



※ 通常は、数十秒で測位しますが、使用環境によっては、数分かかることもあります。

※ 屋内でご使用になる場合、本製品が設置されている場所や建物の周辺環境によって、GPS衛星からの信号を受信できない場合があります。

※ MENU画面にある「GPS選択」を「マニュアル」に設定している場合、GPS表示は点灯しません。

(MENU > GPS > GPS設定 > **GPS選択**)

4 GPS の操作＜応用編＞

■位置情報の種類

GPSの位置情報には、D-PRSとNMEAの2種類あります。 例：相手局がD-PRSのポジション局(移動局)で送信した場合
さらに、D-PRSでは、ポジション局(移動局/固定局)、オブジェクト局、アイテム局、気象局の5種類あります。



D-PRS	DVモードで音声と同時に送受信する低速データ部分を利用し、無線機に内蔵、または外部接続したGPS受信機により測位した情報を、APRSサーバーへ引き渡すしくみのこと。
ポジション局(移動局)	モバイル運用やハンディー運用などで移動しながら運用している局のこと。
ポジション局(固定局)	自宅や施設などに設置して運用している局のこと。
オブジェクト局	特定の場所に何か伝えたい情報があることを知らせる局のこと。 イベント案内や地震情報、衛星軌道の情報などがオブジェクト局として送信される。 ※オブジェクト局には、タイムスタンプ(時間情報)が含まれます。
アイテム局	特定の場所に何か伝えたい情報があることを知らせる局のこと。 がけ崩れなどによる道路寸断や、灯台やアンテナなどの情報、DVアクセスポイントなどの時間情報を持たない情報がアイテム局として送信される。 ※オブジェクト局とは異なり、アイテム局には、タイムスタンプ(時間情報)が含まれません。
気象局	気象装置から得られた気象情報を送信する局のこと。
NMEA	無線機に内蔵、または外部接続したGPS受信機により測位したNMEA 0183の生データのこと。

4 GPS の操作＜応用編＞

■位置情報付きの信号を受信したときは

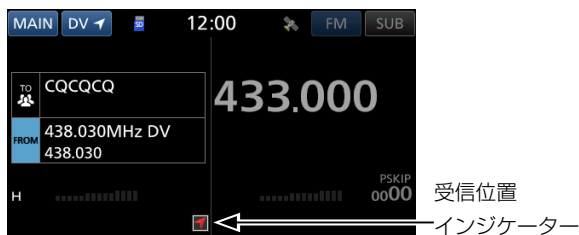
送られてきた相手局の信号に位置情報が含まれている場合、相手局の位置情報ポップアップ画面が表示されます。
※詳細な位置情報を確認したい場合は、右記を参照してください。

例：438.030MHzでJM1ZLKが送信した位置情報付きの信号を受信した場合



位置情報が含まれているため、位置情報ポップアップ画面が表示されます。

しばらくすると、ポップアップ画面が消えます。



メッセージがスクロールするスペースの右端に位置情報が含まれていることを示す「受信位置インジケータ」が表示されます。

※MENU画面の「受信位置表示」でポップアップ画面の表示を省略できます。

(MENU > SET > ディスプレイ設定 > 受信位置表示)

※MENU画面の「受信位置インジケータ」で受信位置インジケータの表示を省略できます。

(MENU > SET > ディスプレイ設定 > 受信位置インジケータ)

■位置情報を確認する

自分がいる場所などが確認できます。
受信した画像をもとに説明します。
※画面は一例です。

◇位置情報の表示

1. [QUICK]を短く押す
2. 「GPSポジション」をタッチする
• GPSポジション画面が表示されます。
3. [DIAL]を回す
• 表示画面が、自局の位置情報表示(MY)、受信した局の位置情報表示(RX)、GPSメモリーチャンネルの位置情報表示(MEM)、GPSアラームチャンネルの位置情報表示(ALM)と切り替わります。



MY : 自局の位置情報表示
RX : 受信した局の位置情報表示
MEM : GPSメモリーチャンネルの位置情報表示
ALM : GPSアラームチャンネルの位置情報表示

4. [EXIT]を押す
• GPSポジション画面が解除されます。

ご注意

緯度/経度/高度は、電波の受信状態などによって異なります。

ご参考

- 送信中はGPSポジション画面を一時的に解除します。送信しながら位置情報を確認したいときは、送信中に[QUICK]を短く押し、GPSポジション画面をタッチします。
- MY画面、またはRX画面で[QUICK]を短く押すと、画面に表示された位置情報をGPSメモリーに登録できます。(P.4-10)
- GPSメモリーについては4-13ページ、GPSアラームについては4-18ページをご覧ください。

4 GPS の操作＜応用編＞

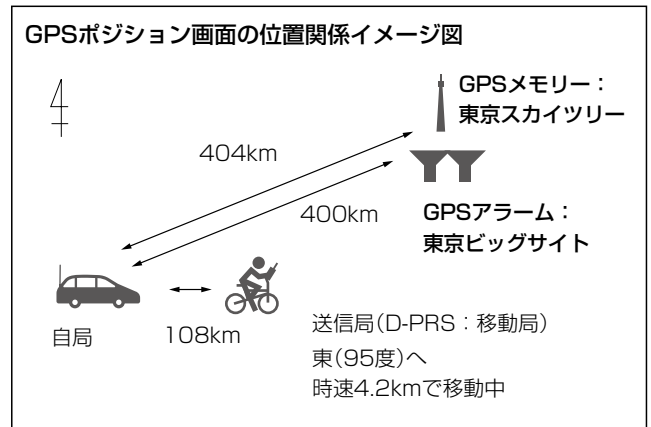
■位置情報を確認する

◇各ポジション画面とその意味

※コンパス方向は、[QUICK]を押して表示されるクイックメニューで切り替ええます。(P.6-10)

※進路の見かた(P.6-8)

※グリッド・ロケーターについて(P.6-9)



MY画面(自局の位置情報)

MENU画面の「GPS選択」が「マニュアル」のときは、「移動速度」、「コンパス」、「進路」が表示されません。(P.4-21)
(MENU > GPS > GPS設定 > **GPS選択**)

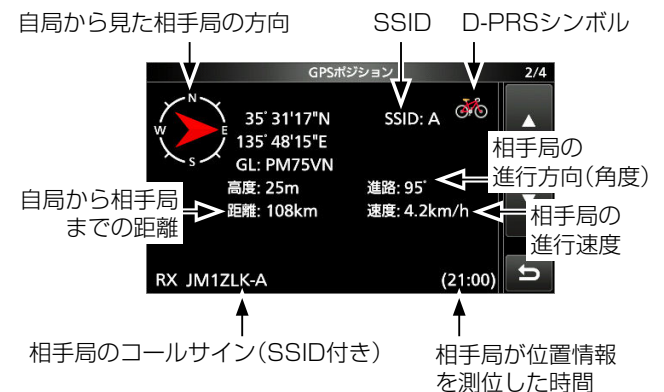


RX画面(相手局の位置情報)

相手局の送信モード、または送信フォーマットによって表示される項目とその項目の意味が異なります。
(P.4-7)

例：相手局がD-PRSのポジション局(移動局)で送信した場合

※相手局の送信データによっては、表示しない場合があります。



MEM画面(GPS個別メモリー設定の位置情報)



ALM画面(GPSアラーム設定の位置情報)

★ GPSメモリーチャンネル、またはアラームチャンネルにネームが登録されていない場合は、日時が表示されます。
[QUICK]を短く押すと表示されるクイックメニューで、GPSメモリーチャンネル、またはアラームチャンネルを切り替えられます。
GPSアラームについては、アラームチャンネル選択時以外は、その設定状態(OFF/受信/グループ名など)が表示されます。



4 GPS の操作<応用編>

■ 位置情報を確認する

◇ RX画面の表示について

D-PRS

ポジション局(移動局)



移動している
ことが分かる
アイコン

移動局は進路、速度を表示

ポジション局(固定局)



固定である
ことが分かる
アイコン

固定局は出力、地上高、ゲイン、指向性を表示

オブジェクト局



相手局がオブジェクト局の情報を送信した
時間を表示(タイムスタンプ)

アイテム局



アイテム局は
タイムスタンプの
表示なし

気象局



相手局が気象情報を受け取った時間を表示
(タイムスタンプ)

※D-PRSで受信したコールサインは、相手局のコールサイン(SSID付き)が表示されます。

※オブジェクト局/アイテム局が無効であれば、「(KILLED)」が表示されます。

NMEA



※NMEAでは、D-PRSと異なり、シンボルやSSIDの表示はありません。

4 GPS の操作＜応用編＞

■位置情報を確認する

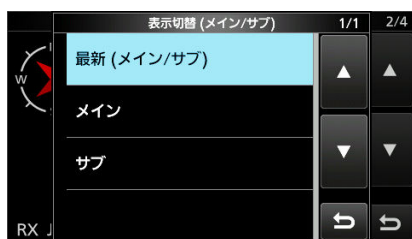
◇MAINバンドとSUBバンドの表示切替

RX画面の表示状態を切り替えられます。

1. RX画面を選択中に、[QUICK]を押す
2. 「表示切替(メイン/サブ)」をタッチする



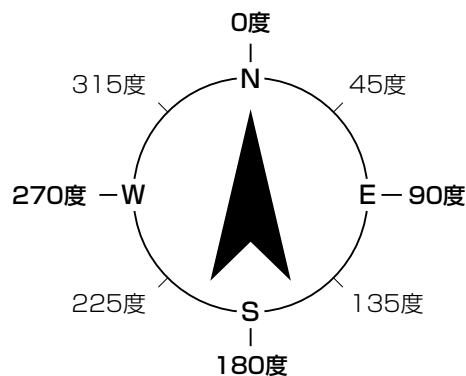
3. 切り替えたい項目をタッチする



- ◎最新(メイン/サブ) : MAINバンド、SUBバンドに関わらず、最新の相手局の位置情報を表示します。
 - ◎メイン : MAINバンドで受信した相手局の位置情報だけ表示します。
 - ◎サブ : SUBバンドで受信した相手局の位置情報だけ表示します。
- ※「メイン」、または「サブ」を選択すると、RXの隣に「(MAIN)」、または「(SUB)」が表示されます。

◇進路の見かた

ポジション画面に表示される進路は、角度で表示されます。



4 GPS の操作<応用編>

■位置情報を確認する

◇グリッド・ロケーターについて

ポジション画面に表示される、グリッド・ロケーター(GL)とは、緯度・経度より算出する6桁の文字列のことです。グリッド・ロケーターは、地球を格子状に細分してその位置を示したものです。無線通信でエリアを示す目的などに使用されます。



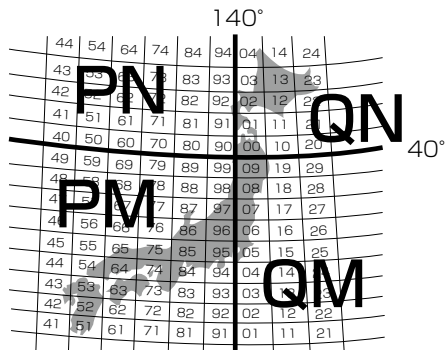
フィールド

PM74SO

スクエア

サブスクエア

日本のスクエア区分のイメージ図



◇GPSメモリーやGPSアラームを変更する

GPSポジション画面で、GPSメモリーやGPSアラームの対象を変更できます。

1. MEM画面、またはALM画面を選択中に[QUICK]を押す
2. MEM画面選択時は「GPSメモリー選択」、ALM画面選択時は「アラーム選択」をタッチする

MEM画面



ALM画面



3. GPSメモリー、またはGPSアラームの対象をタッチする
→GPSメモリーの編集のしかた(P.4-13)
→GPSアラームの設定のしかた(P.4-18)

4 GPS の操作<応用編>

■ 位置情報を確認する

◇ コンパス方向を変更する

コンパス表示の上方向を進行方向、北、南から設定します。

1. GPSポジション画面で[QUICK]を押す
2. 「コンパス方向」をタッチする



3. 設定したいコンパス方向を選択する



• 選択肢：ヘディングアップ、ノースアップ、サウスアップ

ヘディングアップ



常に進行方向を
上に表示する

ノースアップ



常に方位の北を
上に表示する

サウスアップ



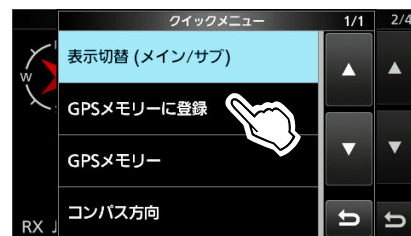
常に方位の南を
上に表示する

◇ 自局または受信した局の位置情報を保存する

自局がいる場所の位置情報や受信した相手局がいる場所の位置情報をGPSメモリーに保存できます。

GPSメモリーは最大300件登録でき、(グループなし)と、A～Zのグループで、合計27個のグループに分けて整理できます。(P.4-13)

1. GPSポジション画面で[DIAL]を回して、保存したい位置情報画面を表示させる
 - 自局の位置情報を保存したい → MY画面を選択
 - 受信した相手局の位置情報を保存したい → RX画面を選択
2. [QUICK]を短く押す
3. 「GPSメモリーに登録」をタッチする



※項目(例：緯度)をタッチすると、登録内容を編集できます。(P.4-13)

4. 「<<追加書き込み>>」をタッチする



※「グループ」をタッチすると、保存先を選択できます。

5. [はい]をタッチする
 - GPSメモリーに新規登録され、GPSポジション画面に戻ります。
6. [EXIT]を押す
 - GPSポジション画面が解除されます。

ご参考

位置情報は、手順4の画面にある「グループ」で選択したグループに保存されます。

(MENU > GPS > **GPSメモリー**)

4 GPS の操作<応用編>

■GPS情報(天空図)を確認する

GPS情報では、GPS衛星の数や、信号強度、位置を天空図にマッピングして視覚化しています。

GPSがなかなか捕捉できないときなど、GPSがどのような状況にあるかを見たいときに使用します。

天空図により、GPS衛星の存在する方位・仰角、および衛星番号、受信状態がわかります。

1. [QUICK]を短く押す
2. 「GPS情報」をタッチする



- GPS情報画面が表示されます。
3. [EXIT]を押す
- GPS情報画面が解除されます。

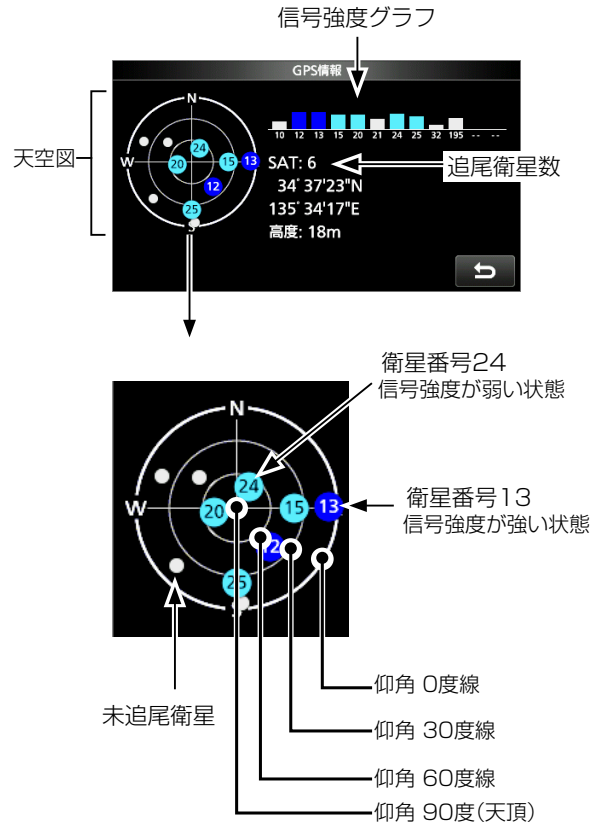
【表示の意味】

- 天空図
 - ：GPS衛星が天空のどの位置に存在するのかを図で表示する
 - 灰色の丸(●)：未追尾衛星
 - 通常文字(01)：追尾衛星(信号弱)の衛星番号
 - 反転文字(01)：追尾衛星(信号強)の衛星番号
- SAT
 - ：追尾衛星の数
- 高度
 - ：自局の高度を表示する
 - ※追尾衛星数が4個以上で高度を表示し、追尾衛星数が3個以下は未測位状態(-----m)を表示する
- 緯度/経度
 - ：自局の緯度、経度を表示する
- 信号強度グラフ：追尾衛星の信号強度を表示する
 - ：未追尾衛星
 - ：追尾衛星(信号弱)
 - ：追尾衛星(信号強)

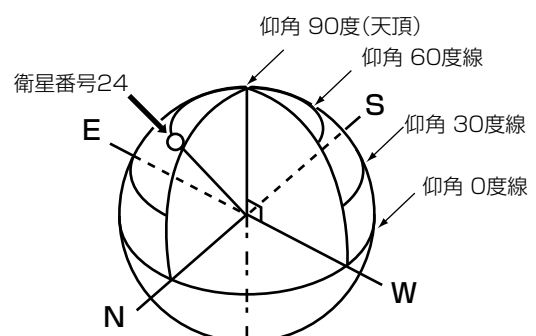
【衛星番号について】

- GPS：01～32
- SBAS：33～71
- GLONASS：65～96
- QZSS：193～202

【画面表示について】



衛星番号24の立体イメージ図



4 GPS の操作＜応用編＞

■GPSの送信

位置情報を送信するためのGPS送信モードには、大きく分けて「D-PRS」と「NMEA」があります。
また、GPS自動送信も設定できます。

これらのD-PRS、NMEA、GPS自動送信について詳しくは、「D-STAR D-PRSガイド(入門編/応用編)」(PDFファイル)をご覧ください。

弊社ホームページにアクセスしていただき、サポート情報→個人のお客様→取扱説明書よりダウンロードできます。

アイコム株式会社 サポート情報(個人のお客様)

<https://www.icom.co.jp/support/personal/>

※D-PRSデータは、APRSコードに準拠しています。

APRS : Automatic Packet Reporting System

※ 気象局として送信する場合は、下記の接続や設定方法をご確認ください。

◇D-PRS—気象局の送信について

気象局として送信する場合は、本製品で設定する気象局用の設定のほか、[USB]ポート、または[DATA]ジャックへの気象データの入力が必要です。

気象データは、市販の気象装置から取得した気象情報をパソコンやマイコンなどでAPRS気象局用フォーマットに変換することで、本製品に取り込みます。

本製品で設定した気象局用の設定と、取り込んだ気象データの2つが揃うことで、はじめて気象局として送信できます。

ご注意

下記の接続先に合わせて設定し、気象データを入力してください。

※気象データが入力されていない場合、気象局として気象情報を送信しません。

[USB]ポートから入力する場合

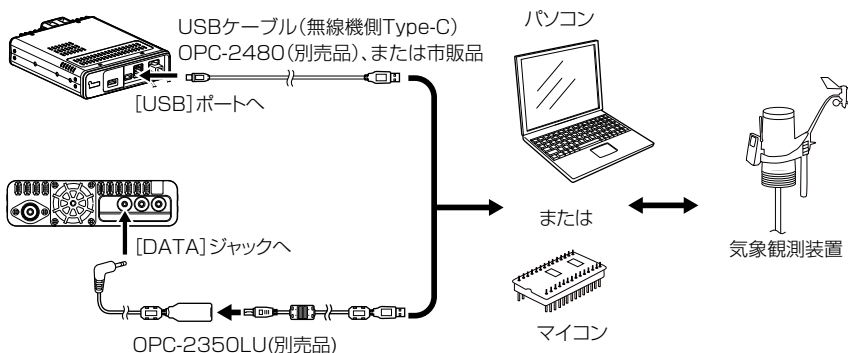
- USB接続を「シリアルポート」に設定してください。
(MENU > SET > 外部端子 > **USB機能**)
- USB(B)端子機能を「気象」に設定して、[USB]ポートへ気象データを入力してください。
(MENU > SET > 外部端子 > シリアルポート機能 > **USB(B)端子機能**)

[DATA]ジャックから入力する場合

- DATA端子機能を「気象入力」に設定して、[DATA]ジャックへ気象データを入力してください。
(MENU > SET > 外部端子 > シリアルポート機能 > **DATA端子機能**)
 - 気象入力ボーレート(DATA)で使用するボーレートを設定してください。
(MENU > SET > 外部端子 > シリアルポート機能 > **気象入力ボーレート(DATA)**)
- ※ [DATA]ジャックから入力する場合はパソコン側のボーレート設定をあわせる必要があります。

[USB]ポートから 入力する場合

[DATA]ジャックから 入力する場合



4 GPS の操作＜応用編＞

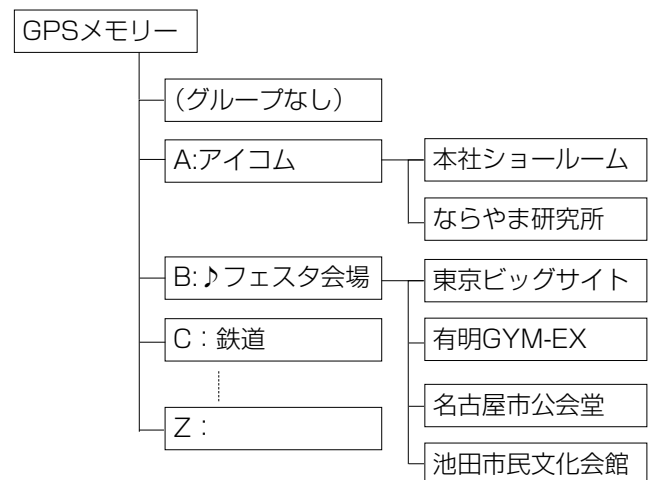
■GPSメモリーについて

GPSデータをGPSメモリーに追加できます。
位置情報を手動で入力して登録したり、GPSで受信した自局や相手局の位置情報をGPSメモリーに登録したりできます。

GPSメモリーは最大300CH登録でき、(グループなし)と、A～Zのグループで、合計27個のグループに分けて整理できます。

※グループごとにGPSメモリーがあらかじめプリセットされています。

GPSメモリーのプリセットイメージ図



◇GPSデータをGPSメモリーに新規登録する

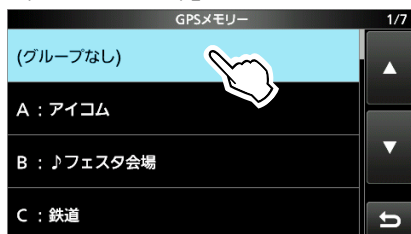
GPSデータをGPSメモリーに追加できます。

1. GPSメモリーを追加し、編集画面に入る

1. GPSメモリー画面を表示させる

MENU > GPS > **GPSメモリー**

2. 「(グループなし)」をタッチする



3. [QUICK]を押す
4. 「追加」をタッチする
 - GPSメモリー編集画面が表示されます。

登録したGPSメモリーを編集したいときは
すでに登録しているGPSメモリーを編集したい場合は、編集したいGPSメモリーを選択し、[QUICK]で「編集」をタッチします。
※入力のしかたは追加する場合と同じです。

2. GPSメモリーネームを入力する

1. 「ネーム」をタッチする
 - ネームの編集モードに入ります。
2. 全角8文字(半角16文字)以内(スペースを含む)でGPSメモリーネームを入力する
 - ※入力方法や文字の種類、最大文字数などは、iiiページをご覧ください。
3. ネームを入力したら、[ENT]をタッチする



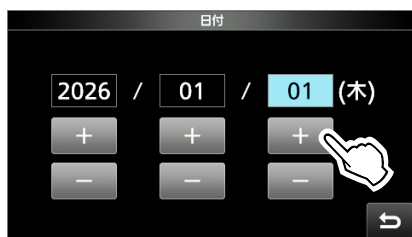
4 GPS の操作＜応用編＞

■GPSメモリーについて

◇GPSデータをGPSメモリーに新規登録する

3. 日付を編集する

1. 「日付」をタッチする
2. 編集する項目(年、月、日)をタッチする
3. [+] / [-] をタッチし、日付を設定する
• 設定範囲：2000/01/02～2099/12/30
4. 手順2～3を繰り返し、日付を設定する



5. 日付を設定したら、[EXIT]を押す

4. 時間を編集する

1. 「時間」をタッチする
2. 編集する項目(時、分、秒)をタッチする
3. [+] / [-] をタッチし、時間を設定する
• 設定範囲：00:00:00～23:59:59
4. 手順2～3を繰り返し、時間を設定する



5. 時間を設定したら、[EXIT]を押す

5. 緯度を入力する

1. 「緯度」をタッチする
2. 編集する項目(度、分、秒)をタッチする
3. 緯度を入力する
• 設定範囲：0°00'00"～90°00'00"
※表示単位を変更できます。
(MENU > SET > ディスプレイ設定 > 表示単位 > 緯度/経度)
4. 手順2～3を繰り返し、緯度を設定する



5. [N/S]をタッチして、北緯(N)/南緯(S)を選択する
6. 緯度を入力したら、[ENT]をタッチする

6. 経度を入力する

1. 「経度」をタッチする
2. 編集する項目(度、分、秒)をタッチする
3. 経度を入力する
• 設定範囲：0°00'00"～180°00'00"
※表示単位を変更できます。
(MENU > SET > ディスプレイ設定 > 表示単位 > 緯度/経度)
4. 手順2～3を繰り返し、経度を設定する



5. [E/W]をタッチして、東経(E)/西経(W)を選択する
6. 経度を入力したら、[ENT]をタッチする

4 GPS の操作＜応用編＞

■GPSメモリーについて

◇GPSデータをGPSメモリーに新規登録する

7. 高度を設定する

1. 「高度」をタッチする
2. [+/-]をタッチして、高度(+/-)を選択する
3. 高度を入力する



• 設定範囲：-10,000m～+10,000m

4. 高度を入力したら、[ENT]をタッチする

8. グループを設定する

1. 「グループ」をタッチする
2. 登録したいグループ(A～Z)、または(グループなし)をタッチする
※1つのグループに最大300件まで割り当てできます。



9. GPSメモリー内容を書き込む

1. 「《追加書き込み》」をタッチする

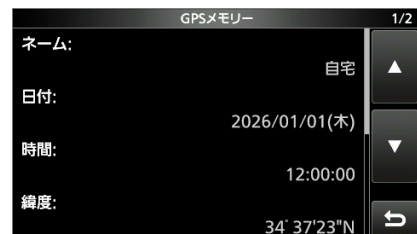


※すでに登録されたGPSメモリーを編集した場合は、「《上書き》」を選択します。

2. [はい]をタッチする
• GPSメモリーに追加登録され、選択したグループの画面が表示されます。
3. [EXIT]を数回押す
• GPSメモリー画面が解除されます。

登録内容を確認したいときは

確認したいGPSメモリーを選択すると登録内容が確認できます。



編集を取り消したいときは

編集中に[EXIT]を押すと確認画面が表示されます。
[はい]をタッチすると入力した内容を削除して、編集前のグループの画面に戻ります。

4 GPS の操作＜応用編＞

■GPSメモリーについて

◇グループネームを登録する

GPSメモリーを整理するグループの名前を登録できます。

1. GPSメモリー画面を表示させる

MENU > GPS > **GPSメモリー**

2. ネーム登録したいグループを長く(約1秒)タッチする



3. 「ネーム編集」をタッチする



- グループネームの編集モードに入ります。

4. 全角8文字(半角16文字)以内(スペースを含む)でグループネームを入力する(例: 自宅周辺)
※入力方法や文字の種類、最大文字数などは、iiiページをご覧ください。

5. ネームを入力したら、[ENT]をタッチする



6. [EXIT]を数回押す

- GPSメモリー画面が解除されます。

◇GPSメモリーを削除する

不要になったGPSメモリーを削除します。

削除方法は、グループ内の全メモリーと特定のチャンネルの2とおりです。

※削除したGPSメモリーは、復元できませんのでご注意ください。

例: 特定グループ内のGPSメモリーをすべて削除する

1. GPSメモリー画面を表示させる

MENU > GPS > **GPSメモリー**

2. 削除したいグループを長く(約1秒)タッチする



3. 「グループ内全削除」をタッチする



4. [はい]をタッチする

- 選択したグループ内のGPSメモリーがすべて削除され、GPSメモリー画面に戻ります。

※削除したグループを選択すると、「--未登録--」が表示されます。

5. [EXIT]を数回押す

- GPSメモリー画面が解除されます。

特定のGPSメモリーチャンネルを削除する

削除したいGPSメモリーチャンネルを長く(約1秒)タッチし、「削除」を選択すると、削除します。



4 GPS の操作＜応用編＞

■GPSメモリーについて

◇GPSメモリーを移動する

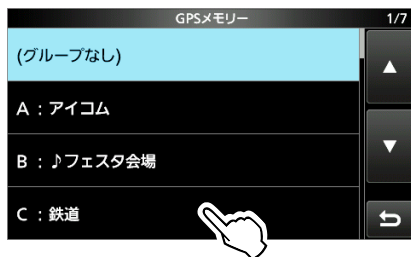
グループの中でGPSメモリーが表示される順番を並べ替えることができます。

※グループを越えて移動させたい場合は、編集して、移動させたいグループを選択し、上書き保存してください。

1. GPSメモリー画面を表示させる

MENU > GPS > **GPSメモリー**

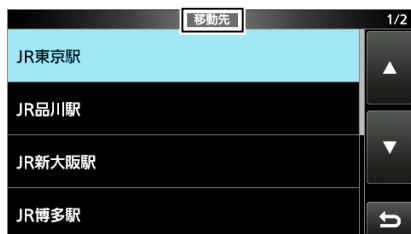
2. 移動したいGPSメモリーが入っているグループをタッチする(例：C：鉄道)



3. 移動させたいGPSメモリーを長く(約1秒)タッチする(例：JR東京駅)



4. 「移動」をタッチする



- 画面上で、「移動先」が点滅します。

5. 移動先をタッチする

- 選択したGPSメモリーの1つ上に移動します。

※「<<最後に移動>>」を選択すると、そのグループの一番下に移動します。



6. [EXIT] を数回押す

- GPSメモリー画面が解除されます。

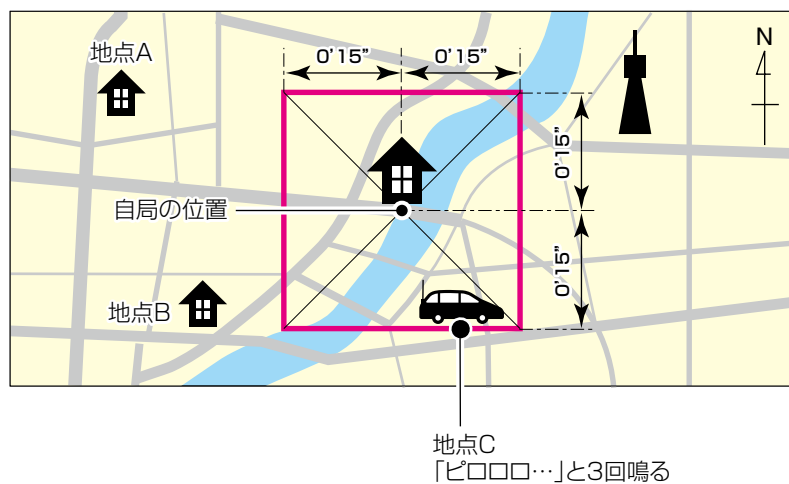
4 GPS の操作<応用編>

■GPSアラームについて

GPSアラームは、GPSアラームの対象にした局が設定した範囲に入ったときにアラームを鳴らす機能です。
GPSアラーム機能を設定できるのは、受信(受信した相手局)、全メモリー、グループ、または特定のGPSメモリーチャンネルのいずれか1つです。(P.4-31、P.4-32)

アラームエリア(グループ)(複数の局をアラームに設定)

全メモリーまたはグループを選択した場合



アラームエリア(受信/メモリー)(特定の局をアラームに設定)

受信または特定のメモリーを選択した場合



4 GPS の操作<応用編>

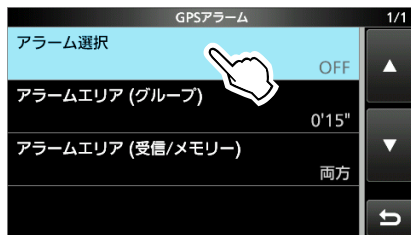
■GPSアラームについて

例：アラームエリア(グループ)
すべてのGPSメモリーにアラームを設定する

1. GPSアラーム画面を表示させる

MENU > GPS > **GPSアラーム**

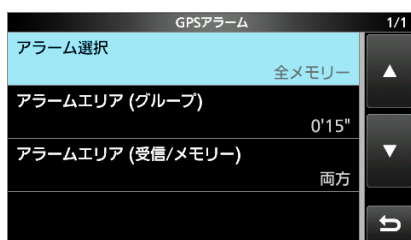
2. 「アラーム選択」をタッチする



3. 「グループ」をタッチする



4. 「全メモリー」をタッチする



※GPSメモリーグループにアラームを設定したい場合は、
「(グループなし)」、または「A」～「Z」から選択します。

5. [EXIT] を数回押す

- GPSアラーム画面が解除されます。
- ※指定したグループの中にあるいずれかの局が設定した範囲内に入ると、「ピロロロ…」と3回鳴ります。
- ※GPSアラームが鳴ると、画面に「GPSアラーム」のポップアップが表示され、表示が点滅します。
- ※GPSアラームを解除するには、再度手順3の操作で「OFF」を選択します。

GPSアラームが鳴ったときの画面



ご参考

「全メモリー」、「(グループなし)」、または「A～Z」(メモリーグループ)を選択した場合は、MENU画面の「アラームエリア(グループ)」の設定により、GPSアラームが機能します。(P.4-31)

(MENU > GPS > GPSアラーム >
アラームエリア(グループ))

4 GPS の操作<応用編>

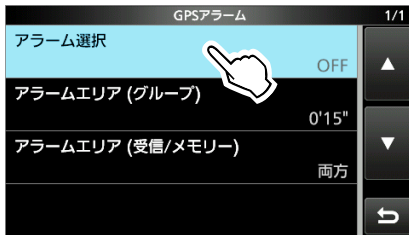
■GPSアラームについて

例：アラームエリア(受信/メモリー)
受信した相手局にアラームを設定する

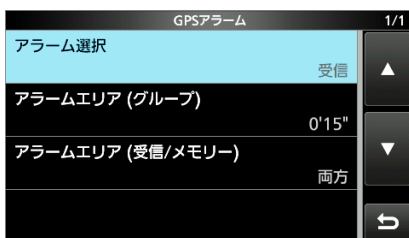
1. GPSアラーム画面を表示させる

MENU > GPS > **GPSアラーム**

2. 「アラーム選択」をタッチする



3. 「受信」をタッチする



※特定のGPSメモリーチャンネルにアラームを設定したい場合は、「メモリー」を選択して、「(グループなし)」または「A～Z」のグループの中から特定のチャンネルを選択します。

4. [EXIT]を数回押す

- GPSアラーム画面が解除されます。

※GPSアラームを設定した局が半径約1km圏内に入ると「ピロロロ…」と1回鳴らし、半径約500m圏内に入ると「ピロロロ…」と3回鳴らします。

(初期設定：「両方」の動作)

※GPSアラームが鳴ると、画面に「GPSアラーム」のポップアップが表示され、「GPS」表示が点滅します。

※GPSアラームを解除するには、再度手順3の操作で「OFF」を選択します。

GPSアラームが鳴ったときの画面

GPSアラーム表示が点滅



ポップアップが表示され
設定範囲によって「ピロロロ…」と鳴る

ご注意

「受信」設定時、受信した相手局に位置情報が含まれているときだけ、GPSアラームが動作します。

ご参考

「受信」(相手局)、または特定のGPSメモリーチャンネルを選択した場合は、MENU画面の「アラームエリア(受信/メモリー)」の設定により、GPSアラームが機能します。(P.4-32)

(MENU > GPS > GPSアラーム >
アラームエリア(受信/メモリー))

4 GPS の操作＜応用編＞

■GPSの詳細設定

GPS選択 (初期設定：内蔵GPS)

MENU > GPS > GPS設定 > GPS選択

自局の位置情報を取得する方法を設定します。

※内蔵と外部以外を設定すると、「GPS時刻補正」は動作しません。(P.10-29)

- OFF : GPS受信機の位置情報を使用しない
- 内蔵GPS : 本製品に内蔵されたGPS受信機の位置情報を自動で取得する
- 外部GPS(DATA)
 - : 無線機の[DATA]ジャックに接続したGPS受信機を使用して、位置情報を自動で取得する
- マニュアル: 自局の位置情報(緯度/経度/高度)を手動で入力する

※「外部GPS(DATA)」に設定すると、データ通信ができませんのでご注意ください。

GLONASS (初期設定：OFF)

MENU > GPS > GPS設定 > 内蔵GPS設定 > GLONASS

GLONASS(GLObal'naya Navigatsionnaya Sputnikovaya Sistema)機能のON/OFFを切り替えます。

※ONにすると、自局位置情報の取得精度が向上する場合がありますが、消費電流は少し増加します。

- OFF : GLONASSを使用しない
- ON : GLONASSを使用する

衛星情報出力 (初期設定：GPS/QZSS/GLONASS)

MENU > GPS > GPS設定 > 内蔵GPS設定 > 衛星情報出力

位置情報送信時に出力する衛星情報を設定します。

- GPS/QZSS/GLONASS
 - : GPS、QZSS*、GLONASSの情報を出力する
- GPSのみ: GPSの情報だけを出力する
- ★ 準天頂衛星システム「みちびき」(QZSS: Quasi-Zenith Satellite System)

外部GPSボーレート(DATA) (初期設定：9600)

MENU > GPS > GPS設定 > 外部GPSボーレート(DATA)

本製品の[DATA]ジャックを経由して位置情報の入力をするときのボーレートを設定します。

- 選択肢: 4800、9600、115200

マニュアル位置

(初期設定：緯度：0°00'00" N 経度：0°00'00" E
高度：-----m)

MENU > GPS > GPS設定 > マニュアル位置

自局の位置情報として、緯度経度、高度を手動で入力します。

※測位した自局の位置情報や、GPSメモリーの登録情報をコピーできます。(P.4-3)

GPS送信モード (初期設定：OFF)

MENU > GPS > GPS送信モード

DVモード運用時、GPSを利用して位置情報を送出するGPS送信モードを設定します。

- OFF : GPSの位置情報を送出しない
- D-PRS: D-PRSに対応する形式で、GPSの位置情報を送出する
- NMEA: NMEA形式で、GPSの位置情報を送出する

これらのD-PRS、NMEA、GPS自動送信について詳しくは、「D-STAR D-PRSガイド(入門編/応用編)」(PDFファイル)をご覧ください。

弊社ホームページにアクセスしていただき、サポート情報→個人のお客様→取扱説明書よりダウンロードできます。

アイコム株式会社 サポート情報(個人のお客様)
<https://www.icom.co.jp/support/personal/>

アンブロットアドレス (初期設定：API520,DSTAR*)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >

アンブロットアドレス

D-PRSで使用するアンブロットアドレスを56文字(半角カタカナ、英数字、記号)まで入力できます。

送信フォーマット (初期設定：ポジション)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >

アンブロットアドレス

D-PRSで位置情報を送出するときのフォーマットを選択します。

- ポジション : 送信局が移動局、または固定局であることを示すフォーマット
- オブジェクト: イベント開催情報や地震発生地域などの情報を送るためのフォーマット
- アイテム : 時間情報を不要とするレピータの情報や設置アンテナの情報などを送るためのフォーマット
- 気象 : 位置情報とともに、気象装置などから得た気象情報を送るためのフォーマット

4 GPS の操作＜応用編＞

■GPSの詳細設定

シンボル (初期設定：車)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > ポジション > シンボル

シンボルは、自局の運用形態を伝えるためのアイコンです。
選択したシンボルチャンネル(「1」～「4」)に設定されたシンボルが、D-PRSで位置情報とともに送出されます。

＜任意のシンボル(2文字)を選択する場合＞

1. 変更したいシンボルチャンネル(「1」～「4」)を長く(約1秒)タッチする
2. 「シンボルの編集」をタッチする
3. [QUICK]を短く押す
4. 「直接入力」をタッチする
5. [＋]/[－]をタッチして、1文字目の文字を選択する
 - 1文字目に入力できる文字は、「/」と「¥」、英数字だけです。
6. [＋]/[－]をタッチして、2文字目の文字を選択する
 - 2文字目に入力できる文字は、英数字と記号です。
7. [SET]をタッチする
 - 手順1で選択したチャンネルのシンボルを確定します。

＜登録済みのシンボルを選択する場合＞

1. 変更したいシンボルチャンネル(「1」～「4」)を長く(約1秒)タッチする
2. 「シンボルの編集」をタッチする
3. 変更したいシンボルをタッチする
 - 手順1で選択したチャンネルのシンボルを確定します。

SSID (初期設定：---)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > ポジション > SSID

自局の運用形態を他局に伝えるために、コールサインのあとに付加するAPRSに準拠したSSIDを選択します。
※コールサインに識別符号を含むかどうかによって、SSIDの付加方法は異なります。

- --- : コールサインの文字列に含まれるスペースを「-」に置換する
※スペース以降に文字がない場合は、「-」に置換せず、スペースを削除する
例：JA3YUA → JA3YUA
JA3YUA A → JA3YUA-A
- (-0) : SSIDを付加しない
※コールサインの文字列にスペースを含む場合は、スペース以降をすべて削除する
例：JA3YUA → JA3YUA
JA3YUA A → JA3YUA
- -1 ～ -15 : 「-1」から「-15」のSSIDを付加する
※コールサインの文字列にスペースを含む場合は、スペース以降をすべて削除して、選択したSSID(例：-9)を付加する
例：JA3YUA → JA3YUA-9
JA3YUA A → JA3YUA-9
- -A ～ -Z : 「-A」から「-Z」のSSIDを付加する
※コールサインの文字列にスペースを含む場合は、スペース以降をすべて削除して、選択したSSID(例：-Z)を付加する
例：JA3YUA → JA3YUA-Z
JA3YUA A → JA3YUA-Z

4 GPS の操作＜応用編＞

■GPSの詳細設定

コメント

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > ポジション > コメント

D-PRSで位置情報とともに送出するコメント(半角カタカナ、英数字、記号)を設定します。

4件のコメントを登録できます。

高度(下記)とデータ拡張(右記)の設定により、コメントに入力できる文字数は異なります。

データ拡張	高度	入力できる文字数
OFF	OFF	43文字以内*
OFF	ON	35文字以内
進路/速度	OFF	36文字以内
進路/速度	ON	28文字以内
出力/地上高/ゲイン/指向性	OFF	36文字以内
出力/地上高/ゲイン/指向性	ON	28文字以内

★初期設定

※下図のように、「J」(有効範囲表示)が画面に表示された場合は、「J」以降の文字列を送出しませんので、ご注意ください。



(28文字以内の場合)

タイムスタンプ (初期設定：OFF)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > ポジション > タイムスタンプ

D-PRSで位置情報とともに、GPSより取得した時間情報(UTC表示)を送出するタイムスタンプ機能を設定します。

- OFF : 時間情報を送出しない
- 日時分 : 日、時間、分の情報を送出する
- 時分秒 : 時間、分、秒の情報を送出する

※マニュアルで自局の位置情報を設定しているときは、送出されません。

高度 (初期設定：OFF)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > ポジション > 高度

D-PRSで位置情報とともに、GPSより取得した高度情報の送出を設定します。

- OFF : 高度情報を送出しない
- ON : 高度情報を送出する

※設定により、「コメント」に入力できる文字数が異なります。

データ拡張 (初期設定：OFF)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > ポジション > データ拡張

D-PRSで無線機本体の位置情報とともに、進路/速度情報や出力/地上高/ゲイン/指向性情報を送出するデータ拡張機能を設定します。

- OFF : 送出しない
- 進路/速度 : 内蔵、または外部GPSで取得した進路/速度情報を送出する
※マニュアルで自局の位置情報を設定しているときは、進路/速度情報が取得できないため送出されません。
※この設定で送信した場合、移動局として扱われます。
- 出力/地上高/ゲイン/指向性 : 位置情報とともに、設定している出力/地上高/ゲイン/指向性情報を送出する
※マニュアルで自局の位置情報を設定しているときも送出します。
※この設定で送信した場合、固定局として扱われます。

※設定により、「コメント」に入力できる文字数が異なります。

出力 (初期設定：OW)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > ポジション > 出力

※「データ拡張」を「出力/地上高/ゲイン/指向性」に設定しているとき、この項目が表示されます。

位置情報とともに送出する固定局の送信出力を設定します。

- 選択肢 : OW、1W、4W、9W、16W、25W、36W、49W、64W、81W

地上高 (初期設定：3m)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > ポジション > 地上高

※「データ拡張」を「出力/地上高/ゲイン/指向性」に設定しているとき、この項目が表示されます。

位置情報とともに送出する固定局のアンテナの地上高情報を設定します。

- 選択肢 : 3m、6m、12m、24m、49m、98m、195m、390m、780m、1561m

※「高度/距離表示単位」を「ft」(フィート)に設定しているときは、「10ft」、「20ft」、「40ft」、「80ft」、「160ft」、「320ft」、「640ft」、「1280ft」、「2560ft」、「5120ft」から選択します。

4 GPS の操作＜応用編＞

■GPSの詳細設定

ゲイン (初期設定：0dB)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > ポジション > ゲイン

※「データ拡張」を「出力/地上高/ゲイン/指向性」に設定しているとき、この項目が表示されます。

位置情報とともに送出する固定局のアンテナのゲインを設定します。

- 選択肢：0dB、1dB、2dB、3dB、4dB、5dB、6dB、7dB、8dB、9dB

指向性 (初期設定：無指向性)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > ポジション > 指向性

※「データ拡張」を「出力/地上高/ゲイン/指向性」に設定しているとき、この項目が表示されます。

位置情報とともに送出する固定局のアンテナの指向性情報を設定します。

- 選択肢：無指向性、45°NE、90°E、135°SE、180°S、225°SW、270°W、315°NW、360°N

オブジェクト名

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > オブジェクト > オブジェクト名

オブジェクト局の名称を、9文字以内で設定します。

データタイプ (初期設定：Live Object)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > オブジェクト > データタイプ

オブジェクト局の状態を設定します。

- Live Object：オブジェクト局が有効
- Killed Object：オブジェクト局が無効

シンボル (初期設定：無線機)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > オブジェクト > シンボル

シンボルは、オブジェクト局の運用形態を伝えるためのアイコンです。

設定されたシンボルが、D-PRSで位置情報とともに送出されます。

※シンボルの入力方法(P.4-22)

コメント

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > オブジェクト > コメント

オブジェクト局のコメント(半角カタカナ、英数字、記号)を設定します。

登録できるコメント数は、1件です。

オブジェクト設定の中にある「データ拡張」と、「位置情報」(高度)の有無により、コメントに入力できる文字数は異なります。

データ拡張	高度	入力できる文字数
OFF	なし	43文字以内*
OFF	あり	35文字以内
進路/速度	なし	36文字以内
進路/速度	あり	28文字以内
出力/地上高/ゲイン/指向性	なし	36文字以内
出力/地上高/ゲイン/指向性	あり	28文字以内

★初期設定

※「**↓**」(有効範囲表示)が画面に表示された場合は、「**↓**」以降の文字列を送出しませんので、ご注意ください。

位置情報

(初期設定：緯度：0° 00' 00" N 経度：0° 00' 00" E
高度：-----m)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > オブジェクト > 位置情報

自局が知らせたい場所の緯度経度、高度情報を表示します。

[QUICK]を押すと、入力方法の選択項目が表示されます。
※知らせたい場所をGPSメモリーに登録しているときは、「GPSメモリーから選択」をタッチすると、GPSメモリーの位置情報をコピーできます。

＜手動で位置情報を入力する場合＞

1. [QUICK]を押す
2. 「編集」をタッチする
3. 「緯度」をタッチする
4. 緯度を入力する
 - 「N/S」をタッチすると、北緯と南緯が切り替わります。
5. [ENT]をタッチする
6. 「経度」をタッチする
7. 経度を入力する
 - 「E/W」をタッチすると、東経と西経が切り替わります。
8. [ENT]をタッチする
9. 「高度」をタッチする
10. 高度を入力する
 - 数字を入力後、「+/-」をタッチすると、「+」と「-」が切り替わります。
11. [ENT]をタッチする
12. 「《書き込み》」を選択する
13. 「はい」をタッチする
 - 位置情報が入力されます。

4 GPS の操作＜応用編＞

■GPSの詳細設定

データ拡張 (初期設定：OFF)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > オブジェクト > データ拡張

オブジェクト局の進路/速度情報や出力/地上高/ゲイン/指向性情報を送出するデータ拡張機能を設定します。

- OFF : 送出不しい
- 進路/速度 : 内蔵、または外部で取得した進路/速度情報を送出する
※マニュアルで自局の位置情報を設定しているときは、進路/速度情報が取得できないため送出されません。
- 出力/地上高/ゲイン/指向性 : 位置情報とともに、設定している出力/地上高/ゲイン/指向性情報を送出する
※マニュアルで自局の位置情報を設定しているときも送出します。

※設定により、「コメント」に入力できる文字数が異なります。

進路 (初期設定：0°)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > オブジェクト > 進路

※「データ拡張」を「進路/速度」に設定しているとき、この項目が表示されます。

オブジェクト局の進路情報を設定します。

- 設定範囲：0°～360°

速度 (初期設定：0km/h)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > オブジェクト > 速度

※「データ拡張」を「進路/速度」に設定しているとき、この項目が表示されます。

オブジェクト局の速度情報を設定します。

- 設定範囲：00～1850km/h

※mph設定時は0～1150mph、knot設定時は0～999ktです。

出力 (初期設定：0W)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > オブジェクト > 出力

※「データ拡張」を「出力/地上高/ゲイン/指向性」に設定しているとき、この項目が表示されます。

オブジェクト局の送信出力を設定します。

- 選択肢：0W、1W、4W、9W、16W、25W、36W、49W、64W、81W

地上高 (初期設定：3m)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > オブジェクト > 地上高

※「データ拡張」を「出力/地上高/ゲイン/指向性」に設定しているとき、この項目が表示されます。

オブジェクト局のアンテナの地上高情報を設定します。

- 選択肢：3m、6m、12m、24m、49m、98m、195m、390m、780m、1561m
- ※「高度／距離表示単位」を「ft」(フィート)に設定しているときは、「10ft」、「20ft」、「40ft」、「80ft」、「160ft」、「320ft」、「640ft」、「1280ft」、「2560ft」、「5120ft」から選択します。

ゲイン (初期設定：0dB)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > オブジェクト > ゲイン

※「データ拡張」を「出力/地上高/ゲイン/指向性」に設定しているとき、この項目が表示されます。

オブジェクト局のアンテナのゲインを設定します。

- 選択肢：0dB、1dB、2dB、3dB、4dB、5dB、6dB、7dB、8dB、9dB

指向性 (初期設定：無指向性)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > オブジェクト > 指向性

※「データ拡張」を「出力/地上高/ゲイン/指向性」に設定しているとき、この項目が表示されます。

オブジェクト局のアンテナの指向性情報を設定します。

- 選択肢：無指向性、45°NE、90°E、135°SE、180°S、225°SW、270°W、315°NW、360°N

SSID (初期設定：---)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > オブジェクト > SSID

オブジェクト局の運用形態を他局に伝えるために、コールサインのあとに付加するAPRSに準拠したSSIDを選択します。

※コールサインの文字列にスペースを含むかどうかによって、SSIDの付加方法は異なります。

- --- : コールサインの文字列に含まれるスペースを「-」に置換する
- (-0) : SSIDを付加しない
- -1～-15 : 「-1」から「-15」のSSIDを付加する
- -A～-Z : 「-A」から「-Z」のSSIDを付加する

4 GPS の操作＜応用編＞

■GPSの詳細設定

タイムスタンプ (初期設定：日時分)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > オブジェクト > タイムスタンプ

データ送出時の時間情報(UTC時間)を送出するタイムスタンプ機能を設定します。

- 日時分 : 日、時間、分の情報を送出する
- 時分秒 : 時間、分、秒の情報を送出する

アイテム名

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > アイテム > アイテム名

アイテム局の名称を、9文字以内で設定します。

データタイプ (初期設定：Live Item)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > アイテム > データタイプ

アイテム局の状態を設定します。

- Live Item : アイテム局が有効
- Killed Item : アイテム局が無効

シンボル (初期設定：無線機)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > アイテム > シンボル

シンボルは、アイテム局の運用形態を伝えるためのアイコンです。

設定されたシンボルが、D-PRSで位置情報とともに送出されます。

※シンボルの入力方法(P.4-22)

コメント

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > アイテム > コメント

アイテム局のコメント(半角カタカナ、英数字、記号)を設定します。

登録できるコメント数は、1件です。

アイテム設定の中にある「データ拡張」と、「位置情報」(高度)の有無により、コメントに入力できる文字数は異なります。(P.4-24)

※「J」(有効範囲表示)が画面に表示された場合は、「J」以降の文字列を送出しませんので、ご注意ください。

位置情報

(初期設定：緯度：0° 00° 00° N 経度：0° 00° 00° E
高度：-----m)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > アイテム > 位置情報

自局が知らせたい場所の緯度経度、高度情報を表示します。
[QUICK]を押すと、入力方法の選択項目が表示されます。
※知らせたい場所をGPSメモリーに登録しているときは、「GPSメモリーから選択」をタッチすると、GPSメモリーの位置情報をコピーできます。

〈手動で位置情報を入力する場合〉(P.4-24)

データ拡張 (初期設定：OFF)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > アイテム > データ拡張

アイテム局で、進路/速度情報や出力/地上高/ゲイン/指向性情報を送出するデータ拡張機能を設定します。

- OFF : 送出しない
 - 進路/速度 : 内蔵、または外部で取得した進路/速度情報を送出する
※マニュアルで自局の位置情報を設定しているときは、進路/速度情報が取得できないため送出されません。
 - 出力/地上高/ゲイン/指向性 : 位置情報とともに、設定している出力/地上高/ゲイン/指向性情報を送出する
※マニュアルで自局の位置情報を設定しているときも送出します。
- ※「進路/速度」、または「出力/地上高/ゲイン/指向性」を選択したときは、「コメント」に入力できる文字数が異なります。

進路 (初期設定：0°)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > アイテム > 進路

※「データ拡張」を「進路/速度」に設定しているとき、この項目が表示されます。

アイテム局の進路情報を設定します。

- 設定範囲：0°～360°

速度 (初期設定：0km/h)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > アイテム > 速度

※「データ拡張」を「進路/速度」に設定しているとき、この項目が表示されます。

アイテム局の速度情報を設定します。

- 設定範囲：00～1850km/h
- ※mph設定時は0～1150mph、knot設定時は0～999ktです。

4 GPS の操作<応用編>

■GPSの詳細設定

出力 (初期設定：0W)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > アイテム > 出力

※「データ拡張」を「出力/地上高/ゲイン/指向性」に設定しているとき、この項目が表示されます。

アイテム局の送信出力を設定します。

- 選択肢：0W、1W、4W、9W、16W、25W、36W、49W、64W、81W

地上高 (初期設定：3m)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > アイテム > 地上高

※「データ拡張」を「出力/地上高/ゲイン/指向性」に設定しているとき、この項目が表示されます。

アイテム局のアンテナの地上高情報を設定します。

- 選択肢：3m、6m、12m、24m、49m、98m、195m、390m、780m、1561m

※「高度/距離表示単位」を「ft」(フィート)に設定しているときは、「10ft」、「20ft」、「40ft」、「80ft」、「160ft」、「320ft」、「640ft」、「1280ft」、「2560ft」、「5120ft」から選択します。

ゲイン (初期設定：0dB)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > アイテム > ゲイン

※「データ拡張」を「出力/地上高/ゲイン/指向性」に設定しているとき、この項目が表示されます。

アイテム局のアンテナのゲインを設定します。

- 選択肢：0dB、1dB、2dB、3dB、4dB、5dB、6dB、7dB、8dB、9dB

指向性 (初期設定：無指向性)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > アイテム > 指向性

※「データ拡張」を「出力/地上高/ゲイン/指向性」に設定しているとき、この項目が表示されます。

アイテム局のアンテナの指向性情報を設定します。

- 選択肢：無指向性、45°NE、90°E、135°SE、180°S、225°SW、270°W、315°NW、360°N

SSID (初期設定：---)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > アイテム > SSID

アイテム局の運用形態を他局に伝えるために、コールサインのあとに付加するAPRSに準拠したSSIDを選択します。

※コールサインの文字列にスペースを含むかどうかによって、SSIDの付加方法は異なります。

- --- : コールサインの文字列に含まれるスペースを「-」に置換する
- (-0) : SSIDを付加しない
- -1 ~ -15 : 「-1」から「-15」のSSIDを付加する
- -A ~ -Z : 「-A」から「-Z」のSSIDを付加する

シンボル (初期設定：ウェザーステーション)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > 気象 > シンボル

シンボルは、気象局の運用形態を伝えるためのアイコンです。設定されたシンボルが、D-PRSで位置情報とともに送出されます。

※シンボルの入力方法(P.4-22)

SSID (初期設定：---)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > 気象 > SSID

気象局の運用形態を他局に伝えるために、コールサインのあとに付加するAPRSに準拠したSSIDを選択します。

※コールサインの文字列にスペースを含むかどうかによって、SSIDの付加方法は異なります。

- --- : コールサインの文字列に含まれるスペースを「-」に置換する
- (-0) : SSIDを付加しない
- -1 ~ -15 : 「-1」から「-15」のSSIDを付加する
- -A ~ -Z : 「-A」から「-Z」のSSIDを付加する

コメント

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > 気象 > コメント

D-PRSで位置情報とともに送出するコメント(半角カタカナ、英数字、記号)を43文字以内で設定します。

登録できるコメント数は、1件です。

4 GPS の操作＜応用編＞

■GPSの詳細設定

タイムスタンプ (初期設定：OFF)

MENU > GPS > GPS送信モード > D-PRS >
送信フォーマット > 気象 > タイムスタンプ

データ送出時の時間情報(UTC時間)を送出するタイムスタンプ機能を設定します。

- OFF : 時間情報を送出しない
- 日時分 : 日、時間、分の情報を送出する
- 時分秒 : 時間、分、秒の情報を送出する

GPSセンテンス (初期設定：GGA)

MENU > GPS > GPS送信モード > NMEA >
GPSセンテンス

NMEAで位置情報を送出するセンテンスを選択します。
本製品で利用できるGPSセンテンスは、「RMC」、「GGA」、「GLL」、「VTG」、「GSA」、「GSV」の6種類ですが、同時に設定できるのは4種類までです。

※マニュアルで自局の位置情報を設定しているときは、「VTG」、「GSA」、「GSV」のセンテンスは送出不されます。

ご注意

本製品でGSVセンテンスをONにしてGPSメッセージを送信すると、GSVセンテンス非対応の機種(D-PRSガイド参照)ではGPSメッセージを正しく表示できません。
この場合は、GSVセンテンスをOFFにしてください。

GPSメッセージ

MENU > GPS > GPS送信モード > NMEA >
GPSメッセージ

NMEAで送信するメッセージを20文字(半角カタカナ、英数字、記号)まで入力できます。(D-PRSガイド参照)

ご参考

NMEAでメッセージを送信しないときは、入力したメッセージを削除してください。

GPS情報

MENU > GPS > GPS情報

GPS衛星の存在する方位/仰角、衛星番号や受信状態を表示します。(P.4-11)

4 GPS の操作＜応用編＞

■GPSの詳細設定

GPSポジション

MENU > GPS > GPSポジション

自局、相手局、GPSメモリー、GPSアラーム設定の位置情報を表示します。(P.4-6)

[DIAL]を回すと、MY画面、RX画面、MEM画面、ALM画面が切り替わります。

表の★印は、[QUICK]を短く押すと表示されるメニューで表示形式を切り替えられる項目です。

MY画面(自局の位置情報)

コンパス★	自局の進行方向
緯度	自局の緯度
経度	自局の経度
GL	自局の緯度/経度から計算したグリッド・ロケーター
高度	自局の高度
速度	自局の移動速度
時刻	GPSで受信している現在の時刻
進路	自局の進行方向(角度)

※マニュアルで自局の位置情報を設定(P.4-21)しているときは、緯度、経度、高度、GL(グリッド・ロケーター)、時刻(内部時計)を表示します。

RX画面(相手局の位置情報)

相手局の送信モード、または送信フォーマットによって表示される項目とその項目の意味が異なります。

ここでは受信状態別に一覧表示します。

※相手局に位置情報がない場合は、表示しません。

<1 NMEAを受信した場合>

コンパス★	自局から見た相手局の方向
緯度	相手局の緯度
経度	相手局の経度
GL	相手局の緯度/経度から計算したグリッド・ロケーター
高度	相手局の高度
距離	相手局との距離
進路	相手局の進行方向(角度)
速度	相手局の移動速度
測位時間	相手局が位置情報を測位した時間
コールサイン	相手局のコールサイン

<2 D-PRSのポジション(移動局)を受信した場合>

コンパス★	自局から見た相手局の方向
緯度	相手局の緯度
経度	相手局の経度
GL	相手局の緯度/経度から計算したグリッド・ロケーター
高度	相手局の高度
距離	相手局との距離
進路	相手局の進行方向(角度)
速度	相手局の移動速度
シンボル	相手局のシンボル
SSID	相手局のSSID
測位時間	相手局が位置情報を測位した時間
コールサイン	相手局のコールサイン(SSID付き)

<3 D-PRSのポジション(固定局)を受信した場合>

コンパス★	自局から見た相手局の方向
緯度	相手局の緯度
経度	相手局の経度
GL	相手局の緯度/経度から計算したグリッド・ロケーター
高度	相手局の高度
距離	相手局との距離
出力	相手局の送信出力情報
地上高	相手局のアンテナの地上高情報
ゲイン	相手局のゲイン情報
指向性	相手局のアンテナの指向性情報
シンボル	相手局のシンボル
SSID	相手局のSSID
測位時間	相手局が位置情報を測位した時間
コールサイン	相手局のコールサイン(SSID付き)

4 GPS の操作＜応用編＞

■GPSの詳細設定

<4 D-PRSのオブジェクト局/アイテム局を受信した場合>

コンパス★	自局から見たオブジェクト局/アイテム局の方向
オブジェクト名/アイテム名	オブジェクト局/アイテム局の名称
緯度	オブジェクト局/アイテム局の緯度
経度	オブジェクト局/アイテム局の経度
GL	オブジェクト局/アイテム局の緯度/経度から計算したグリッド・ロケータ
高度	オブジェクト局/アイテム局の高度
距離	オブジェクト局/アイテム局との距離
進路	オブジェクト局/アイテム局の進行方向(角度)
速度	オブジェクト局/アイテム局の移動速度
出力	オブジェクト局/アイテム局の送信出力情報
地上高	オブジェクト局/アイテム局のアンテナの地上高情報
ゲイン	オブジェクト局/アイテム局のゲイン情報
指向性	オブジェクト局/アイテム局のアンテナの指向性情報
シンボル	オブジェクト局/アイテム局のシンボル
SSID	相手局のSSID
タイムスタンプ	相手局がオブジェクト局の情報を送信した時間
コールサイン	相手局のコールサイン(SSID付き)

※オブジェクト局、またはアイテム局が無効であれば、「KILLED」を表示します。

<5 D-PRSの気象局を受信した場合>

コンパス★	自局から見た相手局の方向
緯度	相手局の緯度
経度	相手局の経度
GL	相手局の緯度/経度から計算したグリッド・ロケータ
距離	相手局との距離
気温	相手局から受けた気温情報
雨量	相手局から受けた直近1時間の降雨量
風向	相手局から受けた風向情報
風速	相手局から受けた風速情報
気圧	相手局から受けた気圧情報
湿度	相手局から受けた湿度情報
シンボル	相手局のシンボル
SSID	相手局のSSID
タイムスタンプ	相手局が気象情報を取得した時間
コールサイン	相手局のコールサイン(SSID付き)

MEM画面(GPS個別メモリー設定の位置情報)

コンパス★	自局から見たGPSの方向
緯度	GPSメモリーに設定した緯度
経度	GPSメモリーに設定した経度
GL	GPSメモリーに設定した緯度/経度から計算したグリッド・ロケータ
距離	自局との距離
GPSメモリー★	GPSメモリーに設定しているネーム

ALM画面(GPSアラーム設定の位置情報)

コンパス★	自局から見たGPSアラーム設定地の方向
緯度	GPSアラームに設定した緯度
経度	GPSアラームに設定した経度
GL	GPSアラームに設定した緯度/経度から計算したグリッド・ロケータ
距離	自局との距離
GPSアラーム★	OFF/受信/グループ名/個別のメモリーネームを表示

4 GPS の操作＜応用編＞

■GPSの詳細設定

GPSメモリー

MENU > GPS > GPSメモリー

GPSポジション(P.4-6)や受信履歴(P.3-14)に含まれる位置情報、よく利用する場所の位置情報の追加など、最大300CHまで登録できます。

GPSメモリーは、「(グループなし)」というグループと、A～Zの合計27グループに分けて登録できます。

GPSメモリーの表示内容

(グループなし)	A～Zのグループに属さないGPSメモリーグループ
A～Z:グループネーム	各グループに登録されているGPSメモリーグループ

GPSメモリーのグループ(A～Z)

グループネーム	グループの名称(全角8文字/半角16文字以内)
---------	-------------------------

※グループネームを編集できます。(P.4-16)

GPSメモリーチャンネル

ネーム	GPSメモリーチャンネルの名称(全角8文字/半角16文字以内)
日付	登録した日付
時間	登録した時間
緯度	登録位置(緯度)
経度	登録位置(経度)
高度	登録した高度
グループ	所属しているグループとグループの名称

※GPSポジション画面から相手局の位置情報を登録したときは、相手局のコールサインがGPSメモリーネームになります。

[QUICK]を短く押すと、GPSメモリーネームなど、GPSメモリーの内容を編集できます。(P.4-13)

アラーム選択 (初期設定: OFF)

MENU > GPS > GPSアラーム > アラーム選択

GPSアラームを鳴らす対象を選択します。

- OFF : GPSアラーム機能をOFFにする
- 受信 : 受信した相手局と自局の距離が近づいたときに、「ピロロロ…」と鳴らす
- グループ : 指定したグループにあるいずれかの位置に近づいたときに、「ピロロロ…」と鳴らす
※すべてのメモリーにアラームを設定した場合もこの項目を選択する
- メモリー : 指定したメモリーの位置に近づいたときに、「ピロロロ…」と鳴らす

アラームエリア(グループ) (初期設定: 0'15")

MENU > GPS > GPSアラーム > アラームエリア(グループ)

GPSアラームを鳴らす範囲を設定します。

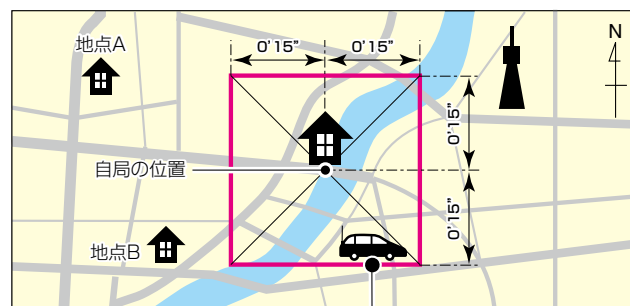
自局の現在地を中心に、東西南北にそれぞれ設定した値(距離)の範囲(正方形)を監視し、GPSアラームを設定した局がその範囲に入ると、「ピロロロ…」と鳴ります。

※アラーム選択の「グループ」で、「全て」、「(グループなし)」、または「A～Z」に設定しているときに有効な機能です。

※位置情報の表示形式は「緯度/経度」の設定によります。

- ddd° mm.mm' 表示形式の場合
選択肢: 0.08' ~ 59.99' (0.01' 刻み)
- ddd° mm' ss" 表示形式の場合
選択肢: 0' 05" ~ 59' 59" (0' 01" 刻み)
- ddd.dddd° 表示形式の場合
選択肢: 0.0014 ~ 0.9999 (0.0001 刻み)

例: アラームエリア(グループ): 0' 15" (初期設定)



地点C
「ピロロロ…」と3回鳴る

上図のエリア(□野線内)に対象となる局が入ると、GPSアラームが鳴り、GPSアラーム表示が点滅します。

4 GPS の操作＜応用編＞

■GPSの詳細設定

アラームエリア(受信/メモリー) (初期設定：両方)

MENU > GPS > GPSアラーム >
アラームエリア(受信/メモリー)

GPSアラームを鳴らす範囲を設定します。

自局の現在地を中心に、設定された値(距離)の範囲(円形)を監視し、GPSアラームを設定した局がその範囲に入ると、GPSアラームが鳴り、GPSアラーム表示が点滅します。

※アラーム選択を「受信」、または「メモリー」で特定のGPSメモリーチャンネルに設定しているときに有効な機能です。(P.4-18)

- 狭い : GPSアラームを設定した局が半径約500m圏内に入ると、ビーブ音が3回鳴ると同時に、GPSアラーム表示が点滅する
- 広い : GPSアラームを設定した局が半径約1km圏内に入ると、ビーブ音が3回鳴ると同時に、GPSアラーム表示が点滅する
- 両方 : GPSアラームを設定した局が半径約1km圏内に入ると、ビーブ音が1回鳴ると同時に、GPSアラーム表示が点滅する
半径約500m圏内に入るとビーブ音が3回鳴ると同時に、GPSアラーム表示が点滅する
なお、500m圏内から出て約1km以内にいる場合は、GPSアラーム表示だけが点滅する

例：



上図のエリア(○野線内)に対象となる局が入ると、GPSアラームが鳴り、GPSアラーム表示が点滅します。

GPSロガー (初期設定：ON)

MENU > GPS > GPSロガー > GPSロガー

本製品の内蔵GPSからの位置情報を記録するための設定です。

● OFF : GPSからの位置情報を記録しない

● ON : GPSからの位置情報を記録する

※あらかじめ本製品にmicroSDカードを取り付けておいてください。

※マニュアルで自局の位置情報を設定しているときは、記録されません。

ご参考

「ON」に設定すると、「記録間隔」で設定した時間ごとに、4種類のセンテンス(GGA/RMC/GSA/VTG)をNMEAセンテンス形式で、microSDカードにログデータを保存します。保存されるログデータのファイル名は、下記ようになります。

例：2026年4月1日15時30分00秒から記録を開始した場合
20260401_153000

記録間隔 (初期設定：5秒)

MENU > GPS > GPSロガー > 記録間隔

GPSロガー機能を「ON」に設定したとき、記録する間隔を設定します。

● 選択肢：1秒、5秒、10秒、30秒、1分、5分、10分

記録センテンス

(初期設定：☒RMC/☒GGA/☒VTG/☒GSA)

MENU > GPS > GPSロガー > 記録センテンス

記録したい内容にあわせて記録センテンスを選択します。

● タッチするごとにセンテンスを解除/選択する

GPS自動送信 (初期設定：OFF)

MENU > GPS > GPS自動送信

GPSからの位置情報を一定間隔で自動的に送出するGPS自動送信タイマーを設定します。

● OFF : 自局の位置情報を自動送出しない

● 30秒～30分 : 自局のコールサインを設定し、「GPS送信モード」を「D-PRS」、または「NMEA」にすると、設定した時間(30秒、1分、3分、5分、10分、30分)ごとに位置情報を送出する

※「OFF」に設定したときは、マイクロホンの[PTT]を押すと自局の位置情報を送出できます。

※「GPS送信モード」を「NMEA」に設定して送信する場合は、必ず「GPS選択」を「内蔵GPS」、または「外部GPS」に設定してください。(P.4-21)

「OFF」、または「マニュアル」に設定すると、GPS自動送信は無効になります。

ご使用になる microSD カードの取り付けや注意事項などは、簡易マニュアル4章をご覧ください。

■ 送信内容を録音する	5-2
■ ボイスネームの入力	5-3
■ 送信用ボイスメモリーの送出	5-3
◇ 1回だけ送出する	5-3
◇ 繰り返し送出する	5-4
■ ボイス送信設定画面	5-4

5 ボイス送信

■送信内容を録音する

送信用ボイスメモリー(T1～T8)として、短い音声をmicroSDカードに録音(最大1分30秒/1件)できます。コンテスト時の自局コールサインやコンテストナンバーの送出、弱い信号の局をコールするときの自局コールサインの繰り返し送信などに使用できます。

また、HM-207(別売品：多機能マイクロホン)、HM-232(付属/別売品：ハンドマイクロホン)のキーにボイス送信機能を割り当てることもできます。

(P.10-9、P.10-10)

microSDカードへの録音開始方法

1. VOICE TX画面を表示させる

MENU > VOICE

2. 「REC」をタッチする
3. 録音するボイスメモリーチャンネル(T1～T8)をタッチする(例：T1)



- VOICE送信録音画面が表示されます。

4. 録音ボタン(赤い点)をタッチする
 - 録音が始まります。
 - ※録音を開始すると、microSDカードのVoiceTxフォルダー内に音声ファイルが作成されます。
 - ※再度録音すると、録音内容が上書きされます。
 - ※Bluetoothヘッドセットが本製品に接続されていない状態で、[MIC SEL]をタッチしてBluetoothマイクを選択したときは、が表示されます。

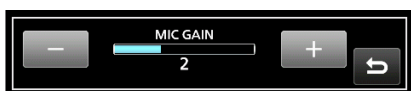
音声レベルが矢印の位置を超えないように、マイクゲインを調整



録音中の表示

本体マイク/
Bluetooth
マイク
切り替え時に
タッチ

マイクゲイン
調整時に
タッチ



ご注意

音声を録音する場合は、市販のmicroSDカードが必要です。

5. 録音を停止するときは、をタッチする
6. [EXIT]を数回押す
 - VOICE送信録音画面が解除されます。

ボイスメモリーに録音した内容を確認する

1. 「microSDカードへの録音開始方法」(手順1～3)の操作で、VOICE送信録音(T1)画面を表示させる
2. 再生ボタン(再生アイコン)をタッチする
 - 再生が始まります。
 - ※再生中に停止するときは、をタッチします。



再生中の表示

3. [EXIT]を数回押す
 - VOICE送信録音画面が解除されます。

録音内容の消去

VOICE送信録音画面で、対象のボイスメモリーチャンネル(T1～T8)を長く(約1秒)タッチし、表示されたクイックメニューで「クリア」をタッチします。

5 ボイス送信

■ボイスネームの入力

録音したボイスメモリーチャンネル(T1～T8)にボイスネーム(名前)を登録できます。

1. VOICE送信録音画面を表示させる

MENU > VOICE > REC

2. ネームを登録したいボイスメモリーチャンネル(T1～T8)を長く(約1秒)タッチする



3. 「ネーム編集」をタッチする



4. ネーム(例: コンテスト)を入力し、[ENT]をタッチする
※入力方法や文字の種類、最大文字数などは、iiiページをご覧ください。



5. [EXIT]を数回押す
• VOICE送信録音画面が解除されます。

■送信用ボイスメモリーの送出

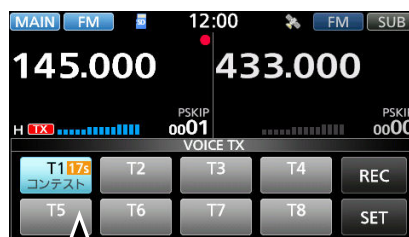
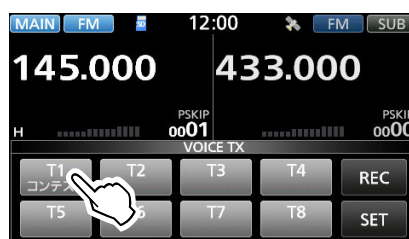
ボイスメモリーの送出(最大1分30秒/1件)には、1回だけの単発送信と、繰り返し送信があり、コンテスト時の自局コールサインやコンテストナンバーの送出などに使用します。

◇1回だけ送出する

1. VOICE TX画面を表示させる

MENU > VOICE

2. 送出するボイスメモリーチャンネル(T1～T8の中で音声録音済み)を短くタッチする(例: T1)
• 録音した音声は1回だけ送信されます。



送出残量時間

3. [EXIT]を数回押す
• VOICE TX画面が解除されます。

5 ボイス送信

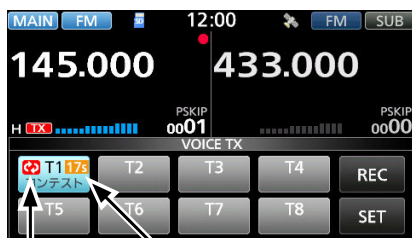
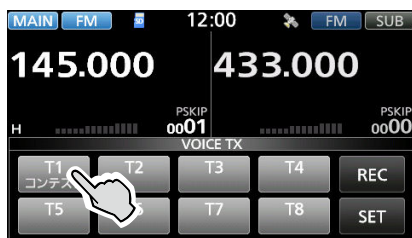
■送信用ボイスメモリーの送出

◇繰り返し送出する

1. VOICE TX画面を表示させる

MENU > VOICE

2. 送信するボイスメモリーチャンネル(T1～T8の中で音声録音済み)を長く(約1秒)タッチする(例：T1)
 - 録音した音声は、「リピート時間」の設定にしたがって10分間、繰り返し送信されます。
 - ※送信中に10分を超えた場合は、設定した音声を最後まで送信後、繰り返しが解除されます。
 - ※繰り返し送出時のインターバルで、信号を受信した場合は、信号がなくなるまで次の送出が保留されます。
 - ただし、スケルチをオープンに設定した状態で信号を受信した場合は、「リピート時間」の設定にしたがって、繰り返し送出されます。



3. [EXIT]を数回押す
 - VOICE TX画面が解除されます。

■ボイス送信設定画面

ボイスメモリーのリピート時間などを設定します。

1. VOICE送信設定画面を表示させる

MENU > VOICE > SET

2. 設定する項目をタッチする(例：送信モニター)



3. 設定値をタッチする(例：OFF)
 - ※設定項目と内容については、下記をご覧ください。
4. [EXIT]を押す
 - VOICE送信設定画面が解除されます。

送信モニター (初期設定：ON)

MENU > VOICE > SET > 送信モニター

ボイス送信をしたとき、送信時の音声を本製品のスピーカーから出力する機能です。

- OFF：ボイス送信時の音声をスピーカーから出力しない
- ON：ボイス送信時の音声をスピーカーから出力する

リピート時間 (初期設定：5秒)

MENU > VOICE > SET > リピート時間

ボイス送信で繰り返し送信するときの送信間隔についての設定です。

録音した音声を送信したあと、設定した時間(1秒～15秒)を経過することにより、自動で送信します。

※リピート送信は、最大10分間で、その時間を超えると送信を停止します。

10分を超えても送信中の場合は、設定した音声最後まで送信されます。

※は、次の送信までのあいだも表示されます。

- 選択肢：1秒～15秒

初期設定に戻す操作

設定項目、またはその設定値を長く(約1秒)タッチします。表示されたクイックメニューで「初期値に戻す」をタッチします。

ご使用になる microSD カードの取り付けや注意事項などは、簡易マニュアル4章をご覧ください。

■ 交信(QSO)内容を録音する	6-2
◇ クイックメニューから録音を開始する	6-2
◇ MENU画面から録音を開始する	6-2
■ 交信(QSO)内容を再生する	6-3
■ ボイスプレーヤー画面の操作	6-3
■ フォルダーとファイル情報の確認	6-4
■ 音声ファイルの削除	6-5
■ フォルダーの削除	6-5
■ 録音設定画面	6-6
■ 再生設定画面	6-7
■ 録音内容をパソコンで再生する	6-7

■交信(QSO)内容を録音する

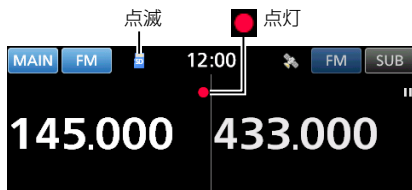
本製品は、交信内容(受信音/送信音)をmicroSDカードに録音できるQSOレコーダーを搭載しています。
コンテストなどにおける呼び出し内容、または自局の交信内容を保存できます。

microSDカードへの録音開始方法

下記の2とおりの操作があります。

- ◎[QUICK]を短く押して、クイックメニューから選択
- ◎[MENU]を短く押して、MENU画面(RECORD)から選択
- ※ 録音を開始すると、microSDカードのVoiceフォルダー内に音声ファイルが作成されます。(P.1-5)
- ※ 送信開始と同時に録音を開始するように変更できます。
(MENU > RECORD > 録音設定 > PTT自動録音)

録音中の表示



一時停止中の表示



録音時のご注意

- ◎ 録音する場合は、市販のmicroSDカードをmicroSDカードスロットに挿入してください。(P.1-2)
- ◎ 交信中、送信も受信もしていない状態になると、録音も一時停止し、再開すると録音が再開されます。
(スケルチ連動に設定時 P.6-6)
- ◎ 録音中は、microSDカードを取り出さないでください。
交信録音中に取り出すと、録音が途切れます。
また、microSDカードのデータ破損や消失の原因になります。
- ◎ 録音中に本製品の電源を入れなおしても、録音状態は保持されます。
- ◎ 録音を停止するか、microSDカードの空き容量がなくなるまで、録音されつづけます。
- ◎ 録音している音声ファイルの容量が2GBを超えたときは、自動的に新しいファイルが作成され、録音をつづけます。

◇クイックメニューから録音を開始する

1. [QUICK]を押す
2. 「<<録音開始>>」をタッチする



- ・「録音を開始しました。」が表示され、クイックメニューが解除されます。
- ※ 録音を停止するときは、クイックメニューの「<<録音停止>>」をタッチします。

◇MENU画面から録音を開始する

1. 交信録音/再生画面を表示させる
MENU > RECORD
2. 「<<録音開始>>」をタッチする



- ・「録音を開始しました。」が約1秒表示され、<<録音停止>>表示に切り替わります。
 - ※ 録音を停止するときは、「<<録音停止>>」をタッチします。
3. [EXIT]を押す
 - ・ 交信録音/再生画面が解除されます。

ご参考

◎MAINバンドだけを録音開始/停止するには

MENU画面で、「録音操作」を「A/B個別」に設定すると、MAINバンドに選択したバンドの交信内容だけの録音を開始、または停止します。(P.6-6)
(MENU > RECORD > 録音設定 > 録音操作)

◎常に録音状態にするには

MENU画面で、「受信録音条件」を「常時」に設定すると、<<録音開始>>選択時、すぐに録音を開始します。
※ 待ち受けしているときも、無音状態が録音されます。
(P.6-6)
(MENU > RECORD > 録音設定 > 受信録音条件)

6 交信録音/再生

■交信(QSO)内容を再生する

microSDカードに録音された交信内容を再生します。

1. ファイル再生画面を表示させる

MENU > RECORD > **ファイル再生**

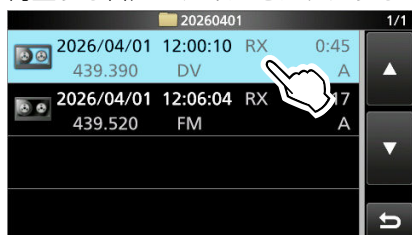
2. 対象のファイルが保存されたフォルダーをタッチする



※ フォルダー名は、録音された年(Y)、月(M)、日(D)の順に「YYYYMMDD」です。

※ 同日に録音した内容は、すべて同じフォルダーに保存されます。

3. 再生する音声ファイルをタッチする



• ボイスプレーヤー画面が表示され、音声再生されます。

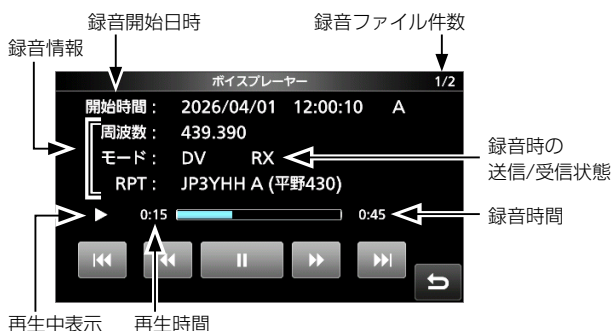
※ ファイル名は、録音を開始した年(Y)、月(M)、日(D)、時(h)、分(m)、秒(s)の順に「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」です。

※ フォルダー内に保存された音声ファイルが複数ある場合は、選択したファイルから最も古いファイルまで連続で再生します。

■ボイスプレーヤー画面の操作

音声ファイル再生中に表示される画面での操作です。

キー	動作
	タッチすることにより、1つ前の音声ファイルを最初から再生します。 ※最も古い音声ファイルが表示されている場合は、そのファイルを最初から再生します。
	タッチすることにより、次の音声ファイルを最初から再生します。 ※最も新しい音声ファイルが表示されている場合は、再生を停止します。
	タッチすることにより、早戻しします。 ※スキップ時間の初期設定は10秒です。 ※先頭から再生して1秒以内に早戻しをすると、1つ前のファイルの最後に移動します。
	タッチすることにより、早送りします。 ※スキップ時間の初期設定は10秒です。
	一時停止します。 ※一時停止中は、 に切り替わります。
	再生します。 ※再生中は、 に切り替わります。



※経路情報を示すアイコンが下記のように表示されます。

なし : RFで送信/受信
MONI : DVレピータモニター機能で受信
TM : ターミナルモードで送信/受信

ご参考

手順4で[QUICK]を押して、「表示ファイル」をタッチすると、一覧画面のファイルを絞り込んで表示できます。

- 全て : すべてのファイルを表示する
- Aのみ : Aバンド(左側)で録音したファイルだけを表示する
- Bのみ : Bバンド(右側)で録音したファイルだけを表示する



■フォルダーとファイル情報の確認

フォルダー情報(ファイル数、総容量、録音日時)とファイル情報を確認します。

ファイル情報で表示される項目については、下表をご覧ください。

フォルダー情報を確認する

1. ファイル再生画面を表示させる

MENU > RECORD > **ファイル再生**

2. 対象のフォルダーを長く(約1秒)タッチする



3. 「フォルダ情報」をタッチする



- フォルダ情報が表示されます。

4. [EXIT] を数回押す

- ファイル再生画面が解除されます。

ファイル情報を確認する

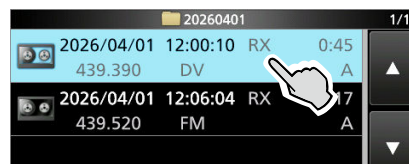
1. ファイル再生画面を表示させる

MENU > RECORD > **ファイル再生**

2. 対象のファイルが保存されたフォルダーをタッチする



3. 対象の音声ファイルを長く(約1秒)タッチする



4. 「ファイル情報」をタッチする



- ファイル情報が表示されます。

5. [EXIT] を数回押す

- ファイル再生画面が解除されます。

フォルダー情報で表示される項目

◎ファイル数 ◎総容量 ◎録音日時

ファイル情報で表示される項目

受信時：

◎周波数	◎運用モード
◎送信/受信状態	◎録音開始日時
◎自局位置情報★	◎レピータコールサイン★
◎相手局コールサイン★	◎Sメーター
◎相手局位置情報★	◎経路情報★

送信時：

◎周波数	◎運用モード
◎送信/受信状態	◎送信パワー
◎録音開始日時	◎自局位置情報★
◎レピータコールサイン★	◎相手局コールサイン★
◎経路情報★	

★運用状況によっては表示されません。

6 交信録音/再生

■音声ファイルの削除

録音した音声ファイルを削除、または一括削除します。

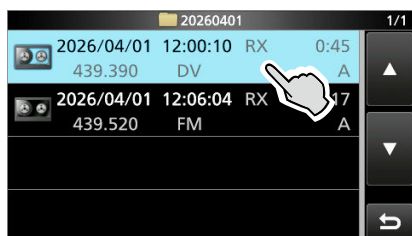
1. ファイル再生画面を表示させる

MENU > RECORD > **ファイル再生**

2. 対象のファイルが保存されたフォルダーをタッチする



3. 対象の音声ファイルを長く(約1秒)タッチする

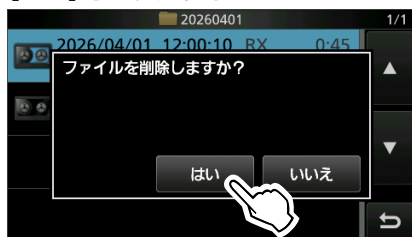


4. 「削除」をタッチする



※ フォルダ内のデータを一括削除する場合は、「全削除」をタッチします。

5. 「はい」をタッチする



• ファイルが削除され、音声ファイル一覧表示に戻ります。

6. [EXIT]を数回押す

• ファイル再生画面が解除されます。

■フォルダーの削除

録音した音声ファイルが保存されているVoiceフォルダー内のフォルダーごと削除、またはすべてのフォルダーを削除します。

1. ファイル再生画面を表示させる

MENU > RECORD > **ファイル再生**

2. 対象のフォルダーを長く(約1秒)タッチする

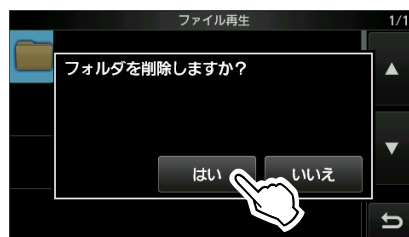


3. 「削除」をタッチする



※ すべてのフォルダーを一括削除する場合は、「全フォルダ削除」をタッチします。

4. 「はい」をタッチする



• フォルダが削除され、ファイル再生画面に戻ります。

5. [EXIT]を数回押す

• ファイル再生画面が解除されます。

6 交信録音/再生

■録音設定画面

microSDカードへの交信録音に関する設定をします。

1. 録音設定画面を表示させる

MENU > RECORD > 録音設定

2. 設定する項目をタッチする(例：受信録音条件)



3. 設定値をタッチする(例：常時)



※ 設定項目と内容については、下記をご覧ください。

4. [EXIT] を数回押す
• 録音設定画面が解除されます。

受信録音条件 (初期設定：スケルチ連動)

MENU > RECORD > 録音設定 > 受信録音条件

受信時にスケルチの状態に連動して録音するかどうかの設定です。

- 常時：受信信号の有無に関わらず録音する
※待ち受け中も、無音状態が録音されます。
- スケルチ連動
：信号を受信しているあいだ(スケルチが開いているあいだ)だけ録音する
※スケルチが閉じた直後は、2秒間録音を継続します。

ファイル分割 (初期設定：ON)

MENU > RECORD > 録音設定 > ファイル分割

録音を開始したときに作成されるファイルについての設定です。

- OFF：録音を開始すると、作成されたファイルに録音をつづける
※ファイル容量が4GBを超えるときは、新しく作成されたファイルで録音をつづけます。
- ON：送信→受信、受信→送信に切り替わったとき、およびスケルチがいったん閉じたとき(受信録音条件がスケルチ連動のときのみ)、新しいファイルが作成されて録音する

録音操作 (初期設定：A/B同時)

MENU > RECORD > 録音設定 > 録音操作

録音操作をしたとき、MAINバンドとSUBバンドを同時に録音開始、または停止するか、「MAIN」と表示されたバンドの録音を開始、または停止するかの設定です。

- A/B個別
：録音操作時、MAINバンドで録音を開始、または停止する
- A/B同時
：録音操作時、MAINバンド、SUBバンド同時に録音を開始、または停止する
※シングル表示では、表示されているバンド(A、またはB)だけで録音を開始、または停止します。

PTT自動録音 (初期設定：ON)

MENU > RECORD > 録音設定 > PTT自動録音

送信すると、交信内容(音声)の録音を開始するかどうかの設定です。

※スピーカーマイクホン、Bluetooth、VOX機能、CI-Vからの送信でも自動録音を開始できます。

- OFF：送信しても、録音をしない
- ON：送信すると録音を開始し、下記の条件で録音状態を停止する

【停止条件】

- ◎送信終了後、10秒以上送信しないとき
- ◎送信終了後、10秒以上受信信号がないとき
※送信終了後、10秒以内に信号を受信すると、受信した信号も録音します。
受信終了後、さらに10秒以内に信号を受信すると、その受信した信号も録音します。
- ◎送信終了後、周波数、運用モード、運用モード(電波型式)を変更したとき

送信前録音(PTT自動録音) (初期設定：10秒)

MENU > RECORD > 録音設定 > 送信前録音(PTT自動録音)

「PTT自動録音」を「ON」に設定したとき、送信操作時点からさかのぼって、microSDカードに交信録音される時間の設定です。

- 選択肢：OFF、5秒、10秒、15秒

6 交信録音/再生

■再生設定画面

microSDカードに録音した音声ファイルの再生中、早送りや早戻しをしたときに移動する時間を変更できます。

- 選択肢：3秒、5秒、10秒、30秒

1. 再生設定画面を表示させる

MENU > RECORD > 再生設定

2. 「スキップ時間」をタッチする



3. 表示された画面で、設定値をタッチする(例：5秒)



4. [EXIT] を数回押す

- 再生設定画面が解除されます。

■録音内容をパソコンで再生する

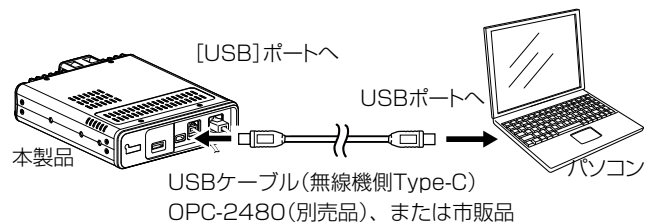
microSDカードに録音された音声ファイルをパソコンに取り込んで、お使いのアプリケーションソフトウェアで再生する手順です。

※ 録音した周波数や時間などの情報は表示されません。

※ 録音データが保存されているmicroSDカードを取り付けておく必要があります。

1. 本製品とパソコンをUSBケーブルで接続する

※USBケーブルは、データ通信対応製品をお使いください。



2. USB接続画面を表示させる

MENU > SET > 外部端子 > USB接続

3. 「SDカードモード」をタッチする

• 確認画面が表示されます。

※ [FUNC] を押して表示されるFUNCTION画面で「USB」をタッチして「SDカード」に設定しても、SDカードモードに切り替えられます。

4. [はい] をタッチする

• SDカードモードでパソコンに接続され、microSDカードのデータが保存されているフォルダーが表示されます。

5. 「Voice」フォルダーを開く

※ microSDカードの階層については、1-5ページをご覧ください。

6. 再生したいファイルが格納されているフォルダーを開く

※ フォルダー名は、録音された年(Y)、月(M)、日(D)の順に「YYYYMMDD」です。

7. 再生したい音声ファイルをダブルクリックする

• 録音した音声再生されます。

※ ファイル名は、録音を開始した年(Y)、月(M)、日(D)、時(h)、分(m)、秒(s)の順に「YYYYMMDD_hhmmss.wav」です。

※ 再生中の操作はお使いのソフトウェアにより異なります。詳しくは、お使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

※ 録音した内容が再生されない場合、再生用ソフトウェア(Windows Media Playerなど)をダウンロードしてください。

■ メモリーチャンネルの種類	7-2
◇ 1つのメモリーチャンネルが記憶できる内容	7-2
◇ メモリーの階層イメージ	7-2
■ メモリーチャンネルグループの切り替え	7-3
■ メモリーチャンネルの書き込み	7-3
■ メモリーチャンネルの呼び出し	7-4
■ コールチャンネルの呼び出し	7-4
■ メモリーチャンネルの内容をコピーする	7-5
◇ VFOにコピーする	7-5
◇ 別のメモリーチャンネルにコピーする	7-5
■ メモリーチャンネルの内容を移動する	7-6
■ 空きチャンネルを挿入する	7-6
■ メモリーチャンネルに名前を登録する	7-7
◇ グループネームの入力	7-7
◇ メモリーネームの入力	7-7
■ メモリーネームの表示について	7-8
◇ 表示タイプの変更	7-8
■ メモリーを消去する	7-9
■ メモリーチャンネル一覧の見かた	7-9

7 メモリーチャンネルの使いかた

■メモリーチャンネルの種類

下表のメモリーチャンネルが使用できます。

よく使用する周波数や運用情報などをあらかじめメモリーチャンネルに記憶させておき、すばやく呼び出して運用できます。

通常のメモリーチャンネルとして、最大100グループまで作成でき、1グループあたり最大100チャンネル、合計1000チャンネルまで記憶できます。

グループ	メモリーチャンネル	用途
グループ00 ～ グループ99	00～99	100グループ×100チャンネルあります。 ※最大1000チャンネルまで、 100グループに分けて登録できます。
コール チャンネル	144 C1/C2 430 C1/C2	144MHz帯(C1/C2)と 430MHz帯(C1/C2)に 呼出周波数を記憶します。

◇1つのメモリーチャンネルが記憶できる内容

すべてのメモリーチャンネルには下記の内容が記憶されます。

- 運用周波数
- デュプレックスのON/OFF
- シフト方向(+/-)
- オフセット周波数
- メモリーネーム
- スキップチャンネル設定
- チューニングステップ(TS)
- 運用モード(電波型式)
- トーンスケルチ設定とトーン周波数
- レピータアクセス用トーン周波数
- DTCSのコードと極性
- デジタルスケルチ設定のON/OFFとデジタルコード
- TRAIN1/2(空線キャンセラー)
- TRAIN1周波数
- 相手局コールサイン
- R1/R2 コールサイン

ご注意

メモリーの内容は、静電気や電氣的雑音などで消失することがあります。

また、故障や修理の際にも消失する場合があります。メモリーの内容をmicroSDカード、またはパソコンに保存しておくことをおすすめします。

※microSDカードは、市販品を別途ご用意ください。

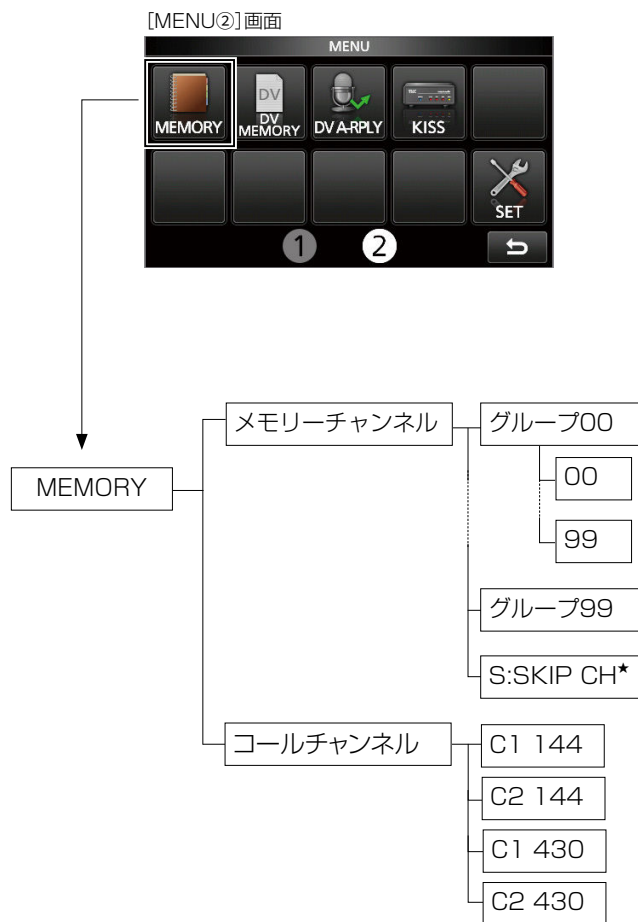
※パソコンに保存するときは、CS-5200(弊社ホームページからダウンロードできる無償ソフトウェア)もお使いいただけます。

◇メモリーの階層イメージ

メモリーチャンネルの登録やネーム編集、グループ割り当てなどができます。

◎メモリーチャンネル、グループの一覧表示、登録内容の確認

◎メモリーチャンネルのコピーや移動、チャンネルの挿入や消去



★VFOスキャン中に信号を受信して一時停止したときに[QUICK]を押して[SKIP CHグループ登録]をタッチすると、その周波数が書き込まれます。

7 メモリーチャンネルの使いかた

■メモリーチャンネルグループの切り替え

1. メモリー表示をタッチしてメモリーモードにする
2. 再度メモリー表示をタッチする
3. [GROUP]をタッチする



4. グループをタッチして選択する



※ 画面の左上で、現在表示しているグループを確認できます。
タッチすると、「全てのグループ」、「登録グループのみ」
を切り替えられます。

全てのグループ : すべてのグループを表示する

登録グループのみ : メモリーチャンネルが1件以上登録さ
れているグループだけを表示する

■メモリーチャンネルの書き込み

ご注意

すでに書き込んでいるチャンネルに別の内容を書き込む
と、先の内容が消去され、新しい内容が上書きされます。

1. VFOモードで周波数と運用モードなどを設定する
2. メモリー表示をタッチする
3. [MW]をタッチする



4. 該当する項目をタッチする(例：新規書き込み)

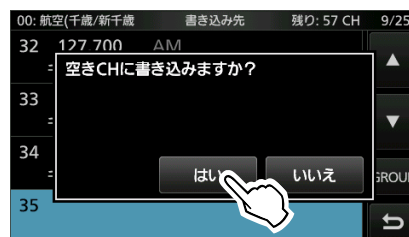


5. 設定内容を書き込むメモリーチャンネルをタッチする
(例：35チャンネル)



※ 書き込みたいグループを変更するとき、[GROUP]を
タッチして選択します。

6. [はい]をタッチする



- 選択したメモリーチャンネルに設定した内容が書き込まれ
ます。

ご参考

手順3で、[MW]を長く(約1秒)タッチすると、現在のグ
ループの空きチャンネルに書き込みます。



7 メモリーチャンネルの使いかた

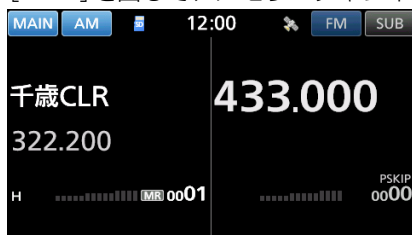
■メモリーチャンネルの呼び出し

下記の3とおりの操作があります。

- ◎ [DIAL]を回して呼び出す
- ◎ メモリー画面で呼び出す
- ◎ ダイレクト入力画面の[CH-INP]で、メモリーチャンネル番号を入力して呼び出す

[DIAL]を回して呼び出す

1. メモリー表示をタッチしてメモリーモードにする
2. [DIAL]を回して、メモリーチャンネルを選択する



※ 空きチャンネルは表示されません。

ご参考

- ◎ クイックメニューで「グループ切替」を選択すると、表示したいグループを選択できます。
- ◎ [DIAL]でメモリーチャンネルを選択するとき、グループをまたいで切り替えたい場合は、クイックメニューの「チャンネル選択の対象グループ」を「全てのグループ」に設定してください。



クイックメニューの画面

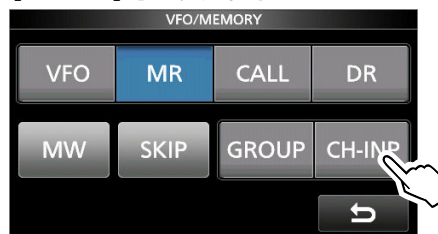
メモリー画面で呼び出す

1. メモリーチャンネル画面を表示させる
MENU > MEMORY > **メモリーチャンネル**
2. 呼び出したいグループをタッチする
3. 呼び出したいチャンネルをタッチする



ダイレクト入力画面[CH-INP]から呼び出す

1. メモリー表示をタッチしてメモリーモードにする
2. 再度メモリー表示をタッチする
3. [CH-INP]をタッチする



• 選択中のグループ番号が表示されます。

4. メモリーチャンネル番号を入力する(例：01)



※ チャンネルが1桁の場合は、数字のあとに[ENT]をタッチしても決定します。

※ 入力を取り消すときは、[CE]をタッチします。

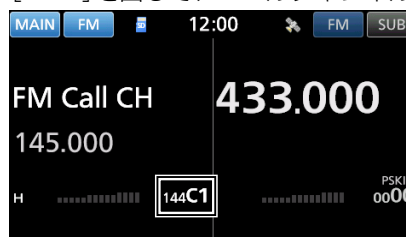
※ CH-INP画面を解除したいときは、[EXIT]を押します。

5. [ENT]をタッチする
 - CH-INP画面が解除され、選択したメモリーチャンネルの内容が表示されます。

■コールチャンネルの呼び出し

コールチャンネル(C1/C2)は、コールチャンネルモードからも呼び出せます。

1. メモリー表示をタッチする
2. [CALL]をタッチする
 - コールチャンネルモードが表示されます。
3. [DIAL]を回して、コールチャンネルを選択する



• コールチャンネルモード時は、「144 C1」、「144 C2」、「430 C1」、「430 C2」が表示されます。

7 メモリーチャンネルの使いかた

■メモリーチャンネルの内容をコピーする

メモリーチャンネルの内容をVFO、または別のメモリーチャンネルにコピーできます。

メモリーチャンネルに登録されている運用モード、トーン設定などが同じで、周波数だけを変更して運用するときや、別のメモリーチャンネルに登録したいときに使用します。

◇VFOにコピーする

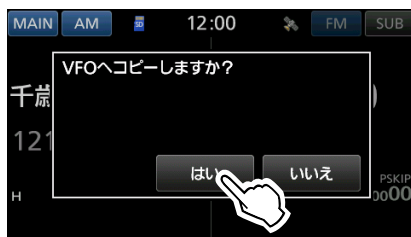
1. メモリー表示をタッチしてメモリーモードにする
2. [DIAL]を回して、コピー元のメモリーチャンネルを選択する
3. メモリー表示をタッチする
4. [MW]をタッチする



5. 「VFOへコピー」をタッチする



6. [はい]をタッチする



- メモリーチャンネルの内容がVFOモードに転送されます。

◇別のメモリーチャンネルにコピーする

1. メモリーチャンネル画面を表示させる
MENU > MEMORY > **メモリーチャンネル**
2. コピー元のメモリーグループをタッチする
(例：グループ00)
3. [DIAL]を回して、コピー元のメモリーチャンネルを選択する(例：01チャンネル)
4. [QUICK]を短く押す
5. 「コピー」をタッチする



- 画面上に「コピー先」が点滅表示されます。

※[GROUP]をタッチすると、ほかのグループを選択できます。

6. コピー先のチャンネルをタッチする
(例：35チャンネル)



- 「ピピッ」と鳴って、メモリー内容がコピーされます。

※コピー先のチャンネルにメモリーが書き込まれている場合は、上書きの確認画面が表示されます。

7 メモリーチャンネルの使いかた

■メモリーチャンネルの内容を移動する

メモリーチャンネルの内容をほかのグループに移動できます。

1. メモリーチャンネル画面を表示させる
MENU > MEMORY > **メモリーチャンネル**
2. 移動するチャンネルがあるメモリーグループをタッチする(例：グループ00)
3. [DIAL]を回して、移動するメモリーチャンネルを選択する(例：01チャンネル)
4. [QUICK]を短く押す
5. 「移動」をタッチする



• 画面上に「挿入先」が点滅表示されます。

※[GROUP]をタッチすると、ほかのグループを選択できます。

6. 移動先のチャンネルをタッチする
(例：グループ03、09チャンネル)



• 「ピピッ」と鳴って、メモリー内容が移動されます。

※選択したチャンネル以降は、チャンネル番号が繰り下がります。

※移動をキャンセルしたい場合は、[EXIT]を押してください。

■空きチャンネルを挿入する

登録済みのメモリーチャンネルのあいだに空きチャンネルを挿入します。

※選択したチャンネル以降は、チャンネル番号が繰り下がります。

1. メモリーチャンネル画面を表示させる
MENU > MEMORY > **メモリーチャンネル**
2. 挿入するチャンネルがあるメモリーグループをタッチする(例：グループ00)
3. [DIAL]を回して、移動メモリーチャンネルを選択する(例：01チャンネル)
4. [QUICK]を短く押す
5. 「CHを挿入」をタッチする



• 「ピピッ」と鳴って、空きチャンネルが挿入されます。

※99チャンネルにメモリーが書き込まれている場合は、削除の確認画面が表示されます。

空きグループを挿入するには

グループを選択している状態で[QUICK]を短く押し、「挿入」を選択すると、選択したグループの上に空きグループが挿入されます。

※選択したグループ以降は、グループ番号が繰り下がります。



7 メモリーチャンネルの使いかた

■メモリーチャンネルに名前を登録する

メモリーチャンネルグループ(00～99)やメモリーチャンネル(00～99)に、ネーム(名前)を登録できます。

※メモリーネームと同様に、コールチャンネル、スキップチャンネルにもネームを入力できます。

◇グループネームの入力

1. メモリーチャンネル画面を表示させる
MENU > MEMORY > **メモリーチャンネル**
2. [DIAL]を回して、ネームを編集するグループを選択する(例：グループ44)
3. [QUICK]を短く押す
4. 「ネーム編集」をタッチする



5. ネーム(例：VHF-G)を入力し、[ENT]をタッチする



※入力方法や文字の種類、最大文字数などは、iiiページをご覧ください。

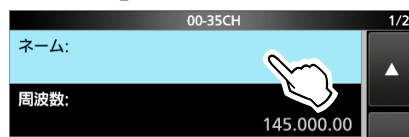
6. [EXIT]を押す
• メモリーチャンネル画面が解除されます。

◇メモリーネームの入力

1. メモリーチャンネル画面を表示させる
MENU > MEMORY > **メモリーチャンネル**
2. グループをタッチする(例：グループ00)
3. [DIAL]を回して、ネームを編集するチャンネルを選択し、をタッチする(例：35チャンネル)
4. 「編集」をタッチする

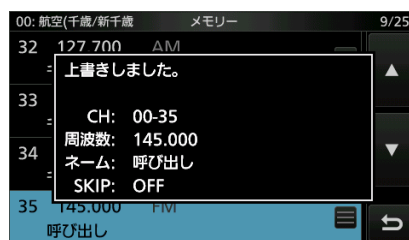
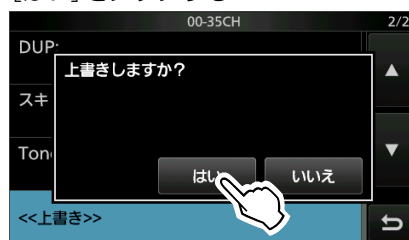


5. 「ネーム：」をタッチする
6. ネーム(例：呼び出し)を入力し、[ENT]をタッチする



※入力方法や文字の種類、最大文字数などは、iiiページをご覧ください。

7. 「<<上書き>>」をタッチする
8. [はい]をタッチする



• 「ピピッ」と鳴って、メモリーチャンネルの一覧に戻ります。

9. [EXIT]を数回押す
• メモリーチャンネル画面が解除されます。

7 メモリーチャンネルの使いかた

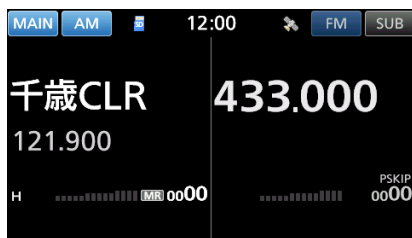
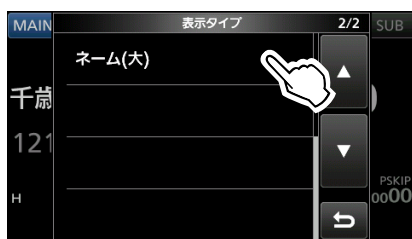
■メモリーネームの表示について

◇表示タイプの変更

1. メモリー表示をタッチしてメモリーモードにする
2. [QUICK]を短く押す
3. 「表示タイプ」をタッチする



4. 表示タイプ(例：ネーム(大))をタッチする



ご参考

メモリーネームの表示は5種類あります。
※シングル表示では、「周波数(ネームなし)」、「周波数」、「ネーム」になります。

周波数(ネームなし)

周波数だけを表示します。



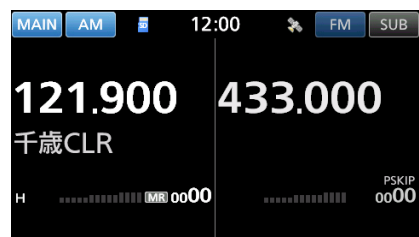
周波数(標準ネーム)

周波数の下にメモリーネームを小さく表示します。



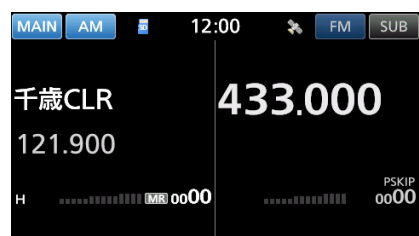
周波数(大ネーム)

周波数の下にメモリーネームを大きく表示します。



ネーム(標準)

周波数の上にメモリーネームを小さく表示します。



ネーム(大)

周波数の上にメモリーネームを大きく表示します。



7 メモリーチャンネルの使いかた

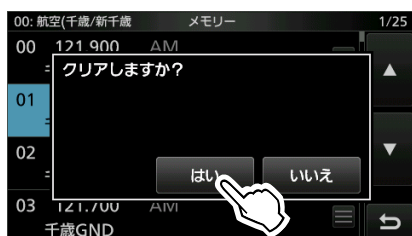
■メモリーを消去する

不要になったメモリーチャンネルやコールチャンネルを消去できます。

ご注意

消去した内容は復元できません。

1. メモリーチャンネル画面を表示させる
MENU > MEMORY > **メモリーチャンネル**
2. 消去するチャンネルがあるメモリーグループをタッチする(例：グループ00)
3. [DIAL]を回して、消去するメモリーチャンネルを選択し、をタッチする(例：01チャンネル)
4. 「クリア」をタッチする
5. 「はい」をタッチする



- ・「ピピッ」と鳴って、内容がクリアされ、空きチャンネルになります。

選択したチャンネル自体を削除するには

手順3で、をタッチせずに、[QUICK]を押して「削除してCHを詰める」を選択すると、選択したチャンネルが削除されます。



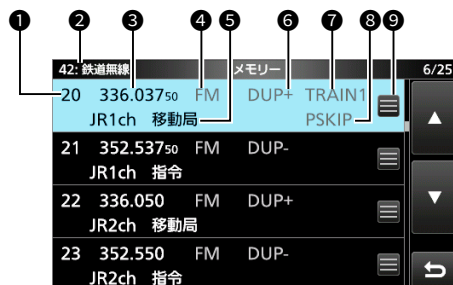
※選択したチャンネル以降はチャンネル番号が繰り上がります。

※同様にグループ選択状態でも「削除」を選択すると、選択したグループが削除されます。

■メモリーチャンネル一覧の見かた

メモリーチャンネル一覧画面の見かたを説明します。

※コールチャンネルでは下記の階層から一覧を確認できます。
(MENU > MEMORY > **コールチャンネル**)



①メモリーチャンネル番号

00～99が表示されます。

※コールチャンネルでは、C1、C2が表示されます。

②グループ番号：グループネーム

グループ番号(00～99)、およびグループネームが表示されます。

※コールチャンネルでは、「コールチャンネル」が表示されます。

※グループネームの入力について(P.7-7)

③周波数

書き込まれている周波数が表示されます。

④運用モード

書き込まれている運用モードが表示されます。

⑤メモリーネーム

入力されているメモリーネームが表示されます。

※メモリーネームの入力について(P.7-7)

⑥デュプレックス

書き込まれているDUP(+/-)が表示されます。

⑦各種トーン

書き込まれているトーンが表示されます。

⑧スキップ

書き込まれているスキップ設定が表示されます。

⑨メモリー編集アイコン

タッチして、メモリーメニューを表示させます。

※詳細、編集が選択できます。

ご参考

メモリーチャンネルを選択して[QUICK]を押すとクイックメニューが表示され、SKIP、チャンネルの詳細、編集、コピー、移動、クリア、CHを挿入(選択チャンネルに挿入)、削除してCHを詰めることができます。



■ スキャンについて	8-2
◇ 各モードのスキャンについて	8-2
◇ VFOスキャン	8-2
◇ メモリースキャン	8-2
◇ スキャン中の[DIAL]操作について	8-3
◇ スキャン中のスケルチ調整	8-3
◇ チューニングステップについて(VFOスキャン)	8-3
◇ スキップ機能について	8-3
◇ 運用モードについて	8-3
◇ 信号を受信すると	8-3
◇ スキャンが一時停止したときのビーブ音設定	8-3
◇ 空線キャンセラー機能について	8-3
■ VFOスキャンの操作	8-4
◇ スキャンタイプについて	8-4
◇ スキャンネームについて	8-5
◇ プログラムリンクネームについて	8-5
◇ スキップ周波数の登録	8-5
◇ プログラムスキャンエッジの登録	8-6
◇ プログラムリンクの設定	8-6
■ メモリースキャンの操作	8-7
◇ スキャンタイプについて	8-7
◇ グループネームについて	8-8
◇ グループリンクの設定	8-8
■ スキップチャンネルの指定と解除のしかた	8-9
■ 一時スキップの指定のしかた	8-9

8 スキャン

■スキャンについて

スキャンとは、周波数やメモリーチャンネルを自動で切り替えて、信号の出ているところで一時的に停止させる機能です。

◇各モードのスキャンについて

VFOモードのとき

「PSKIP」に指定された周波数は、スキャン範囲から除外されます。(P.8-5)

メモリーモードのとき

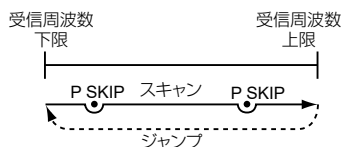
「PSKIP」、または「SKIP」が指定されたメモリーチャンネルは、スキャン対象から除外されます。(P.8-9)

※メモリーチャンネルが2つ以上書き込まれていないと、メモリースキャンは動作しません。

◇VFOスキャン

ALL(フルスキャン)

本製品の受信可能周波数範囲をすべてスキャンします。



BAND(バンドスキャン)

現在設定している受信バンド(周波数帯)内をスキャンします。

P-LINK0~9(プログラムリンクスキャン)

あらかじめ登録した複数のプログラムスキャン範囲を連続してスキャンします。(P.8-6)

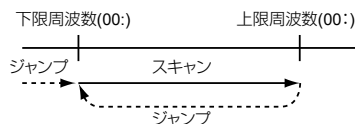
(MENU > SET > スキャン設定 > プログラムリンク)

PROG 00~49(プログラムスキャン)

プログラムスキャンエッジに書き込んだ周波数範囲をスキャンします。

(MENU > SET > スキャン設定 >

プログラムスキャンエッジ)



※周波数の異なる2つ以上のプログラムスキャン用チャンネルが書き込まれていないと、スキャン選択画面に表示されないため、プログラムスキャンは動作しません。

◇メモリースキャン

ALL(フルメモリースキャン)

すべてのメモリーチャンネルをスキャンします。

BAND(バンドメモリースキャン)

表示している運用バンドのメモリーチャンネルをスキャンします。

MODE(モードメモリースキャン)

表示している運用モードを書き込んでいるメモリーチャンネルをスキャンします。

GROUP LINK(グループリンクスキャン)

あらかじめリンク指定した複数のグループを連続してスキャンします。(P.8-8)

(MENU > SET > スキャン設定 > グループリnk)

00(グループスキャン)

選択したグループ内のメモリーチャンネルをスキャンします。(00~99、S: SKIP CH)

デュプレックス(DUP)スキャン

VFOモード、またはメモリーモードで、デュプレックス(レピータ)運用(P.9-4)のとき、その周波数(送信/受信の2波)をスキャンできます。

※「DUP-」、または「DUP+」表示の点灯をご確認ください。

※オフセット周波数が「0.000.00MHz」のときは動作しません。

トーンスキャン

トーンスケルチ機能を使用して交信している局が、どのトーン周波数、またはDTCSコードを使用しているかを検出するスキャンです。

◎VFO/メモリー/コールチャンネルモードに関係なく動作します。

◎スキャン中に[DIAL]を回すと、スキャンの方向が切り替わります。

※トーンスケルチ機能、DTCSコードスケルチ機能については、12-6ページ、12-7ページをご覧ください。

8 スキャン

■スキャンについて

◇スキャン中の[DIAL]操作について

- ◎スキャン中に[DIAL]を回すと、スキャンの方向が切り替わります。
- ◎信号を受信してスキャンを一時停止しているときに[DIAL]を回すと、即時再開します。

◇スキャン中のスケルチ調整

受信信号の強さに応じてスキャンが一時停止するように調整できます。

- スキャン動作中に[SQL]を回してスケルチレベルを調整できます。

◇チューニングステップについて(VFOスキャン)

スキャン中に周波数が切り替わるステップ幅は、設定されているチューニングステップです。
プログラムスキャン、プログラムリンクスキャンの場合は、プログラムスキャンエッジで設定したチューニングステップにしたがいます。

◇スキップ機能について

必要のない周波数、またはメモリーチャンネルをスキャンから除外するスキップの指定ができます。
スキップを指定すると、指定を解除するまでスキャンの対象からはずれます。
※設定方法は、8-5ページ、8-9ページをご覧ください。

ご参考

VFOスキャン時にスキップを指定した周波数も含めてスキャンする場合は、MENU画面の「プログラムスキップ」を「OFF」に設定します。(P.10-4)

※「OFF」にすると、スキップ機能は動作しません。
(MENU > SET > スキャン設定 > **プログラムスキップ**)

◇運用モードについて

- ◎VFOスキャン時は、VFOモードで設定している運用モード(電波型式)で動作します。
- ◎メモリースキャン時は、メモリーされている運用モード(電波型式)で動作します。

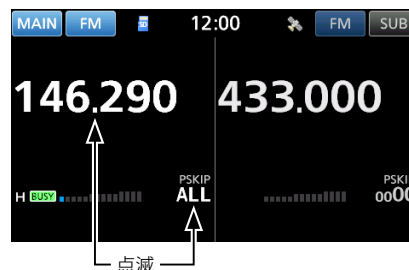
◇信号を受信すると

約10秒(初期値)経過すると、自動的に再開します。
また、途中で信号がなくなると、約2秒(初期値)後に再開します。

※上記のタイマーは、MENU画面の「停止時間」と「再スタート時間」で変更できます。(P.10-4)

(MENU > SET > スキャン設定 > **停止時間**)

(MENU > SET > スキャン設定 > **再スタート時間**)



◇スキャンが一時停止したときのビープ音設定

信号を受信してスキャンが一時停止したとき、ビープ音を鳴らせます。

MENU画面の「スキャンストップビープ」で設定できます。(P.10-28)

(MENU > SET > サウンド設定 > **スキャンストップビープ**)

◇空線キャンセラー機能について

鉄道無線での空線信号(「ピー」や「キャラキャラ」)をミュートする機能です。

※設定方法は、12-8ページをご覧ください。

8 スキャン

■VFOスキャンの操作

1. メモリー表示をタッチして、VFOモードにする
2. 運用モード表示をタッチして、運用モード(電波型式)を選択する
3. [SCAN]を短く押す
 - スキャン選択画面に切り替わります。
4. スキャンタイプを選択する
 - スキャンを開始すると、メモリー表示に選択したスキャンタイプが表示されます。



※信号を受信すると、スキャンが一時停止して、信号強度に応じてSメーターが振れます。

5. [SCAN]を短く押す
 - スキャンが解除されます。

◇スキャンタイプについて

VFOモードのスキャンには、フルスキャン、バンドスキャン、デュプレックススキャン、プログラムリンクスキャン、プログラムスキャン、トーンスキャンがあります。

- ◎ALL :フルスキャン
- ◎BAND :バンドスキャン
- ◎DUP :デュプレックススキャン
(デュプレックス設定時のみ)
- ◎P-LINK0～9 :プログラムリンクスキャン
- ◎P00～49 :プログラムスキャン
- ◎TONE :トーンスキャン(トーン設定時のみ)

※「PSKIP」(P.8-9)に指定された周波数は、スキャンから除外されます。

※MENU画面でプログラムスキップを「OFF」に設定すると、「PSKIP」に指定された周波数もスキャンします。
(P.10-4)

(MENU > SET > スキャン設定 > プログラムスキップ)

ご参考

- ◎スキャン中に[DIAL]を回すと、スキャンの方向が切り替わります。
- ◎スキャン中に運用モード表示をタッチすると、運用モード(電波型式)を変更できます。
- ◎スキャン中でも、[FUNC]を押して、「LOCK」をタッチするとロック機能が設定できます。
解除するときは、画面をタッチし「解除」をタッチします。
- ◎スキャン中に[MENU]や[QUICK]を短く押しても、スキャンは継続します。

8 スキャン

■VFOスキャンの操作

◇スキャンネームについて

プログラムスキャンエッジごとに、スキャンネームを登録できます。

スキャンネームを登録すると、スキャンタイプ選択時に表示されます。(P.8-4)

※スキャン中、スキャンネームは表示されません。

※ネームの編集については、iiiページをご覧ください。

スキャンネームが登録されているとき



スキャンネームが登録されていないとき



◇プログラムリンクネームについて

プログラムリンクごとに、プログラムリンクネームを登録できます。

プログラムリンクネームを登録すると、スキャンタイプ選択時に表示されます。(P.8-4)

※スキャン中、プログラムリンクネームは表示されません。

※ネームの編集については、iiiページをご覧ください。

プログラムリンクネームが登録されているとき



プログラムリンクネームが登録されていないとき



◇スキップ周波数の登録

VFOスキャン中に一時停止した周波数を、スキップする(スキャンの対象からはずれる)ようにメモリーチャンネルに登録する機能です。

1. VFOスキャンを開始する
 - 信号を受信すると、スキャンが一時停止します。
2. [QUICK]を短く押す
3. 「SKIP CHグループ登録」をタッチする



- 「ビピッ」と鳴り、受信している周波数がスキップチャンネルグループに登録されると同時に、スキップ指定されます。

※VFOスキャンでスキップするのは、スキップ設定が「PSKIP」のときだけです。

ご参考

スキップ周波数としてメモリーチャンネルに登録されると、指定を解除(OFF)するまでスキャンの対象からはずれません。

解除方法については、8-9ページをご覧ください。

※スキップ周波数が書き込まれたメモリーチャンネル自体を削除することで、スキップ設定を解除することもできます。

8 スキャン

■VFOスキャンの操作

◇プログラムスキャンエッジの登録

1. スキャン設定画面を表示させる

MENU > SET > スキャン設定

2. 「プログラムスキャンエッジ」をタッチする



3. [DIAL]を回して、空いているプログラムスキャン範囲(03～49)を選択した状態で[QUICK]を短く押す
4. 「編集」をタッチする

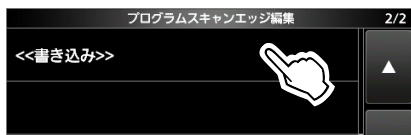


5. 「周波数:」をタッチし、下限周波数、上限周波数を設定し、[ENT]をタッチする



- ※ ネームを登録すると、スキャンタイプ一覧に表示されます。
- ※ TS(周波数ステップ)は、目的の信号に合わせて正しく設定する必要があるため、基本的には「Auto」に設定することをおすすめします。
- ※ 設定した周波数範囲に118.000000～136.99166が含まれていない場合、TSを8.33kHzに設定できません。

6. 「《書き込み》」をタッチする



7. [はい]をタッチする
 - プログラムスキャンエッジが登録されます。

◇プログラムリンクの設定

1. スキャン設定画面を表示させる

MENU > SET > スキャン設定

2. 「プログラムリンク」をタッチする



3. 設定するプログラムリンク(0～9)をタッチする



4. [QUICK]を短く押して、「追加」をタッチする



5. 追加したいプログラムスキャン範囲を選択する



- プログラムリンクに選択したプログラムスキャン範囲が追加されます。

ご参考

- ◎ プログラムスキャンエッジの内容を削除するときは、手順4で「クリア」をタッチします。
- ◎ 設定したTS(周波数ステップ)が使用できない範囲をスキャンするときは、バンドごとにあらかじめ設定されたTSでプログラムスキャンが動作します。

ご参考

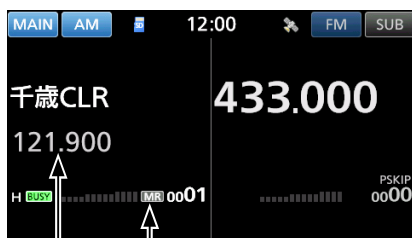
- ◎ プログラムリンクのネームを編集するときは、プログラムリンクを選択状態で[QUICK]を短く押し、「ネーム編集」をタッチします。
- ◎ 登録したプログラムスキャン範囲をプログラムリンクから除外するときは、手順4で「削除」を選択します。

8 スキャン

■メモリスキャンの操作

メモリスキャンを動作させるには、スキップ設定されていないメモリーチャンネルを2つ以上書き込んでください。(P.8-9)

1. メモリー表示をタッチして、メモリーモードにする
2. [SCAN]を短く押す
• スキャン選択画面に切り替わります。
3. スキャンタイプを選択する



※信号を受信すると、スキャンが一時停止して、信号強度に応じてSメーターが振れます。

4. [SCAN]を短く押す
• スキャンが解除されます。

◇スキャンタイプについて

- | | |
|-------------|---------------------------------|
| ◎ALL | : フルメモリスキャン |
| ◎BAND | : バンドメモリスキャン |
| ◎MODE | : モードメモリスキャン |
| ◎DUP | : デュプレックススキャン
(デュプレックス設定時のみ) |
| ◎GROUP LINK | : グループリンクスキャン |
| ◎00～99 | : グループスキャン |
| ◎TONE | : トーンスキャン
(トーン設定時のみ) |

※「PSKIP」、または「SKIP」が指定されたメモリーチャンネルは、スキャン対象から除外されます。(P.8-9)

ご参考

- ◎スキャン中に[DIAL]を回すと、スキャンの方向が切り替わります。
- ◎スキャン中に運用モード表示をタッチすると、運用モード(電波型式)を変更できます。
- ◎スキャン中でも、[FUNC]を押して、「[LOCK]」をタッチするとロック機能が設定できます。
解除するときは、画面をタッチし「解除」をタッチします。
- ◎スキャン中に[MENU]や[QUICK]を短く押しても、スキャンは継続します。

8 スキャン

■メモリスキャンの操作

◇グループネームについて

グループスキャンごとに、グループネームを登録できます。グループスキャンネームを登録すると、スキャンタイプ選択時に表示されます。(P.8-7)

※スキャン中、グループスキャンネームは表示されません。

※ネームの編集については、iiiページをご覧ください。

グループネームが登録されているとき



グループネームが登録されていないとき



◇グループリンクの設定

1. スキャン設定画面を表示させる

MENU > SET > **スキャン設定**

2. 「グループリンク」をタッチする



3. タッチしてグループにチェックを入れる、またはチェックをはずす



- チェックを入れたグループがグループリンクスキャンの対象になります。

※初期設定では、すべてのグループにチェックが入っています。

ご参考

すべてのグループにチェックを入れる、またはチェックをはずすときは、手順2のあとに[QUICK]を短く押して、「すべてON」、または「すべてOFF」を選択してください。



8 スキャン

■スキップチャンネルの指定と解除のしかた

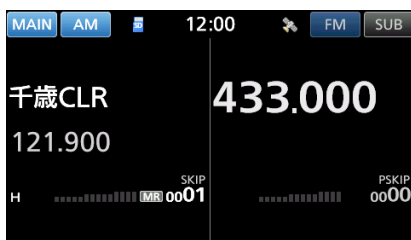
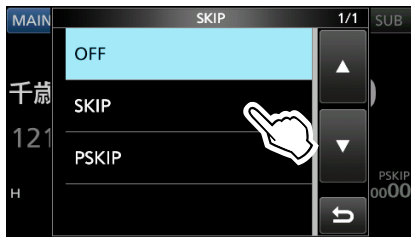
任意のチャンネルに対して、スキップを設定したり、スキップの対象から除外したりできます。

- ◎OFF :スキップ設定を解除します。
- ◎SKIP :メモリーモード時のスキャン範囲から除外されます。
- ◎PSKIP :VFOモード時とメモリーモード時の両方のスキャン範囲から除外されます。

1. メモリー表示をタッチして、メモリーモードにする
2. [DIAL]を回して、スキップを設定するメモリーチャンネルを選択する
3. [QUICK]を短く押す
4. 「SKIP」をタッチする



5. スキップ設定を選択する(例: SKIP)



- 画面に選択した「SKIP」、または「PSKIP」が表示されます。

■一時スキップの指定のしかた

VFOスキャンで信号を受信した周波数、またはメモリースキャンで信号を受信したメモリーチャンネルを指定して、一時的にスキャンの対象から除外する設定です。

1. スキャンを開始(P.8-4)する(例: VFOスキャン)
 - 信号を受信すると、スキャンが一時停止します。
2. [QUICK]を短く押す
3. 「一時スキップ 登録」をタッチする
 - 一時スキップの設定が完了すると、「この周波数をスキップします」が表示され、スキャンが再開されます。



※周波数が切り替わっている(信号を受信していない)ときに「一時スキップ 登録」を選択すると、スキップ指定されず、クイックメニューが閉じます。

ご参考

- ◎メモリースキャンやDRスキャン中に、上の手順2～3の操作をすると、一時停止したメモリーチャンネル、またはレピータを、設定した時間(初期値:5分)スキップできます。
- ◎一時スキップは、最大20件設定できます。
20件以上指定しようとした場合、古い設定を解除します。
- ◎一時スキップ時間(初期設定:5分)の設定にしたがう、またはクイックメニューの「一時スキップ 解除」を選択すると、一時スキップは解除されます。
(MENU > SET > スキャン設定 > 一時スキップ時間)

■ オートレピータ機能での交信	9-2
◇ レピータ周波数の設定	9-2
◇ レピータ局を経由して交信する	9-3
◇ レピータ局の中継が必要かどうかを確認する	9-3
■ デュプレックス運用について	9-4
◇ オフセット周波数の設定	9-4
◇ デュプレックスモードの設定	9-4
◇ デュプレックスモードで交信する	9-4
■ 送信時のオフバンド表示について	9-5

9 レピータ / デュプレックス運用

■オートレピータ機能での交信

本製品は、オートレピータ機能を搭載しています。
設定するレピータ周波数が、439MHz～440MHzの場合、自動的にトーンエンコーダー(88.5Hz)とデュプレックス(DUP-)が設定され、レピータ運用ができます。

◎初期設定では、オートレピータ機能が「ON」に設定されています。

MENU画面の「オートレピータ」で「OFF」に設定できます。(P.10-8)

(MENU > SET > 機能設定 > オートレピータ)

◎トーン周波数(初期設定値：88.5Hz)とオフセット周波数(430MHzの初期設定値：5MHz)は、MENU画面の「レピータトーン周波数」、「オフセット周波数」で変更できます。(P.10-3)

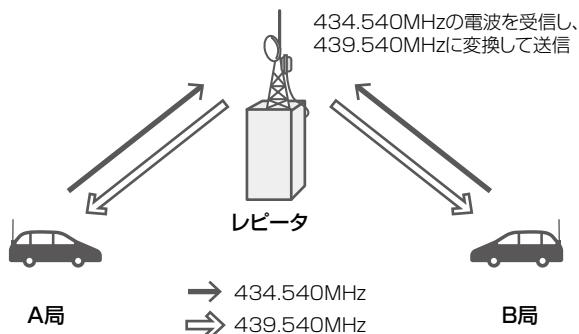
(MENU > SET > DUP/トーン設定 >

レピータトーン周波数)

(MENU > SET > DUP/トーン設定 >

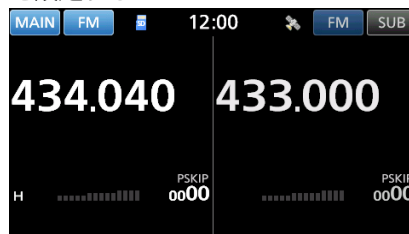
オフセット周波数)

◎430MHz帯では、各地域にレピータが設置されています。
レピータ局の周波数は、運用の前にJARLのホームページや各専門誌、インターネットなどでご確認ください。

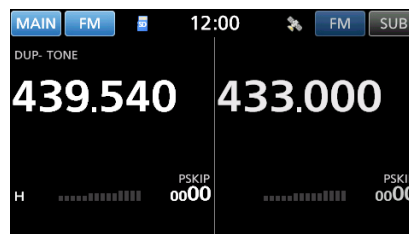


◇レピータ周波数の設定

1. メモリー表示をタッチして、VFOモードにする
2. 運用モード表示をタッチして、FMモードを選択する
3. [DIAL]を回して、レピータ局から受ける電波の周波数を設定する



- オートレピータ機能により、周波数を合わせるだけで、レピータ運用モードになります。
- トーンエンコーダーとデュプレックスが設定され、「DUP- TONE」が表示されます。



※ オートレピータ機能をOFFにして、手動で任意の送受信周波数やオフセット周波数を設定することもできます。

ご参考

◎レピータアクセス用トーン周波数とオフセット周波数(P.10-3)を変更すると、オートレピータ機能のトーン周波数とオフセット周波数も変更されます。

設定されたオフセット周波数によっては、送信したときオフバンド表示になることがあります。(P.9-5)

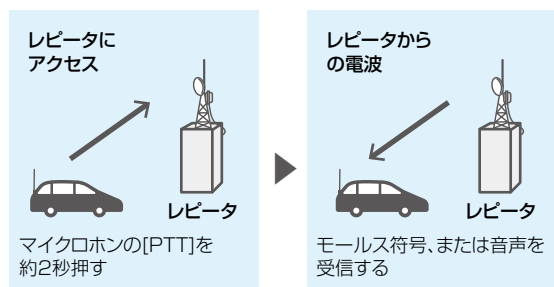
◎D-STARレピータへのアクセスについては、簡易マニュアル10章をご覧ください。

9 レピータ / デュプレックス運用

■オートレピータ機能での交信

◇レピータ局を経由して交信する

1. 約2秒、マイクロホンの[PTT]を押す
 - 発射した電波がレピータ局に届いていれば、マイクロホンの[PTT]をはなした直後に、自動的にレピータのコールサイン(ID信号)がモールス符号、または音声で受信できます。
 - ※マイクロホンの[PTT]をはなすタイミングが遅いと、レピータから送信されたID信号を受信できない場合があります。
2. シンプレックス運用と同じように、送信と受信を交互に繰り返しながら交信する



◇レピータ局の中継が必要かどうかを確認する

レピータ局の運用中に、レピータを中継しなくても交信できるかどうか確認できます。

[MONI]を長く(約1秒)押し、交信相手の信号が受信できれば、レピータ局を使用しなくても交信できます。

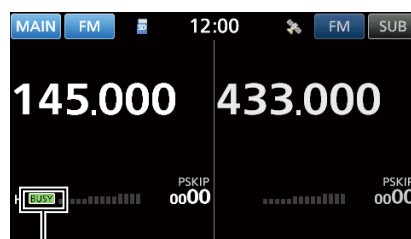
このとき、レピータ局を中継せず、相手局の送信電波を直接受信していることになります。

※モニターしているあいだは、BUSY表示が点滅します。

※モニターしているあいだも、周波数表示がオフセット周波数分だけシフトします。

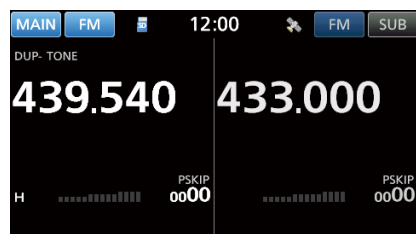
※交信相手の信号が受信できるときは、439.000MHz以下の周波数に移ってシンプレックスで交信してください。

モニター中の画面



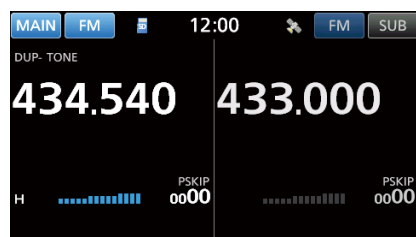
モニター機能起動時は点滅

受信するときの周波数



-5MHzシフトする

マイクロホンの[PTT]を押して
送信したときの周波数



9 レピータ / デュプレックス運用

■デュプレックス運用について

デュプレックス運用とは、通常の交信(シンプレックス)とは異なり、同一バンド内で送信と受信の周波数をオフセット周波数分ずらして交信することで、レピータでの運用に使われます。

◇オフセット周波数の設定

1. DUP/トーン設定画面を表示させる

MENU > SET > DUP/トーン設定

2. 「オフセット周波数」をタッチする



3. オフセット周波数を入力する(例: 5,000.00MHz)



- 0.000.00MHz～59.995.00MHzの範囲で設定します。
- [DIAL] を回すと設定しているチューニングステップ (TS) で切り替わります。
- [DUP] をタッチすることにより「DUP-」→「DUP+」→(非表示)と切り替わります。

4. [ENT] をタッチする

5. [EXIT] を数回押す

- オフセット周波数が設定され、DUP/トーン設定画面が解除されます。

ご注意

DR機能を使用中は、オフセット周波数を変更できません。

ご参考

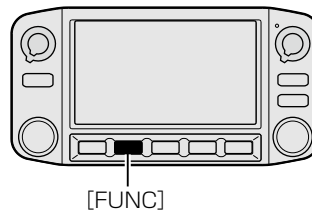
◎[FUNC] を押して表示されるFUNCTION画面で「DUP」を長く(約1秒)タッチしてもオフセット周波数を入力できます。



◎オフセット周波数を変更すると、オートレピータ機能のオフセット周波数も変更されます。設定されたオフセット周波数によっては、送信したときにオフバンド表示になることがあります。(P.9-5)

◇デュプレックスモードの設定

1. [FUNC] を短く押す



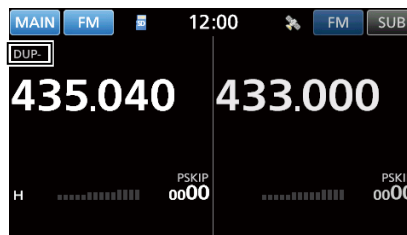
2. 「DUP」をタッチする



※タッチすることにより、「DUP-」→「DUP+」→「OFF」の順で切り替わります。

- ◎OFF : シンプレックス運用をします。
- ◎DUP-(マイナス) : 送信周波数が、受信周波数よりオフセット周波数分低くなります。
- ◎DUP+(プラス) : 送信周波数が、受信周波数よりオフセット周波数分高くなります。

3. [EXIT] を押す



- 設定すると、「DUP-」、または「DUP+」が表示されます。

◇デュプレックスモードで交信する

1. 交信の前に[MONI]を長く(約1秒)押して、他局が送信周波数を使用していないか確認する
 - 設定しているオフセット周波数分、受信周波数がシフトします。
2. 送信と受信を交互に繰り返しながら交信する

ご注意

オートレピータ機能(P.10-8)が、「ON」に設定されている場合、439.000MHz～440.000MHz以外の周波数に変更すると、デュプレックスモードは解除されます。

9 レピータ / デュプレックス運用

■送信時のオフバンド表示について

レピータ局にアクセスしたときや、デュプレックスモードで送信したとき、下のような表示になる場合は、オフセット周波数を設定しなおしてください。(P.10-3)

※アマチュアバンドからはずれるようなオフセット周波数(シフト幅)に設定されているため、送信できないことを知らせる表示です。



セットモード Section 10

■ セットモードの表示と操作	10-2
◇ 操作例	10-2
■ DUP/トーン設定	10-3
■ スキャン設定	10-4
■ スコープ設定	10-6
■ 機能設定	10-7
■ 自局設定	10-16
■ DV設定	10-16
■ DVレピータモニター設定	10-18
■ 交信/受信履歴ログ	10-19
■ 外部端子	10-22
■ ディスプレイ設定	10-24
■ サウンド設定	10-28
■ 時間設定	10-29
■ Bluetooth設定	10-30
■ Wi-Fi設定	10-34
■ SDカード	10-35
■ その他	10-36

10 セットモード

■セットモードの表示と操作

一度設定すれば、変更する機会が少ない機能をセットモードにまとめています。
セットモードは、MENU画面から選択できます。

表記規則

表示中の各設定項目から次の設定項目に移動する操作を、「1つ下の階層に進む」、1つ前の設定項目に戻る操作を「1つ上の階層に戻る」と表記しています。

◇操作例

1. [MENU]を短く押す



- MENU画面が表示されます。

2. [SET]をタッチする

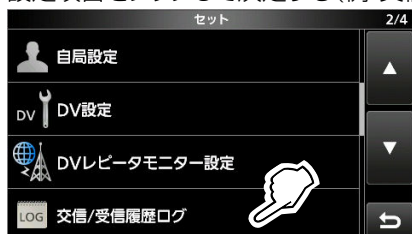


- セット画面が表示されます。

3. [▲]/[▼]をタッチして画面を切り替える



4. 設定項目をタッチして決定する(例: 交信/受信履歴ログ)

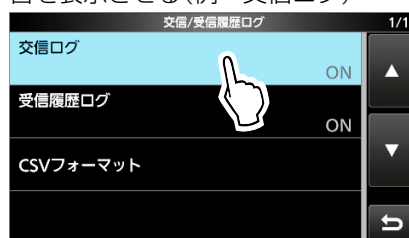


- 1つ下の階層が表示されます。

※ [DIAL] を回すと設定項目を選択、押すと設定項目を決定できます。

※ 1つ上の階層に戻るには、[EXIT]を押します。

5. さらに階層がある場合は、手順4を繰り返し、設定項目を表示させる(例: 交信ログ)



6. タッチして設定を確定させる



7. [EXIT]を数回押す

- セット画面が解除されます。

初期設定に戻す操作

設定項目、またはその設定値を長く(約1秒)タッチし、表示されたクイックメニューで「初期値に戻す」をタッチします。

※ [QUICK]を押しても表示されます。



10 セットモード

■DUP/トーン設定

オフセット周波数 (初期設定：0.000.00MHz)

MENU > SET > DUP/トーン設定 > オフセット周波数

レピータ運用やデュプレックス運用時に使用する受信周波数と送信周波数の差(シフト幅)を設定します。

- 設定範囲：0.000.00～59.995.00(MHz)
- ※430MHz帯の初期設定値は、5.000.00(5MHz)です。
- ※VFOモードで設定しているチューニングステップ(TS)で、シフト幅が切り替わります。
- ※シフト方向(DUP+/DUP-)は、[DUP]をタッチすることで設定でき、チューニングステップは、クイックメニューで設定します。
- ※DR機能使用時は、設定値の変更ができません。

レピータトーン周波数 (初期設定：88.5Hz)

MENU > SET > DUP/トーン設定 > レピータトーン周波数

レピータ運用などで使用するレピータトーン(トーンエンコーダー)の周波数(Hz)を設定します。

- 選択肢：67.0～254.1(50波)
- ※トーン周波数については、下表参照

TSQL周波数 (初期設定：88.5Hz)

MENU > SET > DUP/トーン設定 > TSQL周波数

トーンスケルチ運用で使用するトーンエンコーダー/デコーダーの周波数(Hz)を設定します。

- 選択肢：67.0～254.1(50波)
- ※トーン周波数については、下表参照

トーン周波数(Hz)

67.0	88.5	114.8	151.4	177.3	203.5	250.3
69.3	91.5	118.8	156.7	179.9	206.5	254.1
71.9	94.8	123.0	159.8	183.5	210.7	
74.4	97.4	127.3	162.2	186.2	218.1	
77.0	100.0	131.8	165.5	189.9	225.7	
79.7	103.5	136.5	167.9	192.8	229.1	
82.5	107.2	141.3	171.3	196.6	233.6	
85.4	110.9	146.2	173.8	199.5	241.8	

トーンバースト (初期設定：OFF)

MENU > SET > DUP/トーン設定 > トーンバースト

トーンスケルチ運用時、送信から受信に切り替えたときに通話相手のスピーカーから一瞬出る「ザッ」というノイズ(雑音)を抑える設定です。

- OFF : トーンバースト機能を無効にする
- ON : トーンバースト機能を有効にする

DTCSコード (初期設定：023)

MENU > SET > DUP/トーン設定 > DTCSコード

DTCSスケルチ運用で使用するDTCSエンコーダー/デコーダーのコードを設定します。

- 選択肢：023～754(104コード)(下表参照)

DTCSコード

023	054	125	165	245	274	356	445	506	627	732
025	065	131	172	246	306	364	446	516	631	734
026	071	132	174	251	311	365	452	523	632	743
031	072	134	205	252	315	371	454	526	654	754
032	073	143	212	255	325	411	455	532	662	
036	074	145	223	261	331	412	462	546	664	
043	114	152	225	263	332	413	464	565	703	
047	115	155	226	265	343	423	465	606	712	
051	116	156	243	266	346	431	466	612	723	
053	122	162	244	271	351	432	503	624	731	

DTCS極性 (初期設定：Both N)

MENU > SET > DUP/トーン設定 > DTCS極性

送信側、受信側それぞれの組み合わせで、送出、または検出するコードの位相を設定します。

- Both N: 送信/受信とも反転しない
- TN-RR: 送信側は反転しないで、受信側を反転する
- TR-RN: 送信側を反転し、受信側は反転しない
- Both R: 送信/受信とも反転する

TRAIN1周波数 (初期設定：2280Hz)

MENU > SET > DUP/トーン設定 > TRAIN1周波数

鉄道無線では、通話をしていないあいだは常に空線信号音が聞こえます。

空線キャンセラー機能を使用することで、単一周波数の空線信号音(ピー)を検出し、ミュートをします。

ここでは、空線信号の周波数の設定をします。

- 選択肢：300～3000(10Hz刻み)

デジタルコード (初期設定：00)

MENU > SET > DUP/トーン設定 > デジタルコード

デジタルコードスケルチ運用に使用するコードを設定します。

- 選択肢：00～99

10 セットモード

■スキャン設定

停止時間 (初期設定：10秒)

MENU > SET > スキャン設定 > 停止時間

スキャン中に信号を受信すると、スキャンは一時停止します。ここでは、一時停止する時間を設定します。設定時間だけ受信をつづけ、設定時間を過ぎるとスキャンを再開します。

※Aバンド(左側)、Bバンド(右側)ごとに設定できます。

- 2秒～20秒(2秒刻み)
 - ：停止中に信号がなくなると、「再スタート時間」の条件で再開する
- ホールド
 - ：信号を受信中は一時停止をつづけ、信号がなくなると、「再スタート時間」の条件で再開する

再スタート時間 (初期設定：2秒)

MENU > SET > スキャン設定 > 再スタート時間

スキャンが一時停止後、信号がなくなってからの再開の条件(時間)を設定する項目です。

※Aバンド(左側)、Bバンド(右側)ごとに設定できます。

- 0秒
 - ：信号がなくなると同時に再開する
- 1秒～5秒
 - ：信号がなくなると、1秒～5秒の各設定時間後にスキャンを再開する
- ホールド
 - ：信号がなくなっても一時停止状態を保持する
 - ※スキャンを再開するときは、[DIAL]を操作します。
 - ※「停止時間」が2秒～20秒の場合、停止時間を優先して再開します。

一時スキップ時間 (初期設定：5分)

MENU > SET > スキャン設定 > 一時スキップ時間

スキャン中に一時スキップ指定をしたとき、その指定を有効にする時間を設定します。

VFOスキャン、メモリスキャン、DRスキャンで動作します。

※Aバンド(左側)、Bバンド(右側)ごとに設定できます。

- 5分/10分/15分
 - ：指定した時間だけ、一時スキップを有効にする
- スキャン中
 - ：スキャンを停止するまで、一時スキップを有効にする
- 電源ONの間
 - ：電源を切るまで、一時スキップを有効にする

プログラムスキップ (初期設定：ON)

MENU > SET > スキャン設定 > プログラムスキップ

VFOスキャン時に、「PSKIP」に設定したメモリーチャンネルの登録周波数を飛び越す(スキップする)、プログラムスキップ機能を設定します。

※Aバンド(左側)、Bバンド(右側)ごとに設定できます。

- OFF
 - ：プログラムスキップスキャンを運用しない
- ON
 - ：VFOモードのスキャン時に、「PSKIP」に設定したメモリーチャンネルの周波数をスキップする

グループリンク

(初期設定：☑00～☑99、☑S：SKIP CH)

MENU > SET > スキャン設定 > グループリンク

グループリンクスキャン時、連続してスキャンするグループを設定します。

タッチして、グループにチェックを入れる、またはチェックをはずします。

※チェックを入れたグループがグループリンクスキャンの対象になります。

※Aバンド(左側)、Bバンド(右側)ごとに設定できます。

プログラムスキャンエッジ

MENU > SET > スキャン設定 > プログラムスキャンエッジ

プログラムスキャンエッジ(プログラムスキャンの上限周波数、および下限周波数)を編集、またはクリアできます。50組(00～49)のプログラムスキャンエッジを登録できます。

プログラムスキャンエッジごとに、ネーム、周波数ステップ、運用モードを設定できます。

初期設定は、次のとおりです。

- 00 : 118.000～550.000
- 01 : 144.000～146.000
- 02 : 430.000～440.000

10 セットモード

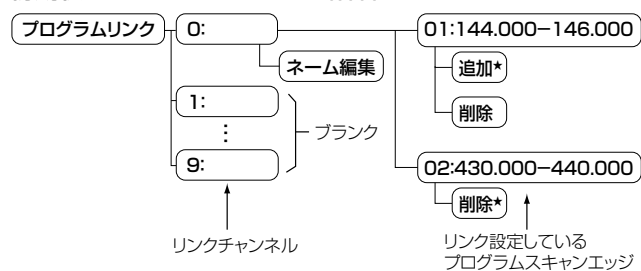
■スキャン設定

プログラムリンク (初期設定：下図参照)

MENU > SET > スキャン設定 > プログラムリンク

プログラムリンクスキャンで、複数のプログラムスキャン(00～49)をリンクチャンネル(0～9)に設定します。

初期状態のプログラムリンク階層



初期状態では、「プログラムリンク No.0」に、「01：144.000－146.000」と「02：430.000－440.000」がリンク設定されています。

★2組以上のプログラムスキャンエッジが書き込まれていないとき、または選択したリンクチャンネルに追加できるプログラムスキャンエッジ(00～49)がないときは、クイックメニューに「追加」が表示されません。

DUPチェック(MRスキャン時) (初期設定：OFF)

MENU > SET > スキャン設定 > DUPチェック(MRスキャン時)

メモリスキャン時、デュプレックス設定しているメモリーチャンネルで、オフセット周波数分だけシフトした周波数もスキャン対象にするかどうかを設定します。

- OFF : スキャン対象にしない
- ON : スキャン対象にする

10 セットモード

■スコープ設定

スコープモード(VFO/CALL) (初期設定：センター)

MENU > SET > スコープ設定 > スコープモード(VFO/CALL)

バンドスコープの表示モードを設定します。

- センター：現在の受信周波数を中心に、一定範囲内の受信信号を表示する
- FIX：「FIXモードセンター周波数」で設定された受信周波数を中心とし、一定範囲内の受信信号を表示する
- スクロール(FIX)
 - ：「FIXモードセンター周波数」で設定された受信周波数を中心とし、一定範囲内の受信信号を表示する
 - 受信マーカーが表示範囲を超えた場合、スクロールして表示する

表示ステップ数 (初期設定：±15ステップ)

MENU > SET > スコープ設定 > 表示ステップ数

スコープ機能で、センター(周波数/チャンネル)の前後何ステップ分を表示するかを設定します。

※ステップ幅は、バンドスコープの場合は、チューニングステップ(TS)の値を使用し、メモリスコープの場合は、チャンネルの数を使用します。

- 選択肢：±15ステップ、±20ステップ

±15ステップ



±20ステップ



ウォーターフォール機能 (初期設定：ON)

MENU > SET > スコープ設定 > ウォーターフォール機能

シングル表示でスコープ機能をONにしたとき、ウォーターフォール表示をするかしないかを設定します。

- OFF：ウォーターフォールを表示しない
- ON：ウォーターフォールを表示する

ウォーターフォール速度 (初期設定：速い)

MENU > SET > スコープ設定 > ウォーターフォール速度

ウォーターフォールの表示速度を設定します。

- 選択肢：遅い、速い

FIXモードセンター周波数

MENU > SET > スコープ設定 > FIXモードセンター周波数

FIXモード時のセンター周波数をバンドごとに設定します。

※VFOモードで設定しているチューニングステップ(TS)で、シフト幅が切り替わります。

※チューニングステップは、待ち受け画面のクイックメニューで設定します。

※「FIXモードセンター周波数」、または編集画面で[QUICK]を押して、「初期値に戻す」をタッチすると、選択したバンドごとに初期値に戻せます。

※初期設定と設定範囲は、次のとおりです。

- 127.000：118.000.00～136.991.66
- 145.000：137.000.00～174.000.00
- 260.000：225.000.00～399.995.00
- 433.000：440.000.00～550.000.00

AF出力(デュアル) (初期設定：OFF)

MENU > SET > スコープ設定 > AF出力(デュアル)

デュアルバンド運用時、スイープ先の受信音を一瞬鳴らすかどうかを設定します。

- OFF：スイープ先の受信音を鳴らさない
- ON：スイープ先の受信音を一瞬鳴らす

10 セットモード

■機能設定

オートパワーオフ (初期設定：OFF)

MENU > SET > 機能設定 > オートパワーオフ

何も操作しない状態が一定時間つづく自動的に電源を切るようにする設定です。

※電源が切れる約10秒前になると、「オートパワーオフ」が表示されると同時にピープ音が鳴ります。

このあいだに操作をすると、時間がリセットされ、元の状態に戻ります。

- OFF : オートパワーオフタイマーを使用しない
- 30分、1時間、1時間30分、2時間、4時間、6時間、8時間 : 設定した時間操作しない状態がつづく、電源を切る

※オートパワーオフタイマーは、電源を入れるごとに動作します。

使用しないときは、「OFF」に設定してください。

スケルチ/アッテネーター選択 (初期設定：Sメータースケルチ)

MENU > SET > 機能設定 > スケルチ/アッテネーター選択

[SQL]が示す位置に連動して変化する機能を設定します。

- OFF : Sメータースケルチ、アッテネーターともに動作しない
- Sメータースケルチ : [SQL]を12時から最大まで時計回りに回したとき、12時の位置からSメータースケルチが効きはじめ、指示位置に応じてレベルが変化する
- アッテネーター : [SQL]を12時から最大まで時計回りに回したとき、12時の位置からアッテネーターが効きはじめ、指示位置に応じてレベルが変化する

スケルチ遅延時間 (初期設定：ショート)

MENU > SET > 機能設定 > スケルチ遅延時間

受信時のスケルチディレイ(遅延)の制御時間を設定します。

- ショート : スケルチが閉じるまでの時間を短くする
- ロング : スケルチが閉じるまでの時間を長くする

ファン設定 (初期設定：オート)

MENU > SET > 機能設定 > ファン設定

電源を入れたときの冷却ファンの動作を設定します。

- 低速 : 低速でファンが動作する
- 中速 : 中速でファンが動作する
- 高速 : 高速でファンが動作する
- オート : 本体の内部温度が一定以上になると、ファンが動作する

タイムアウトタイマー (初期設定：OFF)

MENU > SET > 機能設定 > タイムアウトタイマー

連続送信を制限するタイムアウトタイマーを設定します。

- OFF : 送信時間を制限しない
- 1分、3分、5分、10分、15分、30分 : 設定時間を超える連続送信を制限する

ワンタッチPTT (リモコンマイク) (初期設定：OFF)

MENU > SET > 機能設定 > ワンタッチPTT (リモコンマイク)

別売品のHM-207(多機能マイクロホン)のワンタッチPTT機能を設定します。

ワンタッチPTT機能を設定すると、[PTT]を押すごとに送信と受信が切り替わります。

- OFF : マイクロホンの[PTT]を押しているあいだ送信状態になり、はなすと受信状態に戻る
- ON : マイクロホンの[PTT]を押すごとに送信と受信を切り替える

PTTロック (初期設定：OFF)

MENU > SET > 機能設定 > PTTロック

すべての送信を禁止するPTTロック機能を設定します。

- OFF : PTTロック機能は動作しない
- ON : すべての送信を禁止する

ビジーロックアウト (初期設定：OFF)

MENU > SET > 機能設定 > ビジーロックアウト

信号を受信している、またはスケルチが開いているとき、マイクロホンの[PTT]操作による送信を禁止するか、しないかを設定します。

※他局の通信を妨害しないようにするための設定です。

- OFF : [PTT]操作による送信を許可する
- ON : [PTT]操作による送信を禁止する

マイクゲイン (初期設定：4)

MENU > SET > 機能設定 > マイクゲイン

マイクのゲイン(感度)を設定します。

※感度を上げる(数値を大きくする)と比較的小さな声でも通信相手に聞こえやすくなりますが、周囲の音も聞こえやすくなります。

- 選択肢：1(最低)～4(最高)

スピーチ言語 (初期設定：日本語)

MENU > SET > 機能設定 > スピーチ > スピーチ言語

読み上げるとき、英語で読み上げるか日本語で読み上げるかの設定です。

- 英語 : 英語で読み上げる
- 日本語 : 日本語で読み上げる

10 セットモード

■機能設定

アルファベット (初期設定：標準)

MENU > SET > 機能設定 > スピーチ > アルファベット

コールサインに含まれるアルファベット(A～Z)の発音方法についての設定です。

- 標準 : 通常の発音で読み上げる
(例：エー、ビー、シー)
- フォネティックコード
: フォネティックコードによる発音で読み上げる
(例：アルファ、ブラボー、チャーリー)

スピーチ速度 (初期設定：速い)

MENU > SET > 機能設定 > スピーチ > スピーチ速度

読み上げる速度の設定です。

- 遅い : ゆっくり読み上げる
- 速い : 速く読み上げる

スピーチレベル (初期設定：7)

MENU > SET > 機能設定 > スピーチ > スピーチレベル

読み上げる音量を設定します。

- 選択肢：0(読み上げない)～1(最小)～9(最大)
- ※[VOL]による音量設定にあわせてスピーチ音量も変化します。

受信コールサインスピーチ (初期設定：ON(カーチャック))

MENU > SET > 機能設定 > スピーチ >
受信コールサインスピーチ

受信した相手局のコールサインを読み上げるスピーチ機能を設定します。

- OFF : 受信したコールサインを読み上げない
- ON(カーチャック)
: 短いDV信号(カーチャック)を受信したときだけ、コールサインをスピーチする
- ON(全て) : 受信時間に関係なくコールサインをスピーチする

※デジタルコールサインスケルチ、またはデジタルコードスケルチを使用時、不一致の信号を受信したときは読み上げしません。

※レピータからの応答(UR?、RPT?)は、宛先に関係なく読み上げません。

※スキャン時は、読み上げ中でもスキャンを再開します。

※コールサインのあと(/スラッシュ)に設定された任意の文字(名前やリグ名、移動運用先など)は、受信しても読み上げません。

※読み上げ中に受信すると、読み上げをやめて受信音が聞こえます。

RX>CSスピーチ (初期設定：ON)

MENU > SET > 機能設定 > スピーチ > RX>CSスピーチ

[RX→CS]を長く押して応答設定したとき、設定した相手局のコールサインを読み上げる設定です。

- OFF : 相手局のコールサインを読み上げない
- ON : 相手局のコールサインを読み上げる

ダイヤルスピーチ (初期設定：OFF)

MENU > SET > 機能設定 > スピーチ > ダイヤルスピーチ

[DIAL]を回して設定した周波数、またはコールサインを読み上げる設定です。

- OFF : [DIAL]を回しても、周波数、またはコールサインを読み上げない
- ON : [DIAL]を回し終わって1秒経過したときに、設定した周波数、またはコールサインを読み上げる
VFOモード/メモリーモード/コールチャンネルモード時では、周波数を読み上げ、DR機能使用時は、コールサインを読み上げる

※DR機能使用時、シンプレックスを選択している場合は、周波数を読み上げます。

※DR機能使用時、FMレピータでコールサインの設定がない場合は周波数を読み上げます。

モードスピーチ (初期設定：OFF)

MENU > SET > 機能設定 > スピーチ > モードスピーチ

運用モードを切り替えると、設定した運用モード(電波型式)を読み上げる設定です。

- OFF : 設定した運用モード(電波型式)を読み上げない
 - ON : 設定した運用モード(電波型式)を読み上げる
- ※VFOスキャン中でも、運用モード(電波型式)を切り替えると読み上げます。

オートレピータ (初期設定：ON)

MENU > SET > 機能設定 > オートレピータ

レピータ運用のためのトーンエンコーダーと、デュプレックスを自動的に設定するオートレピータ機能を設定します。

- OFF : オートレピータ機能を使用しない
- ON : デュプレックスとレピータトーン機能を自動設定する

10 セットモード

■機能設定

運用バンド (初期設定：オール)

MENU > SET > 機能設定 > 運用バンド

[DIAL]を回して選択する周波数範囲を、運用バンド内に固定するときの設定です。

- シングル：バンドエッジで[DIAL]を回したとき、表示しているバンド内の上端、または下端周波数に移動する
- オール：バンドエッジで[DIAL]を回したとき、バンドの下端から、下のバンドの上端、または上端から上のバンドの下端に移動する
- アマチュアバンド
：バンドエッジで[DIAL]を回したとき、アマチュアバンド内の上端、または下端周波数に移動する
[DIAL]で選択できる周波数を、アマチュアバンド内に固定する

※「シングル」に設定した状態で、ほかのバンドを運用するときは、[QUICK]から「バンド切替」を選択します。

※[DIAL]を回したときの設定のため、スキャンには影響しません。

ダイヤル加速 (初期設定：ON)

MENU > SET > 機能設定 > ダイヤル加速

[DIAL]を速く回したとき、周波数の可変速度を一気に速くするときの設定です。

- OFF：回す速さに応じて、変化する
- ON：速く回すと、一気に可変速度が速くなる

タッチ操作(サブバンド) (初期設定：MAIN選択)

MENU > SET > 機能設定 > タッチ操作(サブバンド)

デュアルワッチモード時、SUBバンド側の画面を操作したときの、無線機の動作を設定します。

- MAIN選択：MAINバンドに切り替わる
- 機能操作：SUBバンド側でタッチ操作を実行する

タッチアシスト (初期設定：ON)

MENU > SET > 機能設定 > タッチアシスト

[DIAL]を押したときにタッチアシスト画面を表示させるかどうかを選択します。

- OFF：タッチアシスト画面を表示しない
- ON：タッチアシスト画面を表示する

[CD/RX>CS] (初期設定：CD/RX>CS)

[CALL/DR] (初期設定：CALL/DR)

MENU > SET > 機能設定 > フロントキーカスタマイズ > [CD/RX>CS]

MENU > SET > 機能設定 > フロントキーカスタマイズ > [CALL/DR]

コントローラーの[CD/RX→CS]と[CALL/DR]に機能を割り当てます。

※割り当てできる機能については、10-11ページをご覧ください。

受信/待機中 (初期設定：[F-1]：BAND/GROUP [F-2]：モニター)

送信中 (初期設定：[F-1]：T-CALL [F-2]：---)

MENU > SET > 機能設定 > リモコンマイクキー > 受信/待機中

MENU > SET > 機能設定 > リモコンマイクキー > 送信中

別売品のHM-207(多機能マイクロホン)使用時に、リモコン機能を設定します。

受信/待機中と送信中に使う機能を[F-1]、[F-2]に割り当てできます。

※割り当てできる機能については、10-12ページをご覧ください。

- 受信/待機中：受信や待ち受け時に有効な設定
- 送信中：送信時に有効な設定

10 セットモード

■機能設定

受信/待機中 (初期設定：[UP]：UP
[DN]：DOWN)

送信中 (初期設定：[UP]：---
[DN]：---)

MENU > SET > 機能設定 > UP/DOWNマイクキー > 受信/待機中

MENU > SET > 機能設定 > UP/DOWNマイクキー > 送信中

付属のHM-232や、別売品のHM-198、HM-209使用時に、リモコン機能を設定します。

受信/待機中と送信中に使う機能を[UP]、[DN]に割り当てできます。

※割り当てできる機能については、10-14ページをご覧ください。

- 受信/待機中：受信や待ち受け時に有効な設定
- 送信中：送信中に有効な設定

モニター中の音量操作について

割り当てたキーによっては、下記のように動作します。

- ◎[VOL UP]/[VOL DOWN]の割り当てている場合、そのまま音量アップ/ダウンとして動作します。
- ◎[SQL UP]/[SQL DOWN]の割り当てている場合、そのままスケルチアップ/ダウンとして動作します。

キーボード入力方式(英数)(初期設定：フルキーボード)

MENU > SET > 機能設定 > キーボード入力方式(英数)

英数字を入力するときの入力方式を切り替えます。

- テンキー：テンキーを表示する
- フルキーボード：フルキーボードを表示する
※英数、スペースと一部の記号
以外は、入力できません。

※文字入力画面表示中に、クイックメニューから切り替えることもできます。

フルキーボード配列(初期設定：日本,アメリカ,イギリス)

MENU > SET > 機能設定 > フルキーボード配列

目的の入力に合わせ、キーの内容や配列を設定します。

- 選択肢：日本,アメリカ,イギリス、ドイツ、フランス

スクリーンキャプチャ[POWER]キー (初期設定：OFF)

MENU > SET > 機能設定 >

スクリーンキャプチャ[POWER]キー

スクリーンキャプチャー動作を[POWER]に割り当てます。

- OFF：スクリーンキャプチャー機能は動作しない
- ON：[POWER]を短く押すと、表示画面がmicroSDカードに保存される

スクリーンキャプチャ保存形式 (初期設定：PNG)

MENU > SET > 機能設定 > スクリーンキャプチャ 保存形式

スクリーンキャプチャーした画像のファイルフォーマットの設定です。

- 選択肢：PNG、BMP

IF入れ替え (初期設定：OFF)

MENU > SET > 機能設定 > IF入れ替え

中間周波数を左右で入れ替える機能です。

中間周波数を入れ替えると、MAINバンド、SUBバンドの2波同時受信時の内部周波数構成によるスプリアス受信を回避できる場合があります。

- OFF：中間周波数を入れ替えない
- ON：中間周波数を左右で入れ替える

パワーオフ(コントローラー切断) (初期設定：ON)

MENU > SET > 機能設定 > パワーオフ(コントローラー切断)

無線機本体からコントローラーがはずれたとき、本体の電源を自動的にOFFにするか、しないかを設定します。

- OFF：コントローラーがはずれても、本体の電源をOFFにしない
※本体の電源を切るには、DC電源をOFFにするか電源ケーブルをはずします。
※コントローラーがはずれたあと、再度接続すると、誤動作することがありますが故障ではありません。
- ON：コントローラーがはずれると、本体の電源を自動的にOFFにする

10 セットモード

■機能設定

[CD/RX>CS]、[CALL/DR]に割り当てできる機能一覧

機能	動作内容
VFO/MR	押すごとに、VFOモードとメモリーモードを切り替える
CALL/DR	短押し：コールチャンネルモードを表示する 長押し：DR画面を表示する ※[CALL/DR]にのみ割り当てできます。
SKIP CHグループ登録	スキャン中に一時停止した周波数を、長押しでスキップする(スキャンの対象からはずれる)ようにメモリーに登録する
一時スキップ	スキャン中、スキャンの対象から一時的にはずす(スキップする)ようにメモリーに登録する
CD/RX>CS	《モード》DVモード 短押し：受信履歴画面を表示する 長押し：RX>CS画面を表示する ※[CD/RX>CS]にのみ割り当てできます。
DUP	押すごとに、デュプレックスモードのON/OFFと、シフト方向(DUP+/DUP-)を切り替える
TONE/D.SQL	FMモード時：短押し トーン設定画面を表示する 長押し：レピータートーン周波数画面を表示する DVモード時：各種デジタルスケルチ機能を切り替える
MW	短押し：メモリー書き込みのクイックメニューを表示する 長押し：MAINバンドで表示している周波数を自動的に空きチャンネルに書き込む
録音	短押しで録音開始、長押しで停止する
MUTE	押すごとに、ミュート(消音)機能のON/OFFを切り替える
ボイス送信(T1) ボイス送信(T2) ボイス送信(T3) ボイス送信(T4)	短押し：microSDカードに録音された自局の音声を1回だけ送信する 長押し：microSDカードに録音された自局の音声を繰り返し送信する ご注意 「VOICE送信録音」画面で送信用音声を録音していない場合は、動作しません。 (MENU > VOICE > REC) ※microSDカードを無線機のmicroSDカードスロットに取り付けている必要があります。
DTMFダイレクト送信	DTMFコードダイレクト入力画面を表示する
T-CALL	T-CALL(1750Hzトーン信号)を送出する

10 セットモード

■機能設定

リモコンマイクキーに割り当てできる機能一覧

・受信/待機中

機能	動作内容
---	割り当てなし
モニター	押すごとに、スケルチが開いたり閉じたりする
MR(00-00 CH)	メモリーチャンネルを00-00に移動する
MR(00-01 CH)	メモリーチャンネルを00-01に移動する
DR	DR画面に切り替える
FROM/TO (DR)	《モード》DVモード DR画面のとき、押すごとに「FROM」と「TO」の項目選択状態に切り替える
FROM (DR)	《モード》DVモード DR画面のとき、「FROM」の項目選択状態に切り替える
TO (DR)	《モード》DVモード DR画面のとき、「TO」の項目選択状態に切り替える
BAND/GROUP	VFOモード：運用バンド切り替え メモリーモード：グループ番号切り替え
SCAN	長く押すと、前回と同じスキャンを開始する スキャン中に短く押すと、スキャンを解除する
SKIP CHグループ登録	スキャン中に一時停止した周波数を、長押しでスキップする(スキャンの対象からはずれる)ようにメモリーに登録する
一時スキップ	スキャン中、スキャンの対象から一時的にはずす(スキップする)ようにメモリーに登録する
RX>CS	《モード》DVモード 短押し：RX>CS画面を表示する 長押し：ワンタッチ応答キーとして、聞こえている局を宛先に設定する
SPEECH	VFO/メモリー/コールチャンネルモード：周波数、運用モードをアナウンスする DR画面：コールサインをアナウンスする ※DR画面でシンプレックスを選択している場合は、周波数をスピーチします。 ※DR画面でFMLレピータを選択している場合は、コールサイン+モード、または周波数+モードをスピーチします。
MAIN(A)	AバンドをMAINバンドに切り替える
MAIN(B)	BバンドをMAINバンドに切り替える
MODE	運用モード(電波型式)を切り替え
LOW	押すごとに、送信出力を切り替える
DUP	押すごとに、デュプレックスモードのON/OFFと、シフト方向(DUP+/DUP-)を切り替える
TONE/D.SQL	FMモード時：各種トーン機能を切り替える DVモード時：各種デジタルスケルチ機能を切り替える
MW	VFOモード、またはDR画面で長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、表示している周波数をメモリーチャンネルに書き込みます。 ※自動的に空きチャンネルを選択して書き込みます。
録音	短押しで録音開始、長押しで停止する
MUTE	押すごとに、ミュート(消音)機能のON/OFFを切り替える
ボイス送信(T1) ボイス送信(T2) ボイス送信(T3) ボイス送信(T4)	短押し：microSDカードに録音された自局の音声を1回だけ送信する 長押し：microSDカードに録音された自局の音声を繰り返し送信する ご注意 「VOICE送信録音」画面で送信用音声を録音していない場合は、動作しません。 (MENU > VOICE > REC) ※microSDカードを無線機のmicroSDカードスロットに取り付けている必要があります。
DTMFダイレクト送信	短く押すと、DTMFコードダイレクト入力画面を表示する
T-CALL	T-CALL(1750Hzトーン信号)を送出する

10 セットモード

■機能設定

リモコンマイクキーに割り当てできる機能一覧

• 送信中

機能	動作内容
---	割り当てなし
LOW	押すごとに、送信出力を切り替える
ボイス送信(T1) ボイス送信(T2) ボイス送信(T3) ボイス送信(T4)	短押し：microSDカードに録音された自局の音声を1回だけ送信する 長押し：microSDカードに録音された自局の音声を繰り返し送信する ご注意 「VOICE送信録音」画面で送信用音声を録音していない場合は、動作しません。 (MENU > VOICE > REC) ※microSDカードを無線機のmicroSDカードスロットに取り付けている必要があります。
T-CALL	T-CALL(1750Hzトーン信号)を送出する

10 セットモード

■機能設定

UP/DOWNマイクキーに割り当てできる機能一覧

・受信/待機中

機能	動作内容
---	割り当てなし
UP	VFOモード：周波数アップ メモリーモード/DR画面：チャンネルアップ
DOWN	VFOモード：周波数ダウン メモリーモード/DR画面：チャンネルダウン
VOL UP	音量アップ
VOL DOWN	音量ダウン
SQL UP	スケルチレベルアップ
SQL DOWN	スケルチレベルダウン
モニター	押すごとに、スケルチが開いたり閉じたりする
CALL	コールチャンネルモードに切り替える
MR(00-00 CH)	メモリーチャンネルを00-00に移動する
MR(00-01 CH)	メモリーチャンネルを00-01に移動する
VFO/MR	VFOモードとメモリーモードを切り替える
DR	DR画面に切り替える
FROM/TO (DR)	《モード》DVモード DR画面のとき、押すごとに「FROM」と「TO」の項目選択状態に切り替える
FROM (DR)	《モード》DVモード DR画面のとき、「FROM」の項目選択状態に切り替える
TO (DR)	《モード》DVモード DR画面のとき、「TO」の項目選択状態に切り替える
ホームCH	表示している運用モード(VFO/MR/DR)に登録したホームCHに移動する ※ホームCHが登録されていない場合や、コールチャンネルモードでは、エラービープが鳴ります。
BAND/GROUP	VFOモード：運用バンド切り替え メモリーモード：グループ番号切り替え
SCAN	長く押すと、前回と同じスキャンを開始する スキャン中に短く押すと、スキャンを解除する
SKIP CHグループ登録	スキャン中に一時停止した周波数を、長押しでスキップする(スキャンの対象からはずれる)ようにメモリーに登録する
一時スキップ	スキャン中、スキャンの対象から一時的にはずす(スキップする)ようにメモリーに登録する
RX>CS	《モード》DVモード 短押し：RX>CS画面を表示する 長押し：ワンタッチ応答キーとして、聞こえている局を宛先に設定する ※「UP」/「DOWN」を割り当てているキーがない場合、コールサイン一覧を表示しても、HM-232/HM-198/HM-209でコールサインを選択できません。
SPEECH	VFO/メモリー/コールチャンネルモード：周波数、運用モードをアナウンスする DR画面：コールサインをアナウンスする ※DR画面でシンプレックスを選択している場合は、周波数をスピーチします。 ※DR画面でFMLピータを選択している場合は、コールサイン+モード、または周波数+モードをスピーチします。
MAIN/DUAL	短押し：MAINバンド切り替え 長押し：デュアルバンド表示ON/OFF切り替え
MAIN(A)	AバンドをMAINバンドに切り替える
MAIN(B)	BバンドをMAINバンドに切り替える
MODE	運用モード(電波型式)を切り替え
LOW	押すごとに、送信出力を切り替える
DUP	押すごとに、デュプレックスモードのON/OFFと、シフト方向(DUP+/DUP-)を切り替える

10 セットモード

■機能設定

UP/DOWNマイクキーに割り当てできる機能一覧

• 受信/待機中(つづき)

機能	動作内容
TONE/D.SQL	FMモード時：各種トーン機能を切り替える DVモード時：各種デジタルスケルチ機能を切り替える
MW	VFOモード、またはDR画面で長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、表示している周波数をメモリーチャンネルに書き込みます。 ※自動的に空きチャンネルを選択して書き込みます。
録音	短押しで録音開始、長押しで停止する
MUTE	押すごとに、ミュート(消音)機能のON/OFFを切り替える
ボイス送信(T1) ボイス送信(T2) ボイス送信(T3) ボイス送信(T4)	短押し：microSDカードに録音された自局の音声を1回だけ送信する 長押し：microSDカードに録音された自局の音声を繰り返し送信する ご注意 「VOICE送信録音」画面で送信用音声を録音していない場合は、動作しません。 (MENU > VOICE > REC) ※microSDカードを無線機のmicroSDカードスロットに取り付けている必要があります。
T-CALL	T-CALL(1750Hzトーン信号)を送出する

• 送信中

機能	動作内容
---	割り当てなし
LOW	押すごとに、送信出力を切り替える
ボイス送信(T1) ボイス送信(T2) ボイス送信(T3) ボイス送信(T4)	短押し：microSDカードに録音された自局の音声を1回だけ送信する 長押し：microSDカードに録音された自局の音声を繰り返し送信する ご注意 「VOICE送信録音」画面で送信用音声を録音していない場合は、動作しません。 (MENU > VOICE > REC) ※microSDカードを無線機のmicroSDカードスロットに取り付けている必要があります。
T-CALL	T-CALL(1750Hzトーン信号)を送出する

10 セットモード

■自局設定

自局コールサイン

MENU > SET > 自局設定 > 自局コールサイン

D-STARで使用する自局のコールサインを最大6件(MY1～MY6)登録できます。

コールサイン(8文字以内)のあとに、入力できるメモ(4文字以内)には、名前やリグ名、移動運用先などを登録します。

※自局コールサインの登録方法(簡易マニュアル10章)

※自局コールサインを切り替えるときは、切り替えたい自局コールサインをタッチします。

※自局コールサインを登録や編集すると、ターミナルモードで使用する自局コールサイン(TM)にも反映されます。

送信メッセージ

MENU > SET > 自局設定 > 送信メッセージ

DVモードで音声通信しながら、同時に最大20文字(半角カタカナ、英数字、記号)のメッセージを送信できます。

送信するメッセージは、5個登録できます。

※送信メッセージの登録方法(P.3-13)

※送信メッセージを切り替えるときは、切り替えたい送信メッセージをタッチします。

ご参考

登録したメッセージを送信しないときは、「OFF」を選択してください。

自局コールサイン(TM)

MENU > SET > 自局設定 > 自局コールサイン(TM)

D-STARのターミナルモードで使用する自局のコールサインを最大6件(MY1～MY6)登録できます。

コールサイン(8文字以内)のあとに、入力できるメモ(4文字以内)には、名前やリグ名、移動運用先などを登録します。

はじめて使用するときには、「通常のDVモードと同じ」を選択してください。

※自局コールサインの登録方法(簡易マニュアル10章)

※自局コールサインを切り替えるときは、切り替えたい自局コールサインをタッチします。

※自局コールサイン(TM)を登録や編集すると、通常のDVモードで使用する自局コールサインにも反映されます。

■DV設定

受信音質(低音)

(初期設定：標準)

MENU > SET > DV設定 > トーンコントロール > 受信音質(低音)

受信音質の低音レベルを設定します。

- カット : 低音を減衰させる
- 標準 : 低音を補正しない
- 強調 : 低音を強調させる

受信音質(高音)

(初期設定：標準)

MENU > SET > DV設定 > トーンコントロール > 受信音質(高音)

受信音質の高音レベルを設定します。

- カット : 高音を減衰させる
- 標準 : 高音を補正しない
- 強調 : 高音を強調させる

受信バスブースト

(初期設定：OFF)

MENU > SET > DV設定 > トーンコントロール > 受信バスブースト

疑似的に低音を強調するバスブースト機能を設定します。

※小さなスピーカーでも低音が強調されます。

- OFF : 低音を強調させない
- ON : 低音を強調させる

送信音質(低音)

(初期設定：標準)

MENU > SET > DV設定 > トーンコントロール > 送信音質(低音)

送信音質の低音レベルを設定します。

- カット : 低音を減衰させる
- 標準 : 低音を補正しない
- 強調 : 低音を強調させる

送信音質(高音)

(初期設定：標準)

MENU > SET > DV設定 > トーンコントロール > 送信音質(高音)

送信音質の高音レベルを設定します。

- カット : 高音を減衰させる
- 標準 : 高音を補正しない
- 強調 : 高音を強調させる

10 セットモード

■DV設定

自動応答 (初期設定：OFF)

MENU > SET > DV設定 > 自動応答

DVモード運用時、自局宛ての呼び出しがあったとき、呼び出してきた相手局のコールサインを一時的に設定して自動応答するか、しないかを設定します。

- OFF : 自動応答しない
- ON★¹ : 自局のコールサインを送出して、自動応答する
- 音声★¹ : 自局のコールサインと、microSDカードに録音された自動応答用の音声(最大10秒)を自動で送信する
※送信される内容は、モニターできます。
※microSDカードを本製品に取り付けていないときや、自動応答用のファイルがないときは、自局のコールサインだけを送出して自動応答します。

- 位置(メインのみ)★¹★²
: 自局宛ての信号を受信すると、一時的に内蔵GPSをONにし、自局のコールサインと自局の位置情報を送信する

- 位置(メイン/サブ)★²
: 自局宛ての信号を受信すると、一時的に内蔵GPSをONにし、自局のコールサインと自局の位置情報を送信する
※デュアルワッチ中は、MAINバンドとSUBバンドのどちらで信号を受信しても、自動で応答します。

★1 デュアルワッチ中は、MAINバンドで信号を受信したときだけ、自動で応答します。

★2 「GPS選択」を「OFF」、または「マニュアル」に設定されている場合は、一時的に内蔵GPSをONにします。また、「外部GPS(DATA)」でも送信しますが、設定時でも、外部GPSが接続されていない場合は一時的に内蔵GPSをONにします。「GPS送信モード」が「D-PRS」、または「NMEA」設定されていると、その設定に関わらずポジション局になります。

※「ON」、または「音声」を設定しているときは、マイクロホンの[PTT]を押すと、自動応答の設定が自動で「OFF」に変更されます。「位置(メインのみ)」、または「位置(メイン/サブ)」を設定しているときは、マイクロホンの[PTT]を押しても「OFF」に切り替わりません。

DVデータ送信 (初期設定：オート)

MENU > SET > DV設定 > DVデータ送信

DVモード運用時、データを送信する方法を設定します。

- PTT : マイクロホンの[PTT]を押したときに送出する
- オート : データが入力されると、自動で送信する

ファーストデータ (初期設定：OFF)

MENU > SET > DV設定 > DVファーストデータ > ファーストデータ

DVモードでデータ通信をするとき、音声帯域をデータ通信に使用するDVファーストデータで送信するかどうかを設定します。

- OFF : DVデータをスロー(約950bps)に固定して送信する
- ON : DVデータをファースト(約3480bps)で送信する

※「ON」に設定しても、マイクロホンの[PTT]を押しているあいだは、音声を送信するため、DVデータを「スロー」で送信します。

また、GPSデータはGPSデータ速度の設定にしたがいます。

※DVファーストデータ非対応機に送信するときは、「OFF」に設定してください。

GPSデータ速度 (初期設定：スロー)

MENU > SET > DV設定 > DVファーストデータ > GPSデータ速度

DVデータをDVファーストデータで送信しているときの、GPSデータの送信速度を設定します。

※DVファーストデータ通信非対応機にGPSデータを送信するには「スロー」に設定してください。

- スロー : GPSデータをスロー(約950bps)に固定して送信する
- ファースト : GPSデータをファースト(約3480bps)で送信する

送信延長(PTT) (初期設定：2秒)

MENU > SET > DV設定 > DVファーストデータ > 送信延長(PTT)

マイクロホンの[PTT]を押して簡易データ通信しているとき、[PTT]をはなしたあと、DVファーストデータでDVデータを送信する時間を設定します。

- OFF : [PTT]をはなすと、受信に戻る
- 1～10秒 : [PTT]をはなしたあと、設定した時間だけDVファーストデータで送信する

※設定時間が経過するまでに送信データがなくなると、設定時間内でも受信に戻ります。

ご注意

「DVデータ送信」を「PTT」に設定したときだけ有効です。

10 セットモード

■DV設定

デジタルモニター (初期設定：オート)

MENU > SET > DV設定 > デジタルモニター

DVモード運用時、[MONI]を押したときのモニター動作を設定します。

- オート : DVモードの信号を検出するまではFMモードで受信し、DVモードの信号を検出すると、DVモードで受信する
- デジタル : DVモードで受信する
- アナログ : FMモードで受信する

デジタルレピータセット (初期設定：ON)

MENU > SET > DV設定 > デジタルレピータセット

DR機能以外でアクセスしたレピータのコールサインが自局で設定しているものと異なる場合、レピータのダウンリンク信号に含まれるレピータコールサインを自動で設定するかどうかの設定です。

- OFF : 自動設定しない
- ON : 自動で設定する
- ON(GW) : 自動で設定する(ただし、R2には無条件でGWコールサインを設定する)

DV自動検出 (初期設定：OFF)

MENU > SET > DV設定 > DV自動検出

DVモードで信号を受信中、または待ち受け中にDVモード以外の信号を受けた場合、自動的にFMモードに切り替える設定です。

- OFF : FMモードに切り替えない
- ON : 自動的にFMモードに切り替える

受信履歴記録(RPT) (初期設定：全て)

MENU > SET > DV設定 > 受信履歴記録(RPT)

応答がなかったとき(UR?)や、中継されなかったとき(RPT?)のレピータからの信号を、すべて受信履歴に残すか、最新の1件だけを残すかを設定します。

- 全て : 最大50件の応答(UR?/RPT?)を履歴に残す
- 最新のみ : 最新の応答(UR?/RPT?)履歴1件だけを履歴に残す

BK (初期設定：OFF)

MENU > SET > DV設定 > BK

デジタルコールサインスケルチ(DSQL)で通信している2局に対して、同時に呼びかけるための設定です。

- OFF : BK機能を使用しない
- ON : BK機能を使用する
※電源を入れなおすと、設定がOFFになります。

EMR (初期設定：OFF)

MENU > SET > DV設定 > EMR

デジタルスケルチの状態に関わらず、一定レベルまで音量を自動的に上げて通信できるようにする設定です。

- OFF : EMR機能を使用しない
- ON : EMR機能を使用する
※電源を入れなおすと、設定がOFFになります。

EMR AFLレベル (初期設定：19)

MENU > SET > DV設定 > EMR AFLレベル

EMR(Enhanced Monitor Request)信号を受信したときの通話音量を設定します。

- 選択肢 : 0(鳴らさない)～1(最小)～32(最大)
- ※[VOL]で設定している音量のほうが大きい場合は、その音量で通話が聞こえます。

ご注意

EMR受信後、通常の運用状態に戻っても、受信音量はEMR AFLレベルのままなので、[VOL]で音量を調整してください。

■DVレピータモニター設定

レピータモニタータイマー(国内) (初期設定：10分)

MENU > SET > DVレピータモニター設定 > レピータモニタータイマー(国内)

国内のレピータをモニターしているときに、DVLレピータモニター機能を自動的にOFFするまでの時間を選択します。

- 選択肢 : 10分、20分、30分、60分

接続先IPアドレスリスト(海外) (初期設定：使用しない)

MENU > SET > DVレピータモニター設定 > 接続先IPアドレスリスト(海外)

microSDカードに保存されている海外レピータのIPアドレスリスト(csvファイル)から、使用するリストを選択します。

- ※IPアドレスリストを使用しないときは、「使用しない」を選択してください。
- ※IPアドレスリストのファイル名を変更したときは、再度使用するリストを選択してください。

10 セットモード

■交信/受信履歴ログ

交信ログ (初期設定：ON)

MENU > SET > 交信/受信履歴ログ > 交信ログ

交信した履歴をログとしてmicroSDカードに残す交信ログ機能を設定します。

ログは、CSV形式でmicroSDカードに保存され、パソコンに接続して、ログ情報を確認できます。

※「ON」に設定後、送信した内容からログを開始します。

※あらかじめ、市販のmicroSDカードを本製品に取り付けてください。

- OFF : 交信履歴をログとして残さない
- ON : 交信履歴をログとして残す

ご参考

◎microSDカードに作成されるフォルダー名と、その中に作成されるファイル名は、パソコン上で下記のように表示されます。

例：2026年4月1日15時30分00秒 に開始したデータの場合

フォルダー名 : ID-5200\QsoLog

ファイル名 : 20260401_153000.csv

◎交信ログは、CSV形式のファイルで保存されます。

※本製品では、交信ログファイルの確認はできません。

◎microSDカードに保存された交信ログは、パソコンで確認します。

区切り/小数点 (初期設定：区切り「,」 小数点「.」)

MENU > SET > 交信/受信履歴ログ >

CSVフォーマット > 区切り/小数点

交信/受信履歴ログをCSV形式で出力するときの、項目の区切り文字と小数点の文字を設定できます。

- 区切り「,」 小数点「.」: 区切り文字を「,」、小数点文字を「.」にする
- 区切り「;」 小数点「.」: 区切り文字を「;」、小数点文字を「.」にする
- 区切り「;」 小数点「,」: 区切り文字を「;」、小数点文字を「,」にする

日付 (初期設定：yyyy/mm/dd)

MENU > SET > 交信/受信履歴ログ >

CSVフォーマット > 日付

交信/受信履歴ログをCSV形式で出力するときの日付表示を設定します。

※y(year): 年、m(month): 月、d(day): 日

- yyyy/mm/dd : 日付を「年/月/日」で表示する
- mm/dd/yyyy : 日付を「月/日/年」で表示する
- dd/mm/yyyy : 日付を「日/月/年」で表示する

受信履歴ログ (初期設定：OFF)

MENU > SET > 交信/受信履歴ログ > 受信履歴ログ

DVモードで受信した履歴をログとしてmicroSDカードに保存する受信履歴ログ機能を設定します。

ログは、CSV形式でmicroSDカードに保存され、パソコンに接続して、ログ情報を確認できます。

※「ON」に設定後、DVモードで話し終えた時点の内容からログを開始します。

※あらかじめ、市販のmicroSDカードを本製品に取り付けてください。

- OFF : 受信履歴をログとして残さない
- ON : 受信履歴をログとして残す

ご参考

◎microSDカードに作成されるフォルダー名と、その中に作成されるファイル名は、パソコン上で下記のように表示されます。

例：2026年4月1日15時30分00秒 に開始したデータの場合

フォルダー名 : ID-5200\RxLog

ファイル名 : 20260401_153000.csv

◎受信履歴ログは、CSV形式のファイルで保存されます。

※本製品では、受信ログファイルの確認はできません。

◎microSDカードに保存された受信履歴ログは、パソコンで確認します。

10 セットモード

■ 交信/受信履歴ログ

交信ログ内容

項目名	項目例		説明
Type	RF	RF	経路情報 RF(RFで送信/受信)、MONI(DVレピータモニター機能で受信)、 TM(ターミナルモードで送信/受信)
TX/RX	TX	RX	送信/受信
Date	2026/4/1 13:51:48	2026/4/1 13:51:48	送受開始時の日時
Frequency	438.010000	438.010000	送受信した周波数(デュプレックス運用時は、受信側の周波数)
Mode	DV	DV	モードは、FM、FM-N、DV
My Latitude	34.764667	34.764667	自局の緯度(度形式)+：北緯 -：南緯
My Longitude	135.375333	135.375333	自局の経度(度形式)+：東経 -：西経
My Altitude	50.5	50.5	自局の高度(単位：m) 小数点第1位まで記録
RF Power	LOW	(ブランク)	送信出力 送信時のみ
S-meter	(ブランク)	S0	受信時最大のSメーターレベル(14段階)
RPT Call Sign	JP3YHJ	JP3YHJ A	レピータコールサイン(DV時だけ)
TX Call Sign	CQCQCQ	(ブランク)	送信コールサイン(DV時だけ)
RX Call Sign	(ブランク)	JA3YUA A/5200	受信コールサイン(DV時だけ)
RX Latitude	(ブランク)	34.764667	相手局の緯度(度形式)+：北緯 -：南緯 DV受信時に相手局が位置情報送信しているときだけ記録
RX Longitude	(ブランク)	135.375333	相手局の経度(度形式)+：東経 -：西経 DV受信時に相手局が位置情報送信しているときだけ記録
RX Altitude	(ブランク)	30.5	相手局の高度(単位：m) 小数点第1位まで記録 DV受信時に相手局が位置情報送信しているときだけ記録

10 セットモード

■ 交信/受信履歴ログ

受信履歴ログ内容

項目名	項目例	説明
Type	RF	経路情報 RF(RFで受信)、MONI(DVレピータモニター機能で受信)、 TM(ターミナルモードで受信)
Frequency	438.010000	受信した周波数
Mode	DV	モード(DV固定)
Caller	JA3YUA A	Callerのコールサイン(8文字)
/	5200	メモ(4文字)
Called	CQCQCQ	Calledのコールサイン(8文字)
Rx RPT1	JP3YHH G	Rx RPT1のコールサイン(8文字)
Rx RPT2	JP3YHJ A	Rx RPT2のコールサイン(8文字)
Message	Hello CQ D-STAR!	メッセージ(20文字)
Status	(ブランク)	通常：ブランク、UPリンク：「RPT UP」、レピータからの応答：「UR?」「RPT?」
Received date	2026/4/1 13:51:48	受信日時 設定に応じて、日付の書式が変化する
BK	*	BK 機能なら「*」、なしなら空白
EMR	*	EMR 機能なら「*」、なしなら空白
Latitude	34.764667	緯度(度形式) +：北緯 -：南緯
Longitude	135.375333	経度(度形式) +：東経 -：西経
Altitude	30.5	高度(単位：m) 小数点第1位まで記録
SSID	-A	(-O)、-1～-15、-A～-Zの中から記録
D-PRS Symbol	Car	アイコンがある場合：文字列に変換 アイコンがない場合：基本的にコードのまま
Course	123	進行方向(度形式 小数点以下はなし)
Speed	23.5	進行速度(単位：km/h) 小数点第1位まで記録
Power	49	出力(単位：W)
Height	24	地上高(単位：m)
Gain	6	アンテナゲイン(単位：dB)
Directivity	Omni	指向性(Omni、または度形式)
Object/Item Name	HAM FES	オブジェクトネーム、またはアイテムネーム(9文字)
Data Type	Live Object	オブジェクト/アイテムのデータタイプ(Live、またはKill)
Temperature	20.5	温度(単位：℃)小数点第1位まで記録
Rainfall	253.7	直前の1時間当たりの雨量(単位：mm/h) 小数点第1位まで記録
Rainfall (24 Hours)	253.7	24時間の平均雨量(単位：mm/h) 小数点第1位まで記録
Rainfall (Midnight)	253.7	夜間の雨量(単位：mm/h) 小数点第1位まで記録
Wind Direction	315	風向(度形式 小数点以下はなし)
Wind Speed	10.0	風速(単位：m/s)小数点第1位まで記録
Gust Speed	10.0	瞬間風速(単位：m/s) 小数点第1位まで記録 受信履歴ログのみ
Barometric	1013.0	気圧 (単位：hPa) 小数点第1位まで記録
Humidity	85	湿度 (単位：%)
GPS Time Stamp	12:00:00	測位時間
GPS Message	Osaka City/ID-5200	相手局がNMEAのとき：GPSメッセージを記録 相手局がD-PRSのとき：コメントを記録

10 セットモード

■外部端子

CI-Vアドレス (初期設定：B8h)

MENU > SET > 外部端子 > CI-V > CI-Vアドレス

CI-Vシステムを利用して、本製品を外部コントロールするときのアドレスを設定します。

- 選択肢：02h～DFh(16進数)

※B8hは、本製品の初期設定アドレスです。

CI-Vトランシーブ (初期設定：ON)

MENU > SET > 外部端子 > CI-V > CI-Vトランシーブ

CI-Vシステムを利用してパソコンから外部コントロールするとき、ほかの無線機などに連動して本製品の周波数や電波型式などを変更するときに設定します。

※RS-MS1A/RS-MS1I使用時は、「ON」に設定してください。

- OFF : ほかの無線機と連動させない
- ON : ほかの無線機と設定の変更を連動させる
※接続しているほかのCI-V搭載無線機の設定内容が変更されたときは、自動的に本製品の設定内容も変更されます。

CI-V USBエコーバック (初期設定：ON)

MENU > SET > 外部端子 > CI-V > CI-V USBエコーバック

[USB]ポートを利用して、本製品を外部コントロールするときのエコーバックについて設定します。

- OFF : データをエコーバックしない
- ON : データをエコーバックする

CI-V DATAボーレート (初期設定：9600)

MENU > SET > 外部端子 > CI-V > CI-V DATAボーレート

CI-Vシステムを利用して、本製品の[DATA]ジャックを経由して本製品を外部制御するときのボーレートを設定します。

- 選択肢：4800、9600、19200(bps)

CI-V DATAエコーバック (初期設定：OFF)

MENU > SET > 外部端子 > CI-V > CI-V DATAエコーバック

[DATA]ジャックを利用して、本製品を外部コントロールするときのエコーバックについて設定します。

- OFF : エコーバックしない
- ON : エコーバックする

USB接続 (初期設定：シリアルポート)

MENU > SET > 外部端子 > USB接続

本製品とパソコンなどを、USBケーブルで接続したときの動作モードを設定します。

- シリアルポート
: CS-5200でプログラミングするときや、DVデータの入出力、CI-Vによる外部制御や気象データ入力など、外部機器とシリアル通信をするときに設定する
※出力のタイプは、「USB(B)端子機能」で設定してください。
(MENU > SET > 外部端子 > シリアルポート機能 > USB(B)端子機能)
※パソコンなどに接続したとき、が表示されます。
※USBケーブルはデータ通信対応のものを使用してください。
※事前にUSBドライバーをパソコンにインストールしてください。
※DVデータの入出力については、3-24ページの「通信ソフトウェアの設定」でご確認ください。
- SDカードモード
: 本製品に挿入されているmicroSDカードを、USBメモリーとしてパソコンに認識させる(P.1-9)

USBドライバーについて

ご使用していただくために必要なUSBドライバー、およびインストールガイドについては、弊社ホームページにアクセスしていただき、サポート情報よりダウンロードしてください。

アクセス方法は、13-3ページをご覧ください。

アイコムホームページ <https://www.icom.co.jp/>

USBシリアルポート(電源OFF) (初期設定：OFF)

MENU > SET > 外部端子 > USBシリアルポート (電源OFF)

無線機が電源OFFの状態、パソコンなどをUSBケーブルで接続しているとき、COMポートとして認識するかどうかの設定です。

- OFF : COMポートとして認識しない
- ON : COMポートとして認識する

USB(A)端子機能

MENU > SET > 外部端子 > シリアルポート機能 > USB(A)端子機能

[USB]ポートには、2系統の仮想COMポート(A、B)があります。

USB(A)は、CI-Vシステムによる制御で使用します。

※この項目は設定できません。

※USBドライバーがインストールされたパソコンの[USB]ポートに接続すると、「ID-5200 Serial Port A (CI-V)」の仮想ポート名で認識されます。

10 セットモード

■外部端子

USB(B)端子機能 (初期設定：OFF)

MENU > SET > 外部端子 > シリアルポート機能 >
USB(B)端子機能

[USB]ポートには、2系統の仮想COMポート(A、B)があります。

この項目では、USB(B)に割り当てる機能を設定します。

※USBドライバーがインストールされたパソコンの
[USB]ポートに接続すると、「ID-5200 Serial Port B
(CI-V)」の仮想ポート名で認識されます。

- OFF : USB(B)に機能を割り当てない
- DVデータ : DVモードで運用する簡易データ通信の内容を入出力する
- 気象入力 : GPS送信モードを「D-PRS」に設定したときの気象データを入力する
- GPS出力 : GPSが測位した自局の位置情報を出力する

DATA端子機能 (初期設定：DVデータ)

MENU > SET > 外部端子 > シリアルポート機能 >
DATA端子機能

[DATA]ジャックに割り当てる機能を設定します。

- OFF : [DATA]ジャックに機能を割り当てない
- DVデータ : DVモードで運用する簡易データ通信の内容を入出力する
- 気象入力 : GPS送信モードを「D-PRS」に設定したときの気象データを入力する
- GPS出力(115200bps)
: GPSが測位した自局の位置情報を出力する
- CI-V : CI-Vコマンドを送受信する

DVデータボーレート(DATA) (初期設定：9600)

MENU > SET > 外部端子 > シリアルポート機能 >
DVデータボーレート(DATA)

[DATA]ジャックを経由してDVデータ通信の送受信をするときのボーレートを設定します。

- 選択肢 : 4800、9600(bps)

気象入力ボーレート(DATA) (初期設定：9600)

MENU > SET > 外部端子 > シリアルポート機能 >
気象入力ボーレート(DATA)

[DATA]ジャックを経由して気象データのを入力をするときのボーレートを設定します。

- 選択肢 : 4800、9600(bps)

10 セットモード

■ディスプレイ設定

LCDバックライト(自動調整中)

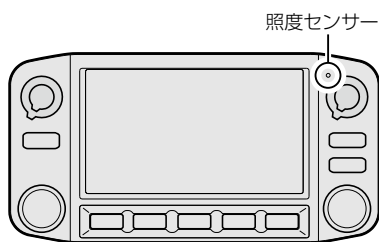
MENU > SET > ディスプレイ設定 >
LCDバックライト(自動調整中)

ディスプレイの明るさの調整です。

- 設定範囲：0(暗)～100%(明)

※[自動調整]をタッチすると、明るさ自動調整のON/OFFが切り替わります。

画面が暗くなることがありますので、手やものなどで照度センサーをふさがないでください。



スクリーンセーバー (初期設定：OFF)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > スクリーンセーバー

スクリーンセーバーを設定します。

※本製品を操作しない状態が設定した時間を超えると、表示が消え、[POWER]が点滅します。

操作すると経過時間がリセットされ、元の状態に戻ります。

- OFF：スクリーンセーバーを動作させない
- 15分、30分、60分
：設定した時間が経過するとスクリーンセーバーが起動する

グループネームポップアップ (初期設定：ON)

MENU > SET > ディスプレイ設定 >
グループネームポップアップ

メモリーチャンネルグループを切り替えたときのグループネームポップアップ表示、または非表示を設定します。

- OFF：グループネームポップアップを表示しない
- ON：グループネームポップアップを表示する

受信コールサイン表示 (初期設定：ノーマル)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > 受信コールサイン表示

DVモード運用時に、呼び出してきた相手局のコールサインとメッセージを表示するかしないかの設定です。

- OFF
：受信してもコールサインとメッセージを表示しない
- ノーマル
：受信したとき、相手局のコールサインとメッセージをスクロール表示する
※コールサインをスクロール表示したあとに、メッセージを表示します。
※スクロール後、表示は消えます。
- 受信ホールド
：受信したとき、相手局のコールサインとメッセージをスクロール表示する
※コールサインをスクロール表示したあとに、メッセージを表示します。
※スクロール後、信号が消えるまで、コールサインを表示します。(スクロールはしません。)
※受信信号にコールサインが含まれていないときは、メッセージをスクロール表示したあとに、表示は消えます。
- ホールド
：受信したとき、相手局のコールサインとメッセージをスクロール表示する
※コールサインをスクロール表示したあとに、メッセージを表示します。
※スクロール後、信号が消えるまで、コールサインを表示します。(スクロールはしません。)
※信号が消えると、コールサインとメッセージを2秒ごとに表示します。(スクロールはしません。)
※受信信号にコールサインが含まれていないときは、メッセージをスクロール表示したあとに、メッセージを表示します。

受信位置インジケータ (初期設定：ON)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > 受信位置インジケータ

DVモードで受信した信号に位置情報が含まれているとき、インジケータ「」をディスプレイに表示するか、しないかを設定します。

※「受信コールサイン表示」を「OFF」に設定しているときは、受信信号に位置情報が含まれていても、インジケータをディスプレイに表示しません。

- OFF：受信信号に位置情報が含まれていても、インジケータをディスプレイに表示しない
- ON：受信信号に位置情報が含まれているとき、インジケータをディスプレイに表示する

10 セットモード

■ディスプレイ設定

受信位置表示 (初期設定：ON(メイン/サブ))

MENU > SET > ディスプレイ設定 > 受信位置表示

DVモードで受信した信号に送信局の位置情報が含まれているとき、その位置情報をダイアログで表示するか、しないかを設定します。

- OFF : 受信信号に送信局の位置情報が含まれていても、その位置情報をダイアログで表示しない
- ON(メイン/サブ)
: 受信信号に送信局の位置情報が含まれているとき、その位置情報をダイアログで表示する
- ON(メインのみ)
: MAINバンドで受信した信号に送信局の位置情報が含まれているとき、その位置情報をダイアログで表示する

※表示時間は、「受信位置表示時間」の設定にしがいます。

受信位置表示時間 (初期設定：10秒)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > 受信位置表示時間

送信局の位置情報をダイアログで表示する時間を設定します。

- 5秒～30秒 : 5/10/15/30秒の中から選択する
- ホールド : 本製品を操作するまで、送信局の位置情報をダイアログで表示する

自動応答位置表示 (初期設定：ON)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > 自動応答位置表示

自動応答で位置情報を受信したとき、相手局の位置情報をダイアログで表示する自動応答位置表示機能を設定します。

- OFF : 自動応答による位置情報を受信しても、相手局の位置情報を表示しない
- ON : 自動応答による位置情報を受信したとき、相手局の位置情報を表示する

受信画像インジケータ (初期設定：ON)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > 受信画像インジケータ

相手局から画像を受信したとき、インジケータ「」をディスプレイに表示するか、しないかを設定します。

※「受信コールサイン表示」を「OFF」に設定しているときは、受信信号に画像が含まれていても、インジケータをディスプレイに表示しません。

- OFF : 画像を受信しても、インジケータを表示しない
- ON : 画像を受信すると、インジケータを表示する

DV受信バックライト (初期設定：ON)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > DV受信バックライト

本製品のスクリーンセーバー機能が動作中に信号を受信したとき、バックライトを点灯させるかさせないかを設定します。

- OFF : 信号を受信してもバックライトを点灯させない
- ON : DVモードで、受信してポップアップが表示されたときにバックライトを点灯させる
※ポップアップが非表示になると、消灯します。

送信コールサイン表示 (初期設定：相手局)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > 送信コールサイン表示

DVモードで送信するとき、コールサインをスクロール表示についての設定です。

- OFF : 送信してもコールサインを表示しない
- 相手局 : 送信したとき、相手局のコールサインを一度だけスクロール表示する
※DR機能使用時を除き、相手局のコールサインとネームが登録されている場合は、コールサインにつづいてネームを「()」付きで表示します。
- 自局 : 送信したとき、自局のコールサインを一度だけスクロール表示する

スクロール速度 (初期設定：速い)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > スクロール速度

ポップアップの受信メッセージ、コールサイン、メモリーチャンネルネームやMENU画面の設定項目などの表示をスクロールしたときの表示速度を設定します。

- 遅い : ゆっくりスクロールする
- 速い : 速くスクロールする(「遅い」の約2倍の速さです)

オープニングメッセージ (初期設定：ON)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > オープニングメッセージ

オープニング画面(コールサイン表示を含む)の表示、または非表示の設定です。

- OFF : オープニング画面を表示しない
- ON : オープニング画面を表示する

電圧表示(パワーオン) (初期設定：ON)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > 電圧表示(パワーオン)

電源を入れたときに、電源電圧を表示するかしないかを設定します。

- OFF : 電源電圧を表示しない
- ON : 電源電圧を表示する
※「Over Voltage」が表示されたときは、過電圧(17.0V以上)が接続されていますので、ただちに電源をはずしてください。

10 セットモード

■ディスプレイ設定

時計/電圧表示 (初期設定：時計)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > 時計/電圧表示

ディスプレイの中央上部に時計を表示するか、電源電圧を表示するかを設定します。

- 時計：時計を表示する
- 電圧：電源電圧を表示する

緯度/経度 (初期設定：ddd° mm' ss")

MENU > SET > ディスプレイ設定 > 表示単位 > 緯度/経度

画面に表示する位置情報の表示形式を設定します。

- ddd° mm.mm'：位置情報を「度/分(小数点)」で表示する
- ddd° mm' ss"：位置情報を「度/分/秒」で表示する
- ddd.dddd°：位置情報を「度」で表示する

高度/距離 (初期設定：m)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > 表示単位 > 高度/距離

高度や相手局との距離を示す長さの表示単位を設定します。

- m：メートル法で表示する
- ft/mi：ヤード・ポンド法で表示する

速度 (初期設定：km/h)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > 表示単位 > 速度

移動速度の表示単位を設定します。

- km/h：メートル法で表示する
- mph：ヤード・ポンド法で表示する
- knots：船や航空などの速度の単位(ノット)で表示する

気温 (初期設定：℃)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > 表示単位 > 気温

気温の表示単位を設定します。

- ℃：「摂氏」で表示する
- °F：「華氏」で表示する

気圧 (初期設定：hPa)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > 表示単位 > 気圧

気圧の表示単位を設定します。

- hPa：「ヘクトパスカル」で表示する
- mb：「ミリバール」で表示する
- mmHg：「水銀柱ミリ」で表示する
- inHg：「水銀柱インチ」で表示する

雨量 (初期設定：mm)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > 表示単位 > 雨量

雨量の表示単位を設定します。

- mm：「ミリメートル」で表示する
- inch：「インチ」で表示する

風速 (初期設定：m/s)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > 表示単位 > 風速

風速の表示単位を設定します。

- m/s：メートル法(メートル毎秒)で表示する
- km/h：メートル法(キロメートル毎秒)で表示する
- mph：ヤード・ポンド法で表示する
- knots：船や航空などの速度の単位(ノット)で表示する

表示言語 (初期設定：日本語)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > 表示言語

ディスプレイの表示言語を設定します。

- 選択肢：英語、日本語

10 セットモード

■ディスプレイ設定

システム言語 (初期設定：日本語)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > システム言語

使用できる文字の種類を設定します。

ご注意

「システム言語」を「日本語」から「英語」に変えた場合、日本語を使って入力されたネームの表示や編集ができなくなります。入力に使われた、ひらがな、カタカナ、漢字、和文記号は、「=」と「_」で表示されます。

「システム言語」を「日本語」に戻すと、再度表示や編集ができるようになります。

- 英語 : ネームなどの文字列編集に、半角英数、英文記号だけが使用できる

入力モード	入力文字一覧
AB	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ■
ab	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz■
12	1234567890■
記号	■!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@ [\]^_`{ }~。「」・ー°

- 日本語 : ネームなどの文字列編集に、半角英数と英文記号に加え、全角文字(ひらがな、カタカナ、漢字)、和文記号が使用できる

入力モード	入力文字一覧
AB(全角/半角)	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ■
ab(全角/半角)	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz■
12(全角/半角)	1234567890■
カナ(全角/半角)	アイウエオカキクケコサシスセソタチツテト ナニヌネノハヒフヘホマミムメモヤユヨラリ ルレロワワンー■
あ漢	あいうえおかきくけこさしすせそたちつてと なにぬねのはひふへほまみむめもやゆより るれるわをんー■ (ひらがな1文字選択後、[QUICK]で漢字変換)
記号	パソコンのキーボードから入力できる記号は、すべて入力できます。
区点	JIS区点コードを利用して、文字や記号を入力できます。

※ ■ はスペースです

10 セットモード

■サウンド設定

ビープレベル (初期設定：9)

MENU > SET > サウンド設定 > ビープレベル

キー操作音のビープ音の音量を設定します。

※ビープレベルが「0」のときは、スキャンストップビープやスタンバイビープ音は鳴りません。

※スピーチ機能の読み上げ音量は、「スピーチ」項目にある「スピーチレベル」で設定できます。

(MENU > SET > 機能設定 > スピーチ > スピーチレベル)

※ビープレベルは、音量ツマミの操作と連動します。

- 選択肢：0(鳴らさない)～1(最小)～9(最大)

操作音 (初期設定：ON)

MENU > SET > サウンド設定 > 操作音

操作時にビープ音を鳴らす設定です。

- OFF：操作時にビープ音を鳴らさない
- ON：操作時にビープ音を鳴らす

ホームCHビープ (初期設定：ON)

MENU > SET > サウンド設定 > ホームCHビープ

[DIAL]を回してホームCHを表示したときに、ビープ音を鳴らす設定です。

VFOモード、メモリーモードでは、ホームCHとして登録した周波数、またはメモリーチャンネルが選択されるとビープ音が鳴ります。(P.12-3)

DR画面では、FROM設定時にホームCHとして登録したアクセスレピータが選択されるとビープ音が鳴ります。

- OFF：ホームCHビープ音を鳴らさない
- ON：ホームCHビープ音を鳴らす

バンドエッジビープ (初期設定：OFF)

MENU > SET > サウンド設定 > バンドエッジビープ

バンドが切り替わったことを知らせるためにビープ音を鳴らす設定です。

[DIAL]でAIR/VHF/UHF帯とバンドが切り替わると、ビープ音が1回鳴ります。

- OFF：バンドエッジビープ音を鳴らさない
- ON：バンドエッジビープ音を鳴らす

スキャンストップビープ (初期設定：OFF)

MENU > SET > サウンド設定 > スキャンストップビープ

スキャン動作中に信号を受信してスキャンが一時停止したとき、ビープ音を鳴らす設定です。

- OFF：ビープ音を鳴らさない
- ON：ビープ音を鳴らす

スタンバイビープ

(初期設定：ON(自局宛て:アラーム/高音))

MENU > SET > サウンド設定 > スタンバイビープ

DVモード運用時、終話ビープ(スタンバイビープ)を鳴らして終話がわかるようにする設定です。

- OFF：スタンバイビープを鳴らさない
- ON：スタンバイビープを鳴らす
- ON(自局宛て:高音)
：スタンバイビープを鳴らす
さらに、ほかの交信の終話と区別できるよう、自局宛ての呼び出しの終話には高いビープ音が鳴る

- ON(自局宛て:アラーム/高音)
：スタンバイビープを鳴らす
さらに、ほかの交信の終話と区別できるよう、自局宛ての呼び出しの終話には高いビープ音(交信中)、またはアラーム音(交信中以外)が鳴る

※「操作音」の設定が「OFF」でも、スタンバイビープは鳴ります。

※スタンバイビープの音量は、「ビープレベル」の設定に準じます。

サブバンドミュート(メイン受信時) (初期設定：OFF)

MENU > SET > サウンド設定 >
サブバンドミュート(メイン受信時)

デュアルバンドで受信しているときに、SUBバンドの受信音を自動的にミュート(消音)する設定です。

- OFF：SUBバンドの受信音をミュートしない
- ミュート：MAINバンドで受信したとき、SUBバンドの受信音をミュートする
- ビープ：SUBバンドが受信していたとき、SUBバンドの受信が終了するとビープ音(ピッ)を鳴らす
- ミュート&ビープ
：MAINバンドが受信しているとき、SUBバンドの受信音をミュートする
また、SUBバンドが受信していたときに、SUBバンドの受信が終了するとビープ音を鳴らす
※ビープ音は、MAINバンドの受信の有無に関わらず鳴ります。

サブバンドミュート(送信時) (初期設定：OFF)

MENU > SET > サウンド設定 > サブバンドミュート(送信時)

デュアルバンドで送信しているときに、SUBバンドの受信音を自動的にミュート(消音)する設定です。

- OFF：SUBバンドの受信音をミュートしない
- ON：MAINバンドで受信したとき、SUBバンドの受信音をミュートする

10 セットモード

■時間設定

日付

MENU > SET > 時間設定 > 日時設定 > 日付

日付を設定します。

- 設定範囲：2020/01/01～2099/12/31
- ※曜日は自動で設定されます。
- ※インターネット接続時、「NTP機能」が「ON」のときは、自動設定されます。

時間

MENU > SET > 時間設定 > 日時設定 > 時間

現在の時刻を設定します。

- 設定範囲：0:00～23:59
- ※時刻は24時間方式で表示されます。
- ※インターネット接続時、「NTP機能」が「ON」のときは、自動設定されます。
- ※GPS時刻補正が「オート」、UTCオフセットが「+9:00」に設定(初期値のまま)されていれば、内蔵GPSが受信できる環境で自動的に設定されます。

《ネットワーク時刻補正》

MENU > SET > 時間設定 > 日時設定 >
《ネットワーク時刻補正》

内部時計を自動設定するとき、タッチします。

※NTPサーバーに日時の問い合わせが開始されると、「ネットワーク時刻補正中です。しばらくおまちください...」が表示されます。

※NTP機能の設定に関係なく問い合わせできます。

NTP機能 (初期設定：ON)

MENU > SET > 時間設定 > 日時設定 > NTP機能

NTPサーバーによる自動時計設定機能を設定します。

- OFF : 自動時計設定機能を使用しない
- ON : 自動時計設定機能を使用する

※本製品をインターネットに接続できる環境が必要です。

NTPサーバーアドレス (初期設定：ntp.nict.jp)

MENU > SET > 時間設定 > 日時設定 > NTP機能

問い合わせをするNTPサーバーを設定します。

- ※特に問題なければ、初期設定のままでご使用ください。
- ※入力方法や文字の種類、最大文字数などは、iiiページをご覧ください。

GPS時刻補正 (初期設定：オート)

MENU > SET > 時間設定 > 日時設定 > GPS時刻補正

GPSセンテンスに含まれる時刻情報を使用して時刻を補正する設定です。

GPSから受けたUTC時間と、設定された「UTCオフセット」から時刻を算出します。

- OFF : 時刻を自動補正しない
- オート : 時刻を自動補正する

※GPSの電波を受信すると、表示時刻を補正します。

UTCオフセット (初期設定：+9:00)

MENU > SET > 時間設定 > UTCオフセット

現地時間とUTC時間(協定世界時)の差(オフセット時間)を5分間隔で設定します。

- 選択肢：-14:00～+14:00

※日本時間を表示するには、初期値(+9:00)のままでお使いください。

10 セットモード

■Bluetooth設定

Bluetooth (初期設定：OFF)

MENU > SET > Bluetooth設定 > Bluetooth

Bluetooth機能をON/OFFします。

- OFF : Bluetooth機能を使用しない
- ON : Bluetooth機能を使用する

自動接続 (初期設定：ON)

MENU > SET > Bluetooth設定 > 自動接続

ペアリング済みのBluetooth機器に対して、自動で接続をするかどうかを設定します。

- OFF : ペアリング済みの機器に自動で接続しない
- ON : ペアリング済みの機器に自動で接続する
※最後に接続していた機器に自動接続します。

ペアリング/接続

MENU > SET > Bluetooth設定 > ペアリング/接続

接続したいBluetooth機器を検索、またはペアリング済みのBluetooth機器を一覧表示します。

※ペアリングについては、簡易マニュアル6章をご覧ください。

《相手機器からペアリング》

MENU > SET > Bluetooth設定 > 《相手機器からペアリング》

Android端末やiOS端末などのBluetooth機器からペアリングするときの設定です。

AF出力切替 (初期設定：ヘッドセットのみ)

MENU > SET > Bluetooth設定 > ヘッドセット設定 > AF出力切替

Bluetooth対応のヘッドセットを接続している場合、無線機本体からのAF(音声)出力を設定します。

- ヘッドセットのみ
: 無線機本体のスピーカーをOFFにし、ヘッドセットからだけAFを出力する
- ヘッドセット&スピーカー
: 無線機本体のスピーカーをONにし、ヘッドセットと無線機からAFを出力する

ヘッドセット機能選択 (初期設定：ノーマル)

MENU > SET > Bluetooth設定 > ヘッドセット設定 > ヘッドセット機能選択

Bluetoothヘッドセットの動作を設定します。

- ノーマル : [PTT]を押したBluetoothヘッドセット、またはマイクロホンからの音声を送信する
- マイク : Bluetoothヘッドセットをマイクとして使用する
※マイクロホンからの音声は送信されません。
※Bluetoothヘッドセットの[PTT]を押しても送信できます。
- PTT : BluetoothヘッドセットをPTTとして使用する
※マイクロホンからの音声を送信します。
Bluetoothヘッドセットのマイクからの音声は送信されません。
※本製品の[PTT]を押しても送信できます。

各設定に対するBluetoothヘッドセットの動作は、下表のようになります。

設定	送信操作	音声入力
ノーマル	○	○
マイク	○	○
PTT	○	×(音声入力はマイクロホン)

自動切断 (初期設定：OFF)

MENU > SET > Bluetooth設定 > ヘッドセット設定 > 自動切断

Bluetoothヘッドセットからの音声出力がなく、本製品を操作しない状態がつづいたとき、ヘッドセットとの接続(SCOリンク)を自動で切断するまでの時間を設定します。

- 選択肢：OFF、0秒～10秒

※切断された状態で音声を受信したり、ビープ音が鳴ったり、操作をしたりしたときは、自動で再接続されます。

10 セットモード

■Bluetooth設定

VOX (初期設定：OFF)

MENU > SET > Bluetooth設定 > ヘッドセット設定 > VOX > VOX

[PTT]を押さなくても、マイクロホンからの音声によって送受信を自動的に切り替える、VOX機能を設定します。

- OFF : VOX機能を使用しない
- ON : VOX機能を使用する

ご注意

VOX機能を使用するには、別売品のBluetoothヘッドセットが必要です。

VOXゲイン (初期設定：5)

MENU > SET > Bluetooth設定 > ヘッドセット設定 > VOX > VOXゲイン

入力音声により送信に切り替わる感度を設定します。

- OFF : VOX機能が動作しない
(声を出しても送信状態に切り替わりません。)
- 1～10 : 「1(送信しにくい)」～「10(送信しやすい)」から感度を選択する

VOXディレイ (初期設定：0.5秒)

MENU > SET > Bluetooth設定 > ヘッドセット設定 > VOX > VOXディレイ

VOX機能により送信状態に切り替わったあと、音声入力が無くなって送信状態を保持する時間を設定します。

- 選択肢 : 0.5秒/1.0秒/1.5秒/2.0秒/2.5秒/3.0秒

VOXタイムアウトタイマー (初期設定：3分)

MENU > SET > Bluetooth設定 > ヘッドセット設定 > VOX > VOXタイムアウトタイマー

VOX機能使用時に、連続して送信できる時間を設定します。

- OFF : 送信時間を制限しない
- 選択肢 : 1分/2分/3分/4分/5分/10分/15分

パワーセーブ (初期設定：OFF)

MENU > SET > Bluetooth設定 > ヘッドセット設定 > アイコムヘッドセット > パワーセーブ

弊社製Bluetooth®ヘッドセット接続時、ヘッドセットのバッテリーを長持ちさせるパワーセーブモードで運用するかどうかを設定します。

※他社製ヘッドセット、またはデータ端末接続時は、この設定に関係なくパワーセーブモードがオフになります。

- OFF : パワーセーブモードに移行しない
- ON : 120秒間音声のやり取りがなく、操作しない状態がつづく、パワーセーブモードに移行する

ワンタッチPTT (初期設定：OFF)

MENU > SET > Bluetooth設定 > ヘッドセット設定 > アイコムヘッドセット > ワンタッチPTT

弊社製Bluetooth®ヘッドセット接続時、ワンタッチPTT機能を設定します。

ワンタッチPTT機能を設定すると、ヘッドセットの[PTT]を押しつづけることなく送信できます。

- OFF : [PTT]を押しているあいだ送信状態になり、はなすと受信状態に戻る
- ON : [PTT]を押すごとに送信と受信を切り替える

PTTビープ (初期設定：OFF)

MENU > SET > Bluetooth設定 > ヘッドセット設定 > アイコムヘッドセット > PTTビープ

弊社製Bluetooth®ヘッドセットの[PTT]を押したときにビープ音を鳴らす機能を設定します。

- OFF : ビープ音を鳴らさない
- ON : ビープ音を鳴らす

カスタマイズキービープ (初期設定：OFF)

MENU > SET > Bluetooth設定 > ヘッドセット設定 > アイコムヘッドセット > カスタマイズキービープ

弊社製Bluetooth®ヘッドセットのカスタマイズキー([PLAY]/[FWD]/[RWD])を操作したときにビープ音を鳴らす機能を設定します。

- OFF : ビープ音を鳴らさない
- ON : ビープ音を鳴らす

カスタマイズキー

(初期設定：[PLAY]：---/[FWD]：UP/[RWD]：DOWN)

MENU > SET > Bluetooth設定 > ヘッドセット設定 > アイコムヘッドセット > カスタマイズキー

弊社製Bluetooth®ヘッドセットのカスタマイズキー([PLAY]/[FWD]/[RWD])に機能を割り当てできます。

※割り当てできる機能は、スピーカーマイクロホンの[△]/[▽]キー、および[A]/[B]キーと同様です。

詳しくは、10-33ページをご覧ください。

10 セットモード

■Bluetooth設定

シリアルポート機能（初期設定：CI-V(エコーバック OFF)）

MENU > SET > Bluetooth設定 > データ端末設定 >
シリアルポート機能

BluetoothのSPP(Serial Port Profile)接続でデータ端末やパソコンなどと接続するときのシリアルポートの機能を設定します。

- CI-V(エコーバック OFF)
 - ： CI-Vコマンドを送受信する
 - ※BluetoothのSPP接続で受信したシリアルデータをエコーバックとして送り返しません。
 - CI-V(エコーバック ON)
 - ： CI-Vコマンドを送受信する
 - ※BluetoothのSPP接続で受信したシリアルデータをエコーバックとして送り返します。
 - DVデータ：DVデータを出力する
 - ※クローンや気象データの入力、GPSデータの出力はしません。
 - GPS出力：GPSが測位した自局の位置情報を出力する
- ※無線機がターミナルモード、またはアクセスポイントモードで運用中に「ゲートウェイ選択」が「外部ゲートウェイ(Bluetooth)」に設定されている場合、この設定に関わらず、外部ゲートウェイとの通信に無線機のBluetooth機能が使用されます。

自機器情報

MENU > SET > Bluetooth設定 > 自機器情報

本製品に内蔵されているBluetoothユニットの情報が表示されます。

Bluetoothユニット初期化

MENU > SET > Bluetooth設定 > Bluetoothユニット初期化

Bluetoothユニットを初期化します。

10 セットモード

■Bluetooth設定

カスタマイズキーに割り当てできる機能一覧

機能	動作内容
---	割り当てなし
UP	VFOモード時の周波数、メモリーモード/コールサインリスト選択時のメモリーチャンネルアップ
DOWN	VFOモード時の周波数、メモリーモード/コールサインリスト選択時のメモリーチャンネルダウン
VOL UP	音量アップ
VOL DOWN	音量ダウン
SQL UP	スケルチレベルアップ
SQL DOWN	スケルチレベルダウン
モニター	押すごとに、スケルチが開いたり閉じたりする
CALL	コールチャンネル表示に切り替える
MR(00-00 CH)	メモリーチャンネルを00-00に移動する
MR(00-01 CH)	メモリーチャンネルを00-01に移動する
VFO/MR	VFOモードとメモリーモードを切り替える
DR	DR画面に切り替える
FROM/TO(DR)	DR画面時、押すごとに「FROM」と「TO」の選択状態を切り替える
FROM(DR)	DR画面のとき、「FROM」の項目選択状態に切り替える
TO(DR)	DR画面のとき、「TO」の項目選択状態に切り替える
ホームCH	表示している運用モード(VFO/MR)、またはDR画面に登録したホームCHに移動する ※ホームCHが登録されていない場合や、コールチャンネルモードの状態では、エラービープが鳴ります。
BAND/GROUP	VFOモード：運用バンド切り替え メモリーモード：グループ番号切り替え
SCAN	押すごとにスキャン開始、停止を切り替える
SKIP CHグループ登録	スキャン中に一時停止した周波数を、長押しでスキップする(スキャンの対象からはずれる)ようにメモリーに登録する
一時スキップ	スキャン中、スキャンの対象から一時的にはずす(スキップする)ようにメモリーに登録する
RX>CS	短押しでRX>CS画面を表示する 長押しでワンタッチ応答キーとして、聞こえている局を宛先に設定する
SPEECH	VFO/メモリー/コールチャンネルモードでは周波数とモードをスピーチし、DR画面ではコールサインをスピーチする ※DR画面でシンプレックスを選択している場合は、周波数をスピーチします ※DR画面でFMLレピータを選択している場合は、コールサイン+運用モード、または周波数+運用モードをスピーチします。
MAIN/DUAL	短押しでMAINバンド(AまたはBバンド)の切り替える 長押しでシングル表示とデュアル表示を切り替える
MAIN(A)	AバンドをMAINバンドに切り替える
MAIN(B)	BバンドをMAINバンドに切り替える
MODE	運用モード(電波型式)を切り替える
LOW	押すごとに、送信出力を切り替える
DUP	押すごとに、デュプレックスモードのON/OFFと、シフト方向(DUP+/DUP-)を切り替える
TONE/D.SQL	FMモード時：各種トーン機能を切り替える DVモード時：各種デジタルスケルチ機能を切り替える
MW	VFOモード、またはDR画面で長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、表示している周波数をメモリーチャンネルに書き込む ※自動的に空きチャンネルを選択して書き込みます。
録音	短押しで録音開始、長押しで停止する
MUTE	押すごとに、ミュート(消音)機能のON/OFFを切り替える
ボイス送信(T1)	短く押すと、microSDカードに録音された自局の音声を1回だけ送信
ボイス送信(T2)	長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、microSDカードに録音された自局の音声を繰り返し送信する
ボイス送信(T3)	ご注意 ボイス送信録音画面で録音されていない場合は、動作しません。
ボイス送信(T4)	※DR画面でも操作できます。 ※microSDカードを本製品に取り付けている必要があります。
T-CALL	T-CALL(1750Hzトーン信号)を送出する

10 セットモード

■Wi-Fi設定

Wi-Fi (初期設定：OFF)

MENU > SET > Wi-Fi設定 > Wi-Fi

無線LAN機能をON/OFFします。

- OFF : 無線LAN機能を使用しない
- ON : 無線LAN機能を使用する

アクセスポイント一覧

MENU > SET > Wi-Fi設定 > 接続設定 > アクセスポイント一覧

使用可能なアクセスポイントが表示されます。

※接続方法について詳しくは、12-9ページをご覧ください。

SSID

MENU > SET > Wi-Fi設定 > 接続設定 > 手動接続 > SSID

接続するアクセスポイントのSSIDを設定します。

※入力方法や文字の種類、最大文字数などは、iiiページをご覧ください。

セキュリティ (初期設定：WPA/WPA2)

MENU > SET > Wi-Fi設定 > 接続設定 > 手動接続 > セキュリティ

接続するアクセスポイントに設定された暗号化方式を設定します。

- なし : 暗号化方式を設定しない
- WPA/WPA2 : 暗号化方式にWPA、またはWPA2を設定する

パスワード

MENU > SET > Wi-Fi設定 > 接続設定 > 手動接続 > パスワード

接続するアクセスポイントに設定されたパスワードを設定します。

※入力方法や文字の種類、最大文字数などは、iiiページをご覧ください。

《接続》

MENU > SET > Wi-Fi設定 > 接続設定 > 手動接続 > 《接続》

SSID、セキュリティ、パスワードを入力後、タッチして接続します。

* 印の項目は、再起動するまで、設定が反映されません。

DHCP * (初期設定：ON)

MENU > SET > Wi-Fi設定 > 接続設定 > DHCP *

本製品のDHCPクライアント機能の設定です。

- OFF : 固定IPアドレスで使用する
 - ON : DHCPサーバーからIPアドレスを自動取得する
- ※本製品と接続されたネットワークの先にDHCPサーバー機能が設定された機器があるときは、IPアドレスが自動で取得されます。

IPアドレス * (初期設定：192.168.0.10)

MENU > SET > Wi-Fi設定 > 接続設定 > IPアドレス *

DHCPクライアント機能がOFFのとき、本製品に固定IPアドレスを設定します。

※デフォルトゲートウェイと同じ値は、設定できません。

サブネットマスク * (初期設定：255.255.255.0(24bit))

MENU > SET > Wi-Fi設定 > 接続設定 > サブネットマスク *

固定IPアドレスに設定時、サブネットマスクを設定します。

- 設定範囲 : 128.0.0.0(1bit)～
255.255.255.255(30bit)

デフォルトゲートウェイ * (初期設定： . . .)

MENU > SET > Wi-Fi設定 > 接続設定 > デフォルトゲートウェイ *

固定IPアドレスに設定時、本製品のIPアドレスとネットワーク部が異なる接続先と通信する場合、パケット転送先機器のIPアドレスを設定します。

※IPアドレスと同じ値は、設定できません。

プライマリDNSサーバー * (初期設定： . . .)

MENU > SET > Wi-Fi設定 > 接続設定 > プライマリDNSサーバー *

固定IPアドレスに設定時、本製品がアクセスするDNSサーバーのアドレスを設定します。

セカンダリDNSサーバー * (初期設定： . . .)

MENU > SET > Wi-Fi設定 > 接続設定 > セカンダリDNSサーバー *

DNSサーバーのアドレスが2つある場合は、必要に応じて、使い分けたい残りの一方を設定します。

10 セットモード

■Wi-Fi設定

ネットワークネーム

MENU > SET > Wi-Fi設定 > ネットワークネーム

ST-4001Wからの画像転送で使用するネットワーク名称の設定です。

※1文字目に「.」(ピリオド)は使用できません。

※入力方法や文字の種類、最大文字数などは、iiiページをご覧ください。

■SDカード

設定ロード

MENU > SET > SDカード > 設定ロード

設定ファイルを読み込むときに、一覧から選択します。

※読み込みの操作は、1-4ページをご覧ください。

設定セーブ

MENU > SET > SDカード > 設定セーブ

設定ファイルを保存します。

※保存の操作は、1-2ページをご覧ください。

インポート

MENU > SET > SDカード > インポート/エクスポート > インポート

CSVフォーマットで保存されたメモリーチャンネル、相手局コールサイン、レピータリスト、GPSメモリーを本製品に取り込みます。

エクスポート

MENU > SET > SDカード > インポート/エクスポート > エクスポート

本製品で使用しているメモリーチャンネル、相手局コールサイン、レピータリスト、GPSメモリーをCSVフォーマットに書き出します。

区切り/小数点 (初期設定：区切り「,」 小数点「.」)

MENU > SET > SDカード > インポート/エクスポート > CSVフォーマット > 区切り/小数点

メモリーチャンネル、相手局コールサイン、レピータリスト、GPSメモリーをCSV形式で出力するときの、項目の区切り文字と小数点の文字を設定できます。

- 区切り「,」 小数点「.」: 区切り文字を「,」、小数点文字を「.」にする
- 区切り「;」 小数点「.」: 区切り文字を「;」、小数点文字を「.」にする
- 区切り「;」 小数点「,」: 区切り文字を「;」、小数点文字を「,」にする

日付 (初期設定：yyyy/mm/dd)

MENU > SET > SDカード > インポート/エクスポート > CSVフォーマット > 日付

メモリーチャンネル、相手局コールサイン、レピータリスト、GPSメモリーをCSV形式で出力するときの日付表示を設定します。

※y(year)：年、m(month)：月、d(day)：日

- yyyy/mm/dd：日付を「年/月/日」で表示する
- mm/dd/yyyy：日付を「月/日/年」で表示する
- dd/mm/yyyy：日付を「日/月/年」で表示する

10 セットモード

■SDカード

SDカード情報

MENU > SET > SDカード > SDカード情報

microSDカードの空き容量、録音できる時間を確認します。

スクリーンキャプチャ表示

MENU > SET > SDカード > スクリーンキャプチャ表示

スクリーンキャプチャーした画像のファイル名を表示します。

※画像の確認方法は、12-10ページをご覧ください。

送受信画像表示

MENU > SET > SDカード > 送受信画像表示

microSDカードの[ID-5200] > [Picture]フォルダーに保存されている画像を表示します。

※画像を送信中は、画像を表示できません。

※表示できる画像は500枚までです。

※詳しくは、弊社ホームページに掲載の「画像伝送機能について」をご覧ください。

ファームアップ

MENU > SET > SDカード > ファームアップ

ファームアップモードを表示します。

※操作は、13章をご覧ください。

フォーマット

MENU > SET > SDカード > フォーマット

microSDカードを初期化します。

※初期化操作は、簡易マニュアル4章をご覧ください。

アンマウント

MENU > SET > SDカード > アンマウント

本製品の電源を入れた状態でmicroSDカードを安全に取りはずすためのアンマウント処理をします。

ご注意

アンマウントをせずにmicroSDカードを取りはずすと、データ破損や消失の原因になります。

■その他

電圧表示

MENU > SET > その他 > 本体情報 > 電圧表示

本製品の電圧を確認できます。

バージョン情報

MENU > SET > その他 > 本体情報 > バージョン情報

現在お使いの本製品に組み込まれているファームウェアのバージョンを確認できます。

MACアドレス

MENU > SET > その他 > 本体情報 > MACアドレス

MACアドレスを確認できます。

認証

MENU > SET > その他 > 本体情報 > 認証

認証内容を確認できます。

クローンモード

MENU > SET > その他 > クローン > クローンモード

クローン書き込み、読み込みをするための画面を表示します。

※電源を入れなおすと、解除できます。

タッチスクリーン補正

MENU > SET > その他 > タッチスクリーン補正

タッチスクリーンを補正するときに選択します。

※中断する場合は、[EXIT]を押します。

※操作は、12-15ページをご覧ください。

パーシャルリセット

MENU > SET > その他 > リセット > パーシャルリセット

パーシャルリセットをします。

※操作は、12-16ページをご覧ください。

オールリセット

MENU > SET > その他 > リセット > オールリセット

オールリセットをします。

※操作は、12-16ページをご覧ください。

ご注意

お客様が快適に運用していただくために、レピータリストなどをプリセットして出荷していますが、オールリセットすると、プリセットの内容がすべて消去されます。

■ 免許申請について	11-2
■ Bluetooth機能	11-2
◇ Bluetooth機能を使うには	11-2
■ ヘッドセットをBluetoothで接続する	11-3
■ その他のヘッドセット設定	11-4
◇ AF出力切替について	11-4
◇ ヘッドセット機能選択について	11-4
◇ 自動切断について	11-5
◇ VOX機能について	11-5
■ 機器名称の編集のしかた	11-5
■ 初期化のしかた	11-6
■ 最大ペアリング数について	11-6

11 Bluetoothの使いかた

■免許申請について

Bluetooth対応機器からDVデータや画像、メッセージを送信するには、遠隔操作に関する申請が必要です。免許申請の方法は、簡易マニュアル8章をご覧ください。

■Bluetooth機能

- ◎本製品のBluetooth機能をONにすると、Bluetooth対応機器と接続できます。
- ◎Bluetoothの通信範囲は、約10m(目安)です。
- ◎本製品とBluetooth対応機器は、1対1の組み合わせで設定されることをおすすめします。
- ◎ヘッドセットとのペアリング方法、切断、削除については、簡易マニュアル6章をご覧ください。

本製品と以下の機器を接続できます。

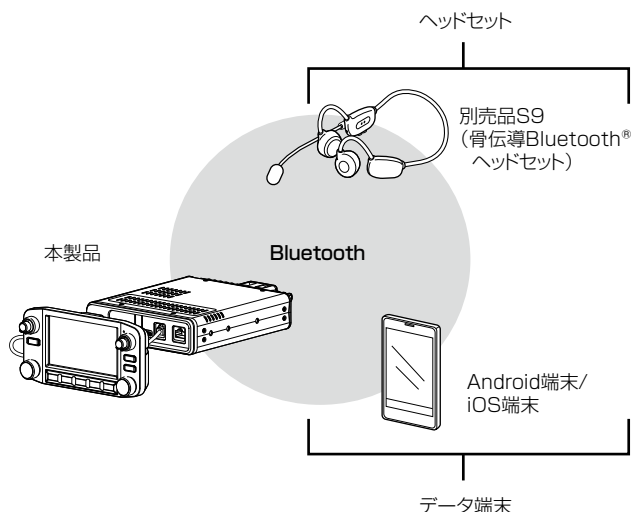
ヘッドセット

本製品とS9(別売品:骨伝導Bluetooth®ヘッドセット)をBluetoothで接続することで、マイクロホンの音声をワイヤレスで送信できます。

Android端末/iOS端末

本製品と市販の端末をBluetoothで接続し、端末専用アプリ(フリーウェア)を使用することで、データ送信や画像伝送などD-STARの拡張機能が使用できます。端末専用アプリや、端末とのペアリング方法などについては、14-5ページをご覧ください。

Bluetooth接続のイメージ図

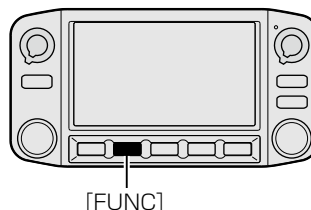


Bluetoothの通信においては、Bluetooth機器と本製品の距離をできるだけ近づけ、障害物がない状態にしてください。

電子レンジや無線LAN、ほかのBluetooth機器による電波干渉がある場合は、それらの位置を変更するか、必要に応じて一時的に使用を中止してください。

◇Bluetooth機能を使うには

1. [FUNC]を短く押す



2. 「Bluetooth」をタッチする



- ・タッチすることにより、「ON」と「OFF」が切り替わります。
- ※長く(約1秒)タッチすると、MENU画面から入らなくても直接Bluetooth設定画面が表示されます。

3. [EXIT]を押す

- ・FUNCTION画面が解除されます。

ご注意

◎本製品と接続する機器は、Bluetooth SIGの定めるBluetooth標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。

また、Bluetooth標準規格に適合していても、機器の仕様や設定により、本製品と接続できないことがあります。

◎複数のBluetooth機器がある場所では、ペアリングしたいBluetooth機器が検索できないことがあります。このような場合は、必要なBluetooth機器だけになるように、使用しないBluetooth機器の使用を停止、またはほかのBluetooth機器からはなれるなどしてください。

◎電源を切るなどして、Bluetooth接続を切断した場合は、無線機本体側のスピーカーから音が出るように切り替わります。

無線機本体側の音量の上げすぎにご注意ください。

※AF出力切替が「ヘッドセットのみ」のとき、意図せずBluetooth接続が切断された場合は、出力切り替えのダイアログが表示されます。(P.11-4)

11 Bluetooth の使いかた

■ヘッドセットを Bluetooth で接続する

ペアリング(接続の認証)とは、Bluetooth機器と本製品をお互いに登録し、接続を許可するためのものです。一度ペアリングしたBluetooth機器とは、それ以降ペアリングする必要はありません。

1. Bluetoothヘッドセットをペアリングモードにする

ペアリングモードの操作のしかたは、お使いのヘッドセットの取扱説明書をご確認ください。

2. ペアリングする

1. ペアリング/接続画面を表示させる

MENU > SET > Bluetooth設定 > ペアリング/接続

2. 「機器検索」をタッチする
3. 「ヘッドセット検索」をタッチする

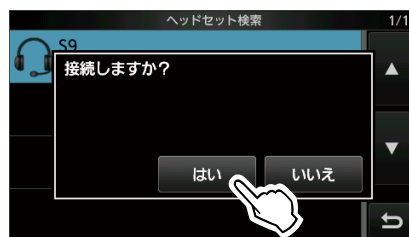


4. 接続する Bluetooth 機器の名称をタッチする



- 「接続しますか？」が表示されます。

5. 「はい」をタッチする



- 接続を開始します。
- ペアリング後、接続が成功すると、「(接続中)」が表示されます。

6. [EXIT] を押す

- ペアリング/接続画面が解除されます。
- 接続中は、Bluetoothのマークが表示されます。

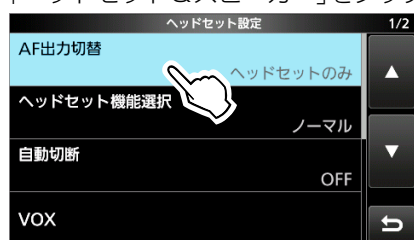
11 Bluetoothの使いかた

■その他のヘッドセット設定

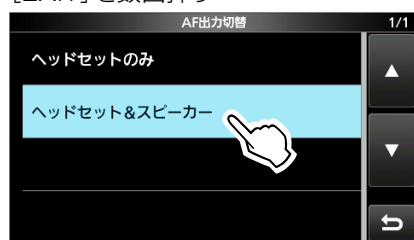
◇AF出力切替について

Bluetoothヘッドセット接続時、本製品のスピーカーからも音声を聴きたいときは、「AF出力切替」を「ヘッドセット&スピーカー」に変更できます。

1. ヘッドセット設定画面を表示させる
MENU > SET > Bluetooth設定 > ヘッドセット設定
2. 「AF出力切替」をタッチする
3. 「ヘッドセット&スピーカー」をタッチする



4. [EXIT]を数回押す



- ヘッドセット設定画面が解除されます。
- ヘッドセットとスピーカーマイクロホンから音声が出力されるようになります。

◇ヘッドセット機能選択について

Bluetoothヘッドセットの動作を設定します。

MENU > SET > Bluetooth設定 > ヘッドセット設定
> ヘッドセット機能選択

ノーマル： [PTT]を押したBluetoothヘッドセット、またはマイクロホンからの音声を送信する

マイク： Bluetoothヘッドセットをマイクとして使用する
※マイクロホンからの音声は送信されません。
※Bluetoothヘッドセットの[PTT]を押しても送信できます。

PTT： BluetoothヘッドセットをPTTとして使用する
※マイクロホンからの音声を送信します。
Bluetoothヘッドセットのマイクからの音声は送信されません。
※マイクロホンの[PTT]を押しても送信できます。

ご注意

マイクロホンを接続しないで、Bluetoothヘッドセットだけを使う場合は、「ノーマル」、または「マイク」に設定してください。

各設定に対するBluetoothヘッドセットの動作は、下表のようになります。

設定	送信操作	音声入力
ノーマル	○	○
マイク	○	○
PTT	○	×(音声入力はマイクロホン)

ご参考

AF出力切替が「ヘッドセットのみ」のとき、本製品とヘッドセットの距離が離れるなど意図せずBluetooth接続が切断された場合は、「無線機のスピーカーから音声を出力しますか?」が表示されます。

◎[はい]をタッチすると、本製品のスピーカーから音声が出力されます。

◎[いいえ]をタッチすると、本製品の音量が0%になります。

11 Bluetooth の使いかた

■その他のヘッドセット設定

◇自動切断について

Bluetoothヘッドセットからの音声出力がなく、本製品を操作しない状態がつづいたとき、ヘッドセットとのSCO (Synchronous Connection-Oriented)リンクを自動で切断するまでの時間を設定します。
(P.10-30)

MENU > SET > Bluetooth設定 > ヘッドセット設定
> 自動切断

◇VOX機能について

[PTT]を押さなくても、マイクロホンからの音声によって送受信を自動的に切り替える、VOX機能を設定します。
(P.10-31)

MENU > SET > Bluetooth設定 > ヘッドセット設定
> VOX

■機器名称の編集のしかた

本製品に内蔵のBluetoothユニットの機器名称は、下記の手順で編集できます。

※パーシャルリセット、オールリセットやBluetoothユニットの初期化をした場合でも、機器名称は初期化されません。

1. Bluetooth設定画面を表示させる

MENU > SET > Bluetooth設定

2. 「自機器情報」をタッチする



3. [QUICK]を短く押す
4. 「機器名称編集」をタッチする



5. 機器名称を入力して、[ENT]をタッチする
(例：ICOM BT 5200 A)



※入力方法や文字の種類、最大文字数などは、iiiページをご覧ください。

6. [EXIT]を押す
 - 自機器情報画面が解除されます。

11 Bluetooth の使いかた

■初期化のしかた

本製品に内蔵されているBluetoothユニットの初期化のしかたを説明します。

不具合が起きたときなどは、初期化操作をしてください。

※Bluetoothユニットを初期化すると、ペアリング/接続情報は初期化されますが、Bluetoothの各機能設定と機器名称は初期化されません。

Bluetoothの各機能設定は、パーシャルリセット、またはオールリセットをしたときだけ、初期化されます。

1. Bluetooth設定画面を表示させる

MENU > SET > Bluetooth設定

2. 「Bluetoothユニット初期化」をタッチする



3. [はい]をタッチする



- 本製品が自動で再起動します。

■最大ペアリング数について

本製品とペアリングできるBluetooth対応機器は、ヘッドセット、Androidなどのデータ端末、iOS端末です。

本製品とBluetooth対応機器で接続する場合、最大で7台のペアリングができます。

機器ごとの最大ペアリング数について

◎ヘッドセットとAndroidなどのデータ端末の組み合わせ
最大5台(ヘッドセット1～4台、データ端末1～4台)

◎iOS端末(Bluetooth LE端末)
最大2台



※ペアリングされたBluetooth対応機器がリストアップされます。

ご使用になるmicroSDカードの
取り付けや注意事項などは、簡易
マニュアル4章をご覧ください。

■ ATT(アッテネーター)機能	12-2
◇ アッテネーター機能を設定する	12-2
◇ アッテネーター機能を使用する	12-2
■ ダイレクト入力画面による周波数の設定	12-2
■ ホームCHビープ機能	12-3
◇ ホームCHを登録する	12-3
◇ ホームCHビープ機能の使いかた	12-3
■ DTMFメモリー機能の使いかた	12-4
◇ DTMFメモリーの書き込みかた	12-4
■ DTMFコードの送出	12-4
◇ DTMFメモリーに登録したコードを送出する	12-4
◇ 送出するコードを直接入力する	12-5
◇ DTMFスピードの設定	12-5
■ トーンスケルチ機能	12-6
◇ トーン周波数を設定して交信するには	12-6
◇ トーンスケルチタイプについて	12-6
■ DTCSコードスケルチ機能	12-7
◇ DTCSコードを設定して交信するには	12-7
◇ DTCSコードタイプについて	12-7
■ 空線キャンセラー機能	12-8
◇ 空線キャンセラー機能を設定する	12-8
■ ネットワークの設定	12-9
◇ ネットワークの接続	12-9
■ タイムサーバーの設定	12-10
◇ ネットワーク時刻補正	12-10
◇ NTPサーバー機能	12-10
■ スクリーンキャプチャー機能	12-10
◇ スクリーンキャプチャー機能の設定	12-10
◇ スクリーンキャプチャーの操作	12-10
◇ 保存した画面の確認と削除	12-10
■ KISS設定	12-11
◇ パソコンの接続	12-11
◇ KISSモードのON/OFF	12-11
◇ KISS設定画面	12-12
■ クローニング	12-13
■ コイン電池の交換	12-15
■ タッチ位置の補正	12-15
■ リセット	12-16
◇ パーシャルリセットのしかた	12-16
◇ オールリセットのしかた	12-16

12 その他の機能

■ATT(アッテネーター)機能

アッテネーター(減衰器)は、強い信号を受信したときに信号強度を減衰させ、受信音のひずみを低減します。

また、高い利得のアンテナ(市販品)を使用した場合に、強い信号からの混変調や相互変調の影響を抑える効果もあります。

アッテネーターの減衰量は、最大で約20dBです。

◇アッテネーター機能を設定する

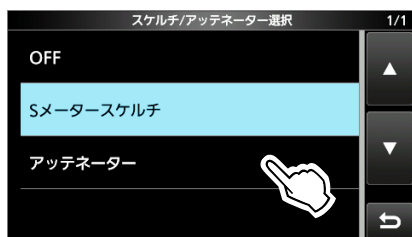
1. 機能設定画面を表示させる

MENU > SET > 機能設定

2. 「スケルチ/アッテネーター選択」をタッチする



3. 「アッテネーター」をタッチする

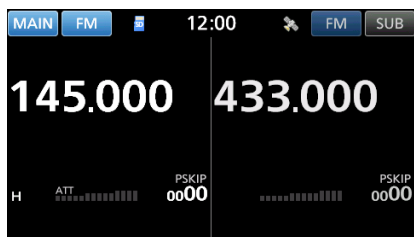


4. [EXIT]を押す

- 機能設定画面が解除されます。

◇アッテネーター機能を使用する

[SQL]を12時の位置より右に回すと、アッテネーター機能が動作します。

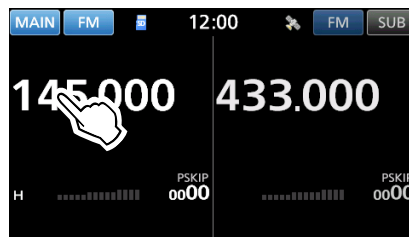


- 「ATT」が表示されます。

■ダイレクト入力画面による周波数の設定

周波数を直接入力するときに使用します。

1. 周波数のMHz桁(例：145)を短くタッチする



2. [F-INP]をタッチする



3. 上位の桁の数字から、入力する(例：145.025MHz)



※入力を取り消すときは、[CE]をタッチします。

※F-INP画面を解除したいときは、[EXIT]を押します。

4. [ENT]を押す

- 入力内容を確定し、F-INP画面が解除されます。

※100kHz桁以下が未入力のとき、[ENT]をタッチすると、未入力の桁がすべて「0」になります。

操作例

例1：145.025MHzの設定

[1] [4] [5] [.] [0] [2] [5] [ENT]

例2：433.280MHzから433.245MHzに変更

[.] [2] [4] [5] [ENT]

12 その他の機能

■ホームCHビープ機能

[HOME]を長く(約1秒)押して特定の周波数や特定のアクセスレピータを表示させる機能です。

[DIAL]操作で切り替わったときは、画面を見なくても、音で確認できます。

VFOモード、メモリーモード、DR画面ごとに登録できます。

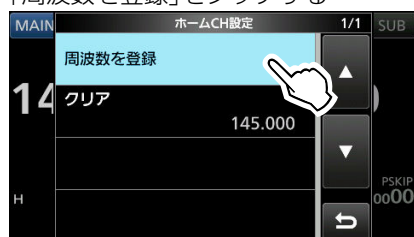
◇ホームCHを登録する

例：VFOモードの場合

1. 登録したいモードと周波数を選択する
※DR画面で設定する場合は、「FROM」を選択している状態にしてください。
2. [QUICK]を短く押す
3. 「ホームCH設定」をタッチする

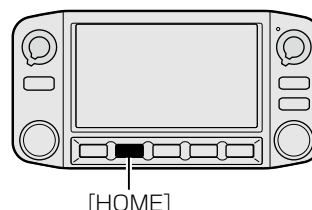


4. 「周波数を登録」をタッチする



※メモリーモードの場合は「チャンネルを登録」、DR画面の場合は「レピータを登録」を選択してください。

◇ホームCHビープ機能の使いかた



[HOME]を長く(約1秒)押すと、特定の周波数や特定のアクセスレピータを表示させます。

[DIAL]を回して、ホームCHに登録した周波数やメモリーチャンネル、特定のアクセスレピータに切り替えると、「ブツ」と鳴ります。

また、別売品のHM-207、またはHM-232などのキーにホームCH機能を割り当てると、キーを押したときに、選択中のモードで登録したホームCHに移動します。(P.10-12、P.10-33)

※ホームCHビープ機能は、MENU画面の「ホームCHビープ」で鳴らないように設定できます。(P.10-28)
(MENU > SET > サウンド設定 > ホームCHビープ)

ご参考

登録したホームCHを削除するときは、上記の手順4で「クリア」を選択します。



■DTMFメモリー機能の使いかた

最大24桁のDTMFコードを16チャンネルのDTMFメモリーに記憶できます。

◇DTMFメモリーの書き込みかた

1. DTMF画面を表示させる

MENU > DTMF

2. [EDIT]をタッチする



3. DTMFコードを登録するチャンネルをタッチする (例：d0)



4. DTMFコード(例：123456A)を入力し、[ENT]をタッチする



※入力方法や文字の種類、最大文字数などは、iiiページをご覧ください。

5. [EXIT]を押す
 - DTMFメモリー画面が解除されます。

■DTMFコードの送出

下記の2とおりの操作があります。

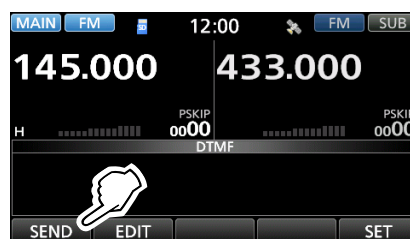
- ◎ DTMFメモリーに登録したコードを送出する
- ◎ 送出的コードを直接入力する

◇DTMFメモリーに登録したコードを送出する

1. DTMF画面を表示させる

MENU > DTMF

2. [SEND]をタッチする



3. 送信したいDTMFコードをタッチする(例：d0)



- DTMFコードが送出されます。

4. [EXIT]を押す
 - DTMF画面が解除されます。

12 その他の機能

■DTMFコードの送付

◇送出するコードを直接入力する

1. DTMF画面を表示させる

MENU > DTMF

2. [SEND]をタッチする
3. 「ダイレクト入力」をタッチする



4. DTMFコードを入力して、[TX]をタッチする



- DTMFコードが送出されます。

※入力方法や文字の種類、最大文字数などは、iiiページをご覧ください。

5. [EXIT]を押す
 - DTMF画面が解除されます。

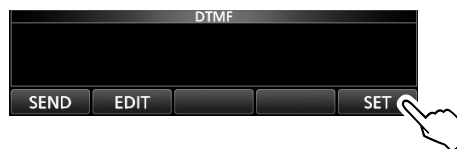
◇DTMFスピードの設定

DTMFコード1桁あたりの送出スピードを変更できます。初期設定は約100ミリ秒です。

1. DTMF画面を表示させる

MENU > DTMF

2. [SET]をタッチする



3. 「DTMFスピード」をタッチする



4. 設定したい送出スピードをタッチする(例：300ms)



5. [EXIT]を押す
 - DTMF設定画面が解除されます。

12 その他の機能

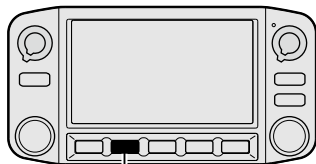
■ トーンスケルチ機能

自局が設定したトーン周波数(初期値: 88.5Hz)と同じ周波数を受信したときだけ、スケルチが開いて音声聞こえる機能です。

FMモード、またはFM-Nモードで、特定の相手局と交信するとき、この機能を設定することで快適な待ち受けができます。

◇ トーン周波数を設定して交信するには

1. メモリー表示をタッチして、VFOモードにする
2. 運用モード表示をタッチして、FM、またはFM-Nモードを選択する
3. 運用周波数を設定する(例: 433.580MHz)
4. [FUNC]を短く押す



[FUNC]

5. [TONE]をタッチする



6. トーンスケルチタイプをタッチする(例: TSQL)



7. [TONE]を長く(約1秒)タッチする



- 手順6で選択したスケルチタイプに必要な設定項目が表示されます。

また、自局が設定したトーン周波数を受信したときだけ、スケルチを開かない(スピーカーから音が出ない)「逆トーンスケルチ(TSQL-R)」も用途にあわせてご利用ください。

※特定の局からの音声を消したいときに使用します。

8. [+] / [-] をタッチしてトーンスケルチ周波数を設定する(例: 100.0Hz)



9. [EXIT]を押す
 - TSQL周波数画面が解除されます。
10. マイクロホンの[PTT]を押しながら相手局を呼び出し、トーンスケルチ機能を使用していないときと同様に交信する

ご参考

手順8の設定は、DUP/トーン設定画面からも設定できます。

(MENU > SET > DUP/トーン設定)

◇ トーンスケルチタイプについて

TSQL : トーンスケルチ機能

TSQL-R : 逆トーンスケルチ機能

TONE(T)/DTCS(R) (「T-DTCS」の「T」が点滅)

: 送信 レピータトーン、受信 DTCSコードスケルチ

DTCS(T)/TSQL(R) (「D-TSQL」の「D」が点滅)

: 送信 DTCSコード、受信 トーンスケルチ

TONE(T)/TSQL(R) (「T-TSQL」の「T」が点滅)

: 送信 レピータトーン、受信 トーンスケルチ

12 その他の機能

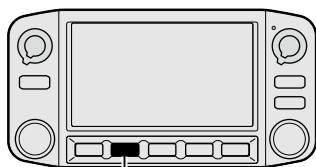
■DTCSコードスケルチ機能

自局が設定したDTCSコード(初期値:023)と同じコードを受信したときだけ、スケルチが開いて音声聞こえる機能です。

FMモード、またはFM-Nモードで、特定の相手局と交信するとき、この機能を設定することで、快適な待ち受けができます。

◇DTCSコードを設定して交信するには

1. メモリー表示をタッチして、VFOモードにする
2. 運用モード表示をタッチして、FM、またはFM-Nモードを選択する
3. 運用周波数を設定する(例: 433.580MHz)
4. [FUNC]を短く押す



[FUNC]

5. [TONE]をタッチする



6. DTCSコードタイプを選択する(例: DTCS)



7. [TONE]を長く(約1秒)タッチする



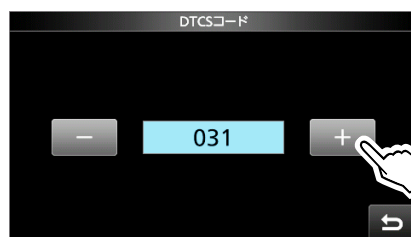
- 手順6で選択したDTCSコードタイプに必要な設定項目が表示されます。

8. 「DTCSコード」をタッチする

また、自局が設定したDTCSコードを受信したときだけ、スケルチを開かない(スピーカーから音が出ない)「逆DTCSスケルチ(DTCS-R)」も用途にあわせてご利用ください。

※特定の局からの音声を消したいときに使用します。

9. [+] / [-] をタッチして、DTCSコードを設定する(例: 031)



10. [EXIT] を押す

- DTCSコード画面が解除されます。

11. マイクロホンの[PTT]を押しながら相手局を呼び出し、DTCSコードスケルチ機能を使用していないときと同様に交信する

ご参考

手順9の設定は、DUP/トーン設定画面からも設定できます。

(MENU > SET > DUP/トーン設定)

◇DTCSコードタイプについて

DTCS : DTCSコードスケルチ機能

DTCS-R : 逆DTCSコードスケルチ機能

DTCS(T) (「DTCS」が点滅)

: 送信 DTCSコード、受信 トーンOFF

TONE(T)/DTCS(R) (「T-DTCS」の「T」が点滅)

: 送信 レピータトーン、受信 DTCSコードスケルチ

DTCS(T)/TSQL(R) (「D-TSQL」の「D」が点滅)

: 送信 DTCSコード、受信 トーンスケルチ

12 その他の機能

■空線キャンセラー機能

鉄道無線では、通話をしていないあいだは常に空線信号(「ピー」や「キャラキャラ」)が聴こえます。

空線キャンセラー機能を使用することで、空線信号を消音できます。

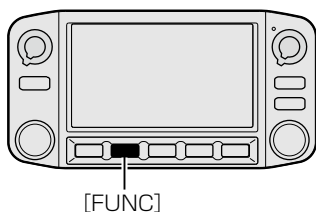
スキャン時は、空線信号を受信した周波数をスキップします。

TRAIN1：単一周波数の空線信号(ピー)を検出し、消音します。

TRAIN2：1500Hz(固定)のシングルトーンとMSK制御信号が交互に切り替わる信号(キャラキャラ)を消音します。

◇空線キャンセラー機能を設定する

1. [FUNC]を短く押す



2. [TONE]をタッチする



3. 「TRAIN1」、または「TRAIN2」をタッチする
(例：TRAIN1)



※「TRAIN2」を選択した場合は、空線信号周波数の設定はありませんので、手順6にお進みください。

4. [TONE]を長く(約1秒)タッチする



ご参考

◎「TRAIN1」の空線信号周波数(2280Hz)を±50Hzほど変更することにより、空線キャンセラー機能の効果が向上することがあります。

◎手順5の設定は、DUP/トーン設定画面からでも設定できます。

(MENU > SET > DUP/トーン設定)

5. [+] / [-] をタッチして、任意の空線信号周波数を設定する



※300～3000(10Hz刻み)で設定できます。
(初期設定：2280)

6. [EXIT]を押す



・「TRAIN1」が表示され、空線キャンセラーが有効になります。

ご注意

◎ 空線キャンセラー機能は、受信信号が弱いときやノイズが多いと、正しく動作しないことがあります。

◎ 空線キャンセラー機能は、すべての空線信号を検出し消音できるものではありません。

周波数がずれた場合などは、検出できないことがあります。

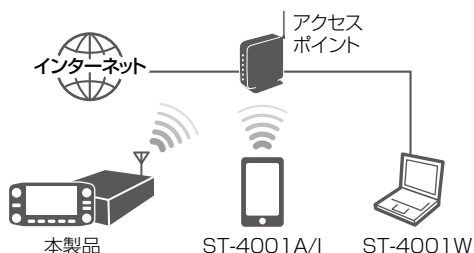
◎ 登録されているメモリーチャンネルに空線キャンセラー機能を設定する場合は、7章をご覧ください。

12 その他の機能

■ネットワークの設定

本製品は、無線LANの子機として使用できます。
無線LAN親機(モデムやルーター)に接続することで、下記の用途に使用できます。

- ◎NTPサーバーによる自動時計設定
- ◎内蔵ゲートウェイ機能によるゲートウェイ通信
(弊社ホームページに掲載の「DVゲートウェイ機能について(モバイル用)」参照)
- ◎ST-4001と接続してパソコンやAndroid端末からの画像の転送
- ◎DVレピータモニター機能(P.3-16)



◇ネットワークの接続

1. Wi-Fi設定画面を表示させる

MENU > SET > Wi-Fi設定

2. 「Wi-Fi」をタッチする
3. 「ON」をタッチする



4. 「接続設定」をタッチする
5. 「アクセスポイント一覧」をタッチする
6. 接続するアクセスポイントをタッチする
(例: WIRELESSLAN)



7. 「パスワード」をタッチする
8. 接続するアクセスポイントのパスワードを入力して、[ENT]をタッチする
9. 「<<接続>>」をタッチする



- 接続が完了すると、「接続済み」が表示されます。
- ※ 接続できない場合、「アクセスポイントに接続」画面に戻ります。
- ※ 接続中は、が表示されます。

ご注意

アクセスポイント接続中に本製品の電源を切ろうとすると、ネットワーク環境によっては、電源が切れるまでに時間がかかる場合があります。

ご参考

◎[FUNC] を押して表示されるFUNCTION画面で「Wi-Fi」をタッチするごとにON/OFFを切り替えできます。
また「Wi-Fi」を長く(約1秒)タッチするとMENU画面から入らなくても直接Wi-Fi設定画面が表示されます。



- ◎本製品は、2.4GHz/5GHz帯の無線LANに対応しています。
- ◎接続先は7件まで保存され、それ以降は古いものから順番に削除されます。
- ◎SSIDやパスワードを手動で入力して、ネットワークに接続できます。
(MENU > SET > Wi-Fi設定 > 接続設定 > 手動接続)

12 その他の機能

■タイムサーバーの設定

内部時計をインターネットのタイムサーバー(NTPサーバー)と同期させる設定です。

※ NTPサーバーと同期させると、内部時計の時刻が定期的にNTPサーバーの時刻に補正されます。

※ 本製品のWi-Fi(無線LAN)機能を使用して、インターネットに接続できる環境が必要です。

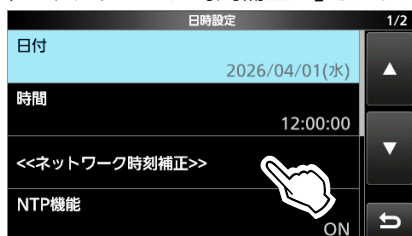
◇ネットワーク時刻補正

タイムサーバーに手動で問い合わせ、内部時計を補正します。

1. 日時設定画面を表示させる

MENU > SET > 時間設定 > 日時設定

2. 「<<ネットワーク時刻補正>>」をタッチする



- 「ネットワーク時刻補正中です。しばらくお待ちください...」が表示されます。

3. 「ネットワーク時刻補正に成功しました。」の表示を確認後、[OK]をタッチする

4. [EXIT]を数回押す

- 日時設定画面が解除されます。

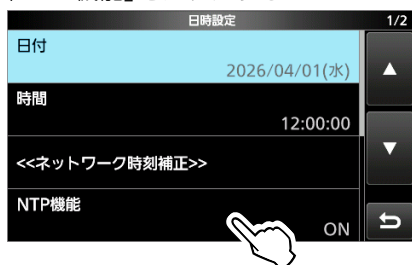
◇NTPサーバー機能

自動時計設定機能の設定です。 (初期設定：ON)

1. 日時設定画面を表示させる

MENU > SET > 時間設定 > 日時設定

2. 「NTP機能」をタッチする



3. 「OFF」、または「ON」をタッチする

- ON選択時は、「NTPサーバーアドレス」に設定されたNTPサーバーアドレスに自動的に接続されます。

4. [EXIT]を数回押す

- 日時設定画面が解除されます。

■スクリーンキャプチャー機能

本製品の表示画面をmicroSDカードに保存します。

◇スクリーンキャプチャー機能の設定

1. スクリーンキャプチャ [POWER]キー画面を表示させる

MENU > SET > 機能設定 >
スクリーンキャプチャ [POWER]キー

2. 「ON」をタッチする

- [POWER]によるスクリーンキャプチャーが有効になります。

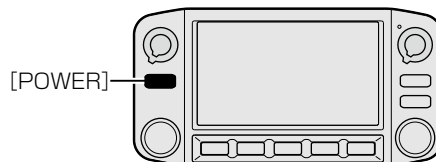
3. [EXIT]を数回押す

- 機能設定画面が解除されます。

◇スクリーンキャプチャーの操作

1. スクリーンキャプチャーする画面を表示させる

2. [POWER]を短く押す



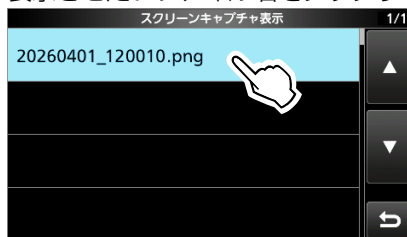
- 「画面の保存が完了しました。」と表示されます。

◇保存した画面の確認と削除

1. スクリーンキャプチャ表示画面を表示させる

MENU > SET > SDカード > スクリーンキャプチャ表示

2. 表示させたいファイル名をタッチする



- 選択したスクリーンキャプチャー画像が表示されます。

※画像が表示された状態で[DIAL]を回すと、次の画像が表示されます。

ご参考

ファイル名を長く(約1秒)タッチして表示されるクイックメニューから、画像のサイズやキャプチャー日時の確認、ファイルの削除ができます。



12 その他の機能

■KISS設定

本製品をKISSモードに設定することで、パソコンからのAPRS運用ができます。

APRS運用に必要なアプリケーションソフトウェア

(UI-View32など)をご用意ください。

パソコンへの接続は、[USB]ポート、[DATA]ジャック、Bluetoothがあります。

接続によってデータ送信に必要な設定をします。

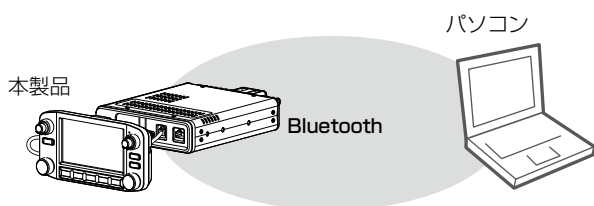
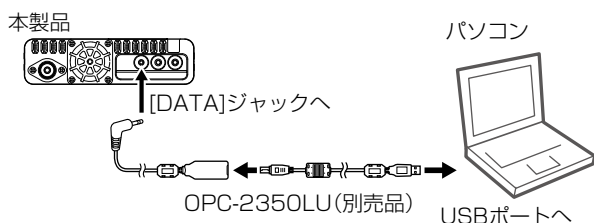
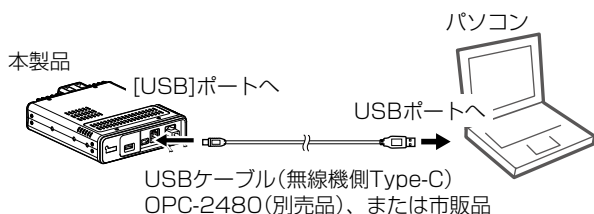
※アプリケーションソフトウェア上の操作については、お使いのものにより異なりますので、詳しくはお使いのアプリケーションソフトウェアの取扱説明書などをご覧ください。

◇パソコンの接続

パソコンと本製品の[USB]ポート、または[DATA]ジャック、Bluetoothのいずれかを下記のように接続します。

※USBケーブルは、データ通信対応のものをご用意ください。

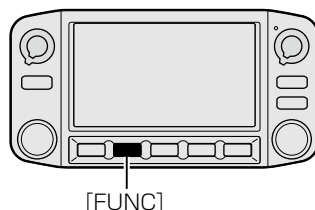
※Bluetoothの接続については、11章をご覧ください。



◇KISSモードのON/OFF

KISSモードは、FUNCTION画面からON/OFFできます。

1. 運用周波数を設定する(例：144.640MHz)
2. 運用モード表示をタッチして、FM、またはFM-Nモードを選択する
3. [FUNC]を短く押す

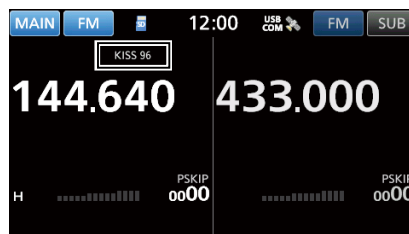


4. [KISS]をタッチする



※タッチするごとにON/OFFを切り替えます。

5. [EXIT]を押す



• FUNCTION画面が解除され、運用画面に「KISS 96」、または「KISS 12」が表示されます。

※KISS 96：KISS(9600bps)設定時

KISS 12：KISS(1200bps)設定時

ご注意

MENU画面で下記の項目が設定されているかご確認ください。

<[USB]ポート使用時>

- USB(B)端子機能画面で、「DVデータ」に設定
(MENU > SET > 外部端子 > シリアルポート機能 > **USB(B)端子機能**)
- USB接続画面で、「シリアルポート」に設定
(MENU > SET > 外部端子 > **USB接続**)

<[DATA]ジャック使用時>

- DATA端子機能画面で、「DVデータ」に設定
(MENU > SET > 外部端子 > シリアルポート機能 > **DATA端子機能**)

<Bluetooth使用時>

- シリアルポート機能画面で、「DVデータ」に設定
(MENU > SET > Bluetooth設定 > データ端末設定 > **シリアルポート機能**)

12 その他の機能

■ KISS設定

◇ KISS設定画面

KISSモードでデータを送受信するときの通信速度などを設定します。

1. KISS設定画面を表示させる

MENU > KISS > KISS設定

2. 設定する項目をタッチする(例：データスピード)



3. 設定値をタッチする

※ 設定項目と内容については、右記をご覧ください。

4. [EXIT]を数回押す

- KISS設定画面が解除されます。

ご参考

[FUNC] を押して表示されるFUNCTION画面で「KISS」を長く(約1秒)タッチすると、MENU画面から入らなくても直接KISS設定画面が表示されます。



ご注意

下記の状態のときはKISSモードが使用できませんので、設定をご確認ください。

< [USB]ポート使用時 >

- 「外部ゲートウェイ(USB(B))」に設定して使用中 (MENU > DV GW > ゲートウェイ選択)

< [DATA]ジャック使用時 >

- 「外部GPS(DATA)」に設定 (MENU > GPS > GPS設定 > GPS選択)

< Bluetooth使用時 >

- 「外部ゲートウェイ(Bluetooth)」に設定して使用中 (MENU > DV GW > ゲートウェイ選択)

データスピード

(初期設定：9600bps)

MENU > KISS > KISS設定 > データスピード

KISSモードでデータを送受信するときの通信速度を選択します。

- 選択肢：1200bps、9600bps

データバンド

(初期設定：Aバンド)

MENU > KISS > KISS設定 > データバンド

KISSモード時のデータ送信に使用するバンドを設定します。

- 選択肢：Aバンド、Bバンド

DCDセンス

(初期設定：ビジー)

MENU > KISS > KISS設定 > DCDセンス

KISSモード時にデータ送信を待機する方法を設定します。

- ビジー：データバンドに設定している方のバンドで信号を受信している場合、パケットを送信しない
- データ検出：データバンドに設定している方のバンドでパケットを受信している場合、パケットを送信しない
- OFF(無視)：信号の有無に関わらず、パケットを送信する

TXディレイ

(初期設定：200ms)

MENU > KISS > KISS設定 > TXディレイ

KISSモードで送信時、データの欠落を防止するため、データの送出を開始するまでの待機時間を設定します。

- 選択肢：100ms、150ms、200ms、300ms、400ms、500ms、750ms、1000ms

KISS入出力

(初期設定：USB(A))

MENU > KISS > KISS設定 > KISS入出力

KISSモード時にデータを入出力する外部端子を設定します。

- 選択肢：USB(A)、USB(B)、DATA、Bluetooth

KISS入出力ボーレート(DATA) (初期設定：9600)

MENU > KISS > KISS設定 > KISS入出力ボーレート(DATA)

KISSモード時に本製品の[DATA]ジャックを経由してデータを送受信するときのボーレートを設定します。

- 選択肢：9600、19200、38400、57600

12 その他の機能

■クローニング

クローニングとは、本製品に設定したメモリーチャンネル、MENU画面の各設定項目、レピータリストなどの情報を、ほかの本製品にコピーする機能です。

市販のmicroSDカードを使って、本製品(親機)から本製品(子機)にクローニングする方法を説明します。

※microSDカードに録音した録音データは、クローニングするデータに含まれません。

親機のmicroSDカードをそのまま子機に挿入するか、パソコンを使用して録音データを子機のmicroSDカードにコピーすると、子機側でも再生できます。

※microSDカードは、あらかじめ挿入されているものとして説明します。

ご注意

◎無線機の電源を切った状態で、microSDカードの取り付け、取りはずしをしてください。

◎設定データをmicroSDカードに保存中、または設定データを無線機に読み込んでいるときは、絶対に無線機の電源を切らないでください。

途中で電源を切ると、データが消失する原因になります。

1. 親機の設定データをmicroSDカードに保存する

1. 設定セーブ画面を表示させる

MENU > SET > SDカード > 設定セーブ

2. 「<<新規ファイル>>」をタッチする



※既存のファイルに上書きする場合は、対象のファイル名の上をタッチ後、手順4に進みます。

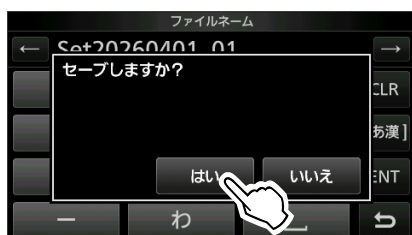
※ファイル名は、Setにつづいて、作成する年(Y)、月(M)、日(D)、作成番号の順に「SetYYYYMMDD_作成番号」となります。

3. 表示されたファイル名で保存するときは、[ENT]をタッチする



※入力方法や文字の種類、最大文字数などは、iiiページをご覧ください。

4. [はい]をタッチする

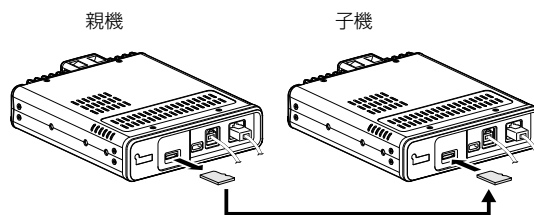


5. [EXIT]を数回押す

• SDカード画面が解除されます。

2. 親機のmicroSDカードを取りはずし子機に取り付ける

1. 親機の[POWER]を長く押して、電源をOFFにする
2. 親機からmicroSDカードを取りはずす
3. 親機から取りはずしたmicroSDカードを、子機に挿入し、子機の[POWER]を長く押して電源を入れる



ご参考

設定データは、CS-5200(プログラミングソフトウェア)で使用しているファイル形式(icfファイル)でmicroSDカードに保存されます。

microSDカードに保存した設定データをパソコンに取り込んで、CS-5200で編集することもできます。

詳しくは、CS-5200取扱説明書(PDFファイル)をご覧ください。

12 その他の機能

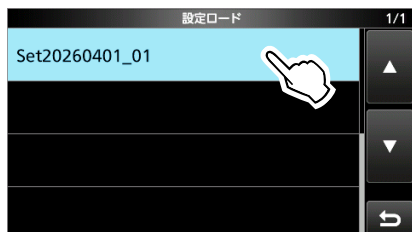
■クローニング

3. 子機に設定データを読み込ませる

1. 設定ロード画面を表示させる

MENU > SET > SDカード > 設定ロード

2. 子機に読み込む設定データをタッチする



3. 「選択」をタッチする



※手順4のロードオプション画面に表示されるすべての内容を読み込むときは、「全て」をタッチして手順6に進みます。

※レピータリストだけを本製品に読み込むときは、「レピータリストのみ」をタッチして手順6に進みます。

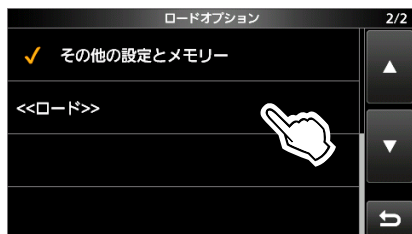
4. 読み込む内容をタッチする(例：CI-Vアドレス)



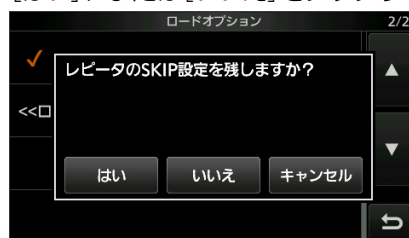
• 読み込む内容に「✓」(チェックマーク)が表示されます。

※その他の設定とメモリー(セットモード内の各設定項目、メモリーチャンネル)の内容は、常に読み込みます。

5. 「<<ロード>>」をタッチする



6. [はい]、または[いいえ]をタッチする



※ [はい] をタッチすると、無線機で設定したレピータリストのスキップ設定が保持されます。

スキップ設定については、8章をご覧ください。

※ [いいえ] をタッチすると、無線機で設定したレピータリストのスキップ設定がクリアされます。

• 「ロードしますか?」のダイアログが表示されます。

7. [はい] をタッチする

• 読み込みが完了すると、「再起動してください。」が表示されます。

8. 電源を入れなおす

※読み込んだデータを有効にするため、電源を入れなおしてください。

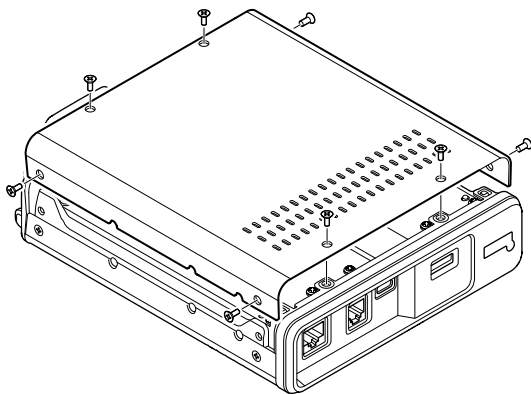
12 その他の機能

■コイン電池の交換

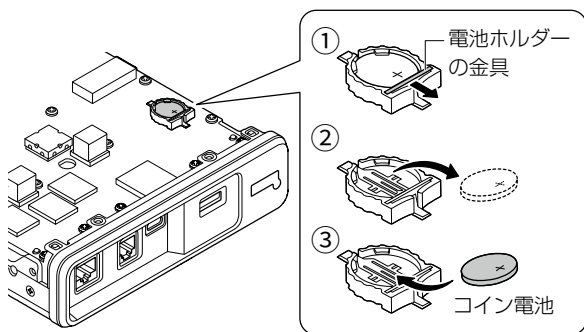
時計用のバックアップ電池として、コイン電池(CR1220)を本体内部に使用しています。

コイン電池が消耗すると、時刻設定がリセットされます。このときは、新しいコイン電池と交換してください。

1. 本体に接続しているコントローラーケーブル、マイクロホン、電源ケーブルを取りはずす
2. 底面カバーのネジ(下図: 8本)を取りはずす



3. 電池ホルダーの金具(⊕端子)を指先などで、矢印①の方向に軽く押さえながら、古いコイン電池を矢印②の方向に取り出す
※古いコイン電池が指ではずせないときは、つまようじなど非金属製の細い棒を使用してください。
※ピンセットなど金属製のものは使用しないでください。故障の原因になります。
4. 新しいコイン電池の⊕端子を上向きにして、電池ホルダーのガイドに軽くかけた状態で、矢印③の方向に押し込む



5. 底面カバーを元どおりに取り付け、コントローラー、マイクロホン、電源ケーブルを接続する
※内蔵GPS(初期設定)やNTPサーバーを使用しない場合は、日時を設定してください。
(MENU > SET > 時間設定 > 日時設定)

■タッチ位置の補正

ディスプレイをタッチしても正常に動作しない、または隣接した機能が動作するなど、タッチするポイントと表示している機能の感知範囲にずれがある場合は、タッチ位置を補正します。

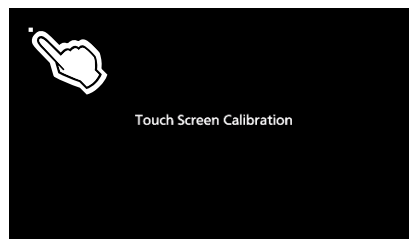
1. その他画面を表示させる

MENU > SET > その他

2. 「タッチスクリーン補正」をタッチする



3. 画面上に表示されるドットをタッチする



※必ず、ドットをタッチしてください。

4. 次のドットが表示されたら、手順3の操作を繰り返す
※補正が完了後、その他画面が表示されます。
5. 画面上のキーをタッチして、正常に動作することを確認する

タッチパネルがまったく動作しないときのタッチ位置補正

下記の操作で、Touch Screen Calibration画面を表示させてください。

1. いったん、電源を切る
2. Touch Screen Calibration画面が表示されるまで、[MENU]と[EXIT]を押しながら[POWER]を押す
3. 上記の手順3～5を操作する

■リセット

静電気などによる外部要因で、本製品の動作や表示内容に異常があると思われた場合は、いったん電源を切り、電源ケーブルをはずしてから数秒後にもう一度電源ケーブルを接続してから電源を入れてください。

◎電源を入れなおしても現象が改善しない場合

パーシャルリセット操作をする
NTPサーバーアドレス、MENU画面、FUNCTION画面で設定した内容が初期設定に戻ります。

◎パーシャルリセットしても現象が改善しない場合

オールリセット操作をする
記憶されているデータはすべて消去され、変更した設定がすべて初期設定に戻ります。

◇パーシャルリセットのしかた

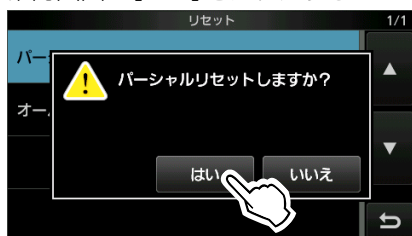
1. リセット画面を表示させる

MENU > SET > その他 > リセット

2. 「パーシャルリセット」をタッチする



3. 確認画面で「はい」をタッチする



- 「パーシャルリセット」が表示されたあと、再起動されます。

パーシャルリセット後も残るデータ

- ◎ メモリーチャンネルデータ
- ◎ スキャンエッジ
- ◎ コールチャンネル
- ◎ コールサインデータ
- ◎ メッセージデータ
- ◎ DTMFメモリー
- ◎ GPSメモリー
- ◎ レピータリスト
- ◎ Bluetoothペアリングリスト
- ◎ Wi-Fi設定
- ◎ 許可コールサイン一覧

ご注意

リセットにより消去された内容は、元に戻せません。
リセットする前に、設定状態をmicroSDカードに保存しておくことをおすすめします。(P.1-2)

※ オールリセットすると、出荷時のレピータリストも消去されるため、DR機能が運用できなくなります。
※ Bluetoothペアリングリストは消去されません。

オールリセット操作をしたときは

記憶されているデータはすべて消去され、変更した設定はすべて初期設定に戻ります。
レピータリスト、メモリーチャンネルの内容やGPSの情報などもすべて消去されるので、もう一度運用に必要な周波数や運用モードなどを書き込んでください。

◇オールリセットのしかた

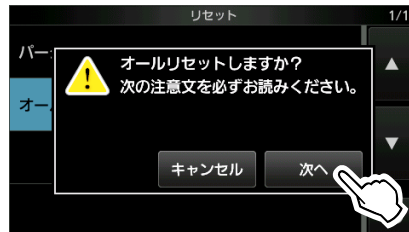
1. リセット画面を表示させる

MENU > SET > その他 > リセット

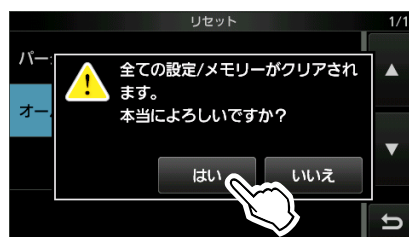
2. 「オールリセット」をタッチする



3. 「次へ」をタッチする



4. 確認画面で「はい」をタッチする



- 「オールリセット」が表示されたあと、再起動されます。

ご参考

◎ タッチパネルがまったく動作せず、リセットできないときは、下記の操作で、強制的にオールリセットをします。

1. いったん、電源を切る
2. [CD]と[CALL]を押しながら、[POWER]を押す
• 「オールリセット」が表示されます。

※ 「オールリセット」が表示されなかったときは、はじめから操作をやりなおしてください。

◎ 外部電源を接続した時点で、勝手に電源が入り、画面操作できないときは、[CD]と[CALL]を押しながら外部電源を接続してもオールリセットが動作します。

ファームアップ Section 13

ご使用になる microSD カードの
取り付けや注意事項などは、簡易
マニュアル 4 章をご覧ください。

■ ファームウェアの更新	13-2
◇ ファームウェアバージョンの確認	13-2
◇ ファームウェアのダウンロードとファイルの展開	13-3
■ ファームウェアの更新方法	13-4

13 ファームアップ

■ファームウェアの更新

ファームウェアとは、本製品を制御するために組み込まれているソフトウェアのことです。

最新のファームウェアは、弊社ホームページからダウンロードできます。

<https://www.icom.co.jp/support/personal/>

※インターネットに接続できる環境やパソコンがない場合のファームアップは、弊社サポートセンターにご相談ください。(簡易マニュアル7章)

※弊社ホームページに掲載のファームウェアバージョン番号が、お使いの製品に組み込まれているバージョン番号よりも数字が大きければ、ファームウェアを更新することで、機能が追加されたり、機能が向上したりします。

重要

本製品のファームウェア更新には、あらかじめ、本製品でフォーマットされたmicroSDカードをお使いください。(簡易マニュアル4章)

弊社ホームページからダウンロードした圧縮ファイルを展開後、microSDカードに自動で作成されたID-5200フォルダーにコピーしてください。

詳しい手順は、本章でご確認ください。

◇ファームウェアバージョンの確認

ファームウェアのバージョンは、電源を入れたときのオープニング画面で確認できます。

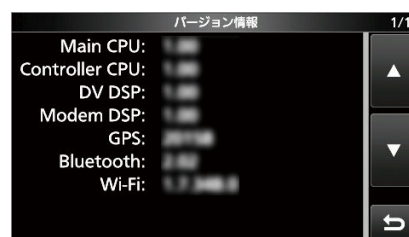


Main CPUのファームウェアバージョンを表示

ご参考

バージョン情報画面でも、ファームウェアバージョンが確認できます。

(MENU > SET > その他 > 本体情報 > バージョン情報)



13 ファームアップ

■ファームウェアの更新

◇ファームウェアのダウンロードとファイルの展開

弊社ホームページにアクセスして、以下の手順でダウンロードしてください。

アイコム株式会社 サポート情報(個人のお客様)
<https://www.icom.co.jp/support/personal/>

1. 「ダウンロード(ファームウェア・ドライバ)」をクリックする



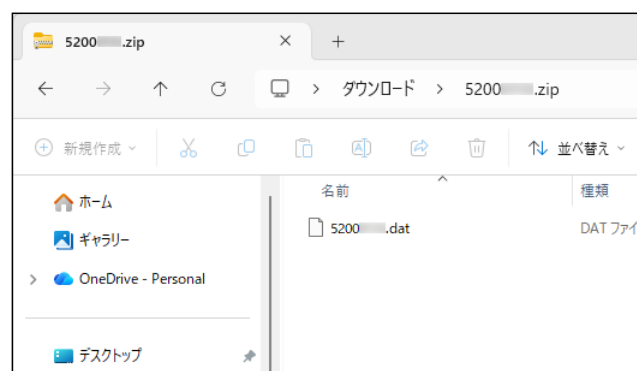
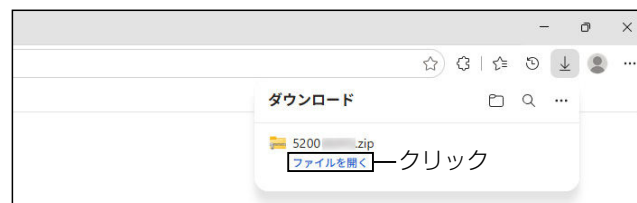
2. 「ID-5200」を入力し、**【検索する】**をクリックする



3. 本製品のファームウェアのリンクをクリックする
4. 画面下部に表示された「ダウンロードサービスのご利用について」をご理解いただき、「同意する」にチェックを入れてから**【ダウンロード】**をクリックする
・ファームアップデータのダウンロードを開始します。



5. ダウンロードが完了したら、画面右上に表示される「**ファイルを開く**」をクリックする
※「5200*」フォルダー内に、ファームウェア (5200*.dat) が格納されています。
(*は、リリース番号を意味します。)



13 ファームアップ

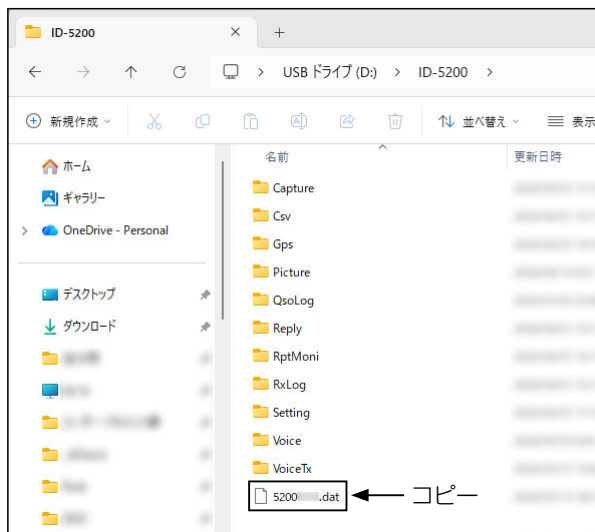
■ファームウェアの更新方法

本製品のファームウェアを更新する手順です。

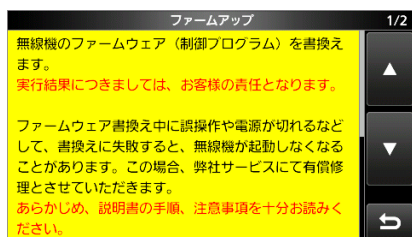
△注意

ファームアップの実行結果については、お客様ご自身の責任となります。
絶対に本製品の電源を切らないでください。
ファームウェアの更新中に電源を切ると、データの消失や故障の原因になります。

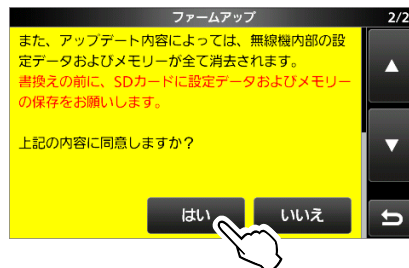
1. ファームウェア(例:5200*.dat)を、あらかじめ本製品でフォーマットされたmicroSDカードのID-5200フォルダーにコピーする



2. ファームウェアを書き込んだmicroSDカードを本製品に取り付ける
3. SDカード画面を表示させる
MENU > SET > SDカード
4. 「ファームアップ」をタッチする



5. [▼]をタッチして、内容を確認しながら、画面を最後までスクロールする
6. 記載内容をよくお読みいただき、同意するときは[はい]をタッチする

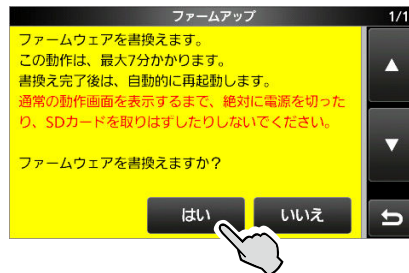


設定データを保存するか、確認する画面が表示されます。
[はい]を選択すると、microSDカードに設定データとメモリー保存後、ファームウェアの選択画面が表示されます。
※ 中止するときは、「いいえ」を選択します。

7. ファームウェア(例:5200*)をタッチする



8. 記載内容をよくお読みいただき、実行するときは、[はい]を長く(約1秒)タッチする



- ファームアップを開始します。
※ 中止するときは、「いいえ」をタッチします。

9. 「ファームウェアの書換えが完了しました。」のダイアログが表示されると、自動的に本製品が再起動されます。
※ 再起動が完了すると、ファームアップは完了です。
※ 手順6で設定データやメモリーの内容を保存している場合は、設定を読み込んでください。(P.1-4)

ご参考

データ通信対応のUSBケーブルで無線機とパソコンを接続し、MENU画面で「USB接続」を「SDカードモード」に設定すると、microSDカードを抜き差しせずにパソコンからSDカードにアクセスできます。(P.1-9)
(MENU > SET > 外部端子 > USB接続)

■ 別売品一覧	14-2
■ HM-207(多機能マイクロホン)の使いかた	14-3
◇ 各部の名称と機能	14-3
◇ 周波数とメモリーチャンネル設定のしかた	14-3
◇ リモコン機能を設定する	14-4
■ アプリを使用するときは	14-5
◇ 対応アプリについて	14-5
◇ ご用意いただくものについて	14-5
◇ ダウンロードのしかた(Android端末)	14-6
◇ ダウンロードのしかた(iOS端末)	14-6
◇ ケーブルで接続する	14-6
■ Android端末をBluetoothで接続する	14-7
◇ ペ어링のしかた	14-7
◇ 接続のしかた	14-8
■ iOS端末をBluetoothで接続する	14-9
◇ ペ어링のしかた	14-9
◇ 接続のしかた	14-10

別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障または動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

14 別売品

■別売品一覧

マイクロホン関連

HM-198	ハンドマイクロホン
HM-207	多機能マイクロホン
HM-209	ノイズキャンセリングマイクロホン
HM-232	ハンドマイクロホン(付属品と同一)
HM-249	車載用ハンズフリーマイクロホン

スピーカー/ヘッドセット関連

SP-30	外部スピーカー(φ3.5mm)
SP-35	外部スピーカー(φ3.5mm) ※ケーブル長 約2m
SP-35L	外部スピーカー(φ3.5mm) ※ケーブル長 約6m
S9	骨伝導Bluetoothヘッドセット

ブラケット関連

MBF-1	マウントベース(MBA-20用)
MBF-4	モバイルブラケット
MBF-11	コントローラーブラケット(本体ドッキング用)
MBA-19	コントローラーブラケット(据置用)
MBA-20	コントローラーブラケット

ケーブル関連

OPC-2500	HM-249用マイクロホン/リモートPTTボタンケーブル延長用ケーブル(約2m)
OPC-440	マイクロホン延長ケーブル(約5m)
OPC-647	マイクロホン延長ケーブル(約2.5m)
OPC-589	変換ケーブル (モジュラー 8ピンマイクコネクタ)
OPC-2480	USBケーブル(Type-A to Type-C)
OPC-2350LU	データ通信ケーブル

無償ソフトウェアについて

2026年6月現在、以下の無償ソフトウェアをご用意しています。

CS-5200 プログラミングソフトウェア

：パソコンから本製品を設定できます。

RS-MS1A Android専用アプリ

：Android端末から、弊社製D-STAR無線機に搭載されたDVモードの機能を拡張できます。

RS-MS1I iOS専用アプリ

：iOS端末から、弊社製D-STAR無線機に搭載されたDVモードの機能を拡張できます。

RS-MS3W/RS-MS3A/RS-MS3I ターミナルモード/アクセスポイントモード対応ソフトウェア

：弊社製D-STAR無線機に搭載されたDVゲートウェイ機能を使用できます。

ST-4001W/ST-4001A/ST-4001I 画像トリミング用ソフトウェア

：弊社製D-STAR無線機に搭載された画像伝送機能で使用する画像を作成し、無線機へ転送できます。

ST-4002A 外部GPS対応アプリ

：Android端末を外部GPSとして使用できます。

弊社ホームページに掲載の各説明書をよくお読みいただき、手順にしたがってご使用ください。

※機能の拡張や改良のため、ソフトウェアをバージョンアップすることがあります。

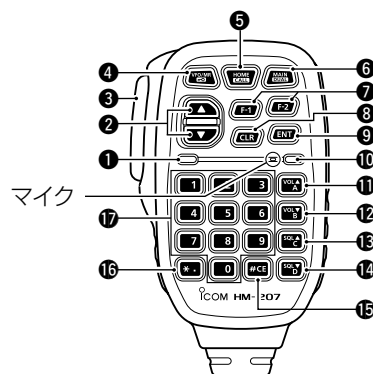
バージョンアップの作業をする前に、弊社ホームページに記載の内容をご確認ください。

■HM-207(多機能マイクロホン)の使いかた

HM-207は、手で周波数やメモリーチャンネル(M-CH)の設定ができ、音量やスケルチの調整なども簡単に操作できるマイクロホンです。

ご注意

- ◎HM-207を抜き差しするときは、必ず本製品の電源を切ってください。
- ◎差し込み部分がかたくなっているため、奥まで確実に差し込んでください。



◇各部の名称と機能

① LED 1

マイクロホンの[PTT]で送信すると、赤色に点灯します。

② [▲]/[▼](UP/DN)キー

キーを押すと、周波数やメモリーチャンネルが切り替わります。キーを押しつづけると、連続で切り替わります。

③ [PTT](送信)スイッチ

押しているあいだは送信状態、はなすと待ち受け状態になります。

④ [VFO/MR]キー

キーを短く押すごとに、VFOモードとメモリーモードが切り替わります。

キーを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すごとに、ロック機能がON/OFFします。

⑤ [HOME CALL]キー

キーを短く押すと、登録したHOMEチャンネルを表示します。

キーを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すごとに、コールチャンネルモードがON/OFFします。

⑥ [MAIN DUAL]キー

シングル表示では、キーを短く押すごとに、AバンドとBバンドが切り替わります。

デュアル表示では、キーを短く押すごとに、SUBバンドとMAINバンドが切り替わります。

キーを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すごとに、シングル表示とデュアル表示が切り替わります。

⑦ [F-1]/[F-2]キー

各キーに設定している内容で動作します。

(初期設定：

[F-1] 受信/待機中：BAND/GROUP 送信中：T-CALL

[F-2] 受信/待機中：モニター 送信中：---)

※MENU画面でほかの機能に設定できます。(P.10-9)

⑧ [CLR]キー

MENU画面やクイックメニュー画面を表示しているときに、キーを押すと、運用画面に戻ります。

⑨ [ENT]キー

VFOモードの周波数やメモリーモードのチャンネル入力を開始し、入力後は確定します。

⑩ LED 2

電源ON時、緑色に点灯します。

⑪ [VOL▲ A]キー

キーを押すと、受信時の音量が上がります。

DTMF入力時に、キーを押すと「A」が入力されます。

⑫ [VOL▼ B]キー

キーを押すと、受信時の音量下がります。

DTMF入力時に、キーを押すと「B」が入力されます。

⑬ [SQL▲ C]キー

キーを押すと、スケルチレベルが上がります。

DTMF入力時に、キーを押すと「C」が入力されます。

⑭ [SQL▼ D]キー

キーを押すと、スケルチレベル下がります。

DTMF入力時に、キーを押すと「D」が入力されます。

⑮ [# CE]キー

周波数入力画面でキーを押すと、入力している周波数が消去されます。

DTMF入力時に、キーを押すと「#」が入力されます。

⑯ [* .]キー

周波数入力画面でキーを押すと、デシマルポイントが入力されます。

DTMF入力時に、キーを押すと「*」が入力されます。

⑰ [0]～[9]キー

周波数入力画面、またはDTMF入力時に、キーを押すと「0」～「9」が入力されます。

◇周波数とメモリーチャンネル設定のしかた

周波数設定の入力例

[VFO/MR]キーを短く押して、VFOモードにします。

◎ 435.680MHzの設定

[4] [3] [5] [6] [8] [0] [ENT]と押す

◎ 439.680MHz→439.540MHzの設定

[.] [5] [4] [0] [ENT]と押す

◎ 433.000MHzの設定

[4] [3] [3] [ENT]と押す

メモリーチャンネル設定の入力例

[VFO/MR]キーを短く押して、メモリーモードにします。

◎ 5CHの設定

[5] [ENT]と押す

14 別売品

■HM-207(多機能マイクロホン)の使いかた

◇リモコン機能を設定する

MENU画面の「リモコンマイクキー」で、HM-207の[F-1]、[F-2]キーにリモコン機能を設定できます。

例：リモコンマイクキー[F-1]の受信/待機中の割り当てを「TO(DR)」に変更する

1. リモコンマイクキー画面を表示させる

MENU > SET > 機能設定 > リモコンマイクキー

2. 「受信/待機中」をタッチする

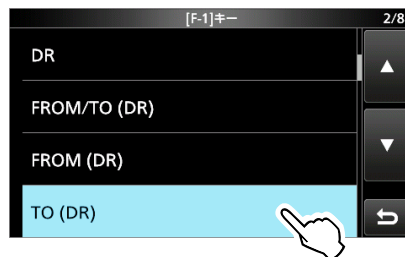


3. 「[F-1]」をタッチする



- [F-1]キーの割り当て機能一覧が表示されます。

4. 「TO(DR)」をタッチする



- 「TO(DR)」が割り当てられます。



5. [EXIT]を数回押す

- リモコンマイクキー画面が解除されます。

■アプリを使用するときは

本製品に対応したAndroid端末、またはiOS端末用アプリは下記のとおりです。
各アプリの詳細については、アプリの説明書をご確認ください。
アプリは、ご使用になる端末からダウンロードしてお使いください。

◇対応アプリについて

本製品で対応しているアプリは以下になります。
(2026年6月現在)

Android端末

- RS-MS1A : 画像やテキストメッセージを交換したり、受信したD-PRS局の情報を地図アプリと連携して表示したりできます。
- RS-MS3A : DVゲートウェイ機能を使用できます。
- ST-4001A : 画像伝送機能で使用する画像を作成し、無線機へ転送できます。
- ST-4002A : 屋内使用時など内蔵GPSで位置情報が取得できないときにAndroid端末を外部GPSとして使用できます。

iOS端末

- RS-MS1I : 画像やテキストメッセージを交換したり、受信したD-PRS局の情報を地図アプリと連携して表示したりできます。
- RS-MS3I : DVゲートウェイ機能を使用できます。
- ST-4001I : 画像伝送機能で使用する画像を作成し、無線機へ転送できます。

◇ご用意いただくものについて

Android端末

- RS-MS1A/RS-MS3A/ST-4001A/ST-4002Aを使用するには、次の動作環境が必要です。
(2026年6月現在)
- Android端末の対応OSは、以下のとおりです。
Android8.0以降
※動作確認済みOSは、各アプリの操作説明書でご確認ください。

iOS端末

- RS-MS1I/RS-MS3I/ST-4001Iを使用するには、次の動作環境が必要です。
(2026年6月現在)
- iOS端末の対応OSは、以下のとおりです。
iOS 12以降、iPadOS 13以降
※RS-MS3Iは、iOS/iPadOS 16以降
※すべてのiPhone、iPadでの動作を保証するものではありません。
OSのバージョンやインストールされているアプリなどによっては動作しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- iOS端末の操作やアカウントの設定については、ご使用になる端末に付属の取扱説明書をご覧ください。
※本書は、iOS 18.7.1を使用して説明しています。
OSのバージョンや設定により、お使いの端末と多少異なる場合があります。

【ケーブルで接続する場合】(P.14-6)

・USBホスト機能搭載のAndroid端末

- ※USBホスト機能をサポートしていても、本アプリをご使用いただけない場合があります。
- ※インストールされているソフトウェアやメモリーの容量によって正しく表示されない場合や、一部機能が使用できない場合があります。
あらかじめご了承ください。

・市販のUSBケーブル(無線機側: Type-C)

- ※端末のUSBポートの形状(無線機側 Type-C)に合わせた、USBホスト(OTG)機能対応の市販品をご用意ください。
端末側もType-Cの場合は、データ通信対応のUSBケーブルをご用意ください。
- ※USBケーブルの長さによっては無線機を認識しても使用できないことがありますので、できるだけ短いUSBケーブルをご使用ください。

ST-4002Aをご利用の場合

別売品のOPC-2350LUをご用意ください。
USBケーブルで直接接続しても使用できません。

【Bluetoothで接続する場合】(P.14-7、P.14-9)

Bluetooth機能搭載のAndroid端末、またはiOS端末

- 端末の操作やアカウントの設定については、ご使用になる端末の取扱説明書をご覧ください。
- ※本書中の画面は、OSのバージョンや設定によって、お使いになる端末と多少異なる場合があります。

USBホスト機能について

USBホスト機能とは、端末にUSBデバイスを接続して使用するための機能です。
Android端末がUSBホスト機能に対応しているかどうかは、ご使用になるAndroid端末のメーカーにご確認ください。

14 別売品

■アプリを使用するときは

◇ダウンロードのしかた(Android端末)

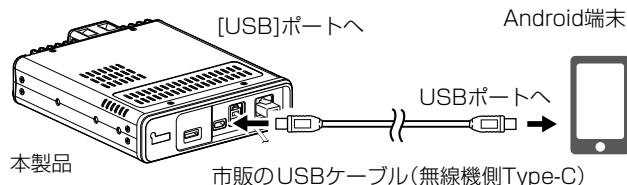
1. Android端末を起動します。
2. 「Play ストア」をタップします。
3. アプリ名を入力します。
※すべて入力しないと検索できない場合があります。
4. 「」(検索)をタップします。
 - 候補のアプリの中からアプリ名が表示されます。※お使いになる端末がアプリに対応していない場合、候補のアプリに入力したアプリが表示されないことがあります。
5. アプリをタップします。
 - アプリの紹介画面が表示されます。
6. 「インストール」をタップします。
7. 「同意してダウンロード」をタップします。
 - アプリのインストールが開始されます。
 - インストールが完了すると、ホーム画面にアプリのアイコンが表示されます。

◇ダウンロードのしかた(iOS端末)

1. iOS端末を起動する
2. 「App Store」をタップする
3. 「」(検索)をタップする
4. アプリ名を入力する
候補のアプリの中からアプリ名が表示されます。
※すべて入力しないと検索できない場合があります。
※お使いになる端末がアプリに対応していない場合、候補のアプリに入力したアプリが表示されないことがあります。
5. アプリをタップする
• アプリの紹介画面が表示されます。
6. 「入手」をタップする
• アプリのインストールが開始されます。
• インストールが完了すると、ホーム画面にアプリのアイコンが表示されます。

◇ケーブルで接続する

本製品とAndroid端末をデータ通信ケーブルで接続します。



※プラグの形状と差し込み方向にご注意ください。
※ST-4002AにはOPC-2350LU(別売品)を接続してください。

ご注意

◎USBケーブルを抜き差しするときは、必ず本製品の電源を切ってください。

◎本製品側で「」が表示されないときは、お使いの端末の取扱説明書にしたがってUSB機器の検出を有効にし、「」が表示されることを確認してください。

※USB機器の自動検出に対応している端末では、操作不要です。

※FUNCTION画面で「USB」の項目が「COM」と表示されているかどうか合わせてご確認ください。
「SDカード」が表示されている場合は、タッチして「COM」表示に切り替えてください。

◎RS-MS1Aを使用するときは、下記の項目が設定されているかご確認ください。

(MENU > SET > 外部端子 > **CI-V**)

• 「CI-Vアドレス」をRS-MS1A側と同じ値に設定
(初期設定：B8h)

※RS-MS1A側：

アプリケーション設定→「CI-V設定」の設定
(初期設定：無線機[B8h])

• 「CI-Vトランシーブ」を「ON」に設定

• 「CI-V USBエコーバック」を「OFF」に設定

(MENU > SET > **外部端子**)

• 「USB接続」を「シリアルポート」に設定

◎アクセスポイントモードでは、RS-MS1Aは使用できません。

14 別売品

■Android端末をBluetoothで接続する

Android端末をBluetoothで接続するには、はじめに本製品とAndroid端末のペアリングが必要です。
ペアリング済みの端末に接続するときは、14-8ページをご覧ください。

◇ペアリングのしかた

Android端末から本製品にペアリングするときの操作のしかたを説明します。

※一部のAndroid端末は、ペアリングできない場合があります。

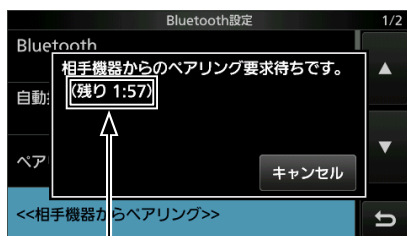
あらかじめご了承ください。

1. 本製品でペアリングするための準備をする

1. Bluetooth設定画面を表示させる

MENU > SET > Bluetooth設定

2. 「<<相手機器からペアリング>>」をタッチする



ここに表示される残り時間までにAndroid端末でペアリング操作をしてください。(最大2分間)
時間切れの場合は、ペアリング待機状態が解除されます。

2. Android端末でBluetoothの設定をする

Bluetooth機能をONにする

※操作のしかたは、お使いのAndroid端末の取扱説明書をご確認ください。

- 本製品に内蔵のBluetoothユニットの機器名称がAndroid端末に表示されます。

※機器名称は、本製品の自機器情報画面で確認できます。
(初期設定：ICOM BT(ID-5200))
(MENU > SET > Bluetooth設定 > 自機器情報)

ご注意

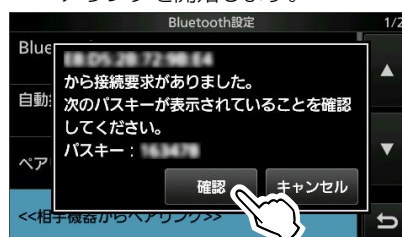
接続する端末によっては、PINコードやパスキーなどの入力を要求される場合があります。
その場合は、ご使用になる端末の取扱説明書で入力方法を確認してください。

3. Android端末でペアリング操作をする

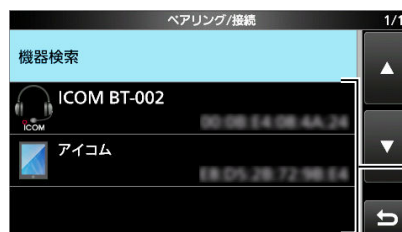
1. Android端末に表示されたBluetoothユニットをタップする
 - 「ICOM BT(ID-5200)をペアに設定しますか？」画面が表示されます。
2. 無線機とAndroid端末に表示されたパスキーが同じであることを確認する
3. 「ペア設定する」をタップする
 - ペアリングを開始します。

4. 本製品でペアリング操作をする

1. Android端末からペアリングの要求をされるので、無線機で表示されるパスキーがAndroid端末側と同じであることを確認して、「確認」をタッチする
 - ペアリングを開始します。



2. 「ペアリング/接続」をタッチする



- ペアリングリストにAndroid端末の名称が表示されたらペアリング完了です。
RS-MS1AやRS-MS3A使用時、ペアリング済みの端末に接続するときは、14-8ページをご覧ください。

14 別売品

■Android端末をBluetoothで接続する

◇接続のしかた

RS-MS1A使用時、ペアリング後に本製品とAndroid端末を接続するまでの操作方法を説明します。

Android端末とのペアリングについては、14-7ページをご覧ください。

※ST-4001Aの場合は、アプリで画像を作成し転送ボタンをタップすると、画像を転送しているあいだだけ自動で接続されます。

※RS-MS3Aの場合は、アプリの接続方法で「Bluetooth」を選択し、〈開始〉をタップすると、接続されます。

1. 本製品で接続の準備をする

「CI-Vトランシーブ」を「ON」に設定する

MENU > SET > 外部端子 > CI-V > **CI-Vトランシーブ**

※無線機とRS-MS1AはCI-Vのコマンドで動作するため、セットモードの「CI-Vトランシーブ」を「ON」に設定してください。

2. Android端末でRS-MS1Aを起動する

RS-MS1Aを起動する

※ダウンロードのしかた(P.14-6)

3. Android端末から接続する

RS-MS1Aで「ペアリング済みデバイス」として表示されたBluetoothユニットの機器名称を選択する

- 接続を開始します。
- 本製品に自局のコールサインが登録されていない場合は、入力を要求されます。
- 接続が成功すると、本製品に「***に接続しました」が表示され、下図のようにBluetoothのマークが表示されます。

(***はAndroid端末のBluetoothの名称)

Bluetooth接続中の表示



- ペアリングリストには、接続したAndroid端末のアイコンに「(接続中)」が表示されます。



RS-MS1A使用時のご注意

接続できない場合は、CI-Vアドレスが本製品とRS-MS1Aで一致しているか確認してください。

確認のしかた

本製品側

MENU画面の「CI-Vアドレス」の設定(初期設定：B8h)
(MENU > SET > 外部端子 > CI-V > **CI-Vアドレス**)

RS-MS1A側

アプリケーション設定→「CI-V設定」の設定
(初期設定：無線機[B8])

本製品から接続するには

RS-MS1Aが起動しているときは、下記の手順で本製品からも接続できます。

1. Bluetooth設定画面を表示させる
MENU > SET > **Bluetooth設定**
2. 「ペアリング/接続」をタッチする
3. ペアリングリストに表示されているAndroid端末を選択する
 - 「接続しますか？」が表示されます。
 - ※Android端末の機器名称に使われているひらがな、カタカナ、漢字、和文記号は、「=」で表示されます。
4. [はい]をタッチする
 - 「***に接続中…」が表示されます。
(***はAndroid端末の名称)
 - 接続が成功すると、「***に接続しました」が表示され、Bluetoothのマークが表示されます。(***はAndroid端末の名称)
 - 接続したAndroid端末の機器名称の下に「(接続中)」が表示されます。

■iOS端末をBluetoothで接続する

iOS端末をBluetoothで接続するには、はじめに本製品とiOS端末のペアリングが必要です。

※iOS端末とペアリングするときは、iOS端末の設定アプリからはペアリングをしないでください。

◇ペアリングのしかた

iOS端末から本製品にペアリングするときの操作のしかたを説明します。

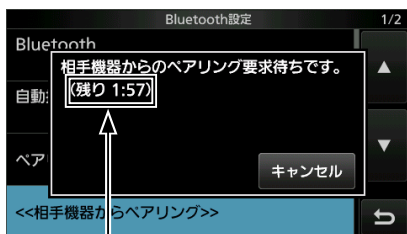
※一部のiOS端末は、ペアリングできない場合があります。あらかじめご了承ください。

1. iOS端末でアプリを起動する

1. BluetoothをONにする
※操作のしかたは、お使いのiOS端末の取扱説明書をご確認ください。
2. アプリを起動する

2. 本製品でペアリングするための準備をする

1. Bluetooth設定画面を表示させる
MENU > SET > Bluetooth設定
2. 「<<相手機器からペアリング>>」をタッチする



ここに表示される残り時間までにiOS端末でペアリング操作をしてください。(最大2分間)
時間切れの場合は、ペアリング待機状態が解除されます。

RS-MS11使用時のご注意

iOS端末を接続する前に、下記の項目が設定されているかご確認ください。

- ◎「CI-Vトランシーブ」を「ON」に設定
(MENU > SET > 外部端子 > CI-V > CI-Vトランシーブ)

- ◎無線機とRS-MS11で、同じCI-Vアドレスを設定
本製品側

MENU画面の「CI-Vアドレス」の設定(初期設定：B8h)
(MENU > SET > 外部端子 > CI-V > CI-Vアドレス)

RS-MS11側

アプリケーション設定→「CI-Vアドレス変更」の設定
(初期設定：自動設定)

アプリケーション設定→「通常使う無線機の変更」の設定(初期設定：自動的に選択)

3. iOS端末でペアリング操作をする

1. 「スキャン」をタップする
 - ST-4001Iの場合、「…」>「転送設定」>「Bluetooth経由」>「転送先デバイス」>転送先デバイス一覧に表示されます。
 - RS-MS11の場合、「その他」>「Bluetooth接続」に表示されます。
 - RS-MS3Iの場合、「接続先デバイス」に表示されます。
 - 本製品に内蔵のBluetoothユニットの機器名称がアプリに表示されます。
※機器名称は、本製品の自機器情報画面で確認できます。
(初期設定：ICOM BT (ID-5200))
(MENU > SET > Bluetooth設定 > 自機器情報)
2. 表示されたBluetoothユニットをタップする
 - ペアリングと接続を開始します。
 - 接続が成功すると、「BluetoothがICOM BT (ID-5200) に接続されました」(初期設定)が表示されます。

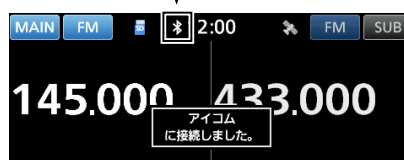
ご参考：ID-5200の表示について

接続が成功すると、「***に接続しました」が表示され、下図のようにBluetoothのマークが表示されます。
(***はiOS端末の名称)

※iOS端末の機器名称に使われているひらがな、カタカナ、漢字、和文記号は、「=」で表示されます。
ペアリングリストには、接続したiOS端末の機器名称が表示されます。

(MENU > SET > Bluetooth設定 > ペアリング/接続)

Bluetooth接続中の表示



14 別売品

■iOS端末をBluetoothで接続する

◇接続のしかた

RS-MS11使用时、本製品とペアリング済みのiOS端末を切断後に再接続するときの操作のしかたを説明します。

iOS端末とのペアリングについては、14-9ページをご覧ください。

※ST-4001Iの場合は、アプリで画像を作成し転送ボタンをタップすると、画像を転送しているあいだだけ自動で接続されます。

※RS-MS3Iの場合は、アプリで〈開始〉をタップすると、接続されます。

1. iOS端末でRS-MS11を起動する

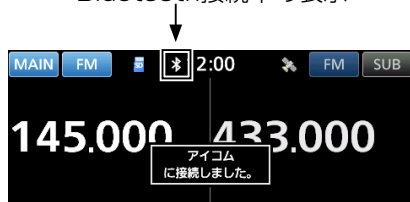
RS-MS11を起動する

※ダウンロードのしかた(P.14-6)

2. iOS端末から接続する

1. 「その他」→「Bluetooth接続」の順にタップする
2. 「ペアリングデバイス」に表示されたBluetoothユニットの機器名称を選択する
 - 接続を開始します。
 - 本製品に自局のコールサインが登録されていない場合は、入力を要求されます。
 - 接続が成功すると、本製品に「***に接続しました」が表示され、下図のようにBluetoothのマークが表示されます。
(***はiOS端末のBluetoothの名称)

Bluetooth接続中の表示



- ペアリングリストには、接続したiOS端末の機器名称の下に「(接続中)」が表示されます。



本製品から接続するには

RS-MS11が起動しているときは、下記の手順で本製品からも接続できます。

1. Bluetooth設定画面を表示させる
MENU > SET > **Bluetooth設定**
2. 「ペアリング/接続」をタッチする
3. ペアリングリストに表示されているiOS端末を選択する
 - 「接続しますか？」が表示されます。
※iOS端末の機器名称に使われているひらがな、カタカナ、漢字、和文記号は、「=」で表示されます。
4. [[はい]]を選択する
 - 「***に接続中…」が表示されます。
(***はiOS端末の名称)
 - 接続が成功すると、「***に接続しました」が表示され、Bluetoothのマークが表示されます。(***はiOS端末の名称)
 - 接続したiOS端末の機器名称の下に「(接続中)」が表示されます。

